# 比恵遺跡13

— 比恵遺跡群第40・42・44・48次調査の報告 —

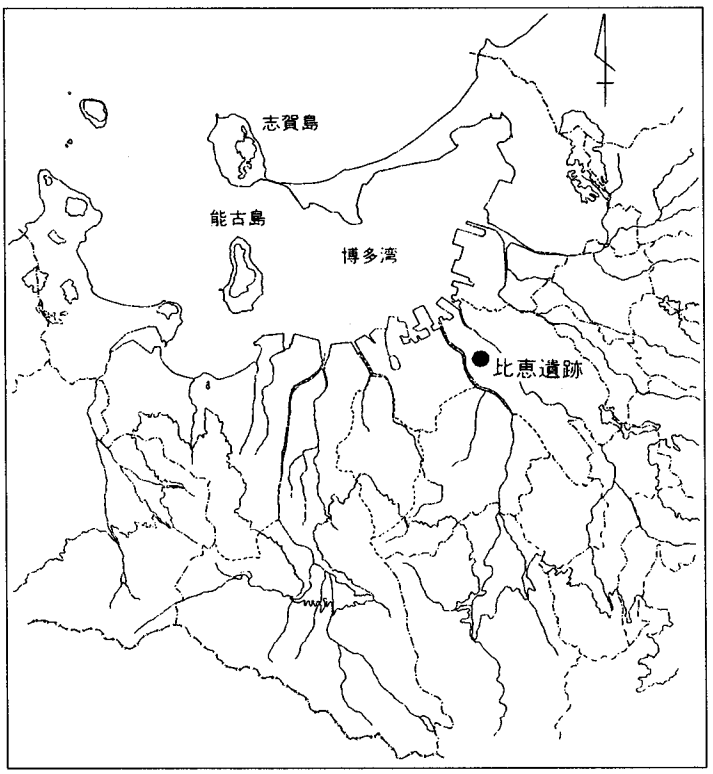
福岡市埋蔵文化財調査報告書第368集

1 9 9 4

福岡市教育委員会

# 比恵遺跡群(13)

— 比恵遺跡群第40・42・44・48次調査の報告 —




遺跡略号　HIE

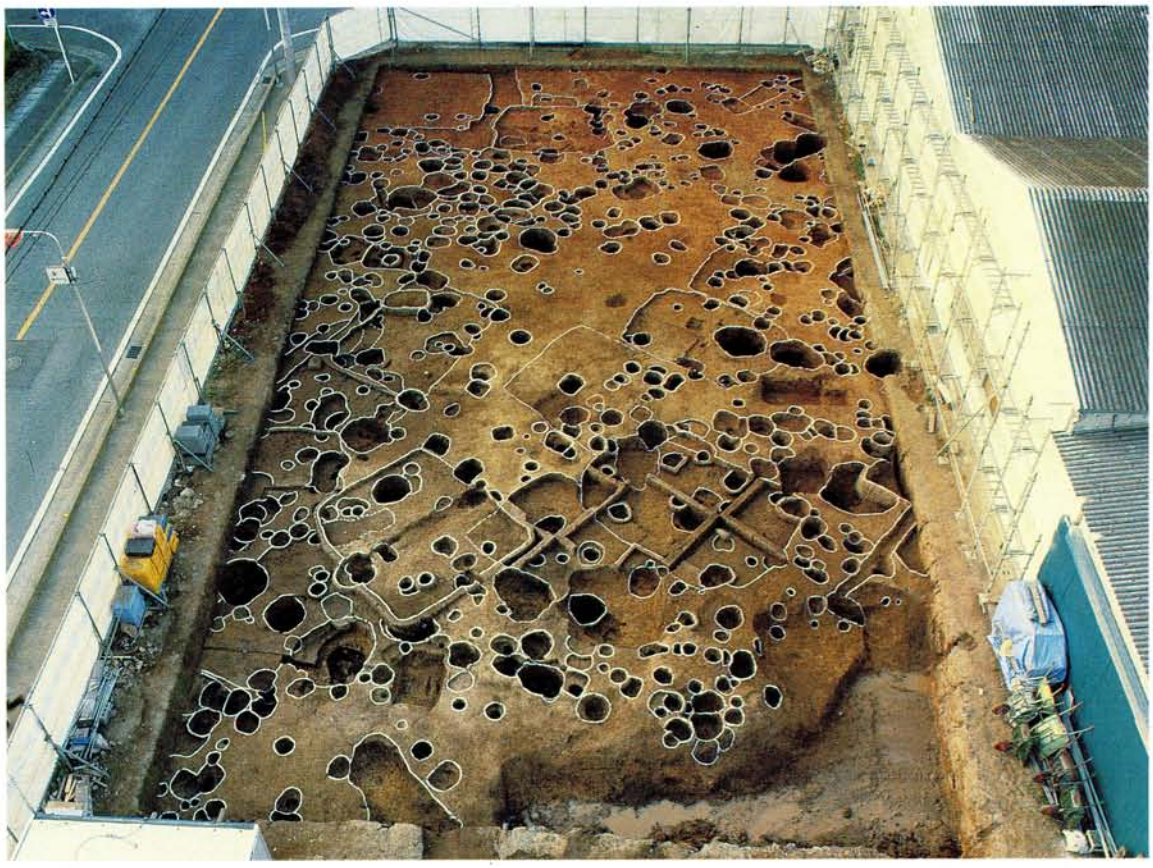
1994

福岡市教育委員会

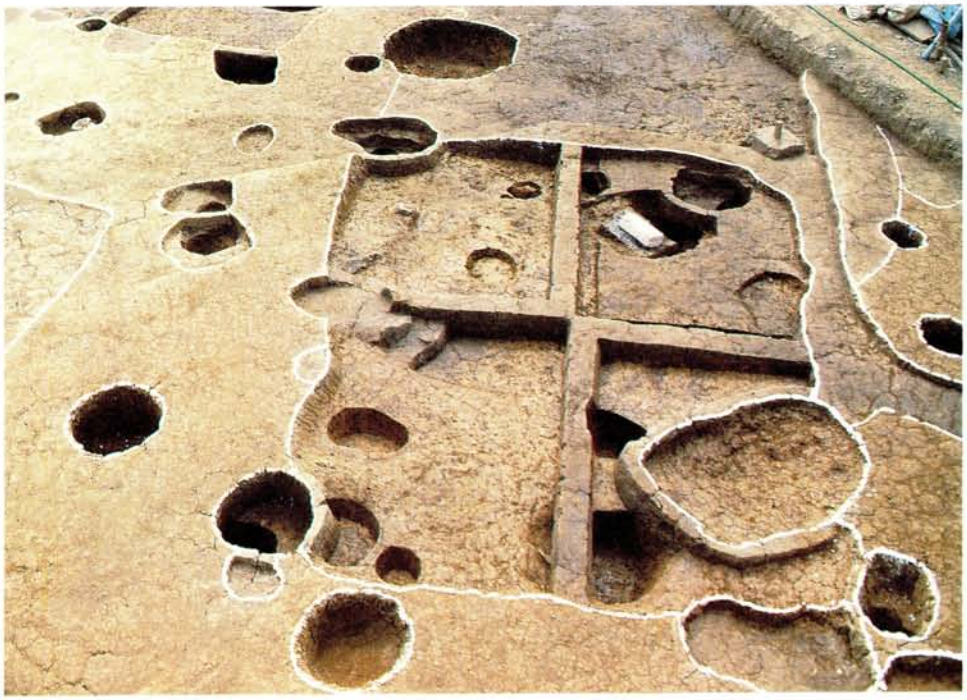
(1) 第40次・42次調査出土鋳造関係遺物

(2) 第42次井戸SE74出土土器

(3) 第42次SC324出土広形銅矛鋳型



(1) 第42次調査区遺構分布全景（南東から）



(2) 竪穴住居跡SC324鋳型出土状況（北から）

# 序

現在、「海と歴史を抱いた文化の都市」、「活力あるアジアの拠点都市」として都市づくりを進めている福岡市には古くから大陸との交流を物語る遺跡が数多く存在します。本市では、特に文化財の保護、活用に努めており、失われていく遺跡については、記録保存のための発掘調査を実施しています。

今回報告する比恵遺跡群は、魏志倭人伝にみえる「奴国」に推定される地域に相当しており、これまでにも重要な遺構、遺物が発見されています。

本書は、1992年に実施しました比恵遺跡群の第40，42，44，48次調査の報告書であります。調査の結果、弥生時代～古墳時代の遺構、遺物が数多く発見され、比恵遺跡群の性格を考えるうえで多大な成果を得ることが出来ました。

本書が、市民の皆様の文化財に対する認識と理解の一助となり、また学術研究の資料として活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、株式会社玉屋装工、玉屋リネンサービス株式会社を始めとする関係各位の深いご理解とご協力に対して厚く感謝の意を表します。

平成６年３月３１日

福岡市教育委員会

教育長　尾花　剛

# 例　言

1．本書は、福岡市教育委員会が社屋建設などの開発事業の事前調査として、1992年度に実施した比恵遺跡群の発掘調査のうち、第40，42，44，48次調査地点の報告書である。

2．本書使用の遺構実測図は、田中壽夫・山元正典・西山めぐみ・桐田八千柔・宮園登美枝・高浪信夫・森山恭助・熊本義徳があたった。

3．本書に使用した地図は、Fig，1に国土地理院発行の1／25000の地形図「福岡」・「福岡南部」を、Fig，2に福岡市都市計画図「博多駅36」・「東光寺37」（1／5000）を原図とした。

4．本書に使用した方位はすべて磁北である。真北に対して西偏6゜40′を測る。

5．掲載した遺物には、調査次数、種類、材質、出土遺構の別を問わず掲載順に通し番号を付した。

6．実測図と写真図版中の遺物番号は同一である。

7．遺物実測は田中が主として行ない、境靖紀、佐藤信の補助を受けた。

8．遺物の写真撮影は力武卓治による。

9．本書使用の図面の整図は、濱石正子、有吉久美子、杉山富雄、宮園、田中が行なった。

10．本書の編集・執筆は田中が行なった。

11．本報告に関わる出土遺物、記録類はすべて福岡市埋蔵文化財センターに収蔵管理される。

12．なお第40次調査出土土製取瓶の自然科学的分析を東京国立文化財研究所平尾良光氏にお願いし、分析結果について玉稿をいただき、付論として掲載した。

| 調査番号 | 遺跡名 | 次数 | 略号 | 調査原因 | 種　類 | 所　在　地 | 調査面積 | 調査期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9207 | 比恵遺跡群 | 40 | HIE40 | 工場新築 | 民間受託 | 博多区博多駅南4丁目72 | 540㎡ | 920413～920624 |
| 9221 | 比恵遺跡群 | 42 | HIE42 | 社屋新築 | 民間受託 | 博多区博多駅南4丁目6 | 756㎡ | 920706～921113 |
| 9231 | 比恵遺跡群 | 44 | HIE44 | 工場改築 | 民間受託 | 博多区博多駅南4丁目6 | 60㎡ | 920827～920905 |
| 9255 | 比恵遺跡群 | 48 | HIE48 | 工場新築 | 民間受託 | 博多区博多駅南4丁目9－8 | 850㎡ | 930106～930331 |

# 本文目次

第1章　序　説 …… 1
1、調査にいたる経過 …… 1
2、調査の組織 …… 1
3、調査経過 …… 2
第2章　遺跡の立地と歴史的環境 …… 3
1、遺跡の立地 …… 3
2、周辺の遺跡 …… 3
3、比恵遺跡群のこれまでの調査 …… 5
第3章　調査の記録 …… 8
1、調査概要 …… 8
2、第40次調査 …… 11
3、第42次調査 …… 44
4、第44次調査 …… 96
5、第48次調査 …… 100
第4章　結　語 …… 135
1、集落の推移(付図) …… 135
2、第40次調査溝SD01出土の取瓶 …… 136
3、第42次調査竪穴住居SC324
出土の広形銅矛鋳型 …… 139

付　論
福岡市比恵遺跡から出土した
土製取瓶付着物の自然科学的研究 …… 142
1、はじめに …… 142
2、資　料 …… 142
3、調査法 …… 142
4、測定結果 …… 144
5、考　察 …… 146

# 挿図目次


Fig, 1　第40次調査作業風景 …… 2
Fig, 2　第42次調査作業風景 …… 2
Fig, 3　第44次調査作業風景 …… 2
Fig, 4　第48次調査作業風景 …… 2
Fig, 5　比恵遺跡群と周辺の遺跡分布図(1／40000)…4
Fig, 6　比恵遺跡群調査地点位置図（1／7000）……7
Fig, 7　第40次・42次・44次・48次
　調査地点位置図（1／1250）……8
Fig, 8　第40次調査区遺構分布全体図(1／125)…折込1
Fig, 9　掘立柱建物SB01～03平面
　および断面図（1／80）……24
Fig, 10　溝SD01・48土層断面図（1／50）……25
Fig, 11　土壙SX31・119・122平面
　および断面図（1／40）……25
Fig, 12　井戸SE23・53・111～113・118・120平面
　および断面図（1／40）……26
Fig, 13　溝SD01上層出土遺物実測図（1／4）……27
Fig, 14　溝SD01上・中層出土遺物実測図（1／4）…28
Fig, 15　溝SD01上層出土遺物実測図（1／4）……29
Fig, 16　溝SD01上層出土遺物実測図（1／4）……30
Fig, 17　溝SD01上・中層出土遺物実測図（1／4）…31
Fig, 18　溝SD01上・中層出土遺物実測図（1／4）…32
Fig, 19　溝SD01上・中層出土遺物実測図（1／4）…33
Fig, 20　溝SD01上・中層出土遺物実測図（1／4）…34
Fig, 21　溝SD01中・下層出土遺物実測図（1／4）…35
Fig, 22　溝SD48出土遺物実測図（1／4・1／6）…36
Fig, 23　井戸SE23・111・112・113
　出土遺物実測図（1／4）……37
Fig, 24　土壙SX31、溝SD01・SD48、包含層
　出土遺物実測図（1／2・1／4）……38
Fig, 25　溝SD01出土土製取瓶復元実測図（1／4）…39
Fig, 26　溝SD01・48
　出土遺物実測図(1／1・1／4)……40
Fig, 27　溝SD01出土遺物実測図（1／2）……41
Fig, 28　溝SD01出土遺物実測図（1／2）……42
Fig, 29　溝SD01・48、包含層
　出土遺物実測図（1／2・1／5）……43
Fig, 30　第42次調査区遺構分布全体図(1／125)…折込2
Fig, 31　掘立柱建物SB01～06平面
　および断面図（1／100）……68
Fig, 32　掘立柱建物SB07～12平面
　および断面図（1／100）……69
Fig, 33　掘立柱建物SB13～18平面
　および断面図（1／100）……70
Fig, 34　掘立柱建物SB19～22平面
　および断面図（1／100）……71
Fig, 35　柱穴SP294・361内
　遺物出土状況実測図（1／20）……71
Fig, 36　竪穴住居跡SC63・207平面
　および断面図（1／60）……72
Fig, 37　竪穴住居跡SC231・259・266およびSC231内土壙
　SX322平面および断面図(1/20・1/60)……73
Fig, 38　竪穴住居跡SC280・517・324平面
　および断面図（1／60）……74
Fig, 39　竪穴住居跡SC364・366平面
　および断面図（1／60）……75
Fig, 40　竪穴住居跡SC419・453平面
　および断面図（1／60）……76
Fig, 41　竪穴住居跡SC692・693平面
　および断面図（1／60）……77
Fig, 42　井戸SE15・16・30・47・74・123・162・168
　平面および断面図（1／50）……78
Fig, 43　井戸SE202・230・260・315・378・448・449
　平面および断面図（1／50）……79
Fig, 44　井戸SE489・500・506・625、土壙SX629平面
　および断面図（1／50・1／30）……80
Fig, 45　柱穴出土遺物実測図（1／4）……81
Fig, 46　竪穴住居跡SC231・324・366・419・453
　出土遺物実測図（1／4）……82
Fig, 47　井戸SE15・16出土遺物実測図（1／4）……83
Fig, 48　井戸SE30・47出土遺物実測図（1／4）……84
Fig, 49　井戸SE47・74
　出土遺物実測図（1／4・1／6）……85
Fig, 50　井戸SE74出土遺物実測図（1／4）……86
Fig, 51　井戸SE74出土遺物実測図（1／4）……87
Fig, 52　井戸SE74出土遺物実測図（1／4）……88
Fig, 53　井戸SE123・162・202・230・260
　出土遺物実測図（1／4）……89
Fig, 54　井戸SE315・378・448
　出土遺物実測図（1／4）……90
Fig, 55　井戸SE448・449・489、柱穴SP470
　出土遺物実測図（1／4）……91
Fig, 56　井戸SE500出土遺物実測図（1／4）……92
Fig, 57　井戸SE506・625、土壙SX618
　出土遺物実測図（1／4）……93
Fig, 58　柱穴・井戸・土壙・包含層出土遺物
　実測図（1／1・1／2・1／4）……94
Fig, 59　竪穴住居跡SC324出土石製広形銅矛
　鋳型実測図（1／2.5）……折込3
Fig, 60　井戸SE74出土遺物実測図（1／5）……95
Fig, 61　第44次調査区遺構分布全体図（1／100）……97
Fig, 62　柱穴SP153内遺物出土状況実測図（1／20）…97
Fig, 63　井戸SE134・138・143平面
　および断面図（1／40）……97
Fig, 64　井戸SE134・138、柱穴SP153・155
　出土遺物実測図（1／4）……98
Fig, 65　第48次調査区遺構分布全体図(1／125)…折込4
Fig, 66　掘立柱建物SB01～05平面
　および断面図（1／100）……118
Fig, 67　掘立柱建物SB06～11平面
　および断面図（1／100）……119
Fig, 68　掘立柱建物SB12～17平面
　および断面図（1／100）……120
Fig, 69　掘立柱建物SB18～22平面
　および断面図（1／100）……121
Fig, 70　掘立柱建物SB23～28平面
　および断面図（1／100）……122
Fig, 71　溝SD04土層断面図（1／40）……123
Fig, 72　井戸SE09・10・20・103・105・116・206・231・
　232平面および断面図（1／50）……123
Fig, 73　井戸SE233・236・244・245・252・253・254・
　255・306平面および断面図（1／50）……124

Fig,74　井戸SE263・264・269・279・299・309・325・337・340・358・372平面および断面図(1/50) ……125
Fig,75　柱穴SP69・207・273、溝SD01・SD04出土遺物実測図(1／4) ……126
Fig,76　井戸SE09出土遺物実測図(1／4)……127
Fig,77　井戸SE09・10・20・103・116出土遺物実測図(1／4) ……128
Fig,78　井戸SE206・231・232・233・236出土遺物実測図(1／4) ……129
Fig,79　井戸SE236出土遺物実測図(1／4) ……130
Fig,80　井戸SE244・245・254出土遺物実測図(1／4) ……131
Fig,81　井戸SE255・263・264出土遺物実測図(1／4) ……132
Fig,82　井戸SE269出土遺物実測図(1／4) ……133
Fig,83　井戸SE299・325・337・340出土遺物実測図(1／4) ……134

# 付図目次

付図　比恵遺跡群第40・42・44・48次調査区および周辺遺構分布全体図 (1／400)

# 図版目次

巻頭図版
図版1　(1) 第40次・42次調査出土鋳造関係遺物
　(2) 第42次井戸SE74出土土器
　(3) 第42次SC324出土広形銅矛鋳型
図版2　(1) 第42次調査区遺構分布全景(南東から)
　(2) 竪穴住居跡SC324広形銅矛鋳型出土状況(北から)
PL, 1　(1) 第40次調査区調査終了全景(北西から)
　(2) 調査区北東部遺構分布状況(北西から)
　(3) 調査区南西部包含層および溝SD01上部遺物出土状況(北から)
PL, 2　(1) 溝SD01検出状況(北から)
　(2) 溝SD01上部掘り下げ作業風景(北から)
　(3) 溝SD01南端部上層遺物出土状況(西から)
PL, 3　(1) 溝SD01北側中層(黒色粘質土)遺物出土状況(南から)
　(2) 溝SD01土層断面(北から)
　(3) 溝SD01中層(黒色粘質土)獣骨(下顎骨)出土状況(西から)
PL, 4　(1) 溝SD01中層(黒色粘質土)遺物出土状況(西から)
　(2) 溝SD01下部掘り下げ作業風景(北から)
　(3) 溝SD01黒色粘質土除去後床面状況(北から)
PL, 5　(1) 溝SD48完掘状況(北から)
　(2) 溝SD48中央部土層断面(北から)
　(3) 調査区北東部井戸群および溝分布状況(北から)
PL, 6　(1) 土壙SX31完掘状況(南東から)
　(2) 井戸SE23遺物出土状況(西から)
　(3) 井戸SE23完掘状況(西から)
PL, 7　(1) 井戸SE118遺物出土状況(北東から)
　(2) 井戸SE118・112・113完掘状況(北東から)
　(3) 井戸SE111完掘状況(南東から)
PL, 8　(1) 井戸SE120完掘状況(北東から)
　(2) 柱穴SP32礎板出土状況(東から)
　(3) 柱穴SP102礎板出土状況(東から)
　(4) 柱穴SP101礎板出土状況(南から)
　(5) 柱穴SP124礎板出土状況(東から)
PL, 9～11　第40次調査出土遺物(1／6)
PL, 12　(1) 第42次調査区調査前現況遠景(北から)
　(2) 調査終了全景(南東から)
　(3) 調査区北側遺構分布状況(南東から)
PL, 13　(1) 調査区中央部遺構分布状況(南東から)
　(2) 調査区南側遺構分布状況(北から)
　(3) 調査区中央部～東側遺構分布状況(南から)
PL, 14　(1) 調査区中央部～西側遺構分布状況(東から)
　(2) 竪穴住居跡SC63および周辺遺構分布状況(北東から)
　(3) 竪穴住居跡SC324掘り下げ状況(北から)
PL, 15　(1) 柱穴SP361遺物出土状況(北西から)
　(2) 竪穴住居跡SC231付設土壙SX322遺物出土状況(北東から)
　(3) 竪穴住居跡SC324床面出土広形銅矛鋳型出土状況(西から)
　(4) 竪穴住居跡SC169・207・231完掘状況(西から)
　(5) 竪穴住居跡SC169完掘状況(南西から)
PL, 16　(1) 竪穴住居跡SC364・231・324完掘状況(東から)
　(2) 竪穴住居跡SC280・453、土壙SX487・617検出状況(西から)
　(3) 竪穴住居跡SC280完掘状況(西から)
PL, 17　(1) 竪穴住居跡SC453完掘状況(西から)
　(2) 竪穴住居跡SC259・266完掘状況(南西から)
　(3) 調査区南西部作業風景(北から)
PL, 18　(1) 井戸SE15完掘状況(南東から)
　(2) 井戸SE16完掘状況(北から)
　(3) 井戸SE47下部遺物出土状況(北から)
　(4) 井戸SE47完掘状況(西から)
　(5) 井戸SE74下部遺物出土状況(東から)
　(6) 井戸SE74完掘状況(西から)
　(7) 井戸SE123完掘状況(西から)
　(8) 井戸SE162完掘状況、柱穴SP294遺物出土状況(南から)
PL, 19　(1) 井戸SE202完掘状況(東から)
　(2) 井戸SE315下部遺物出土状況(北から)
　(3) 井戸SE230・315完掘状況(北西から)
　(4) 井戸SE378完掘状況(北から)
　(5) 井戸SE448完掘状況(東から)
　(6) 井戸SE449完掘状況(東から)

(7) 井戸SE500下部遺物出土状況(南西から)
(8) 井戸SE500完掘状況(西から)
PL,20 (1) 井戸SE489完掘状況(北から)
(2) 井戸SE506埋土中位遺物出土状況(南東から)
(3) 井戸SE506井筒出土状況(南東から)
(4) 井戸SE506完掘状況(南東から)
(5) 土壙SX420完掘状況(西南から)
(6) 土壙SX629完掘状況(南から)
(7) 溝SD441完掘状況(西から)
PL,21～24 第42次調査出土遺物(1／6)
PL,25 (1) 第44次調査区調査終了全景(南東から)
(2) 井戸SE134完掘状況(南から)
(3) 井戸SE138完掘状況(西から)
(4) 井戸SE143完掘状況(東から)
(5) 柱穴SP153甕出土状況(東から)
PL,26 (1) 第48次調査区調査終了全景(南東から)
(2) 掘立柱建物SB01完掘状況(南から)
(3) 掘立柱建物SB01柱痕跡掘り下げ状況(西から)
PL,27 (1) 調査区中央部完掘状況(南西から)
(2) 掘立柱建物SB02完掘状況(西から)
(3) 調査区北側完掘状況(南西から)
PL,28 (1) 掘立柱建物SB04、柱穴SP414・300・321完掘状況(南から)
(2) 溝SD04、掘立柱建物SB03完掘状況(西から)
(3) 溝SD04遺物出土状況(北から)
PL,29 (1) 溝SD03西端部土層断面(東から)
(2) 溝SD03南側中央部土層断面(西から。下部には井戸SE10)
(3) 溝SD04完掘状況(南西から)
PL,30 (1) 柱穴SP06礎板出土状況(東から)
(2) 柱穴SP111礎板出土状況(西から)
(3) 柱穴SP133礎板出土状況(北西から)
(4) 柱穴SP145(55)柱根痕跡検出状況(南から)
(5) 柱穴SP147(54)柱根痕跡検出状況(南から)
(6) 柱穴SP146(51)柱根痕跡検出状況(南西から)
(7) 柱穴SP134(27)礎板出土状況(北から)
(8) 柱穴SP122(163)礎板出土状況(北から)
PL,31 (1) 柱穴SP78礎板出土状況(南から)
(2) 柱穴SP144礎板出土状況(南から)
(3) 柱穴SP323礎板出土状況(北東から)
(4) 井戸SE309、柱穴SP308完掘状況(南東から)
(5) 柱穴SP336礎板出土状況(南東から)
(6) 柱穴SP273・274遺物出土状況(南西から)
(7) 井戸SE126(160)遺物出土状況(北から)
(8) 井戸SE103遺物出土状況(北西から)
PL,32 (1) 井戸SE09底部遺物出土状況(南東から)
(2) 井戸SE10完掘状況(南から)
(3) 井戸SE20遺物出土状況(北東から)
(4) 井戸SE103底部遺物出土状況(南東から)
(5) 井戸SE105完掘状況(北東から)
(6) 井戸SE255・269遺物出土状況(西から)
(7) 井戸SE116上部遺物出土状況(南西から)
(8) 井戸SE116完掘状況(南東から)
PL,33 (1) 井戸SE233完掘状況(北から)
(2) 井戸SE236中～下部遺物出土状況(南から)
(3) 井戸SE244遺物出土状況(南西から)
(4) 井戸SE244・245完掘状況(東から)
(5) 井戸SE253完掘状況(北から)
(6) 井戸SE255・269完掘状況(東から)
(7) 井戸SE269周辺作業風景(北から)
(8) 井戸SE325完掘状況(南西から)
PL,34 (1) 井戸SE337完掘状況(南西から)
(2) 井戸SE340下部遺物出土状況(南西から)
(3) 井戸SE340完掘状況(南西から)
(4) 第48次調査作業風景(西から)
PL,35～37 第44・48次調査出土遺物(1／6)
PL,37 第48次調査作業風景

# 表目次

〈本文〉

Tab,1 比恵遺跡群調査一覧 ……6
Tab,2 第40次調査掘立柱建物一覧表 ……11
Tab,3 第40次調査井戸一覧表 ……16
Tab,4 第40次調査掲載土器所見一覧 ……16
Tab,5 第40次調査出土土製品・その他遺物所見一覧 …21
Tab,6 第40次調査出土石器・石製品所見一覧 ……22
Tab,7 第42次調査掘立柱建物一覧表 ……47
Tab,8 第42次調査竪穴住居跡一覧表 ……51
Tab,9 第42次調査井戸一覧表 ……57
Tab,10 第42次調査掲載土器所見一覧 ……59
Tab,11 第42次調査掲載石器、土製品、その他遺物観察所見一覧 ……67
Tab,12 第44次調査井戸一覧表 ……99
Tab,13 第44次調査掲載土器所見一覧 ……99
Tab,14 第48次調査掘立柱建物一覧表 ……104
Tab,15 第48次調査井戸一覧表 ……113
Tab,16 第48次調査掲載土器所見一覧 ……114
Tab,17 広形銅矛鋳型(出土地)一覧表 ……141

〈付論〉

表 1 土製取瓶付着物の蛍光X線分析法で測定された元素のX線強度比 ……149
表 2 土製取瓶付着物の測定された鉛同位体比値 ……149
表 3 龍野市北山遺跡および春日市須玖坂本遺跡・五反田遺跡・須玖永田遺跡から出土した土器付着銅などの鉛同位体比 ……149
図 1 土製取瓶S－1(脚部分)付着物の蛍光X線スペクトル図 ……150
図 2 土製取瓶S－2(口縁注口部片)付着物の蛍光X線スペクトル図 ……150
図 3 土製取瓶付着物が示す鉛同位体比(A式図) …151
図 4 土製取瓶付着物が示す鉛同位体比(B式図) …151
図 5 土器付着銅などの鉛同位体比(その1全体図) ……152
図 6 土器付着銅などの鉛同位体比(その2拡大図) ……152

# 第1章　序　説

## 1、調査にいたる経過

平成３年11月１日付で、当該地における埋蔵文化財事前審査願が出された。申請地は福岡市文化財分布地図「中南部」1980において「Ａ－１比恵遺跡群」として周知化された遺跡内に位置していることから、書類審査の上、同年11月21日に試掘調査を実施した。その結果、工事計画地には弥生時代中期後半以降の遺構と遺物が良好に遺存していることがわかり、工事に先立って何らかの保存措置を講じる必要があると判断された。

試掘調査の結果を受けて、教育委員会と申請者株式会社玉屋装工、および玉屋リネンサービス株式会社間で文化財の保存問題も含めて本調査と工事の日程調整等について協議を重ねた結果、緊急を要している工場改築部分の発掘調査を平成４年４月13日から着手する旨の合意に達し、下記の調査組織と体制で発掘調査を実施することとなった。

## 2、調査の組織

| | |
|---|---|
| 調査委託 | 玉屋リネンサービス株式会社、株式会社玉屋装工 |
| 調査主体 | 福岡市教育委員会 |
| 調査担当 | 文化財部埋蔵文化財課 |
| 調査総括 | 埋蔵文化財課長　　折尾　学 |
| 調査庶務 | 埋蔵文化財第二係長　横山邦継、吉田麻由美 |
| 試掘調査 | 埋蔵文化財第二係　　宮井善朗、荒牧宏行 |
| 発掘調査 | 埋蔵文化財第二係　　田中壽夫 |
| 調査作業 | 石田和彦・江越初代・王野貞子・大庭洋子・小原康義・勝田香英・金沢春雄・金子国雄・亀井好明・桐田八千柔・熊本交伸・熊本義徳・小島勇一・佐々木しづ・柴田　博・渋谷博之・瀬戸啓治・関　義種・関加代子・曽根崎昭子・大長正弘・高崎秀己・高田勘四郎・高浪信夫・中川敏夫・西山めぐみ・野中辰雄・橋本　浩・長谷川知加子・広田熊雄・藤野保夫・藤野信子・別府俊美・松藤ナツエ・三浦義隆・森垣隆視・森山恭助・森山タツエ・山元正典・吉住作美・脇田　栄 |
| 整理補助 | 宮園登美枝 |
| 整理作業 | 安部国恵・石田和彦・江崎木綿・大石江里子・金石邦子・木本ゆかり・酒井香代子・佐保明子・末次由紀恵・寺村チカ子・古野さおり・堀　一恵・真鍋晶子・山口英子・山中けい子・藤戸紀子 |

# 3、調査経過

発掘調査は、玉屋リネンサービス株式会社および株式会社玉屋装工の工場と事務所建築工事計画に合わせ、下記の4地点について順次実施し、各地点を第40～48次調査区と呼ぶこととした（Fig, 7）。

**第40次調査区**

工場新築に伴うもので、博多区博多駅南4丁目72に所在する。調査面積は540㎡を対象に平成4年4月13日から着手し6月24日に終了した。

**第42次調査区**

社屋新築に伴うもので、同区博多駅南4丁目6に所在する。調査面積756㎡を対象として平成4年7月6日～11月13日まで実施した。

**第44次調査区**

工場改築に伴うもので同区博多駅南4丁目6に所在する。第40次調査地点と北東壁で接している。調査面積は60㎡を対象にし、平成4年8月27日～9月5日まで実施した。

**第48次調査区**

工場新築に伴うもので、同区博多駅南4丁目9－8に所在する。調査面積は850㎡で、平成5年1月6日～3月30日にかけて調査を行い、ほぼ1年間におよんだ4地点の調査を終了した。

Fig, 1　第40次調査作業風景

Fig, 2　第42次調査作業風景

Fig, 3　第44次調査作業風景

Fig, 4　第48次調査作業風景

# 第2章　遺跡の立地と歴史的環境

## 1、遺跡の立地

福岡平野は、平野東部を北流する御笠川と、中央部を貫流する那珂川によって形成された沖積平野である。比恵遺跡群は、この福岡平野のほぼ中央に位置する洪積台地上に立地する。現在この地域は、標高6m前後の平坦な市街地となっているが、これは1930年代の区画整理によるもので、古くは小規模の開析谷が複雑に入り組んだ低丘陵であったと推定される。比恵遺跡の立地する那珂台地は地質学的には須玖火山灰層－AS04火砕流堆積物を構成層とする須玖面とされ、中位段丘下位面に相当する。今回調査した第40・42・44・48次調査地点はこの那珂台地のほぼ中央を南北に延びる尾根筋の東側緩斜面上に位置している。

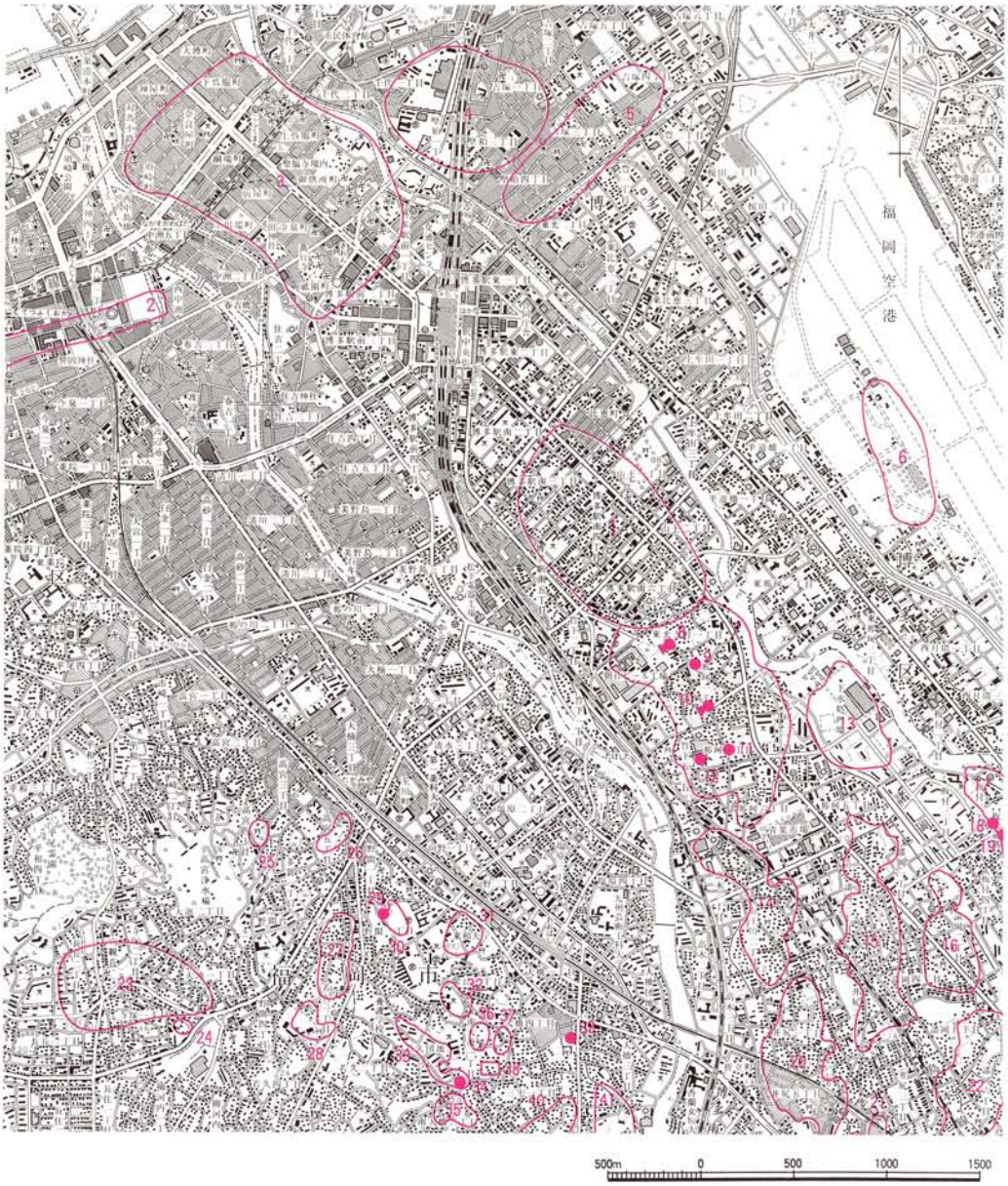
## 2、周辺の遺跡（Fig, 5）

比恵遺跡群1の周辺には弥生時代～古墳時代を主とする遺跡が高い密度で分布している。特に那珂川右岸と御笠川左岸間に展開している台地上には大規模な集落跡が弥生時代以降連綿と営まれていた。ここでは比恵遺跡周辺の主要な弥生時代から古墳時代の遺跡を概観する。

弥生時代の遺跡では、当該地点から東南へ約2.5～3kmの位置に板付遺跡(国指定史跡)17、諸岡遺跡16がある。板付遺跡では東西150m、南北600mの独立した丘陵上に前期から後期の環濠を伴う集落跡や、甕棺を主体とする墓地、縄文時代末期に遡る水田跡およびこれに伴う水利施設が確認されている。特徴的な遺物としては、前期末の甕棺から細形銅剣、銅矛の他、埋納されたと思われる後期の小銅鐸が出土している。北部九州における稲作受容の初期段階の様相を知る上で重要な遺跡である。諸岡遺跡では前期末から中期の集落跡の一部、前期～後期前半の甕棺および土壙墓で構成された墓地が見つかっている。特に朝鮮系無文土器と前期末の弥生土器とが共伴する出土のあり方は、弥生時代前期における朝鮮半島からの文化波及と受容のあり方を知る上で注目される。

当該地と同じ那珂台地上に立地する那珂遺跡群7では、これまでの41次におよぶ調査で弥生時代前期から後期までの集落の形成と展開の過程が徐々に明かになっている。特に青銅器生産に関しては銅戈・銅剣の鋳型が第1次・第20次・第21次で、鋳型中子が第8次で出土している。那珂台地からはややはずれるが、妙楽寺遺跡からは銅剣鋳型が出土している。遺跡の分布はやや散漫ではあるが当該地域周辺が青銅製品生産の一拠点であったといえよう。

古墳時代初頭に築造されたとされる那珂八幡古墳10は、当該地から南東へ約1.5km離れている。福岡平野で最初の首長墓と考えられている。この時期においては比恵・那珂・博多の各遺跡群において畿内系を初めとする外来系土器群の出土例が多く、その社会的な背景が注意される。東光寺剣塚古墳8は福岡平野最後の首長墓と考えられる6世紀後半の前方後円墳である。




Fig, 5　比恵遺跡群と周辺の遺跡分布図（１／40000）

1．比恵遺跡群　2．福岡城跡　3．博多遺跡群　4．堅粕遺跡群　5．吉塚遺跡群　6．雀居遺跡
7．那珂遺跡群　8．剣塚古墳　9．那珂遺跡群第8次調査（鋳型出土）　10．那珂八幡古墳
11．那珂遺跡群第20次調査（鋳型出土）　12．那珂遺跡群第23次調査（鋳型出土）　13．那珂深ヲサ遺跡群
14．五十川遺跡群　15．諸岡Ａ遺跡群　16．諸岡Ｂ遺跡群　17．板付遺跡　18．板付遺跡（1972年鋳型出土）
19．板付遺跡（1978年鋳型出土）　20．井尻Ｂ遺跡群　21．井尻Ｃ遺跡群　22．笹原遺跡群　23．寺塚Ａ古墳群
24．寺塚Ｂ古墳群　25．高宮Ａ遺跡　26．高宮Ｂ遺跡　27．中村町遺跡　28．若久Ａ遺跡
29．野間門の浦（細型銅矛出土）　30．野間Ａ遺跡　31．野間Ｂ遺跡　32．大橋Ａ遺跡　33．大橋Ｂ遺跡
34．三宅岩野（細型銅矛出土）　35．和田田蔵池遺跡　36．大橋Ｃ遺跡　37．大橋Ｄ遺跡　38．三宅廃寺
39．大橋Ｅ遺跡（鋳型出土）　40．三宅Ｂ遺跡群　41．三宅Ｃ遺跡群

# 3、比恵遺跡群のこれまでの調査（Fig, 6、Tab, 1）

那珂台地北部(比恵遺跡群)における発掘調査は、昭和13年に始まる区画整理事業にともなって行われた調査を第1次調査として、1992年度までで48次を数える。ここではこれまでの調査で得られた成果を時代毎に概観する。

**旧地形の復原**　比恵遺跡群が占地する台地は小規模な開析谷が入り組んでいる低丘陵である。台地北縁部に位置する第4次、第24～26次調査等において台地先端に谷が湾入していることが明かとなり、また第23次調査地点と第8次調査地点間には浅い谷が存在していたことがわかった。これらから比恵遺跡群は、北台地部、北西台地部および中央台地部の3地区に細分できそうである。

**旧石器時代**　遺物包含層は現在までのところ未確認であるが、第17次調査で当該期と思われるフレイクが、第19次調査でナイフ形石器が出土している。周辺遺跡である諸岡B遺跡第2次・3次、那珂遺跡群第41次調査の調査例を参考にすると台地縁辺部において当該期の包含層を検出できる可能性がある。

**縄文時代**　縄文時代末期から弥生時代初頭の遺構と遺物が北西台地部に位置する第3次調査地点で検出されている。これまでのところ晩期より古い遺構と遺物は明確ではない。

**弥生時代**　前期の遺構は那珂台地北縁から西縁部に分布が偏っている。北縁部に位置する第30次・31次・37次調査では前期半ば～末の貯蔵穴33基が検出され、中期の井戸も検出された。また比恵遺跡では初例の中細銅戈鋳型片が出土した。弥生時代中期における比恵遺跡の中心部は中央台地の第6次調査地点から第42次調査地点を結んだ尾根筋の西側一帯と考えられ、第6次調査では中期の墳丘墓、甕棺墓、木棺墓、中期から後期の井戸群および掘立柱建物群が検出された。遺物では最古期の絹布が付着した細形銅剣やガラス滓が出土している。また南側に隣接する第2次調査区(県指定地)は環溝集落を論ずるにあたって学史的に重要な地点である。中期末から後期になると那珂遺跡群も含んで那珂台地全域において遺跡が拡大し、環濠集落が営まれていることがわかりつつあり、住居跡や井戸等の生活関連遺構が検出されている。第25次調査では中期の各種の木製品と未製品が多量に出土している。

**古墳時代以降**　各調査地点では古墳時代前期初頭の畿内系をはじめとする外来系の土器の出土例が増える。第1次・2次・9次・10次調査では方形周溝墓の一部が確認されている。この時期に那珂台地南中央台地部には那珂八幡古墳が福岡平野最初の首長墓として築造される。比恵遺跡では古墳の築造状況や分布については明確になっていないが、第6次・17次調査では墳丘周溝の一部(比恵1号墳)が確認されている。北西台地に位置する第8次調査と第23次調査で古墳時代後半から末期においては、日本書記宣化元年条にみえる「那津官家」の可能性が高い建物群が確認されている。その実態解明については今後の周辺調査に期待される。

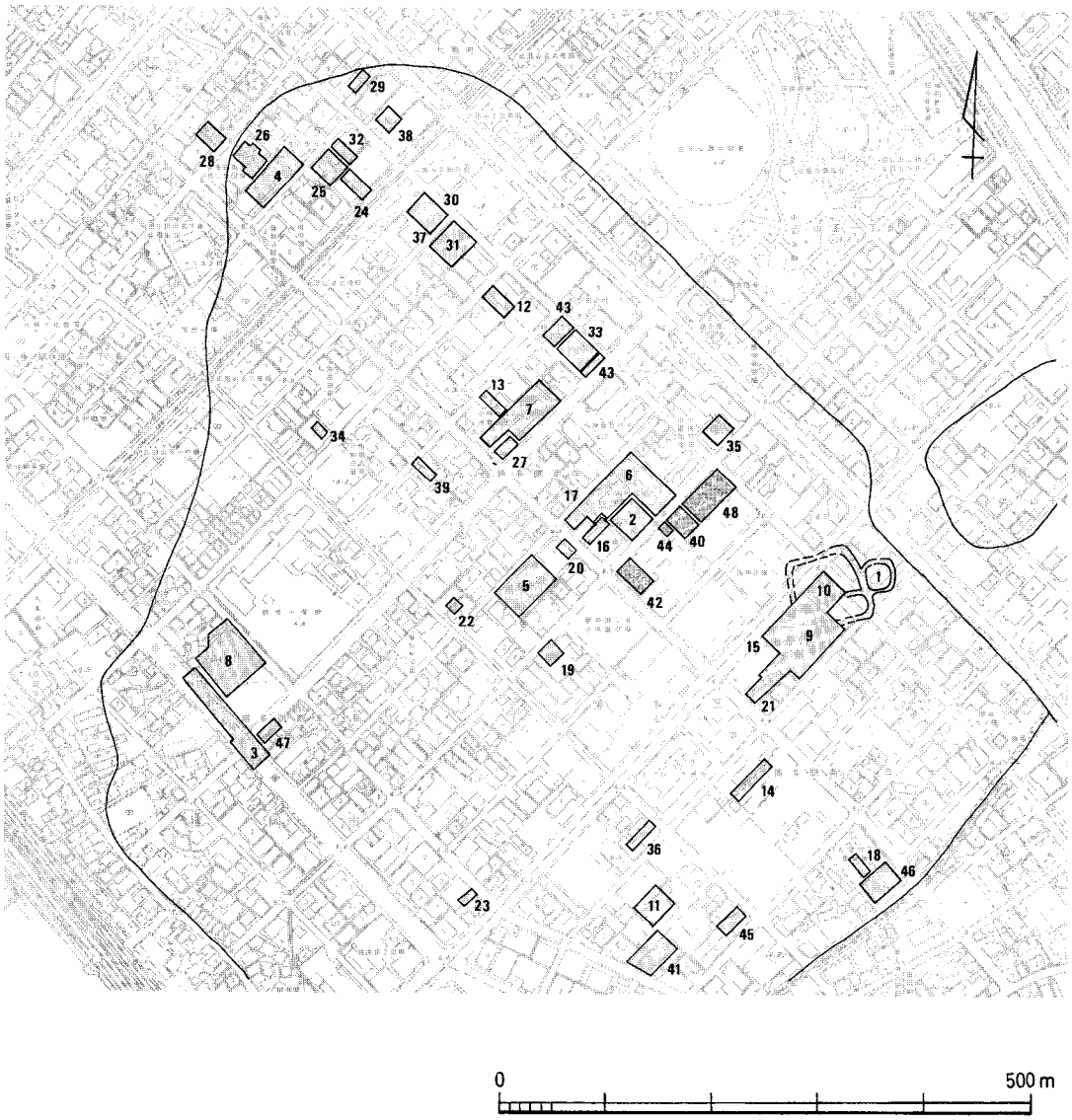
**Tab.1　比恵遺跡群調査一覧**

| 次数 | 番号 | 略号 | 調査地所在地 | 面積(m²) | 調査期間 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 3801 | HIE-1 | 博多区博多駅南４丁目 | ― | 38.39 | 1 |
| 2 | 5201 | HIE-2 | 博多区博多駅南４丁目 | 800 | 52 | 4 |
| 3 | 6604 | HIE-3 | 博多区博多駅南５丁目 | ― | 66.67.68 | 2 |
| 4 | 7908 | HIE-4 | 博多区博多駅南１丁目 | 1,300 | 791113～800420 | 3 |
| 5 | 8141 | HIE-5 | 博多区博多駅南４丁目 | 1,600 | 810415～810731 | |
| 6 | 8228 | HIE-6 | 博多区博多駅南４丁目405-1 | 2,644 | 820506～820905 | ４・５ |
| 7 | 8329 | HIE-7 | 博多区博多駅南４丁目10 | 2,100 | 830720～831130 | 6 |
| 8 | 8330 | HIE-8 | 博多区博多駅南５丁目12 | 2,240 | 840117～840418 | 7 |
| 9 | 8503 | HIE-9 | 博多区博多駅南６丁目6-5 | 1,863 | 850719～851022 | 8 |
| 10 | 8504 | HIE-10 | 博多区博多駅南６丁目39 | 555 | 850916～851001 | 8 |
| 11 | 8540 | HIE-11 | 博多区博多駅南６丁目18-9 | 580 | 860220～860331 | 9 |
| 12 | 8616 | HIE-12 | 博多区博多駅南４丁目11-35 | 279 | 860712～860730 | 10 |
| 13 | 8617 | HIE-13 | 博多区博多駅南４丁目159-3 | 496 | 860714～860917 | 10 |
| 14 | 8635 | HIE-14 | 博多区博多駅南６丁目9-7 | 284 | 860807～860828 | 10 |
| 15 | 8636 | HIE-15 | 博多区博多駅南６丁目9-6 | 278 | 860805～860927 | 10 |
| 16 | 8637 | HIE-16 | 博多区博多駅南４丁目8-15 | 202 | 860916～861011 | 10 |
| 17 | 8717 | HIE-17 | 博多区博多駅南４丁目117-2外 | 405 | 870629～870728 | 10・12 |
| 18 | 8820 | HIE-18 | 博多区博多駅南６丁目10-36 | 410 | 880618～880831 | 12 |
| 19 | 8828 | HIE-19 | 博多区博多駅南４丁目88 | 788 | 880803～881008 | 13 |
| 20 | 8859 | HIE-20 | 博多区博多駅南４丁目19-2 | 252 | 890206～890228 | 12 |
| 21 | 8863 | HIE-21 | 博多区博多駅南６丁目9-6 | 168 | 890308～890329 | |
| 22 | 8902 | HIE-22 | 博多区博多駅南４丁目19-2 | 215 | 890411～890422 | |
| 23 | 8909 | HIE-23 | 博多区博多駅南５丁目40-1 | 88 | 890418～890423 | 12 |
| 24 | 8917 | HIE-24 | 博多区博多駅南３丁目317 | 340 | 890523～890619 | 13 |
| 25 | 8924 | HIE-25 | 博多区博多駅南３丁目1-1 | 400 | 890619～890904 | 13 |
| 26 | 8939 | HIE-26 | 博多区博多駅南３丁目58 | 482 | 890807～890923 | 13 |
| 27 | 8971 | HIE-27 | 博多区博多駅南４丁目10-18 | 165 | 900208～900228 | 13 |
| 28 | 8981 | HIE-28 | 博多区博多駅南３丁目426 | 405 | 900314～900407 | 13 |
| 29 | 9004 | HIE-29 | 博多区博多駅南３丁目29 | 120 | 900410～900428 | 14 |
| 30 | 9012 | HIE-30 | 博多区博多駅南４丁目221 | 570 | 900519～900620 | 14 |
| 31 | 9016 | HIE-31 | 博多区博多駅南４丁目201 | 530 | 900621～900713 | 14 |
| 32 | 9037 | HIE-32 | 博多区博多駅南３丁目46-1 | 159 | 900925～901113 | 14 |
| 33 | 9039 | HIE-33 | 博多区博多駅南４丁目150-3 | 965 | 901004～900208 | |
| 34 | 9043 | HIE-34 | 博多区博多駅南４丁目15-17 | 80 | 901105～901116 | 14 |
| 35 | 9061 | HIE-35 | 博多区博多駅南４丁目109-1 | 432 | 910218～910323 | 14 |
| 36 | 9064 | HIE-36 | 博多区博多駅南６丁目30-2 | 820 | 910308～910331 | 14 |
| 37 | 9104 | HIE-37 | 博多区博多駅南４丁目13-41 | 170 | 910422～910523 | 15 |
| 38 | 9109 | HIE-38 | 博多区博多駅南３丁目2-22 | 70 | 910515～910517 | |
| 39 | 9134 | HIE-39 | 博多区博多駅南４丁目162-5 | 210 | 911029～911213 | 15 |
| 40 | 9207 | HIE-40 | 博多区博多駅南４丁目72他 | 540 | 920413～920624 | 16 |
| 41 | 9211 | HIE-41 | 博多区博多駅南６丁目34-2 | 1,037 | 920516～921130 | |
| 42 | 9221 | HIE-42 | 博多区博多駅南４丁目6-23 | 756 | 920706～921113 | 16 |
| 43 | 9229 | HIE-43 | 博多区博多駅南４丁目154-3他 | 614 | 920820～921130 | |
| 44 | 9231 | HIE-44 | 博多区博多駅南４丁目 | 60 | 920827～920905 | 16 |
| 45 | 9237 | HIE-45 | 博多区博多駅南６丁目24-1 | 344 | 920928～921031 | |
| 46 | 9240 | HIE-46 | 博多区博多駅南６丁目13-2 | 388 | 921022～921212 | |
| 47 | 9245 | HIE-47 | 博多区博多駅南５丁目11 | 182 | 921104～921130 | 17 |
| 48 | 9255 | HIE-48 | 博多区博多駅南４丁目9-8 | 850 | 930106～930331 | 16 |

（文献番号は下記の文献一覧の番号と同一）

**《文献一覧》**


1　鏡山　猛　『環溝住居小論一～四』　「史淵67,68,74,78」九州大学　1956～59
2　筑紫野古代史研究会　『見捨てられた春住遺跡』　筑紫野史学研究会会報 第２集　1972
3　吉岡完祐　「瑞穂－福岡市比恵台地遺跡－」　日本住宅公団　1980
4　横山邦継・濱石哲也　「比恵遺跡－第６次調査(遺構編)－」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第 94集　1983
5　横山邦継・濱石哲也　「比恵遺跡－第６次調査(遺物編)－」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第130集　1986
6　小林義彦　「比恵遺跡－第７次調査－」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第117集　1985
7　柳沢一男　「比恵遺跡－第８次調査概要－」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第116集　1985
8　杉山富雄　「比恵遺跡－第９，10次調査報告－」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第145集　1986
9　山崎龍雄・米倉秀紀　「中部地区埋蔵文化財調査報告」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第146集　1987
10　吉留秀敏　「比恵遺跡群（８）」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第174集　1988
11　吉留秀敏　「比恵遺跡群の弥生時代墳丘墓」　九州考古学第63号　九州考古学会　1989
12　山口譲治　「比恵遺跡群（９）」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第227集　1990
13　吉留秀敏　「比恵遺跡群（10）」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第255集　1991
14　菅波正人　「比恵遺跡群（11）」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第289集　1992
15　菅波正人　「比恵遺跡群（12）」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第325集　1993
16　田中壽夫　「比恵遺跡群（13）」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第368集　1994
17　佐藤一郎　「比恵遺跡群（14）」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第369集　1994




Fig, 6　比恵遺跡群調査地点位置図（1／7000）

図中の1～48はTab, 1の調査次数と同一。

# 第３章　調査の記録

## １、調査概要

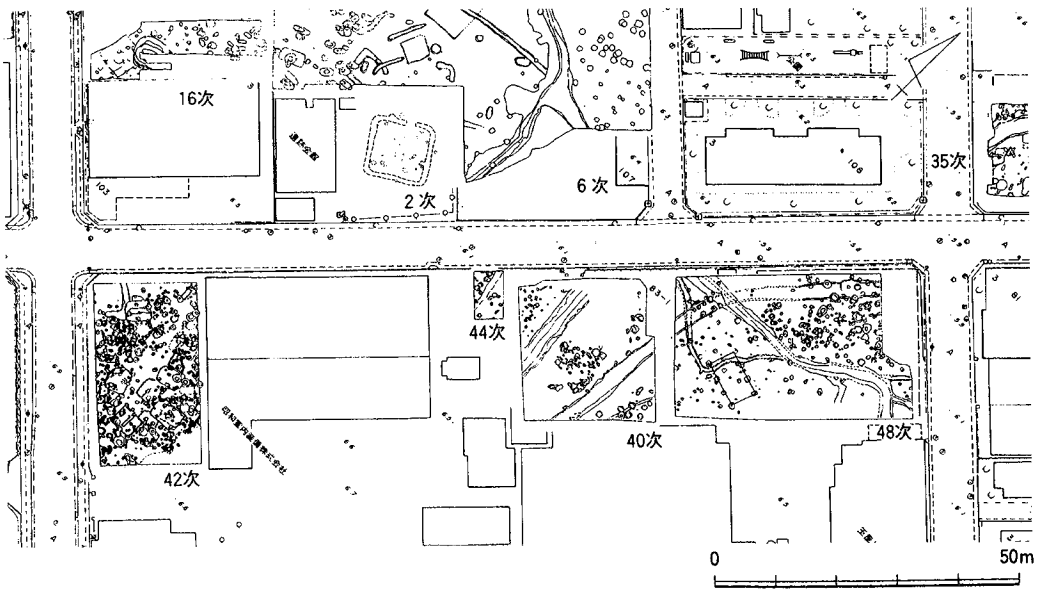
### (1)調査地点の位置

今回調査した４地点は、比恵遺跡が占地する中央台地の北に延びる尾根筋の東側緩斜面上に位置している。最も尾根に近いのは第42次調査区である。第48次調査区は低丘陵東側裾部に位置している。周辺の調査は、第２・６・17次調査区が道路を挟んで北西側に位置し、第35次調査区が北側に隣接している。

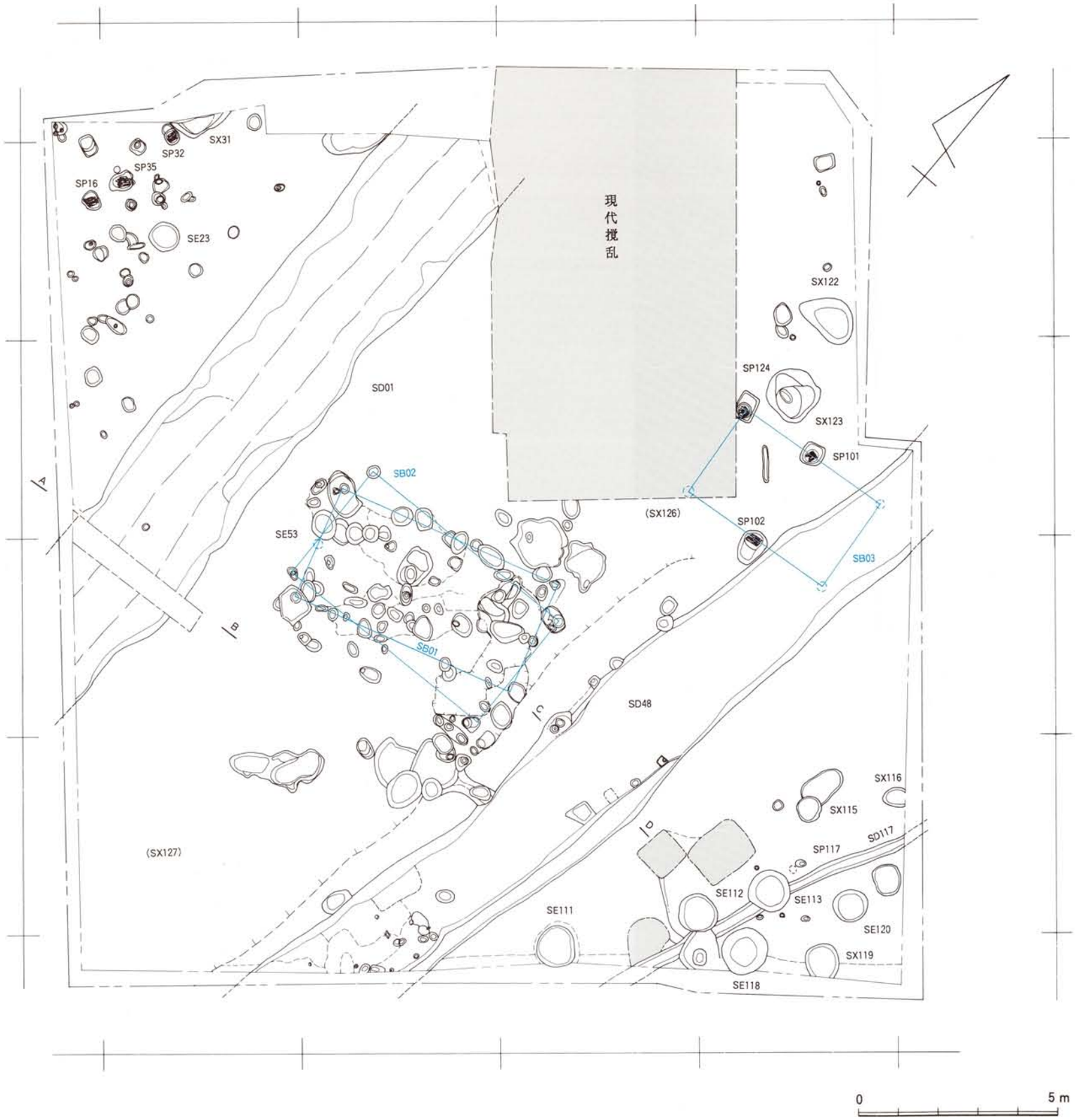
### (2)各調査区における土層堆積状況

各調査区は、いずれも後世の営田・畑作、戦後の区画整理等による削平が顕著である。各調査区における遺構検出面は、第42次調査区が黄褐色粘質ローム、第40・44・48次調査区が、黄白色から淡灰白色ローム面である。いずれも那珂から比恵に連続して分布する八女ローム層に相当する。後世の削平のため遺構の遺存状況は全般的にあまり良くない。

第42次調査区では、約50cm厚で現地表土(盛土)が水平に堆積している。下部の旧耕作土は昭和初期から戦後まもない時期の頃のものであり、盛土は現工場の建設に伴うものである。調査区の中央部から南側にかけては旧耕作土直下が遺構検出面である。南端部から西側にかけては遺物包含層(黒褐色粘質土)が分布している。茶褐色土を覆土とする江戸時代以降の遺構はこの包含層を掘りこんでいる。基盤の八女ローム層は中央部から北側では褐色がかり土壌化が進んでいる。南側では黄白色～白色を呈する。第40・42・48次調査区では、約80～100cmの厚さ




Fig, 7　第40次・42次・44次・48次調査地点位置図(１／1250)




Fig, 8
第40次調査区遺構分布全体図（1／125）

※アミ部分は、現代撹乱

A－Bは、SD01土層断面ライン（Fig, 10）
C－Dは、SD48土層断面ライン（　〃　）

で表土(盛土)があり、その下部に旧耕作土が約20cm厚でみられる。盛土は、第42次調査区と同様に工場建設によるものである。旧耕作土の下部には、弥生土器、土師器を含む黒～黒褐色土が20～30cm厚で堆積している。この遺物包含層は尾根に近い第42次調査区南端部に分布している遺物包含層と同一で、第44次調査区の北東部、第48次調査区の西側半分に断続的に分布しており、第６次調査区でも確認されている。この黒色包含層は第40次調査区SD01を覆っていることから、古墳時代以降のものと考えられる。なお第42次調査区と第48次調査区の遺構検出面の比高差は約1.2mである。東側(第48次調査区側)へ緩やかに傾斜している。

## (3)各調査区の概要

1）第40次調査

本調査区では、弥生時代後期から古墳時代初頭にかかる遺構と遺物を確認した。検出した遺構は、井戸７基、溝３条、土壙３基、柱穴76で、掘立柱建物を３棟推定復元した。

井戸は、弥生時代後期から古墳時代にかかるもので直径が約１m、深さが１m～1.5m前後の素掘りである。調査区東隅にまとまって分布している。溝は、弥生中期末から後期のもの(SD01)、弥生時代終末～古墳時代初頭のもの(SD48)、中世以降のもの(SD17)がある。前二者はいずれも直線的に南北に延びており、ほぼ並行している。土壙はいずれも平面形が不定形で、断面形は浅い皿状のものが多い。柱穴の一部には礎板を持つものがある。掘立柱建物３棟を推定復元した。

出土遺物は、弥生土器、須恵器、陶質土器、土師器、石器(太形蛤刃石斧、柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁、石鎌、砥石、石錘、紡錘車、磨石、石鏃、黒曜石片)、土製品(紡錘車、投弾、取瓶)、木製品(鋤、鍬、槌、板材)、自然遺物(鹿頭骨、山桃等)が出土している。遺物の出土量は、弥生時代中期から後期のものが主体を占める。特に溝SD01からはコンテナボックス約220箱分の弥生土器が投棄された状況で出土している。

2）第42次調査

本調査区においては、弥生時代後期から古墳時代後期までの遺構と遺物を確認した。検出した遺構は、井戸20基、竪穴住居跡15基、柱穴554、溝２条、土壙37基、方形周溝墓？１基である。また掘立柱建物を22棟推定復元した。

井戸は、弥生時代後期前半から半ばのものと、弥生時代終末から古墳時代初頭のものがある。規模は、検出面での直径が80cm前後で、深さが１mほどのものと、直径が１mを超し、深さが２～2.5mほどの大型のものとがある。また、埋め戻す際に大量の土器を投棄しているものと、まったく遺物を含んでいないものがある。竪穴住居跡は、弥生時代中期末から後期にかかるものと古墳時代前期および後期のものがある。竪穴の平面形は円形および長方形である。規模は一辺約４～５mの小規模のものが多い。溝は江戸時代の灌漑用溝と、弥生時代後期の溝を検出した。また古墳時代の方形周溝墓の周溝の一部と考えられる溝状遺構がある。土壙は、平面形がいずれも不定形で、断面形が浅皿状のものが多く明確な掘方を持ったものは少ない。

出土遺物は、弥生土器、須恵器、土師器、石器(太形蛤刃石斧、柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁、砥石、石錘、紡錘車、磨石、石鏃、黒曜石片)、土製品(紡錘車、投弾)、石製品(広形銅矛鋳型)、木製品(槌、板材)、自然遺物(山桃等)などが出土している。

３）第44次調査

調査面積が狭いために遺構、遺物ともに少ない。弥生時代後期の井戸１基、古墳時代前期の井戸２基、不定形土壙６基を検出した。井戸はいずれも規模が小さく、検出面での直径80cm、深さ1.3m前後である。古墳時代のものは井戸基底面から80cmほどの面に甕が１点投棄された状況で出土している。

出土遺物は、弥生土器、土師器、石器(蛤刃石斧、柱状片刃石斧、石包丁、砥石、石錘、紡錘車、磨石、石鏃、黒曜石片)、土製品(投弾)、木製品(板材)が出土している。

４）第48次調査

第48次調査区は、第40次調査区の北東部に隣接している。調査区においては、弥生時代後期から古墳時代前期にかかる遺構と遺物、また江戸期から近代まで利用されていた灌漑用水路を検出した。検出した遺構は、井戸29基、溝３条、土壙47基、柱穴198である。なお掘立柱建物は28棟を推定復元した。全般的にみて遺構の遺存状況はこの地点ではさらに悪い。遺構の分布は調査区中央を境にして北側と南側に偏っている。第42次調査区と比べ遺構の時期はやや新しい傾向が窺える。井戸は、弥生時代後期半ば～古墳時代前期のものがある。規模は検出面での直径が80cm前後で、深さが１ｍほどのものと、直径が１ｍを超し、深さが 2.5～３ｍほどの大型のものとがある。溝は、弥生時代終末から古墳時代初頭のもの(SD04)、中世のもの(SD03)、近世から現代のもの(SD01)を検出した。SD04は第40次調査のSD48の延長部である。

出土した遺物は、弥生土器、須恵器、陶質土器、土師器、陶器、石器(石包丁、石鎌、砥石、石錘、紡錘車、磨石、石鏃、黒曜石片)、土製品(紡錘車、投弾)、木製品(槌、板材)、銅鏃がある。遺物の出土量からみると、弥生時代後期のものがこの地点でも主体を占める。

なお各調査区における調査記録のうち出土遺物の個別所見については、調査区ごとにまとめた一覧表を参照されたい。また、第40次調査区出土の土製取瓶147～152と、第42次調査区出土の石製広形銅矛鋳型については第４章に一括して記述した。

# 2、第40次調査

## (1)概要

本調査区は、昭和20年代の工場建設による掘削によって中央部北西側が大きく掘り下げられている。また、北側から北東部にかけては旧耕作土の鋤取りによって南西部中央にみられた黒褐色粘質土包含層は残っていない。遺構検出面は黄白色～明灰白色の八女ローム層面である。遺構検出面の標高は5.3～5.55mを測り、北東方向に向けて低くなっている。

本調査区において検出された遺構は、掘立柱建物(SB)3棟、溝(SD)3条、井戸(SE)7基、土壙(SX)3基である。遺構の遺存状況は全般的に悪い。中世以降の溝SD117の埋土は褐色～茶褐色粘質土であるがその他の遺構の埋土はいずれも暗褐色～黒褐色粘質土である。

## (2)掘立柱建物(SB)

調査区の南西部、中央部東側、北東部に柱穴が検出された。おおよそ直径が20cmで、平面形は円形のものが多いなかで、隅丸の方形をなすものがあり、それらの中には礎板が残るものがある。図面操作で以下の3棟の建物について推定復元した。

掘立柱建物は弥生時代後期以降と考えられる。調査区の中央に重複しながら分布する。

SB01 (Fig, 9、PL, 1、Tab, 2)

梁行2間、桁行3間の東西棟である。南側柱の中央間がやや広くなっている。柱根痕跡は四隅の柱穴で確認された。柱の直径は20～24cmを測る。柱穴SP89では礎板の痕跡がみられた。

SB02 (Fig, 9、PL, 1、Tab, 2)

梁行、桁行とも1間もしくは桁行が2間の東西棟である。柱穴はやや不整な矩形で、一辺約60～70cmを測る。いずれにも礎板が置かれている。礎板の現存厚は約4～6cmである。柱痕跡からみて、柱直径は20cm前後と考えられる。柱穴内埋土は黒色粘質土である。

SB03 (Fig, 9、PL, 1、Tab, 2)

梁行1間、桁行2間の東西棟である。柱間が広いことからみて、各柱間の中央に補助的な柱があった可能性がある。柱根痕跡から柱の直径は15～20cmほどと考えられる。

**Tab, 2　第40次調査　掘立柱建物一覧表**

| Fig, | PL | 遺構(SB) | 規模(間) | 規模(m) 桁行 | 規模(m) 梁行 | 棟方向 | 床面積($m^2$) | 柱穴番号(SP) | 礎板有無 | 先後関係(先→後) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 1 | 01 | 2×3 | 5.97 | 2.98 | N-74° 50'-E | 17.79 | 46,72,81,89,97,132,136,137,139 | ○ | SP131・140→SB01<br>SB01→SP01 |
| 9 | 1 | 02 | 1×2 | 4.14 | 2.51 | N-85° 40'-E | 10.39 | 101,102,124 | ○ | |
| 9 | 1 | 03 | 1×2 | 6.00 | 3.30 | N-89° -E | 19.80 | 43,63,74,134,135,138 | ? | |

＊礎板の有無は調査によって確認されたもの

## (3)溝状遺構(SD)

**SD01**(Fig,10・13～21、PL,２～４・９・10、Tab,４)

弥生時代中期末から後期にかかる大溝で、後期末には完全に埋没している。ほぼ直線的に南北に延びている。断面形は逆台形で、現存の溝上端幅は3.5～3.8m、基底部幅は1.0～1.2m、深さは1.1～1.3mを測る。溝の壁は、左右両壁の傾斜角は東壁が45°～46°、西壁が36°～39°である。溝内の埋土は、大きく３層に分かれ上層(第１層～４層)に弥生後期の土器が投棄された状態で大量に出土している。土器片はまんべんなく広がって分布しており、ある一定個所に集中するといった傾向は示していないが、細かくみると４～５群にまとまっている。また溝の中央軸線を基準にすると中央から西側にかけて出土量が多い。これらから、土器の廃棄行為については、弥生時代後期後半頃に当該溝が半分程度埋まっている状況下で西側から溝中央に向けて廃棄されたと思われる。

溝の基底部には非常に粘性のある黒色～黒褐色粘質土(下層：第10～15層)が堆積している。基底部は本来平坦であったと思われるが、水の流路が何回か変化し、凹凸が筋状に走っている。黒色粘質土からは流木片に加え獣骨頭骨片(鹿頭骨か)が出土している。

**出土遺物**　遺物はコンテナケースで220箱分が出土している。検出面～上面にかけては弥生時代中期から古墳時代初頭、古墳時代、中世の遺物が混入している。最も出土量が多かったのは上層下部から中層(第６層～９層)上面までで、先述したように投棄された状況で４～５群に分かれて分布している。破片がほとんどであるが、完形品が比較的目立つ。含まれる遺物は弥生時代中期から弥生時代後期後半の遺物が主体を占めており、土器、土製品、石器、石製品などがある。中層以下になると出土量は激減し、弥生中期と後期の遺物がほぼ等しい割合で出土している。完形品はなくすべて破片である。下層では主として弥生時代中期末から後期初頭の遺物が出土している。

図示した弥生土器１～47・50～59・61・62、69～78・80～89は上層から、48･49･60･63･65～68･79･90～100は中層から、101～106は下層から出土したもののうちの一部である。いずれも弥生時代中期から後期のものである。器種は甕・壺(短頸・長頸・袋状口縁・二重口縁等)・鉢・器台・支脚・高杯・蓋・ミニチュア土器等がある。土製品135～139・147・148～152、石器153～156、ガラス製小玉157～160はいずれも上層からの出土である。土製品には匙135・136、投弾137～139、取瓶片147～152がある。石器には砥石153・154・162、石錘155・156、石包丁162～165・167～169、紡錘車170、鏃171、石鎌172、石剣175・176、叩石173・174・179～181がある。

**SD48**(Fig,10・22、PL,５・11、Tab,４)

SD48は弥生時代後期末から古墳時代初頭にかかるもので、本調査区においてはSD01とほぼ並行しながら直線的に南北に延びている。上半部分が削平を受けており、本来の形状は不明であるが、断面形は基底部幅が広い逆台形をなす。現存の溝上端幅は3.1～3.3m、基底部幅は1.8～2.0m、深さは0.6mを測る。埋土は基底部直上に堆積するもので、堅く締まった黒褐色～暗褐色粘質土である。

**出土遺物**　遺物は底面近くからまとまって弥生時代後期から終末にかけての土器・石器片が出土している。弥生土器107～109・111～113・115～119は埋土中位～下部にかけて出土、110・114は底面で出土したものである。いずれも二次的な混入の状況で出土したものである。土製品は投弾109・110がある。石器は石斧182、石包丁183、鏃184、石剣185・187、砥石186、有溝石錘188がある。

SD117（Fig, 8、PL, 1）

SD117は中世のもので、水田畦溝の可能性がある。断面形は「U」字形である。幅は0.4～0.6m、深さは0.2～0.4mを測る。当該溝の北側延長部分にあたる第48次調査区においては弥生時代後期の井戸SE10、掘立柱建物SB01を切っている。溝の埋土は茶褐色粘質土である。

**出土遺物**　図示していないが、弥生土器片、龍泉窯系青磁椀片が出土している。

## (4)井戸(SE)

調査区の北西隅に1基、中央部に1基、北東隅で5基を検出した。いずれも弥生時代後期半ば～終末の頃のものである。

SE23（Fig, 12・23、PL, 6・11、Tab, 3・4）

調査区東隅に位置する。井戸最下層には粗砂が薄く堆積している。中位から上部の埋土は黄褐色粘土小塊を含む暗褐色粘質土で、単一層であることから一気に埋め戻されたものと思われる。湧水面は標高4.2m前後である。井戸の廃絶時期は弥生時代後期半ば以降である。

**出土遺物**　弥生土器片のほか、黒曜石片が数点出土している。埋土中位には弥生土器120～122が投棄された状態で出土した。弥生土器には手捏土器120、甕121、壺122がある。

SE53（Fig, 12、PL, 5、Tab, 3）

調査区中央に位置する。黒褐色粘質土を埋土とする。遺物は埋土中に弥生土器の小破片が二次的に混入している。その他の井戸群と比べ基底面が浅く規模も小さい。弥生時代終末以降のものと思われる。

**出土遺物**　弥生土器小片、玄武岩石片等が出土しているが図示し得るものはない。

SE111（Fig, 12・23、PL, 7・11、Tab, 3・4）

調査区南東壁にわずかにかかって検出された。本調査区では最も深い井戸である。平面形は円形で、掘方は円筒形状をなす。埋土は大きく4層に分かれる。いずれも木炭片や黄褐色粘土小塊を多く含む暗褐色～黒褐色粘質土である。壁面は中位部分がわずかに膨らんでいる。埋土中位から下部にかけて弥生時代後期半ばから後半の土器片が投棄された状態で出土した。最下部には粗砂層がみられた。湧水面は標高4.15mのレベルである。

**出土遺物**　弥生土器片が出土している。壺123、器台124、甕125は底面から投棄された状態で出土した。

SE112（Fig, 12・23、PL, 7、Tab, 3）

調査区北東部に位置する。平面形は円形である。掘方は円筒形状をなす。上部は溝SD117によって切られている。埋土は大きく７層に分かれる。上層（第１～３層）は暗褐色～黒褐色粘質土である。中層（第４～５層）は黒灰褐色粘質土で黄白色粘土小塊を多く含む。下層（第６・７層）は黒色粘質土である。弥生時代後期後半の井戸である。

**出土遺物**　上～中層にかけては弥生土器小片が多く出土している。弥生土器甕126は第７層から出土した。

SE113（Fig, 12・23、PL, 7・11、Tab, 3）

調査区北東部に位置する。平面形は比較的大きいが、掘方は浅い。SE112同様に上部はSD117によって切られている。埋土は暗褐色～黒褐色粘質土でほぼ単一層である。最下層は黒灰褐色粘質土でかなり粘性に富む。弥生時代後期半ば前後のものと思われる。

**出土遺物**　弥生中期末から後期後半の土器片が埋土中に多く含まれている。弥生土器127～131は最下層から出土した。

SE118（Fig, 12、PL, 7、Tab, 3）

調査区北東部に位置する。平面形は本調査区では最も大きい。埋土は大きく４層に分かれる。第１層は黒色粘質土で、木炭片や細かな土器片を多く含む。下部に板材が混入していた。第２層はほぼ中位にレンズ状に薄く堆積した黒灰色粘質土。第３層は黒灰色粘質土中に黄褐色粘土小塊を多く含む層。第４層は黒色粘質土で、底部に堆積している。弥生時代後期半ばから後半のものと思われる。

**出土遺物**　底面から10cm浮いて弥生時代後期半ば～後半の土器片が出土している。小片のため図示しえるものはない。

SE120（Fig, 12、PL, 8、Tab, 3）

調査区北東隅部に位置する。埋土は大きく３層に分かれる。第１層は黒褐色～黒色粘質土で木炭片や弥生土器小片を多く含む。第２層は黒灰色粘質土で黄褐色粘土小塊を含む。最下層は黒色粘質土。時期を比定する遺物はないが、弥生時代後期終末以降の廃絶時期が考えられる。

## (5)土壙(SK・SX)

本調査区では井戸の分布と重複して南西部と中央部、北東隅部に土壙が点在している。形状はほとんどが不整形の浅い窪みである。人為的な掘込みによると思われるものは３基ある。

SX31（Fig, 11・24、PL, 6）

調査区西南隅に位置している。東半分について調査した。平面形は不整な楕円形になるものと思われる。底面は不整な円形で平坦である。埋土は暗褐色～黒灰色粘質土で黄白色粘土小塊を多く含む。一時的に埋め戻されたものと思われる。長軸1.8m、短軸推定1.5m、深さ0.8mを測る。

**出土遺物**　埋土中からは弥生時代後期初頭から後半の土器片が出土している。弥生土器高杯

脚部132と器台133、甕134は底部から出土した。古墳時代以降のものと思われる。

**SX119**(Fig, 11、PL, 1)

調査区北東隅に位置する。平面形は不整な楕円形で、黒褐色粘質土を埋土とする。長軸1.05m、短軸0.78m、深さ0.3mを測る。

**出土遺物**　弥生土器小片が二次混入の状況で出土しているが図示し得るものはない。

**SX122** (Fig, 8、PL, 1)

調査区北側に位置する。平面形は不整楕円形で、黒褐色粘質土を覆土とする。長軸1.48m、短軸1.2m、深さ0.25～0.3mを測る。

**出土遺物**　弥生土器小片が二次混入の状況で出土している。図示し得るものはない。

## (6)その他の遺構および出土遺物

**包含層SX126・127** (Fig, 8・24、PL, 1)

包含層は暗褐色～黒褐色の粘質土で、溝SD01・48を覆って調査区の中央～西半分に分布している。その範囲は第44次調査区で確認されたSX152と一連のもので(97・99頁)、溝SD01・48の走向と同じくしながら、南北に帯状にみられた。SD48の西側では畦状の低い高まりが認められたが、SD01埋没後にSD48の西側に展開した水田の基底部が残ったものとも考えられる。出土遺物からみると弥生時代終末から古墳時代の可能性がある。

**出土遺物**　弥生土器・古墳時代前期の土師器片の他、投弾141、紡錘車142、銅鏃143がある。

## (7)小結

本調査区では、弥生時代後期の掘立柱建物、井戸、溝、土壙、水田跡の一部が検出された。本調査区の位置は低丘陵の傾斜面の変換点となっている地点にあたっており、SD01はこの丘陵縁辺部に設けられた溝で、おそらく弥生時代中期後半頃から後期前半頃まで機能し、後半以降に埋没している。掘立柱建物は後期後半以降のものと考えられることから、第6次・第17次・第42次の調査成果を踏まえると、集落の中心部分を台地尾根周辺の西側におきながら、SD01埋没後に集落の範囲が東側台地縁辺部に拡大したことがわかる。なお、SD48は後期後半～末以降にSD01の東側に沿って設けられたと思われるが、早い時期に埋没し、古墳時代前期には集落内に取り込まれ、溝として機能していなかった可能性がある。

井戸は本調査区では大きく3群に分かれるが、第6次・第17次・第40次・第44次調査での分布状況とあわせると約10群ほどの小群に分かれて分布している。

SD01から出土した取瓶147～152は、第42次調査で出土した広形銅矛鋳型369と共に、比恵遺跡において明らかに青銅製品の鋳造製作が行われたことを物語るものである。SD01上層からの共伴遺物からみて、弥生時代後期後半～終末の時期が想定でき、広形銅矛鋳型とほぼ同時期のものと考えられる。

## Tab, 3　第40次調査　井戸一覧表

a；長軸、b；短軸、c；深さ　＊深さは検出面からのマイナス値

| Fig, | PL | 遺構(SE) | 平面形 | 断面形 | 計測値（m） a | b | c | 底面標高(m) | 先後関係(先→後) | 出土遺物概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 12 | 6 | 23 | 円　形 | 円筒形 | 0.81 | 0.75 | 1.38 | 3.90 | —— | 弥生土器片<br>黒曜石片120～122 |
| 12 | — | 53 | 〃 | 〃 | 0.75 | 0.63 | 0.78 | 4.43 | —— | 弥生土器小片<br>玄武岩片・木炭 |
| 12 | 7 | 111 | 〃 | 〃 | 1.00 | 0.98 | 1.69 | 3.92 | —— | 弥生土器小片<br>123～125 |
| 12 | 7 | 112 | 〃 | 〃 | 0.97 | 0.95 | 1.30 | 4.16 | SE112→SD117 | 弥生土器小片<br>126 |
| 12 | 7 | 113 | 〃 | 〃 | 1.06 | 1.05 | 1.10 | 4.32 | SE113→SD117 | 弥生土器小片<br>127～131 |
| 12 | 7 | 118 | 〃 | 〃 | 1.20 | 1.16 | 1.47 | 3.94 | —— | 弥生土器小片 |
| 12 | 8 | 120 | 〃 | 〃 | 0.90 | 0.81 | 1.30 | 3.96 | —— | 弥生土器小片 |

## Tab, 4　第40次調査掲載土器所見一覧

：法量の口径は外径、器台は台上部径、（　）は復元値

| Fig, | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 器種 | 法量（cm） 口径 | 器高 | 底径 | 胴部径 | 形態的特徴 成形上の手法 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 13 | — | 1 | 295 | 甕 | 33.0 | — | — | — | 口縁～胴部片。赤色顔料塗布後ヘラミガキ。 | 赤褐色 | 良 | 良 | SD01上層 |
| 13 | — | 2 | 211 | 甕 | 33.4 | — | — | — | 口縁～胴部片。内面ナデ。口縁部肥厚。 | 明褐白色 | やや粗い | 良 | SD01上層 |
| 13 | — | 3 | 214 | 甕 | 23.4 | — | — | — | 口縁部片。内外面ハケ目調整。胴部は内傾し、口縁部は「く」字形に外反。 | 褐色 | やや粗い | やや不良 | SD01上層 |
| 13 | — | 4 | 304 | 小型甕 | 10.4 | 12.0 | 5.0 | 11.2 | 口縁部一部欠損品。外面タテハケ。内面カキトリ後ナデ。口縁は丸く外反。 | 明褐白色 | 良 | 良 | SD01上層 |
| 13 | 9 | 5 | 277 | 甕 | 20.6 | 19.0 | 8.0 | 19.3 | 口縁部一部欠損品。内面丁寧なナデ。外面は丁寧なタテハケ。胴部上半はやや内傾。 | 褐白色 | 良(軟) | 良 | SD01上層 |
| 13 | 9 | 6 | 251 | 甕 | 21.0 | 21.8 | 8.5 | 23.2 | 口縁部一部欠損品。内面はヨコナデ内底部はカキトリ。外面は丁寧なタテハケ。 | 明灰褐色 | 良 | 良 | SD01上層 |
| 13 | — | 7 | 205 | 甕 | 18.4 | — | — | 16.2 | 胴部から口縁部片。内面はハケ後ナデ。外面はハケ目。口縁部は内外面ともナデ。 | 明褐色 | やや良 | 不良脆い | SD01上層 |
| 13 | — | 8 | 212 | 甕 | (15.4) | — | — | 17.8 | 胴～口縁片。内面はヨコハケ目調整後ナデ。外面はハケ目後軽くナデ仕上げ。 | 淡灰褐白色 | やや良 | 不良 | SD01上層 |
| 13 | 9 | 9 | 207 | 甕 | 16.3 | 19.3 | 7.3 | 17.8 | ほぼ完形品。内面はヨコナデ。炭化物付着外面はタテハケ目調整。口縁部は「く」字形に外反。底部は不安定な平底。 | 暗灰褐色 | やや粗い | やや不良 | SD01上層 |
| 13 | — | 10 | 305 | 大型甕 | 51.0 | — | — | — | 胴～口縁片。外面タテハケ。内面ナデ。 | 明褐白色 | 粗い | 良 | SD01上層 |
| 14 | — | 11 | 249 | 甕 | 16.8 | 15.1 | 7.1 | 14.9 | 口縁一部欠損品。内面：ハケ目調整後ナデ。外面：タテ方向のハケ目後上半部ナデ消し。 | 淡褐白色 | 粗い | 不良 | SD01上層 |
| 14 | — | 12 | 311 | 甕 | 13.6 | 15.6 | 6.6 | 13.3 | ほぼ完形品。外面はタテハケ。内面～口縁はナデ。底部は平担。 | 明褐白色 | やや良 | 良(軟) | SD01上層 |
| 14 | — | 13 | 270 | 甕 | 24.8 | 32.0 | 9.0 | 27.0 | 口縁2/3欠損品。内面はナデ。下部には指圧痕。外面は丁寧なタテハケ。 | 褐～暗褐色 | 粗い | 不良 | SD01(中～上層) |
| 14 | 9 | 14 | 247 | 甕 | 13.9 | 15.0 | 5.1 | 14.7 | ほぼ完形品。内面は丁寧なナデ仕上げ外面：ハケ目調整後丁寧なナデ。平底であるがわずかに丸みあり。 | 淡褐白色 | やや良 | 良 | SD01上層 |
| 14 | — | 15 | 248 | 甕 | 15.3 | 14.8 | 7.7 | 16.7 | 口縁部4/5欠損品。内外面ナデ仕上げ。口縁端部はわずかに外反する。 | 明褐白色 | やや粗い | 良 | SD01(中～上層) |
| 14 | — | 16 | 301 | 甕 | 13.0 | 16.3 | 7.0 | 16.2 | 完形品。内面はカキトリ後ナデ。底部には板小口痕を残す。外面はタテハケ。 | 暗褐色 | 粗い | 良 | SD01(中～上層) |
| 14 | — | 17 | 276 | 甕 | 18.7 | 22.9 | 6.9 | 20.0 | 口縁部1/2欠損品。胴部内外面ハケ目。口縁は「く」字形に外反。底部はわずかに丸みがある。 | 灰褐色 | 粗い | 良 | SD01上層 |

：法量の口径は外径、器台は台上部径、（　）は復元値

| Fig. | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 器種 | 法量（cm） 口径 | 器高 | 底径 | 胴部径 | 形態的特徴 成形上の手法 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 14 | — | 18 | 232 | 甕 | (6.8) | 18.2 | 5.9 | 16.0 | 口縁部欠損品。内面：カキトリ後軽くナデケシ。外面はタテハケ。 | 明灰～明褐 | やや粗い | 良 | SD01上層 |
| 14 | 9 | 19 | 250 | 甕 | 19.2 | 19.8 | 5.2 | 18.1 | 完形品。内外面とも丁寧なハケ目調整。底部はわずかに丸みあり。 | 淡灰褐白色 | 良 | やや良 | SD01上層 |
| 15 | 10 | 20 | 217 | 甕 | 21.1 | 15.3 | 7.0 | 18.0 | 1/2欠損品。内外面ともハケ目、口縁部はヨコナデ。底部はわずかに丸みあり。 | 黒灰褐色 | 粗い | 不良 | SD01上層 |
| 15 | 9 | 21 | 265 | 甕 | 16.1 | 5.8 | 15.1 | 15.1 | 口縁部一部欠損品。内面はハケ目調整後ナデ、外面はハケ目。底部はわずかに丸みあり。ハケ目調整。 | 暗褐色 | 細かい | やや不良 | SD01上層 |
| 15 | — | 22 | 204 | 壺 | — | 18.8 | 6.7 | 11.9 | 口縁部欠損品。内面はカキトリ後ナデ仕上げ。外面はタテハケ。 | 暗灰褐色 | やや粗い | やや不良 | SD01上層 |
| 15 | 9 | 23 | 246 | 甕 | 13.9 | 15.3 | 6.3 | 15.2 | ほぼ完形品。内面はカキトリ後軽くナデケシ。底部はわずかに丸底。 | 灰褐白色 | やや粗い | やや良 | SD01上層 |
| 15 | 9 | 24 | 312 | 甕 | 15.8 | 16.3 | 7.2 | 16.6 | ほぼ完形品。外面はハケ目調整後軽くナデケシ。底部は丸みあり。 | 灰～灰白色 | やや粗い | 不良 | SD01上層 |
| 15 | 9 | 25 | 266 | 短頸壺 | 11.7 | 22.2 | 6.8 | 15.8 | 完形品。内面は指ナデツケ調整。外面はハケ目調整。胴部下半はカキトリ。底部外面には木葉痕が残る。 | 明褐白色 | 細かい | 良 | SD01上層 |
| 15 | — | 26 | 269 | 短頸壺 | 11.3 | 11.2 | 6.0 | 8.3 | 口縁部欠損品。内面はハケ目調整後ナデ。外面は赤色顔料塗布後ヘラミガキ。 | 部分的に赤色顔料が残る明灰褐白色 | 細かい | やや良 | SD01上層 |
| 15 | — | 27 | 208 | 壺 | 14.6 | 14.2 | 5.1 | 16.2 | 口縁部1/4欠損品。内面はナデ。内面からの穿孔が胴部下半にある。外面はタテハケ目後赤色顔料塗布。 | 淡灰褐白色 | 良 | 不良 | SD01上層 |
| 15 | — | 28 | 216 | 壺 | (12.5) | 16.3 | 6.8 | 15.5 | 口縁部1/2欠損品。内面ヨコナデ、外面ハケ目上げ底。最大径は胴部下半にある。 | 褐～暗褐色 | 粗い | 不良 | SD01上層 |
| 15 | 9 | 29 | 260 | 壺 | 17.0 | 16.7 | 8.2 | 19.2 | 口縁一部欠損品。内面、底部はナデ。外面はタテハケ後ナデ。口縁部に孔あり。 | 明黄褐色 | やや良 | 不良 | SD01上層 |
| 15 | 9 | 30 | 206 | 鉢 | 12.7 | 15.4 | 6.3 | — | 口縁部1/2欠損品。内面は丁寧なナデ。外面はタテハケ後赤色顔料塗布。 | 淡褐白色 | 良 | やや不良 | SD01上層 |
| 16 | — | 31 | 296 | 壺 | 13.6 | — | — | — | 口縁～頸部片。頸部に暗文を施す。頸部に「M」字突帯、赤色顔料塗布後ヘラミガキ。 | 黄灰褐色 | 良 | 良 | SD01上層 |
| 16 | — | 32 | 253 | 壺 | (21.2) | — | — | — | 口縁～頸部片。内外面とも丁寧なナデ。頸部に「M」字突帯を有す。外面ヘラミガキ。 | 黄灰褐白色 | 細かい | やや良 | SD01上層 |
| 16 | — | 33 | 272 | 壺 | (25.0) | — | — | — | 頸～口縁部片。口縁内面は指ナデツケ、内面はハケ後ナデ。外面はタテハケ。 | 明灰白色 | 粗い | 不良 | SD01上層 |
| 16 | — | 34 | 299 | 壺 | 25.4 | — | — | — | 口縁～頸部片。外面はタテハケ後軽いナデケシ。 | 明褐白色 | 粗い | 良 | SD01上層 |
| 16 | 9 | 35 | 273 | 壺 | 17.6 | 33.9 | 4.5 | 27.6 | 口縁部1/2欠損品。内面は指圧痕、ナデ。口縁部は肥厚し丸くおさめる。外面はタテハケ。頸～肩部は軽くナデケシ。 | 明褐白色 | 粗い | 不良 | SD01上層 |
| 16 | 9 | 36 | 267 | 壺 | 11.2 | 22.3 | 5.9 | 17.1 | 完形品。頸部内面～口縁部外面・頸部突帯はヨコナデ、外面はハケ目。底部外面にモミ痕有。全面赤色顔料塗布。 | 赤褐色 | 細かい | やや良 | SD01上層 |
| 16 | — | 37 | 252 | 壺 | (25.8) | — | — | 30.8 | 口縁～胴部片。口縁内外面はヨコナデ。頸部、体部に二条の三角突帯貼付。外面突帯周辺はナデ、他はハケ目調整。 | 明灰黄褐色 | 粗い | 不良 | SD01上層 |
| 17 | — | 38 | 237 | 器台 | 8.4 | 12.1 | 11.9 | — | 完形品。外面ナデ、上台部一部張出し。 | 褐～暗褐色 | 粗い | やや不良 | SD01上層 |
| 17 | — | 39 | 218 | 器台 | 5.3 | 9.9 | 12.0 | — | 完形品。内面はナデ仕上げ。上台部有孔。外面はハケ目調整後ナデ。 | 淡赤褐白色 | 粗い | 不良 | SD01上層 |
| 17 | 10 | 40 | 238 | 器台 | 7.4 | 15.7 | 7.9 | — | 完形品。内面にシボリ痕、底部に指圧痕。 | 淡赤褐白色 | 粗い | 不良 | SD01上層 |
| 17 | — | 41 | 235 | 器台 | 7.9 | 13.0 | 8.8 | — | 完形品。内面に指圧痕・シボリ痕。外面ナデ。底部端部は粘土紐貼付後ナデツケ。 | 赤褐色 | 粗い | やや不良 | SD01上層 |
| 17 | 10 | 42 | 263 | 器台 | 9.5 | 16.2 | 10.7 | — | 完形品。外面はナデ。指圧痕が全面残る。 | 明赤褐白色 | 粗い | やや不良 | SD01上層 |
| 17 | 10 | 43 | 258 | 器台 | 14.8 | 15.1 | 17.8 | — | 完形品。上台部端部に刻目施文。 | 明褐白色 | やや粗い | やや良好 | SD01上層 |
| 17 | 10 | 44 | 257 | 器台 | 13.9 | 24.2 | 20.0 | — | 内面はカキトリ。外面はハケ目。調節後ナデ。口縁～胴部片。 | 黄褐色 | 粗い | やや不良 | SD01上層 |
| 17 | — | 45 | 292 | 高杯 | 33.0 | — | — | — | 杯部片。口縁部下に三角突帯貼付。赤色顔料内外面塗布後ヘラミガキ。 | 赤褐色 | 良好 | やや良 | SD01上層 |
| 17 | — | 46 | 291 | 高杯 | 28.0 | — | — | — | 杯部片。赤色顔料内外面塗布後ヘラミガキ。 | 赤褐色 | 良 | 良 | SD01上層 |
| 17 | 9 | 47 | 313 | 高杯 | 24.7 | 19.0 | 14.2 | — | 口縁～脚部一部欠損品。赤色顔料塗布後脚部、杯内面のみヘラミガキ。 | 赤褐色 | 粗い | 良好 | SD01上層 |

：法量の口径は外径、器台は台上部径、（　）は復元値

| Fig. | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 器種 | 法量（cm） | | | | 形態的特徴 | | | | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | 胴部径 | 成形上の手法 | 色調 | 胎土 | 焼成 | |
| 17 | － | 48 | 290 | 蓋 | － | － | － | － | 口縁部欠損品。外面天井部はナデ。 | 明黄褐白色 | 細かい | 良好 | SD01中層 |
| 17 | － | 49 | 294 | 蓋 | (15.0) | 3.0 | － | － | 天井部欠損品。赤色顔料塗布後ヘラミガキ。 | 赤褐色 | やや良 | 良 | SD01中層 |
| 18 | 9 | 50 | 261 | 器台 | 14.2 | 20.3 | 17.0 | － | 完形品。上台部は袋状。内面にシボリ痕。口縁部内外面はハケ後ナデ。 | 明褐白色 | やや粗い | やや良 | SD01上層 |
| 18 | 10 | 51 | 242 | 器台 | 11.7 | 17.2 | 14.0 | － | ほぼ完形品。内面にはヨコナデ、シボリ痕。外面はタテハケ後軽くナデケシ。赤色顔料塗布。 | 明褐白色 | やや粗い | やや良 | SD01上層 |
| 18 | － | 52 | 245 | 器台 | 11.2 | 18.3 | 12.6 | － | 底部一部欠損品。内面は上部に指圧痕。外面は丁寧なタテハケ。 | 淡灰褐白色 | 粗い | 良 | SD01上層 |
| 18 | 10 | 53 | 264 | 器台 | 12.6 | 18.1 | 15.6 | － | 口縁一部欠損品。口縁部内面はカキトリ。体部内面にはシボリ痕。外面はタテハケ目。 | 灰褐色 | 粗い | やや不良 | SD01上層 |
| 18 | 10 | 54 | 239 | 器台 | 11.0 | 17.3 | 12.7 | － | 完形品。内面にシボリ痕、上部ヨコハケ目調整。外面はタテハケ。上台端部はつまみ出し。 | 褐色 | 粗い | 不良 | SD01上層 |
| 18 | － | 55 | 244 | 器台 | 12.1 | 17.2 | 13.2 | － | 底部一部欠損。内外面ともハケ目調整。 | 明褐色 | やや粗い | やや良 | SD01上層 |
| 18 | － | 56 | 243 | 器台 | 9.5 | 14.8 | 13.0 | － | 完形品。内面は指ナデツケ、外面はハケ目。 | 赤褐色 | 粗い | 不良 | SD01上層 |
| 18 | － | 57 | 236 | 器台 | 9.4 | 13.6 | 9.9 | － | 完形品。上台部ナデ、外面ハケ目調整。 | 淡黄白～淡赤褐色 | 粗い | やや不良 | SD01上層 |
| 18 | 10 | 58 | 241 | 器台 | 8.7 | 16.1 | 12.9 | － | 完形品。内面に指圧痕、外面ナデツケ後ナデ。裾部はわずかに外湾する。 | 灰褐～褐色 | 粗い | やや良 | SD01上層 |
| 18 | － | 59 | 262 | 器台 | 11.2 | 12.6 | 12.3 | － | 完形品。上台部外面はヨコナデ。他は丁寧なハケ目調整。 | 褐～暗褐色 | 粗い | やや良 | SD01上層 |
| 18 | － | 60 | 240 | 器台 | 9.6 | 12.3 | 11.4 | － | 底部一部欠損品。内面ヨコナデ、シボリ痕。外面はタテハケ後ナデ仕上げ。 | 褐色 | 粗い | やや不良 | SD01中層 |
| 18 | 10 | 61 | 219 | 器台 | 8.9 | 9.8 | 10.4 | － | ほぼ完形品。底部内面端部に弱い段。外面はタテハケ後軽くナデ仕上げ。 | 赤褐色 | 粗い | 良 | SD01上層 |
| 18 | 10 | 62 | 220 | 器台 | 8.8 | 10.4 | 9.9 | － | ほぼ完形品。内面はユビナデ、シボリ。外面はハケ目後ナデ。上台部は平坦。 | 淡褐白色 | やや粗い | 良 | SD01上層 |
| 19 | － | 63 | 287 | 壺 | 13.4 | － | － | － | 底部一部欠損品。上台部は強く外反。赤色顔料塗布後ヘラミガキ。 | 赤褐色 | やや良 | 良 | SD01上層 |
| 19 | 9 | 64 | 274 | 甕 | 12.2 | 14.9 | 6.2 | 17.8 | 口縁部一部欠損品。内面下半にハケ。外面はナデ仕上げ。底部はハケ目調整。底部はわずかに丸みのある平底。 | 灰白色 | 粗い | 不良 | SD01上層 |
| 19 | － | 65 | 303 | 壺 | 24.4 | － | － | － | 肩～口縁部片。ハケ目調整後赤色顔料塗布。内面はハケ目後ナデ。口縁端部は丸く肥厚。頸部下端に三角突帯貼付。 | 赤褐色 | やや粗い | 良 | SD01中層 |
| 19 | － | 66 | 300 | 壺 | 27.0 | － | － | 29.4 | 胴～口縁部片。外面は丁寧なタテハケ。肩がやや張る。頸部・胴部に三角突帯。 | 明褐色 | やや粗い | やや良 | SD01中～上層 |
| 19 | － | 67 | 302 | 壺 | (39.5) | 8.0 | 26.2 | 26.2 | 口縁部欠損品。内外面丁寧なタテハケ。 | 明白褐色 | やや粗い | やや不良 | SD01中～上層 |
| 19 | － | 68 | 278 | 壺 | 27.6 | － | － | － | 肩～口縁部片。全面ナデ。外面赤色顔料塗布。（ハケ塗り） | 外：赤～朱色 | 良好 | 良 | SD01中～上層 |
| 20 | 10 | 69 | 298 | 鉢 | 8.2 | 6.5 | 3.3 | － | 完形品。外面指ナデ。（ミニチュア） | 灰白～淡褐色 | 粗い | やや不良 | SD01上面 |
| 20 | － | 70 | 210 | 鉢 | 7.5 | 7.5 | 4.0 | 7.3 | 口縁部一部欠損品。内外面ナデ仕上げ。内面に指圧痕有。（ミニチュア） | 淡灰白色 | 良 | 不良 | SD01上層 |
| 20 | － | 71 | 201 | 鉢 | 8.1 | 6.5 | 4.0 | 7.8 | 口縁部一部欠損品。内外面に指圧痕、ナデ。口唇部を丸く引き出す。（ミニチュア） | 明白褐色 | 良 | 良 | SD01上層 |
| 20 | 10 | 72 | 314 | 鉢 | 7.0 | 7.0 | 4.4 | 7.4 | 完形品。内面～口縁部ナデ。外面タテハケ。 | 褐白色 | 良 | 不良 | SD01上層 |
| 20 | － | 73 | 224 | 鉢 | 7.6 | 5.5 | － | － | 1/3欠損品。内外面ともにナデ。（ミニチュア） | 明褐白色 | やや粗い | やや不良 | SD01上層 |
| 20 | － | 74 | 222 | 鉢 | 6.7 | 5.7 | 4.5 | － | 口縁部1/2欠損品。内面～胴部中位はナデ。外面はハケ目調整後ヨコナデ。口縁端はわずかに外反。突帯有。（ミニチュア） | 明褐色 | 良 | 良 | SD01上層 |
| 20 | － | 75 | 203 | 鉢 | 8.6 | 5.4 | 4.0 | － | ほぼ完形品。内面は指圧痕、ナデ仕上げ。外面は底部から上部へハケ目。 | 明淡白褐色 | やや粗い | やや不良 | SD01上層 |
| 20 | － | 76 | 202 | 鉢 | 9.0 | 6.4 | 5.0 | － | 口縁部欠損品。内面は不定方向のナデ。外面は底部から上方へハケ目。 | 明褐色 | 良 | 不良 | SD01上層 |
| 20 | － | 77 | 221 | 鉢 | 9.0 | 7.7 | 4.5 | － | 口縁部1/2欠損品。内外面ともナデ。底部内外面には指圧痕。（ミニチュア） | 褐白色 | やや粗い | やや良 | SD01上層 |

：法量の口径は外径、器台は台上部径、（　）は復元値

| Fig. | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 器種 | 法量(cm) 口径 | 器高 | 底径 | 胴部径 | 形態的特徴 成形上の手法 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 | — | 78 | 293 | 鉢 | 14.0 | 5.4 | — | — | 底部欠損品。赤色顔料塗布後ヘラミガキ。 | 明褐白色 | やや粗い | 不良 | SD01上層 |
| 20 | 10 | 79 | 297 | 鉢 | 8.8 | 8.7 | 5.8 | — | 完形品。内外面丁寧なナデ仕上げ。 | 淡白褐色 | 粗い | やや不良 | SD01中層 |
| 20 | 10 | 80 | 229 | 鉢 | 13.2 | 9.2 | 6.0 | — | ほぼ完形品。作りは厚手。内面はヨコナデ。外面はハケ目後ナデ仕上げ。 | 褐～黒灰色 | 粗い | 不良 | SD01上層 |
| 20 | — | 81 | 230 | 鉢 | 14.3 | 9.3 | 6.0 | — | 口縁部1/2欠損品。外面はタテハケ。内面～口縁はナデケシ。底部はわずかに丸みあり。 | 淡褐白色 | やや粗い | やや不良 | SD01上層 |
| 20 | 10 | 82 | 228 | 鉢 | 9.1 | 10.4 | 6.2 | 11.6 | 完形品。内面は指圧痕有。外面はハケ目後ナデ仕上。 | 黒灰～淡褐白色 | 良 | 良 | SD01上層 |
| 20 | — | 83 | 226 | 鉢 | 12.4 | 12.0 | 6.0 | 14.0 | ほぼ完形品。剥落のため調整痕不明。 | 茶褐色 | 粗い | 不良 | SD01上層 |
| 20 | 10 | 84 | 231 | 鉢 | 12.6 | 12.0 | 6.6 | 12.6 | 1/3欠損品。全面ハケ目後ナデケシ。外面はハケ目後ナデ仕上。 | 淡灰褐白色 | 粗い | 不良 | SD01上層 |
| 20 | — | 85 | 209 | 鉢 | 14.0 | 12.6 | 6.5 | — | 口縁部一部欠損品。内面はナデ仕上げ。外面はタテハケ後ナデケシ。口縁端部は外反。 | 明褐色 | 良 | 良 | SD01上層 |
| 20 | — | 86 | 227 | 鉢 | 14.1 | 10.8 | 6.9 | 15.0 | ほぼ完形品。内面：ナデ、底部に指圧痕有。外面：ハケ目調整。底部は丸みあり。赤色顔料塗布の可能性ある。 | 褐白色 | やや粗い | 不良 | SD01上層 |
| 20 | — | 87 | 215 | 壺 | 13.0 | — | — | — | 頸～口縁部片。内面～口縁はヨコナデ。頸部下端に三角突帯を貼付。(ミニチュア) | 明褐色 | やや粗い | やや不良 | SD01上層 |
| 20 | — | 88 | 225 | 壺 | — | — | 4.5 | 9.8 | 頸～口縁部片。内面はヨコナデ、外面はハケ目調整。(ミニチュア) | 明淡褐白色 | 良 | 良 | SD01上層 |
| 20 | — | 89 | 233 | 壺 | — | — | 6.1 | 12.6 | 頸～口縁部欠損品。内面ナデ。指頭痕残る。外面はタテハケ。中位ナデケシ。 | 灰褐色 | 細かい | やや良 | SD01上層 |
| 20 | — | 90 | 268 | 鉢 | 7.6 | 5.8 | 5.2 | — | 5/6欠損品。全面に指圧痕。(ミニチュア) | 明褐白色 | やや粗い | やや不良 | SD01中層 |
| 20 | — | 91 | 306 | 壺 | 13.1 | 14.1 | 8.2 | 15.6 | 1/2欠損品。内外面ナデ。胴部下半ヘラナデ。 | 淡褐色 | 細かい | 良好 | SD01中層 |
| 21 | — | 92 | 288 | 甕 | 35.0 | — | — | — | 口縁～胴部片。口縁端に刻み、赤色顔料。 | 明赤褐色 | 良 | やや良 | SD01中層 |
| 21 | — | 93 | 282 | 甕 | 31.8 | — | — | — | 口縁～胴部片。外面は丁寧なタテハケ。口縁部はやや肥厚し外反。 | 明褐色 | 良 | 良 | SD01中層 |
| 21 | — | 94 | 279 | 甕 | 26.0 | — | — | — | 口縁～肩部破片。ハケ目調整後ナデ。 | 暗褐色 | やや粗い | 不良 | SD01中層 |
| 21 | — | 95 | 234 | 甕 | 15.3 | 18.6 | 7.0 | 15.4 | 口縁部1/4欠損品。内外面ともハケ目。底部は外面はヨコナデ、丸みあり。 | 明灰褐白色 | やや粗い | やや不良 | SD01中層 |
| 21 | — | 96 | 283 | 甕 | 18.6 | — | — | 17.4 | 口縁～胴部片。外面に炭化物付着。 | 灰褐色 | 粗い | やや不良 | SD01中層 |
| 21 | — | 97 | 284 | 甕 | 18.0 | — | — | — | 口縁～胴部片。内面カキトリ、外面タテハケ。 | 灰～灰褐色 | やや粗い | 不良 | SD01中層 |
| 21 | — | 98 | 285 | 甕 | 21.1 | — | — | — | 口縁～胴部片。外面タテハケ後軽くナデケシ。 | 明黄褐白色 | 細かい | 良 | SD01中層 |
| 21 | — | 99 | 286 | 甕 | 20.0 | — | — | — | 口縁～胴部片。内面ハケ、外面タテハケ。 | 暗灰褐色 | 粗い | 不良 | SD01中層 |
| 21 | — | 100 | 289 | 大型甕 | 42.4 | — | — | — | 口縁～胴部片。内外面ともナデ調整。 | 明褐色 | やや粗い | 良好 | SD01中層 |
| 21 | — | 101 | 307 | 甕 | 26.1 | — | — | — | 口縁部片。外面タテハケ。内面ナデ。 | 暗褐色 | やや粗い | やや良 | SD01下層 |
| 21 | — | 102 | 280 | 甕 | 33.6 | — | — | — | 口縁部破片。内面はハケ目後ナデ。 | 褐～暗褐色 | やや良 | やや良 | SD01下層 |
| 21 | — | 103 | 308 | 甕 | 30.1 | — | — | — | 口縁部片。外面タテハケ。内面ナデ。 | 灰白色 | やや良 | 良 | SD01下層 |
| 21 | — | 104 | 281 | 甕 | 31.7 | — | — | — | 口縁部片。内面はハケ後ヨコナデ、外面はタテハケ。 | 褐～暗褐色 | 粗い | やや良 | SD01下層 |
| 21 | — | 105 | 309 | 壺 | 21.6 | — | — | — | 口縁部片。内面はヘラミガキ。外面ハケ。 | 暗褐色 | 良 | 良 | SD01下層 |
| 21 | — | 106 | 275 | 壺 | 21.0 | — | — | — | 胴～口縁部片。口縁部は肥厚し強く外反する。頸部内面はヨコハケ後ナデケシ。胴部外面はタテハケ。肩部はヨコハケ。 | 明褐色 | 良 | やや不良 | SD01下層 |
| 22 | — | 107 | 331 | 鉢 | 4.3 | 3.1 | 1.8 | — | 1/2欠損品。手捏土器。全面指ナデ。 | 暗灰白色 | 不良 | 不良 | SD48 |

：法量の口径は外径、器台は台上部径、（　）は復元値

| Fig. | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 器種 | 法量（cm） | | | | 形態的特徴 | | | | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | 胴部径 | 成形上の手法 | 色調 | 胎土 | 焼成 | |
| 22 | － | 108 | 332 | 鉢 | 5.1 | 3.55 | － | － | 1/2欠損品。手捏土器。 | 灰白色 | 不良 | 不良 | SD48 |
| 22 | － | 109 | 328 | 壺 | 11.4 | － | 10.6 | 15.6 | 肩～口縁部片。肩の張りは弱い。 | 黄褐色 | 不良 | 不良 | SD48 |
| 22 | － | 110 | 223 | 鉢 | 13.0 | 6.6 | 4.7 | － | ほぼ完形品。外底部は上げ底。外面はハケ目後ナデ仕上げ。 | 褐色 | やや粗い | やや不良 | SD48下層 |
| 22 | － | 111 | 329 | 壺 | 27.8 | 12.2 | － | － | 頸～口縁部片。頸部上下縁辺に押圧刻目を施文。内外面ともナデ仕上げ。 | 黄褐色 | やや不良 | やや軟質 | SD48 |
| 22 | － | 112 | 325 | 器台 | 16.5 | － | － | － | 脚部欠損品。脚部叩き痕、上台部縁辺に刻目を施文。 | 淡黄褐色 | やや不良 | 不良 | SD48 |
| 22 | － | 113 | 326 | 器台 | 17.2 | 17.2 | － | － | 脚部欠損品。内外面タテハケ。 | 外：黄褐色 | やや不良 | やや不良 | SD48 |
| 22 | － | 114 | 322 | 器台 | 16.8 | 23.2 | 22.6 | － | 脚部1/2欠損品。内面ヨコハケ、外面タテハケ、上台部内傾し、袋状となる。 | 淡赤褐色 | 極て粗い | やや良好 | SD48下層 |
| 22 | 11 | 115 | 321 | 器台 | 11.5 | 19.0 | 16.0 | － | 完形品。内面ヨコハケ、外面タテハケ、台部は袋状になる。端部は平坦。 | 淡赤褐色 | 極て粗い | やや良好 | SD48 |
| 22 | － | 116 | 330 | 大型甕 | 79.0 | － | － | － | 口縁部片。胴部上縁に格子目沈線突帯。 | 黄褐色 | やや不良 | 良 | SD48 |
| 22 | － | 117 | 323 | 甕 | 64.2 | － | － | － | 胴～口縁部片。胴部上端に格子目沈線突帯を貼付。内外面ハケ。 | 暗黄褐色 | やや不良 | 良 | SD48 |
| 22 | － | 118 | 327 | 器台 | 16.6 | 13.6 | 11.7 | － | 脚部欠損品。台部は袋状に強く内湾。 | 暗茶褐色 | やや不良 | やや不良 | SD48 |
| 22 | － | 119 | 324 | 甕 | 57.6 | － | － | － | 口縁部片。口縁屈曲部に刻目突帯貼付。 | 黄褐色 | やや不良 | 良 | SD48 |
| 23 | 11 | 120 | 320 | 壺 | 3.6 | 5.0 | 1.9 | － | 完形品。手捏土器。全面指ナデ。 | 淡灰白色 | 粗い | やや良好 | SE23 |
| 23 | 11 | 121 | 319 | 甕 | 15.0 | 16.3 | 4.5 | 13.6 | 完形。内面はカキトリ後軽くナデ。外面はタテハケ。底部はわずかに丸み有り。 | 淡～黒褐色 | 粗い | 良好 | SE23 |
| 23 | 11 | 122 | 318 | 壺 | 25.3 | 37.0 | 6.8 | 27.9 | ほぼ完形品。頸部に穿孔。底部は丸みあり。頸部下端の穿孔は意図的なものか。 | 灰白～灰黒色 | 粗い | 不良 | SE23 |
| 23 | － | 123 | 334 | 壺 | 13.8 | － | － | － | 頸～口縁片。端部は上へ引き出される。 | 淡赤褐色 | 良 | 良 | SE111 |
| 23 | 11 | 124 | 335 | 器台 | － | 13.5 | 12.2 | － | 1/2欠損品。台部は嘴状に張り出す。 | 淡褐色 | やや粗い | 良 | SE111 |
| 23 | 11 | 125 | 333 | 甕 | 15.4 | 30.2 | 8.3 | 25.4 | 完形品。口縁端部は上へ摘み出される。底部はわずかに丸み有り。内面はナデ。 | 褐～暗褐色 | 良 | 良好 | SE111 |
| 23 | － | 126 | 336 | 甕 | 16.1 | 20.0 | 6.2 | 17.3 | 口縁部1/2欠損品。口縁部の屈曲は弱い。胴部下半はカキトリ。底部はやや丸みあり。 | 淡～黒褐色 | 粗い | やや良好 | SE112 |
| 23 | － | 127 | 338 | 甕 | (35.2) | － | － | － | 口縁部片。外面；ハケ目、口縁下に突帯。 | 明褐色 | やや粗い | 不良 | SE113 |
| 23 | － | 128 | 340 | 壺 | 10.3 | － | － | － | 頸部片。内外面ハケ目後ナデ調整。 | 明褐白色 | 良 | 良 | SE113 |
| 23 | － | 129 | 337 | 甕 | (46.6) | － | － | － | 口縁部片。外面；ハケ目、口縁下に突帯。 | 明褐色 | 良 | 良 | SE113 |
| 23 | － | 130 | 339 | 甕 | － | － | 7.8 | － | 底部片。 | 明褐白色 | やや粗い | 不良 | SE113 |
| 23 | 11 | 131 | 341 | 器台 | 6.3 | 10.8 | 11.1 | － | 台部は孔を有し張り出す。 | 褐色 | やや粗い | 不良 | SE113 |
| 24 | － | 132 | 316 | 高杯 | － | 13.8 | － | － | 脚部片。脚には、径５mmの穿孔あり。 | 明褐色 | やや良 | やや良 | SX31 |
| 24 | － | 133 | 317 | 器台 | － | － | 16.8 | － | 上台部欠損品。外面タテハケ。 | 淡赤褐色 | やや不良 | 良 | SX31 |
| 24 | － | 134 | 315 | 甕 | 30.9 | － | － | － | 胴～口縁部片。胴部外面はハケ目。 | 淡褐白色 | 粗い | 不良 | SX31 |

## Tab. 5　第40次調査　出土土製品・その他遺物所見一覧

＊（　）内の数字は復元推定値

| Fig. | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 名称 | 法量 長さ(cm) | 法量 幅(cm) | 法量 厚さ(cm) | 法量 重さ(g) | 形態的または製作技術的特徴 | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 24 | — | 135 | 124 | 匙 | 8.8 | 2.1 | 1.6 | — | 匙の柄部分。石英砂粒を多く含む。焼成良好。 | SD01上層 |
| 24 | — | 136 | 108 | 匙 | 9.25 (9.60) | 4.4 | 柄径 1.8cm | | 手捏土器風に一個の粘土塊から成形したものか。焼成良好。石英砂粒を若干含む。 | SD01上層 |
| 24 | — | 137 | 102 | 投弾 | 4.5 | 2.3 | 2.3 | 25.0 | 焼成良好、明褐白色。指ナデ成形。 | SD01上層 |
| 24 | — | 138 | 103 | 投弾 | 4.4 | 2.3 | 2.2 | 26.5 | 石英砂粒を若干含む。焼成良好、明褐白色。指ナデ成形。 | SD01上層 |
| 24 | — | 139 | 104 | 投弾 | 3.8 | 2.3 | 2.4 | 23.4 | 石英砂粒を多く含む。焼成良好、黒灰褐色。指ナデ成形。 | SD01上層 |
| 24 | — | 140 | 133 | 投弾 | 3.9 | 2.2 | 2.1 | 25.0 | ほぼ完形品。石英砂粒を含む。よく焼き締まる。褐色。 | SP35 |
| 24 | — | 141 | 115 | 投弾 | 2.7 | 1.5 | 1.6 | 12.6 | 石英砂粒を若干含む。焼成やや不良、淡赤褐色。指ナデ成形。 | 包含層 |
| 24 | — | 142 | 116 | 紡錘車 | 直径 4.0cm | | 0.5 | 19.7 (23.0) | 石英砂粒を多く含む。焼成やや不良、淡褐色。穿孔は両面から。 | 包含層 |
| 24 | — | 143 | 123 | 青銅製鏃 | 3.5 | 1.1 | 0.4 | — | 表面は風化が進んでいる。青灰色、鏑は不明瞭。 | 包含層 |
| 24 | — | 144 | 132 | 匙 | 8.6 (11.0) | 1.8 (2.1) | 3.2 | — | 匙の柄部分。石英細砂を若干含む。焼成良好。 | SD48 |
| 24 | — | 145 | 109 | 投弾 | 4.8 | 2.5 | 2.4 | 26.4 | 石英細砂粒を多く含む。焼成良好、黒褐色。指ナデ成形。 | SD48 |
| 24 | — | 146 | 110 | 投弾 | 4.6 | 2.9 | 2.9 | 27.5 | 石英細砂粒を若干含む。焼成良好、褐～赤褐色。指ナデ成形。 | SD48 |
| 25 | 10 11 | 147 | 348 | 取瓶 | 復元口径 (24.8cm) | 器高 (>14cm) | 注口部径 (1.7cm) | | 体部～注口部片。水平に対し15度の仰角。内面はかなり焼け赤色。表面は部分的に黒変。内面に非常にきめの細かい真土を塗布。 | SD01上層 |
| 26 | 11 | 148 | 344 | 取瓶 | 器壁厚 3.3cm | | | | 口縁部片。きめ粗く焼き締まっていない。内面は赤色に焼け、残滓が付着。 | SD01上層 |
| 26 | 11 | 149 | 346 | 取瓶 | 注口部径 (1.5～1.8cm) | | | | 注口部片。水平に対して35度の仰角。内面には非常にきめの細かい真土を塗布。 | SD01上層 |
| 26 | 11 | 150 | 345 | 取瓶 | 底部径 (14.0cm) | | | | 底部片。きめ粗く焼成不良平面形は多角形か、円柱状の一部が直線的形状をなす。 | SD01上層 |
| 26 | 11 | 151 | 343 | 取瓶 | 底部高 8.4cm | 底部径 12.2cm | | | 底部破片。きめ細かい砂粒を含む。焼成良。内底部は5mm厚で赤く焼け残滓付着。 | SD01上層 |
| 26 | — | 152 | 347 | 取瓶 | 復元口径 (21.8cm) | 器高 (>15cm) | 注口部径 (1.6cm) | | 体部～注口部片。水平に対33度の仰角。内面はかなり焼け赤色。焼成不良。 | SD01上層 |
| 26 | — | 157 | 117 | ガラス玉 | 直径 0.45cm | 孔径 0.1cm | | | 透明な青色。 | SD01上層 |
| 26 | — | 158 | 118 | ガラス玉 | 直径 0.40cm | 孔径 0.1cm | | | 透明な青色。 | SD01上層 |
| 26 | — | 159 | 119 | ガラス玉 | 直径 0.48cm | 孔径 0.1cm | | | 透明な青緑色。 | SD01上層 |

＊（　）内の数字は復元推定値

| Fig. | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 名　称 | 法　量 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 形態的または製作技術的特徴 | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 26 | － | 160 | 121 | ガラス玉 | 直径 0.43cm　孔径 0.12cm | | | | 透明な青色。 | SD01上層 |
| 26 | － | 161 | 122 | ガラス玉 | 直径 0.51cm　孔径 0.21cm | | | | 透明な青色。 | SD48 |
| 29 | － | 195 | 134 | 作業台 | 42.0 | 22.4 | 10.0 | － | 中央部分は若干窪み、擦痕・打痕等の使用痕有。隅丸方形で四隅は面とり。器の未完成の可能性有。 | SD01 |

## Tab. 6　第40次調査　出土石器・石製品所見一覧

＊（　）内の数字は復元推定値

| Fig. | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 名　称 | 石　材 | 法　量 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 形態的または製作技術的特徴 | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 26 | － | 153 | 096 | 砥石 | 砂岩 | 7.5 | 8.9 | 6.3 | － | 中砥。きめ細かな凝灰岩質の砂岩で、全面砥石として使用。特に上面は滑らかである。 | SD01上層 |
| 26 | － | 154 | 126 | 砥石 | 砂岩 | 10.7 | 13.1 | 4.9 | － | 荒砥。上下面を砥面として使用。きめはかなり粗い。 | SD01上層 |
| 26 | － | 155 | 001 | 石錘 | 滑石 | 13.2 | 11.5 | 8.2 | 1,590 | 中央部に上下面からの穿孔（方形）。側縁に１箇所同様に穿孔（円形）。敲打痕が側縁に残る。 | SD01上層 |
| 26 | － | 156 | 002 | 石錘 | 滑石 | 12.1 | 11.9 | 9.6 | 1,824 | 中央部に上下面からの穿孔（方形）。側縁に１箇所同様に穿孔（円形）。敲打痕が側縁に残る。 | SD01上層 |
| 27 | － | 162 | 004 | 石包丁 | 砂質頁岩 | 12.7 | 5.7 | 0.7 | － | 未成品。成形中のもので、側縁の二次調整を行っている。 | SD01中位 |
| 27 | － | 163 | 009 | 石包丁 | 輝緑凝灰岩 | 12.7 | 3.8 | 0.8 | 孔間(cm) 表 2.3 裏 3.0 | 完形品。全面研磨。素材は立岩産。穿孔を再度行おうとした痕跡あり。かなり刃部は研ぎ込まれている。 | SD01上層 |
| 27 | － | 164 | 011 | 石包丁 | 頁岩 | 8.8 (12.5) | 4.7 | 0.65 | 孔間 2.1cm | 欠損品。全面研磨。両面から穿孔。刃部は両面から丁寧な研磨。 | SD01上層 |
| 27 | － | 165 | 013 | 石包丁 | 頁岩 | 12.2 (13.0) | 4.6 | 0.7 | 孔間 2.2cm | 一部欠損品。全面丁寧な研磨。左右非対称で、図右側の刃部が研ぎ込まれている。 | SD01上層 |
| 27 | － | 166 | 029 | 砥石 | 粘板岩 | 13.4 | 1.2 | 0.8 | － | 仕上げ砥。一部欠損品。先端に金属器の削痕残る。 | SD01上層 |
| 27 | － | 167 | 005 | 石包丁 | 砂質頁岩 | 8.5 | 5.9 | 0.6 | － | 未成品。成形中のもので、側縁の二次調整を行っている。二次調整の初期のものか。 | SD01上層 |
| 27 | － | 168 | 012 | 石包丁 | 頁岩 | 5.3 (13.0) | 4.9 | 0.5 | － | 欠損品。片面は未研磨。両面から穿孔。刃部は両面から研磨、片刃に近い。 | SD01上層 |
| 27 | － | 169 | 006 | 石包丁 | 硬質頁岩 | 4.2 | 5.3 | 0.4 | － | 欠損品。全面丁寧な研磨。刃部は両面から研磨。峯部は丸みあり。 | SD01上層 |
| 27 | － | 170 | 030 | 紡錘車 | 片麻岩 | 直径 5.1cm 孔径 0.8cm | | 1.0 | 28.5 (30.0) | 一部欠損品。全面的に丁寧な研磨。断面台形。孔は両面から穿孔。 | SD01上層 |
| 27 | － | 171 | 031 | 鏃 | 黒曜石 | 2.6 | 1.7 | 0.5 | － | かえり部分が若干欠損。大分県姫島産の半透明灰白色の黒曜石。二次調整は丁寧。 | SD01中層 |

＊（　）内の数字は復元推定値

| Fig, | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 名　称 | 石　材 | 法　量 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 形態的または製作技術的特徴 | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 27 | — | 172 | 003 | 石鎌 | 頁岩 | 17.3 | 6.4 | 0.7 | — | 完形品。基部上縁に抉り。刃部から上縁半分を両面から研磨。基部は研磨していない。 | SD01上層 |
| 28 | — | 173 | 020 | 叩石 | 花崗岩 | 6.9 | 5.9 | 3.4 | 226 | 完形品。角礫を素材とする。使用痕は縁辺の角部に集中してみられる。 | SD01中層 |
| 28 | — | 174 | 022 | 叩石 | 石英岩 | 5.8 | 5.7 | 3.7 | 188 | 完形品。角礫を素材とする。使用痕は縁辺の角部に集中してみられる。両面に凹み。 | SD01中層 |
| 28 | — | 175 | 023 | 石剣 | 泥質頁岩 | 5.3 | 3.9 | 0.95 | — | 身欠損品。刃部に直交して丁寧に研ぎ出している。鎬は顕著でなく、敲打痕が残る。 | SD01中～下層 |
| 28 | — | 176 | 024 | 石剣 | 泥質頁岩 | 8.4 | 4.0 | 1.25 | — | 身欠損品。全体的に丁寧な研磨を施す。鎬を明瞭に研ぎ出す。断面形は菱形。 | SD01上層 |
| 28 | — | 177 | 027 | 砥石 | 粘板岩 | 16.2 | 3.6 | 2.6 | — | 仕上げ砥。欠損品。 | SD01中～下層 |
| 28 | — | 178 | 025 | 砥石 | 粘板岩 | 8.3 | 4.0 | 0.5 | — | 仕上げ砥。欠損品。 | SD01中～下層 |
| 28 | — | 179 | 016 | 叩石 | 安山岩 | 10.1 | 8.5 | 6.4 | 768 | 完形品。表裏面に敲打による凹みあり。側縁には使用痕が部分的に残る。 | SD01中層 |
| 28 | — | 180 | 017 | 叩石 | 砂岩 | 8.1 | 7.0 | 8.0 | 572 | 完形品。表裏面に敲打による凹みあり。全面に使用痕が残り、部分的に集中して使用。 | SD01中層 |
| 28 | — | 181 | 018 | 叩石 | 花崗岩 | 7.7 | 7.4 | 7.2 | 554 | 完形品。全面的に使用痕が残る。側縁が特に敲打痕が顕著ほぼ球形。 | SD01上層 |
| 29 | — | 182 | 063 | 石斧 | 玄武岩 | 15.2 | 7.5 | 5.3 | — | 基部、刃部が欠損。今山産。表面には敲打痕が残る。敲打具として転用されたものか。 | SD48 |
| 29 | — | 183 | 054 | 石包丁 | 輝緑凝灰岩 | 7.5 | 4.1 | 0.5 | 孔間 2.6cm | 欠損品。素材は立岩産。刃部中央はかなり使用され研ぎ減っている。 | SD48 |
| 29 | — | 184 | 065 | 鏃 | 黒曜石 | 1.5 | 1.3 | 0.2 | 2.5 | 完形品。佐賀県腰岳産。二次調整は表裏とも丁寧。 | SD48 |
| 29 | — | 185 | 056 | 石剣 | 頁岩 | 3.4 | 2.5 | 0.8 | — | 切っ先、欠損品。表面はかなり風化。鎬は明瞭。 | SD48 |
| 29 | — | 186 | 057 | 砥石 | 粘板岩 | 8.0 | 1.5 | 1.0 | — | 仕上げ砥。4面とも研ぎ面として使用。刃部等の細部研磨に使われたものか。 | SD48 |
| 29 | — | 187 | 055 | 石剣 | 粘板岩 | 8.1 | 4.3 | 1.4 | — | 身、欠損品。全面に丁寧な研磨刃部はほぼ直交して研ぎ出している。鎬は明瞭。 | SD48 |
| 29 | — | 188 | 064 | 有溝石錘 | 滑石 | 6.1 | 3.1 | 1.4 | 45 | ほぼ完形品。断面V字形の溝が表裏面に十字状に掘られる。溝幅は3～5mm。 | SD48 |
| 29 | — | 189 | 078 | 石剣 | 頁岩 | 5.0 | 3.15 | 0.5 | — | 切っ先、欠損品。鎬は不明瞭で、身は平坦に研がれている。 | 包含層 黒褐色粘質土 |
| 29 | — | 190 | 083 | 紡錘車 | 滑石 | 直径 4.4cm 孔径 0.7cm | | 0.5 | 22.5 | 軟質の灰色滑石を素材とする。全面丁寧な研磨。 | 包含層 黒褐色粘質土 |
| 29 | — | 191 | 082 | 紡錘車 | 滑石 | 直径 5.10cm 孔径 0.75cm | | 1.2 | 30.5 | やや硬質の黒灰色滑石を素材とする。全面丁寧な研磨。側縁には削り痕が一部残る。 | 包含層 黒褐色粘質土 |
| 29 | — | 192 | 074 | 石包丁 | 輝緑凝灰岩 | 9.2 | 3.7 | 0.6 | 孔間 2.3cm | 欠損品。立岩産。刃部は両面からの丁寧な研磨。 | 包含層 黒褐色粘質土 |
| 29 | — | 193 | 073 | 石包丁 | 砂質頁岩 | 10.0 (14.5) | 5.1 | 0.6 | 孔間 2.3cm | 欠損品。表裏には一部敲打痕を残す。刃部は丁寧な研ぎ。刃部表裏には珪酸分が付着し光沢。 | 包含層 黒褐色粘質土 |
| 29 | — | 194 | 076 | 石包丁 | 泥質片岩 | 8.9 | 4.8 | 0.8 | 孔間 2.3cm | ほぼ完形品。左右側縁に抉り。峯部は自然剥離のまま。刃部には珪酸分が付着し光沢有り。 | 包含層 黒褐色粘質土 |

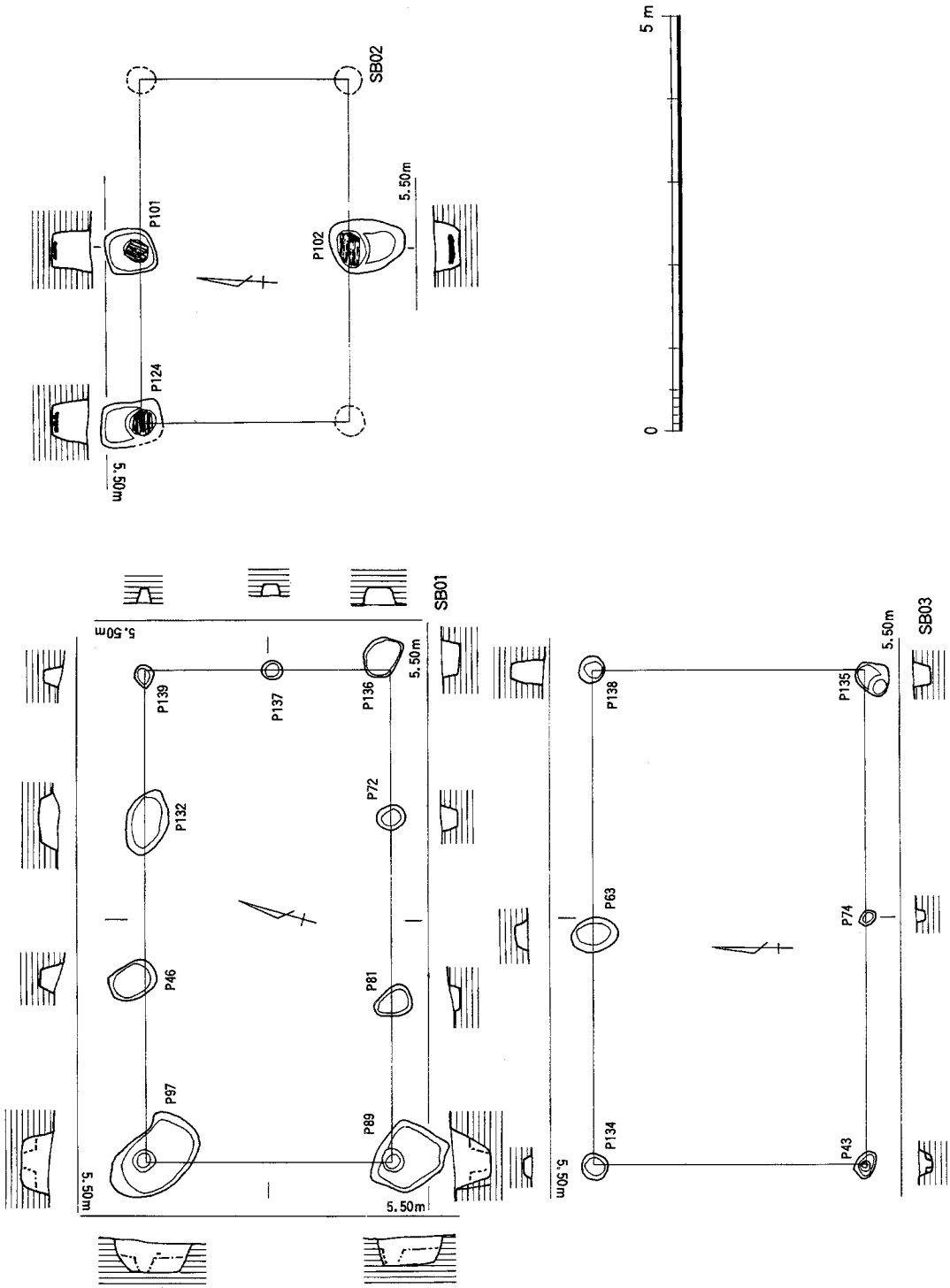
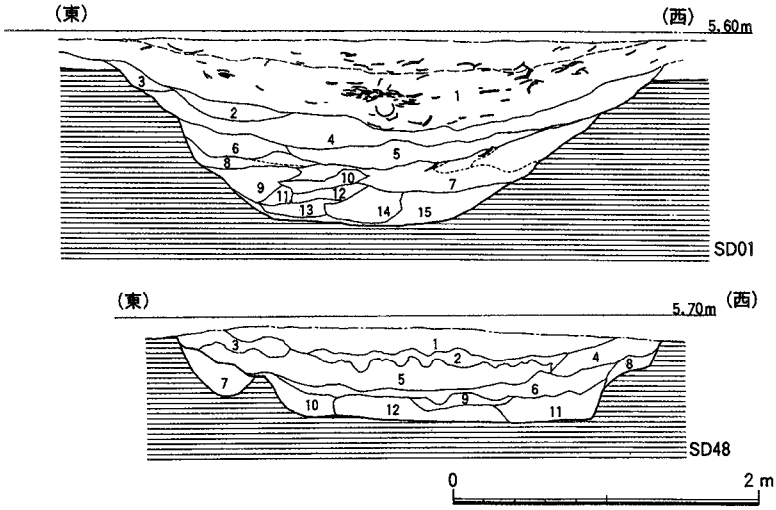


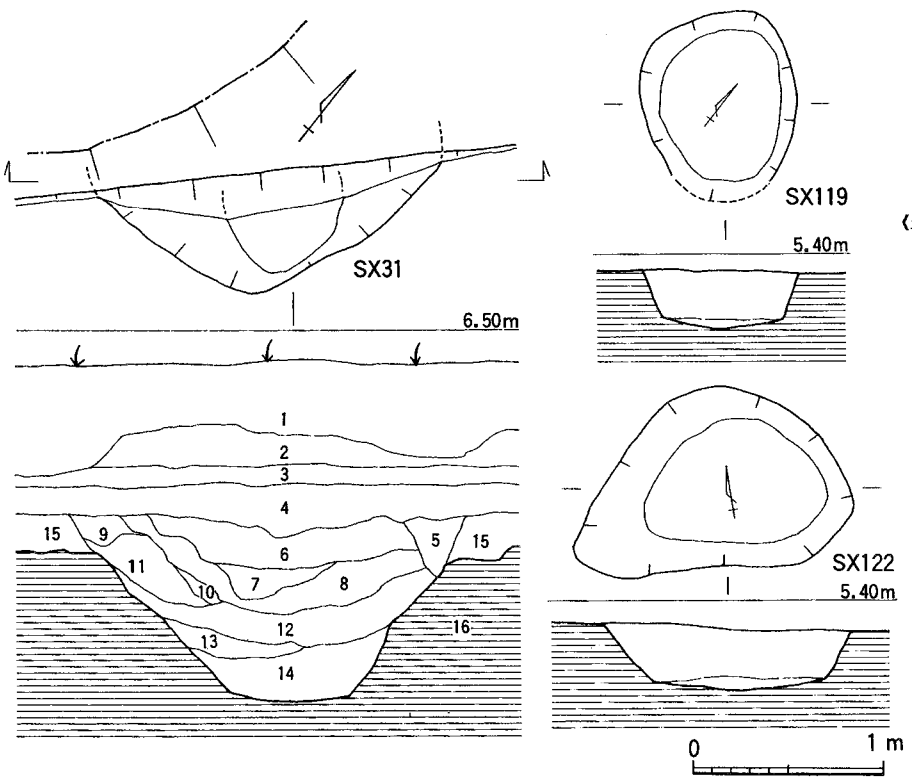

Fig. 9　掘立柱建物SB01～03平面および断面図（１／80）




《溝SD01土層断面所見》
1．上層：黒褐色土層
　下層：上層よりやや黒みが強い黒褐色土層(細砂、やや目が粗)
2．暗灰褐色土層
3．暗褐色土層
4．黒褐色土層、壁際に黄褐色粘土を少量含む
5．黒色土層(軟質土)
6．暗灰色土・黄褐色土の混合土層
7．黒灰色土・砂・黄褐色ロームの混合土層
8．黒色土・暗灰色土・黄褐色ロームの混合土層
9．黄褐～灰白色ローム塊
10．黄褐～灰白色ローム塊
11．黒褐～黒色土層
12．黄褐～灰白色ローム塊
13．黄褐～灰白色ローム塊
14．黒色粘質土層(黄褐色ローム小塊を多く含む)
15．黄褐～灰白色ローム塊

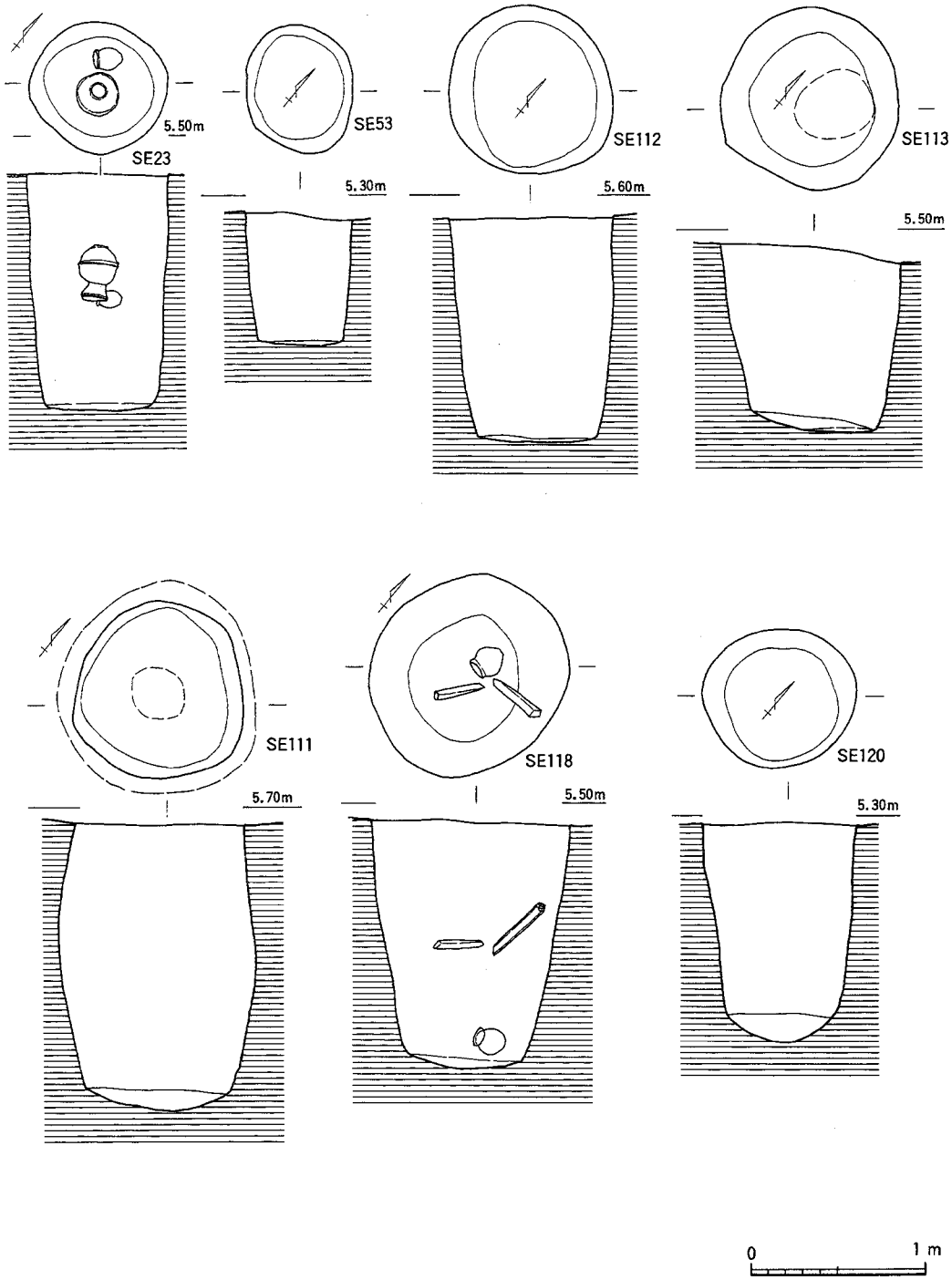
《溝SD48土層断面所見》
1．暗褐色粘質土層(黄褐色ローム小塊を多く含み、固い)
2．黒褐色粘質土層(黄褐色ローム・暗褐色粘土を含み、やや軟)
3．黒褐色粘質土層
4．暗褐色粘質土層(黄褐色ローム塊を含み、固い)
5．暗褐色粘質土層(土器を多く含み、軟)
6．黒褐色粘質土層(部分的に灰褐色、木炭片・土器片を多く含む)
7．黄褐～明褐色ローム層(重油で汚染されているため暗いが、本来は褐白～黄白色ローム層)
8．黄褐～明褐色ローム層
9．明褐白色・暗褐色の混合土層(軟質で水分に富む)
10．灰褐色・黒褐色の混合土層(軟質で、木炭片を含む)
11．褐色ローム・黒褐色土・灰褐色土の混合土層
12．褐白色ロームの二次堆積土層

Fig,10　溝SD01・48土層断面図（1／50）

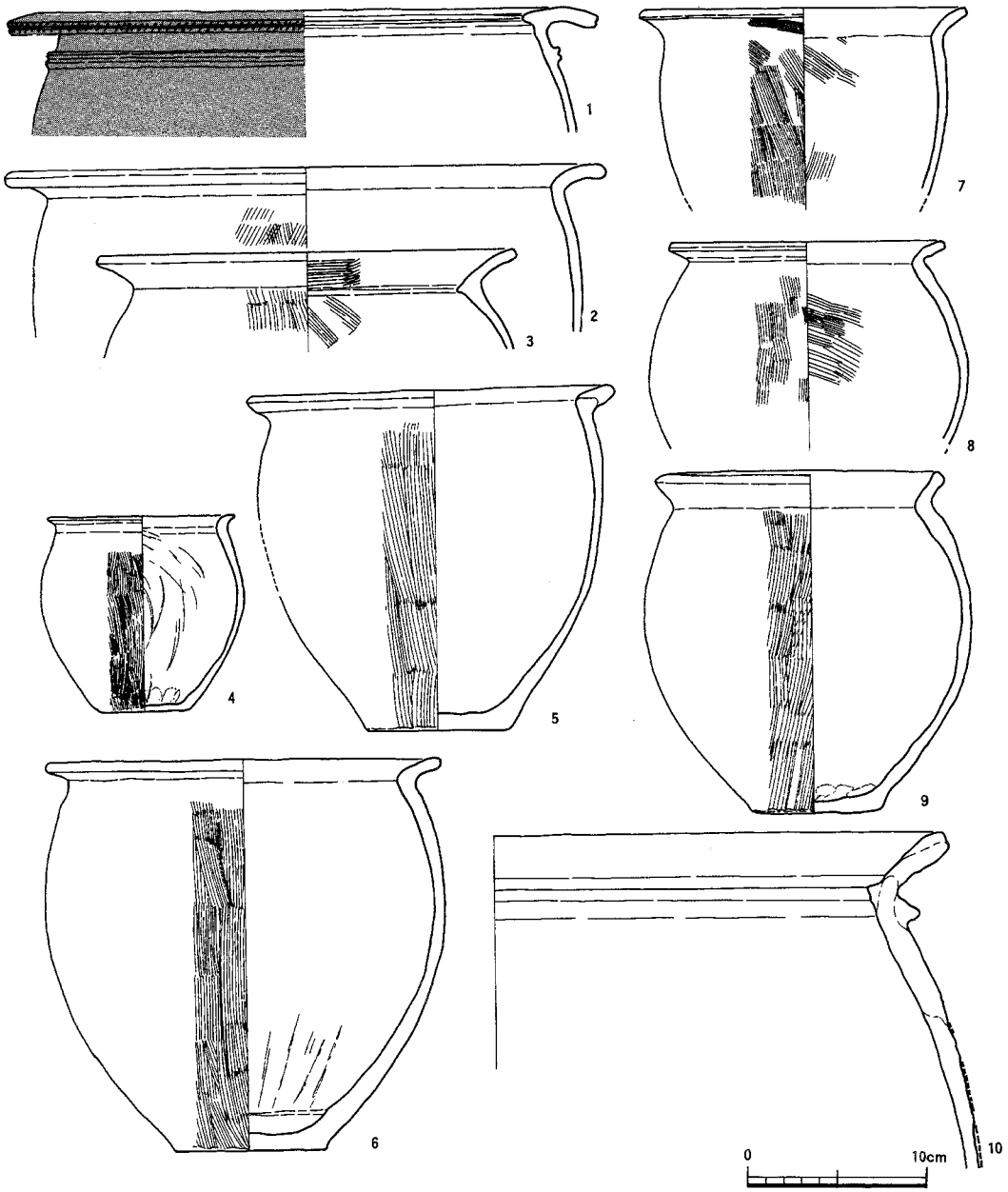



《土壙SX31土層断面所見》
1．表土(盛土)
2．茶褐色粘質土層
3．暗茶褐色粘質土層
4．暗褐～黒褐色土層
5．黒褐色土層
6．暗褐色土・八女ローム(淡黄灰白色粘質土)の混合土層
7．暗褐色土・八女ロームの混合土層
8．八女ロームに暗褐色土が混入
9．暗褐色土層
10．八女ロームブロック
11．黒褐色土・八女ロームの混合土層
12．黒褐色土層
13．八女ローム・黒褐色土の混合土層
14．八女ローム・黒褐色土の混合土層(八女ロームが主体)
15．黒褐色土層(包含層)
16．八女ローム層

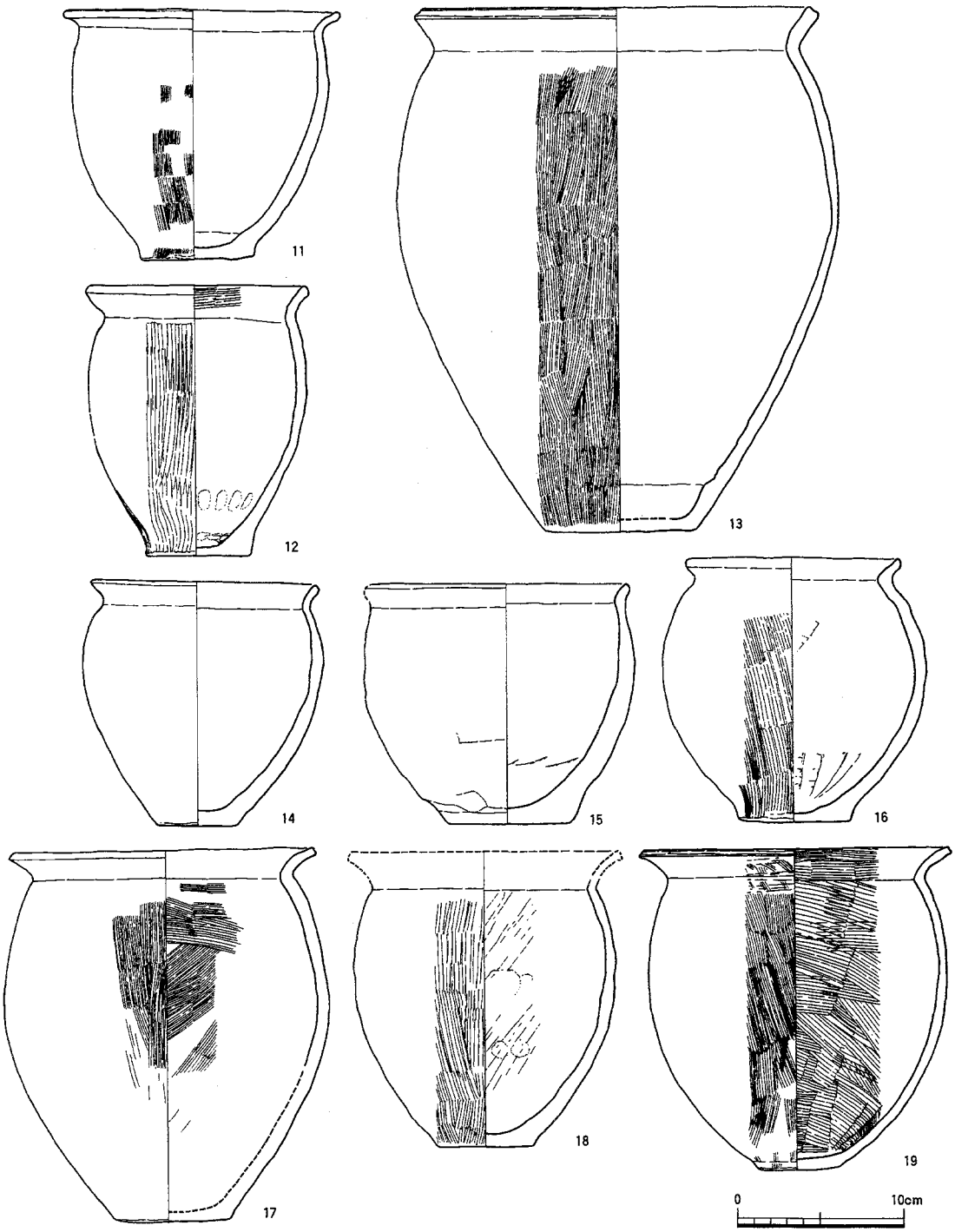
Fig,11　土壙SX31・119・122平面および断面図（1／40）



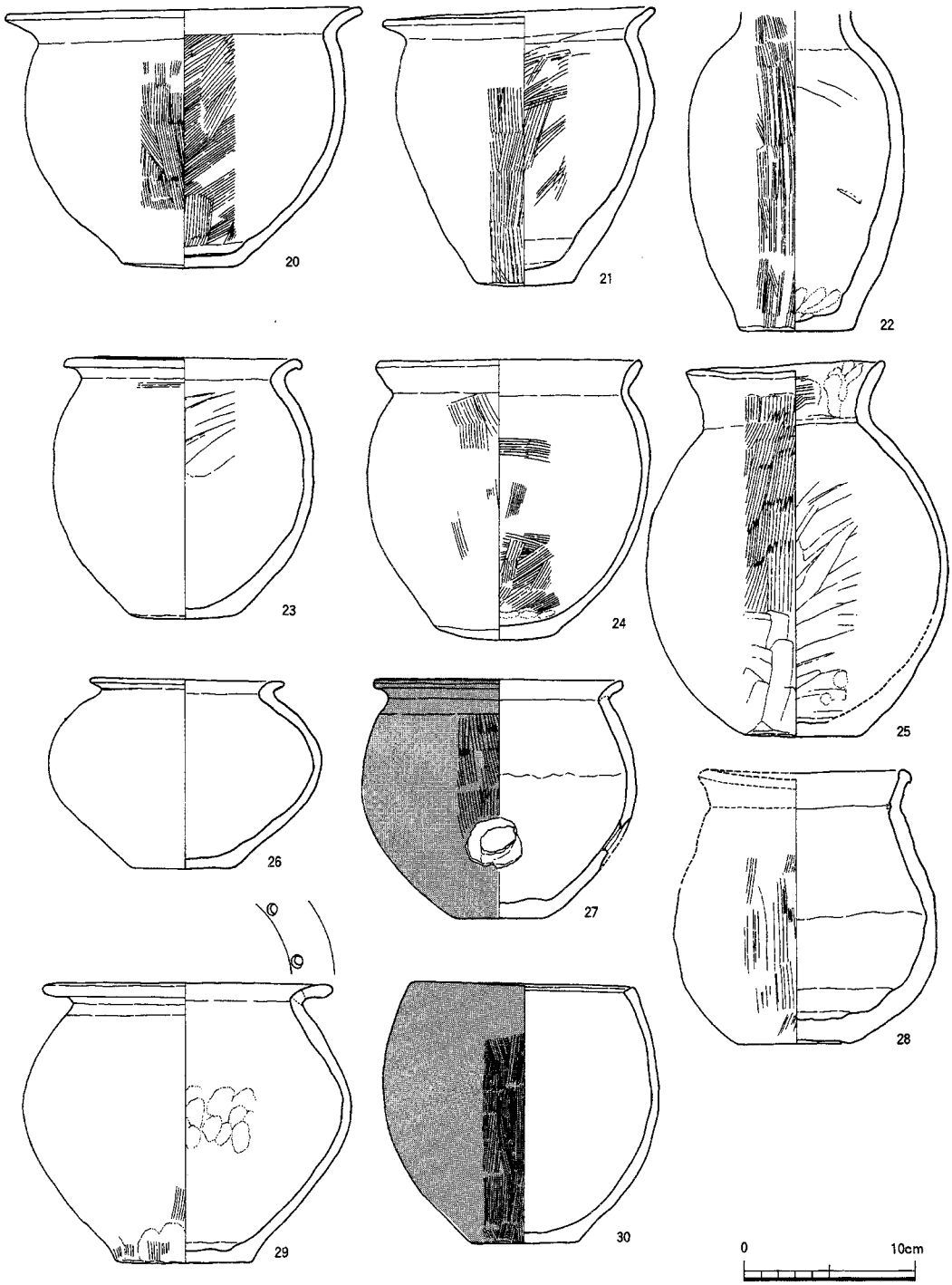

Fig,12　井戸SE23・53・111～113・118・120平面および断面図（１／40）




Fig,13　溝SD01上層出土遺物実測図（1／4）




Fig,14　溝SD01上・中層出土遺物実測図（１／４）




Fig,15　溝SD01上層出土遺物実測図（1／4）

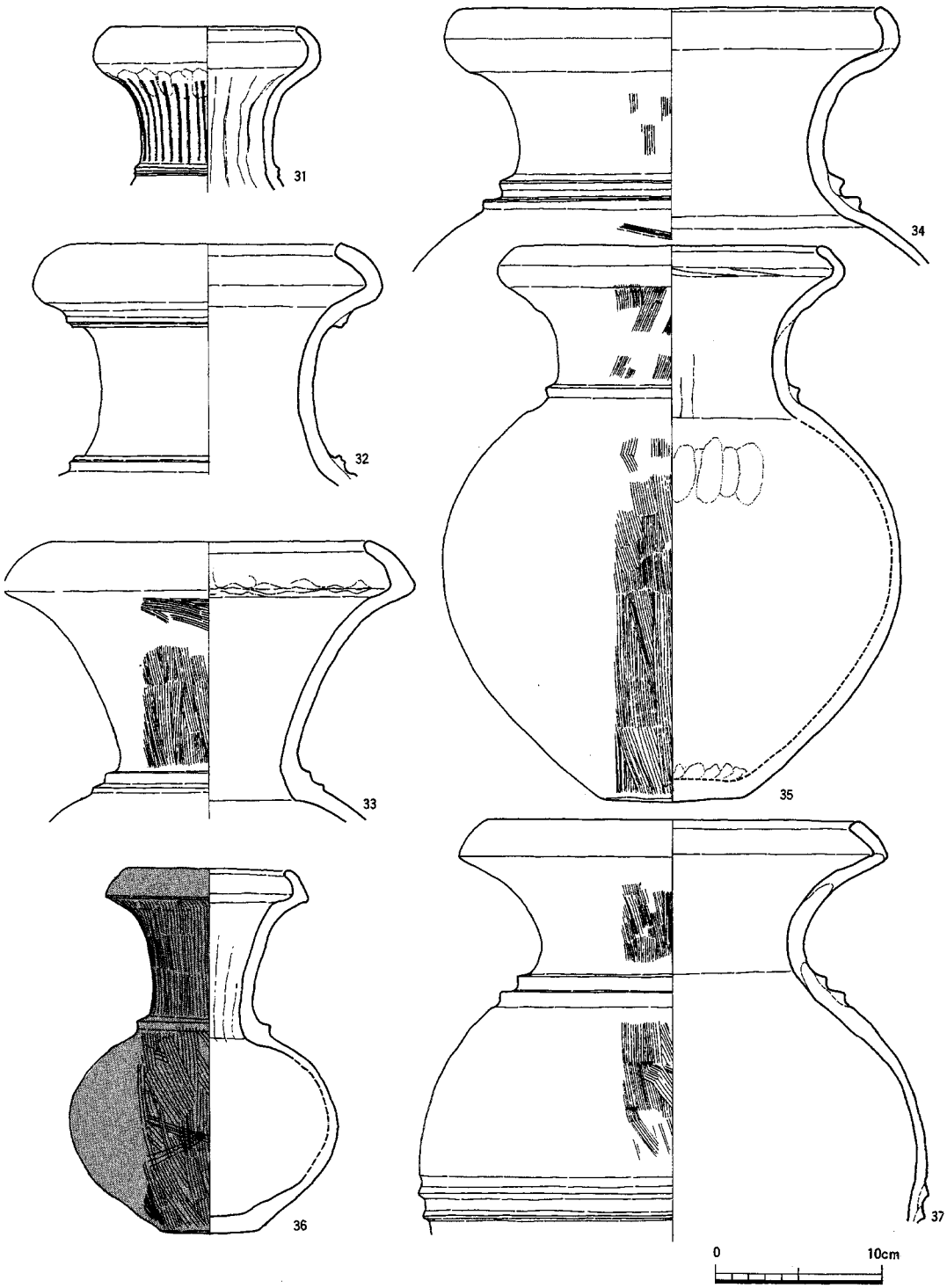
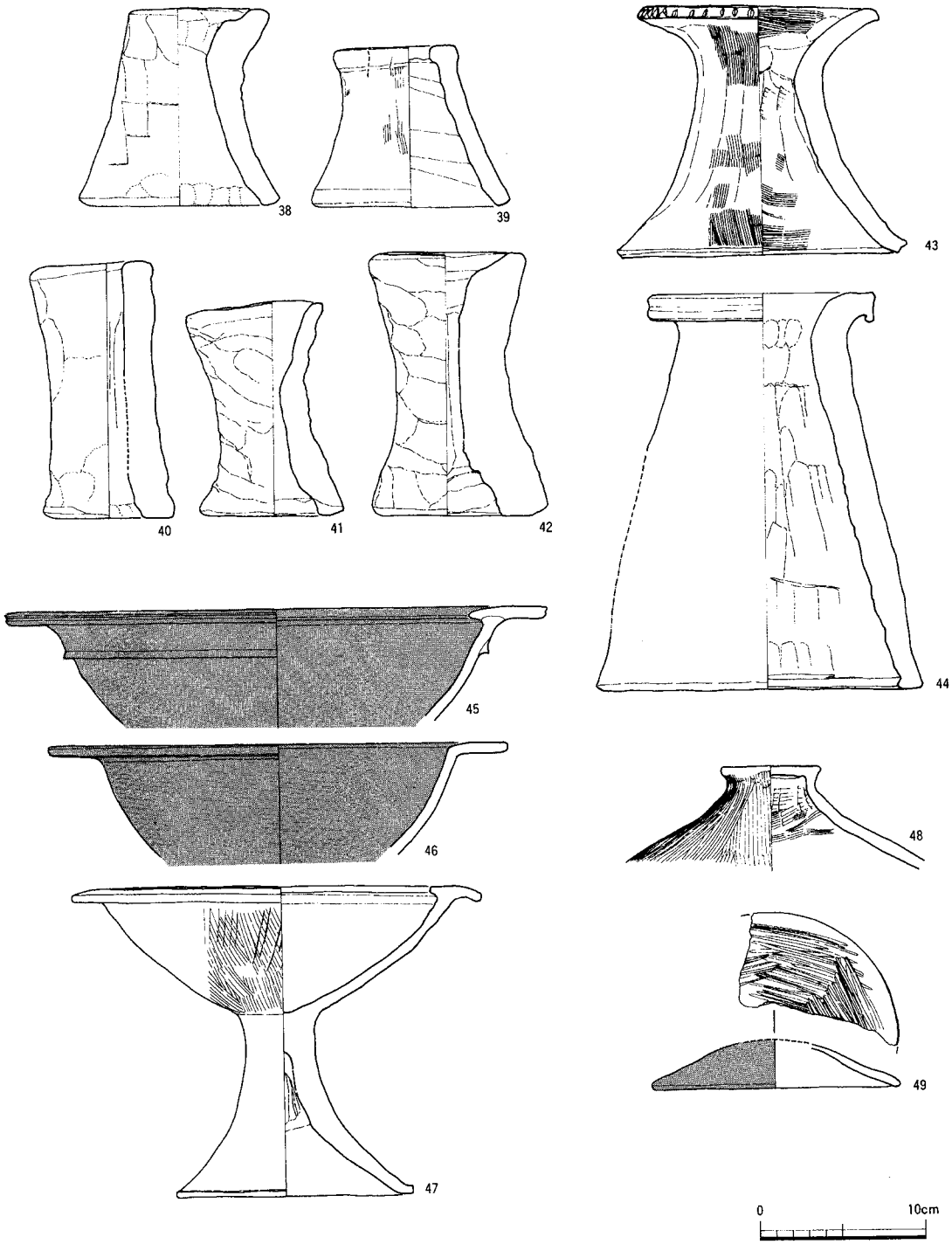



Fig.16　溝SD01上層出土遺物実測図（１／４）




Fig,17　溝SD01上・中層出土遺物実測図（1／4）

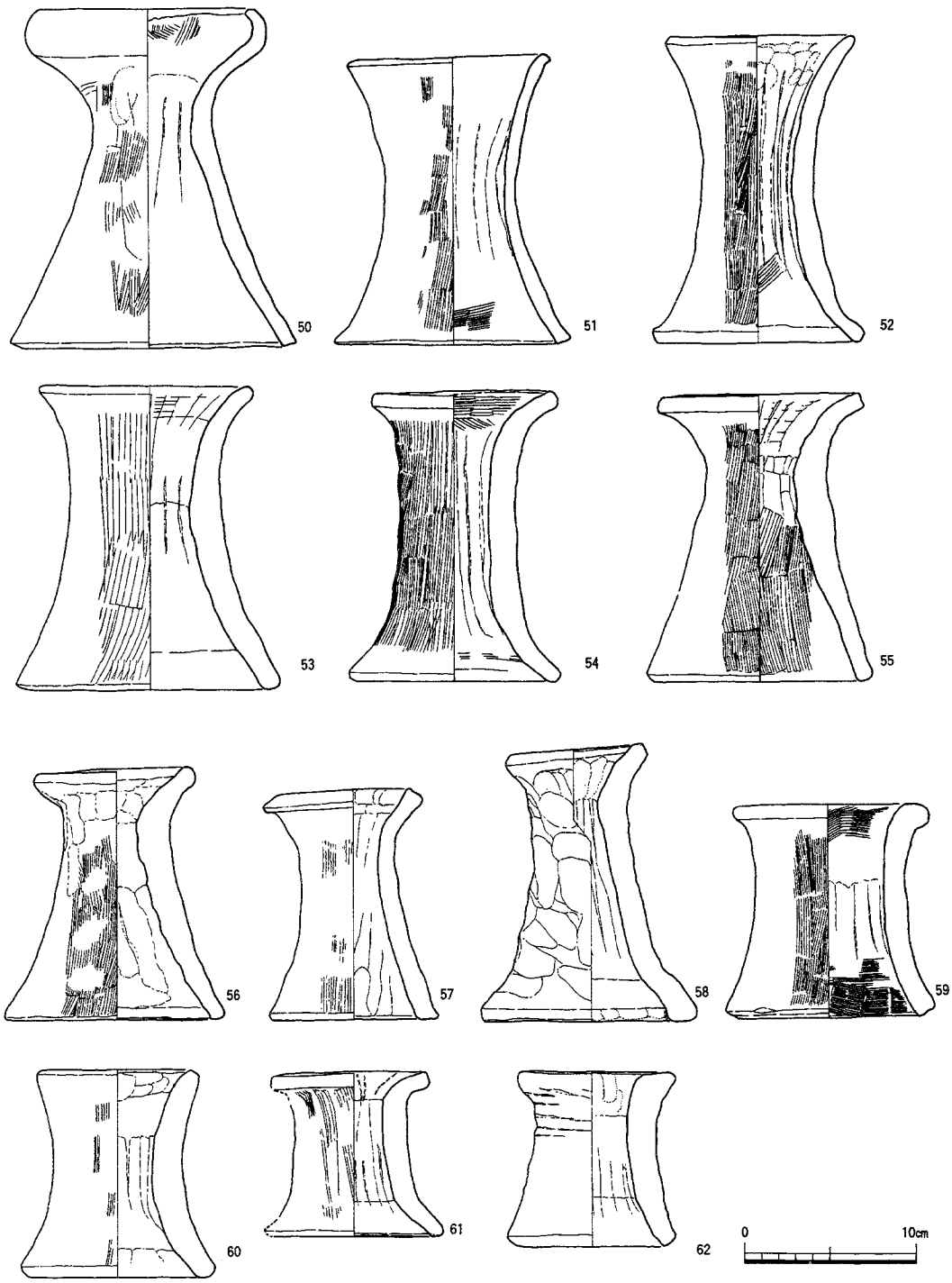
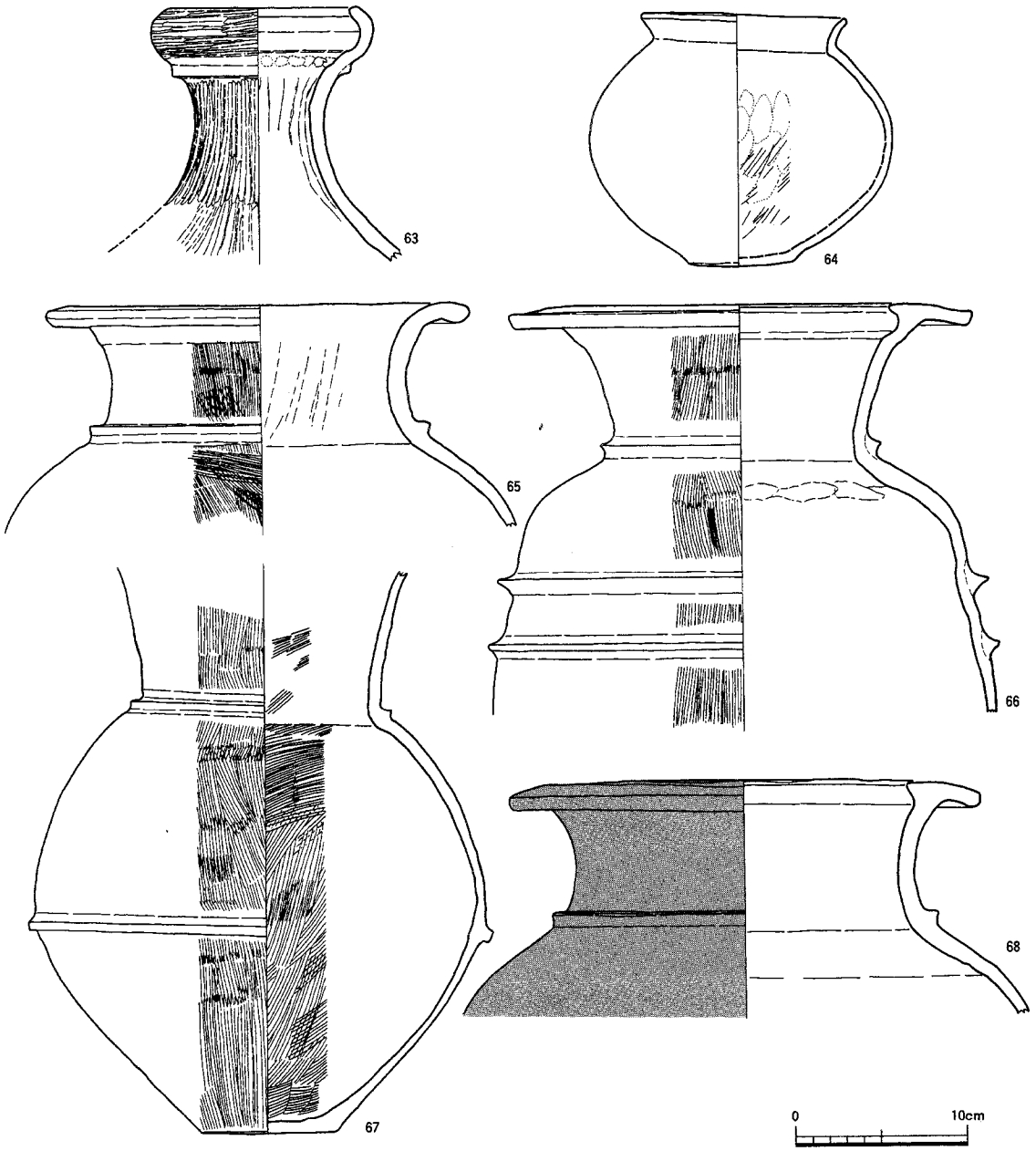



Fig.18　溝SD01上・中層出土遺物実測図（１／４）




Fig,19　溝SD01上・中層出土遺物実測図（1／4）

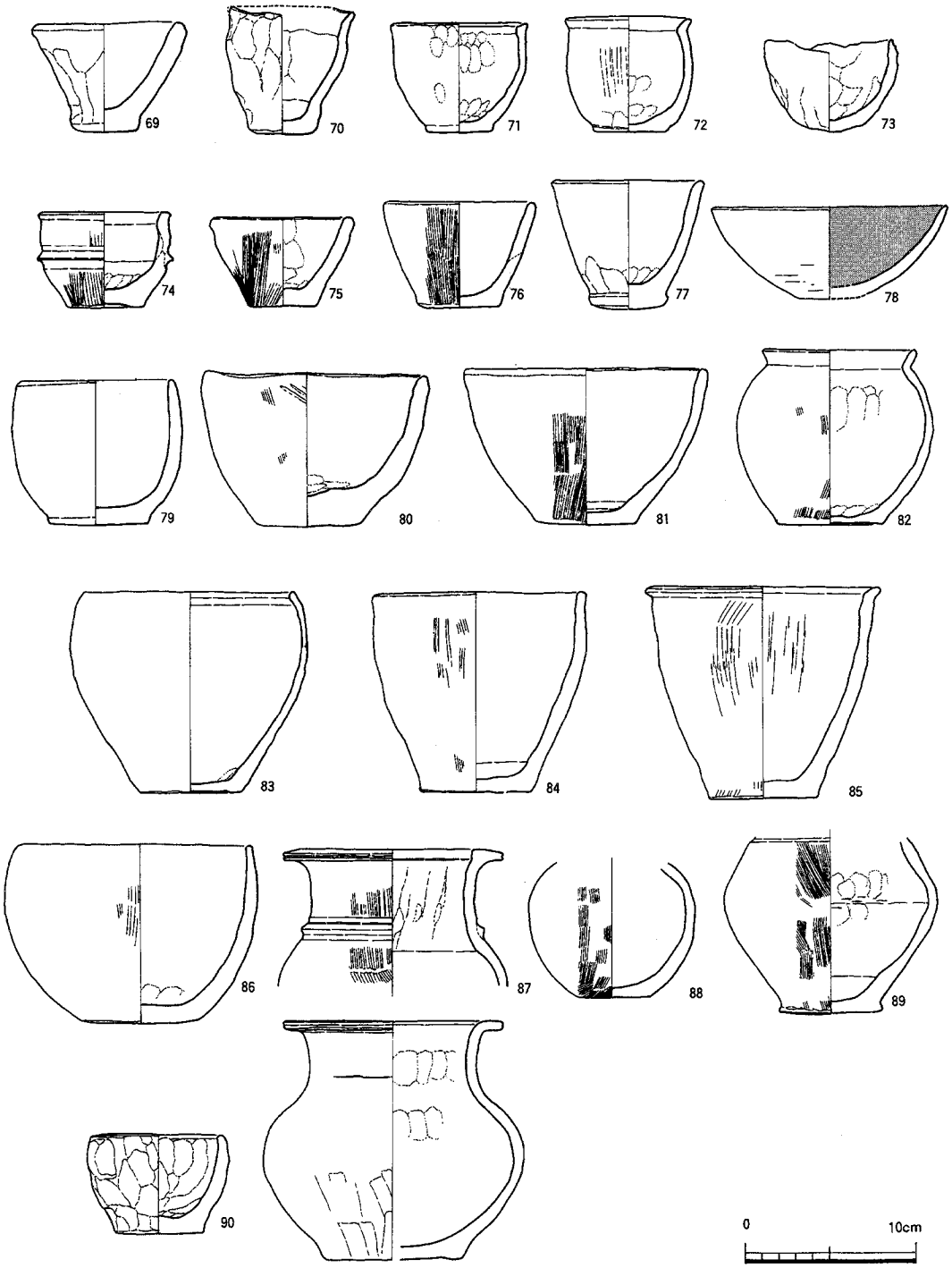
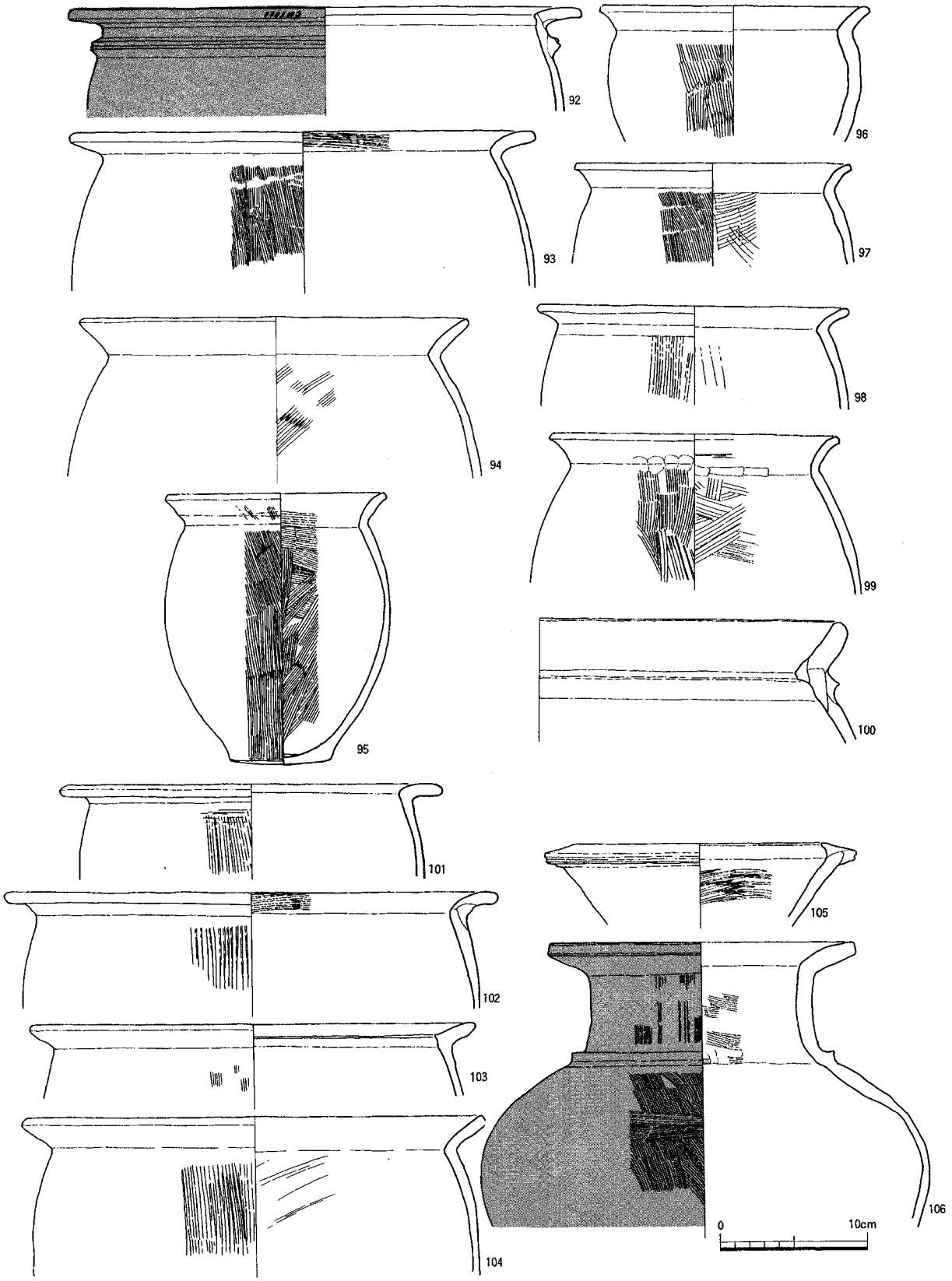



Fig.20　溝SD01上・中層出土遺物実測図（１／４）




Fig,21　溝SD01中・下層出土遺物実測図（1／4）

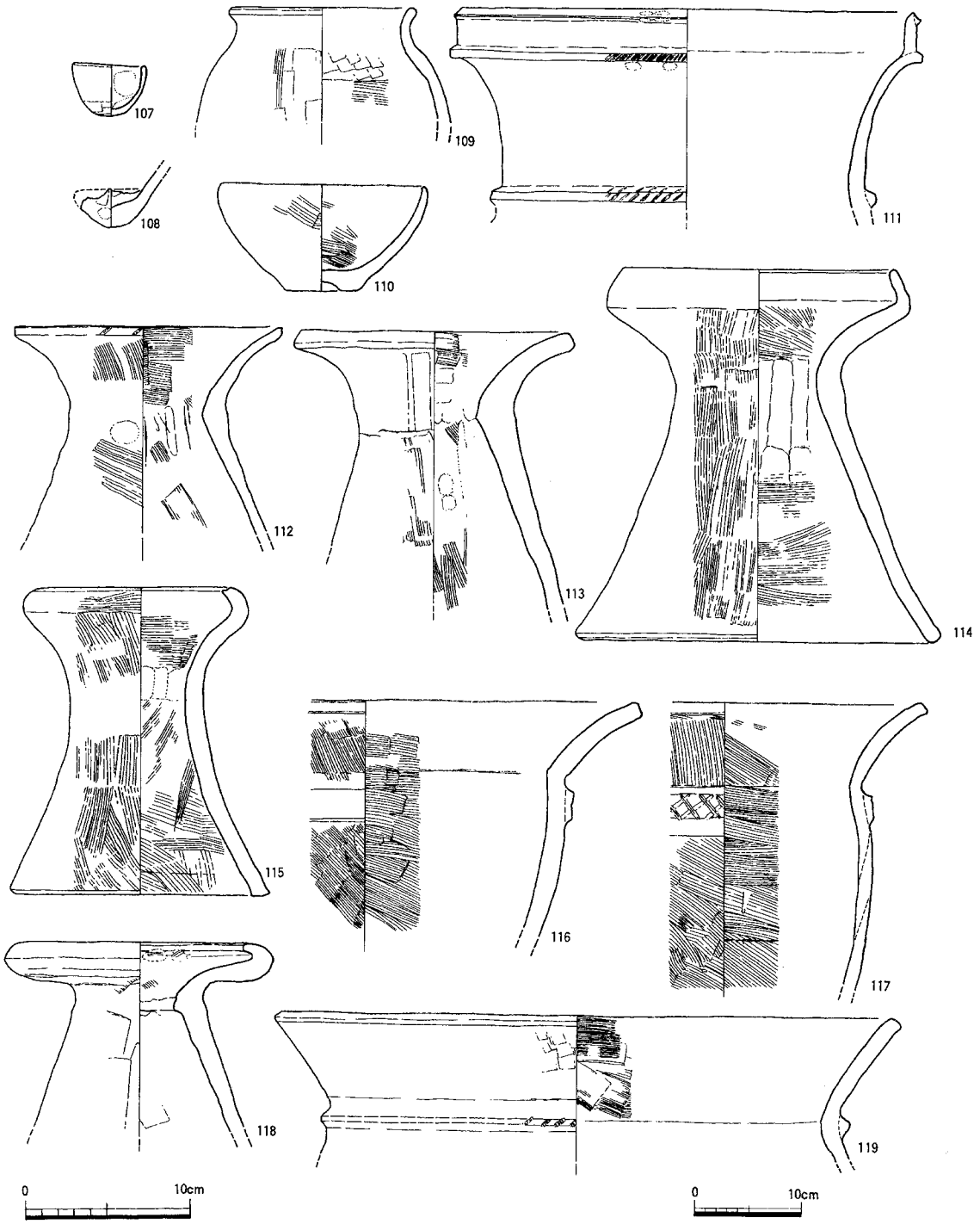
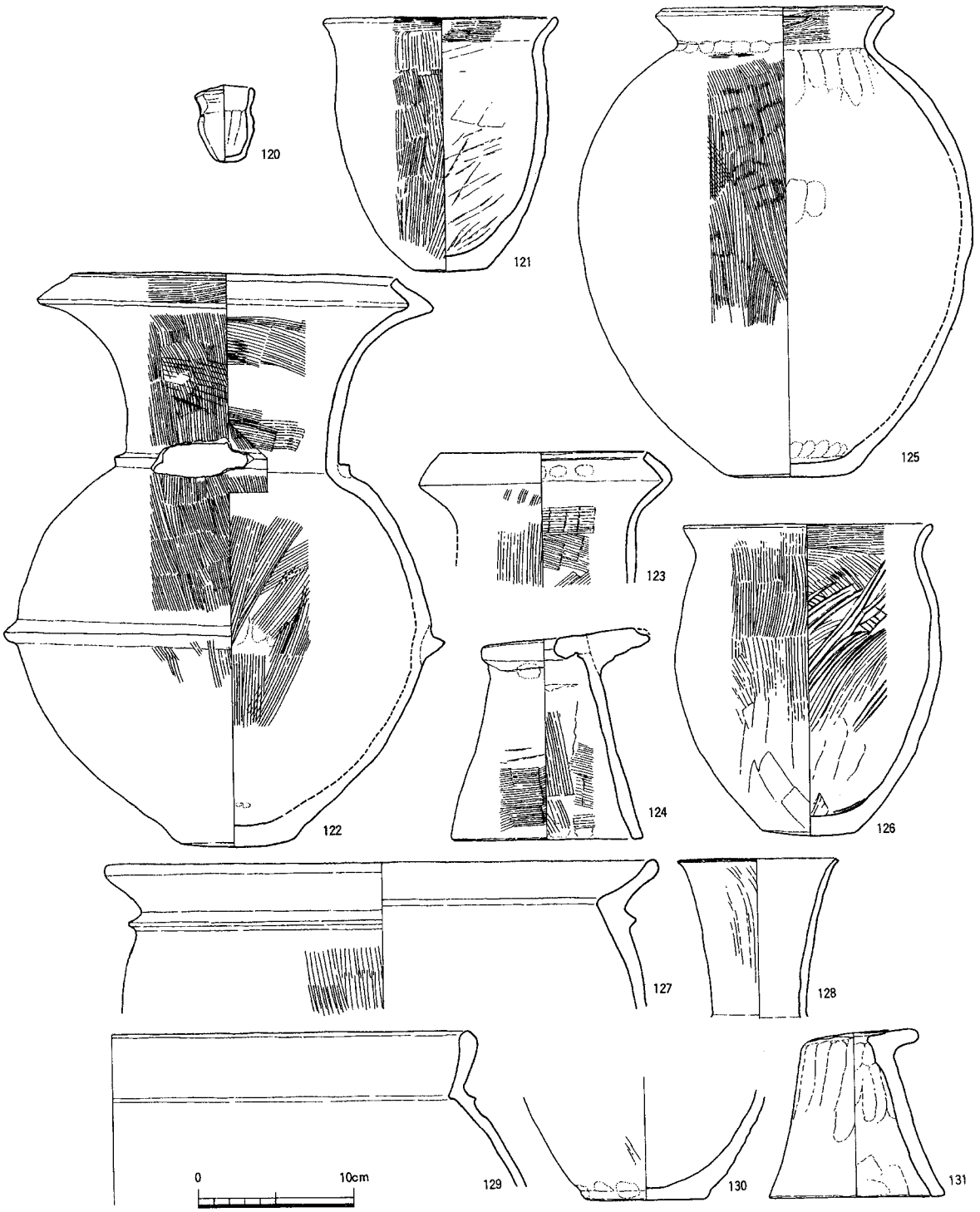
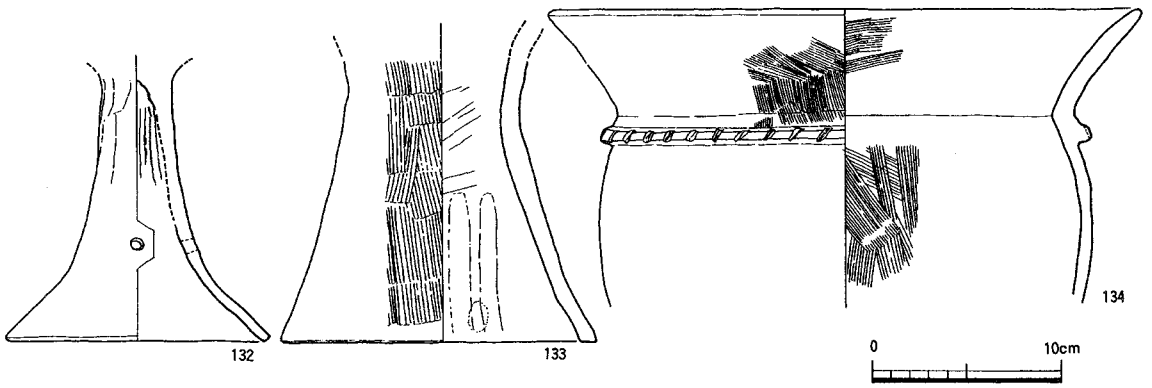


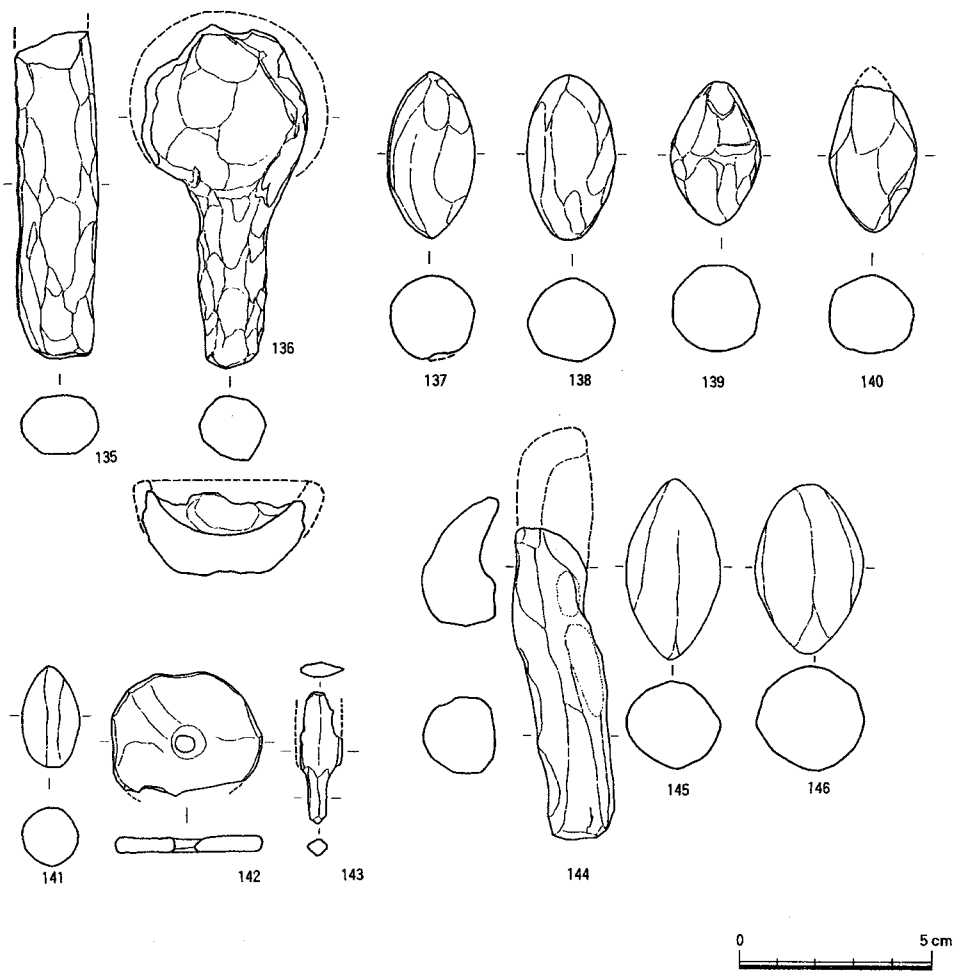

Fig.22　溝SD48出土遺物実測図（１／４・１／６）




Fig,23　井戸SE23・111・112・113出土遺物実測図（1／4）

(120～122；SE23、123・124；SE111、126；SE112、127～131；SE113、125；SE118)




Fig,24　土壙SX31、溝SD01・SD48、包含層出土遺物実測図（１／２・１／４）

（132～134；SX31、135～139；SD01、140～143；包含層、144～146；SD48）

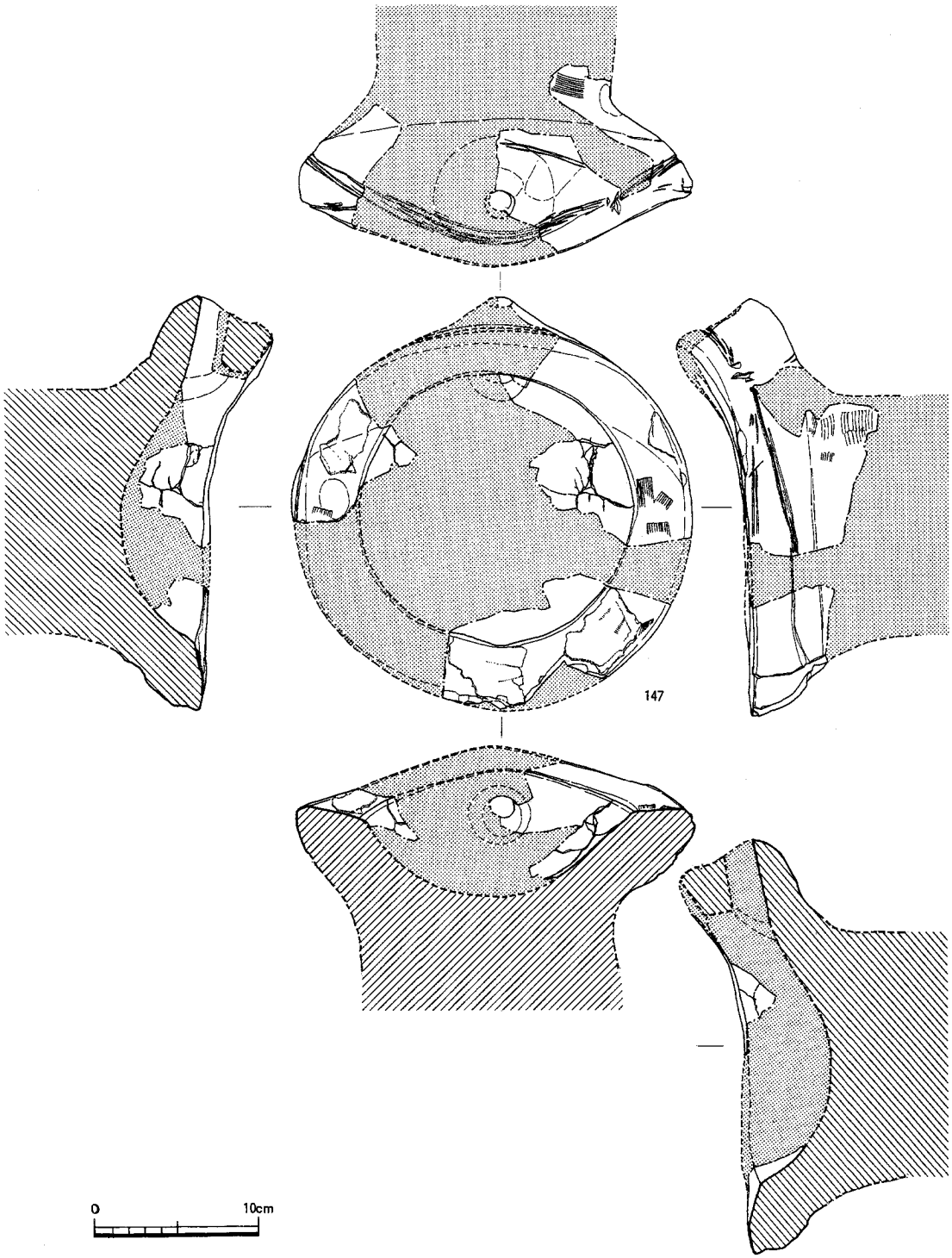
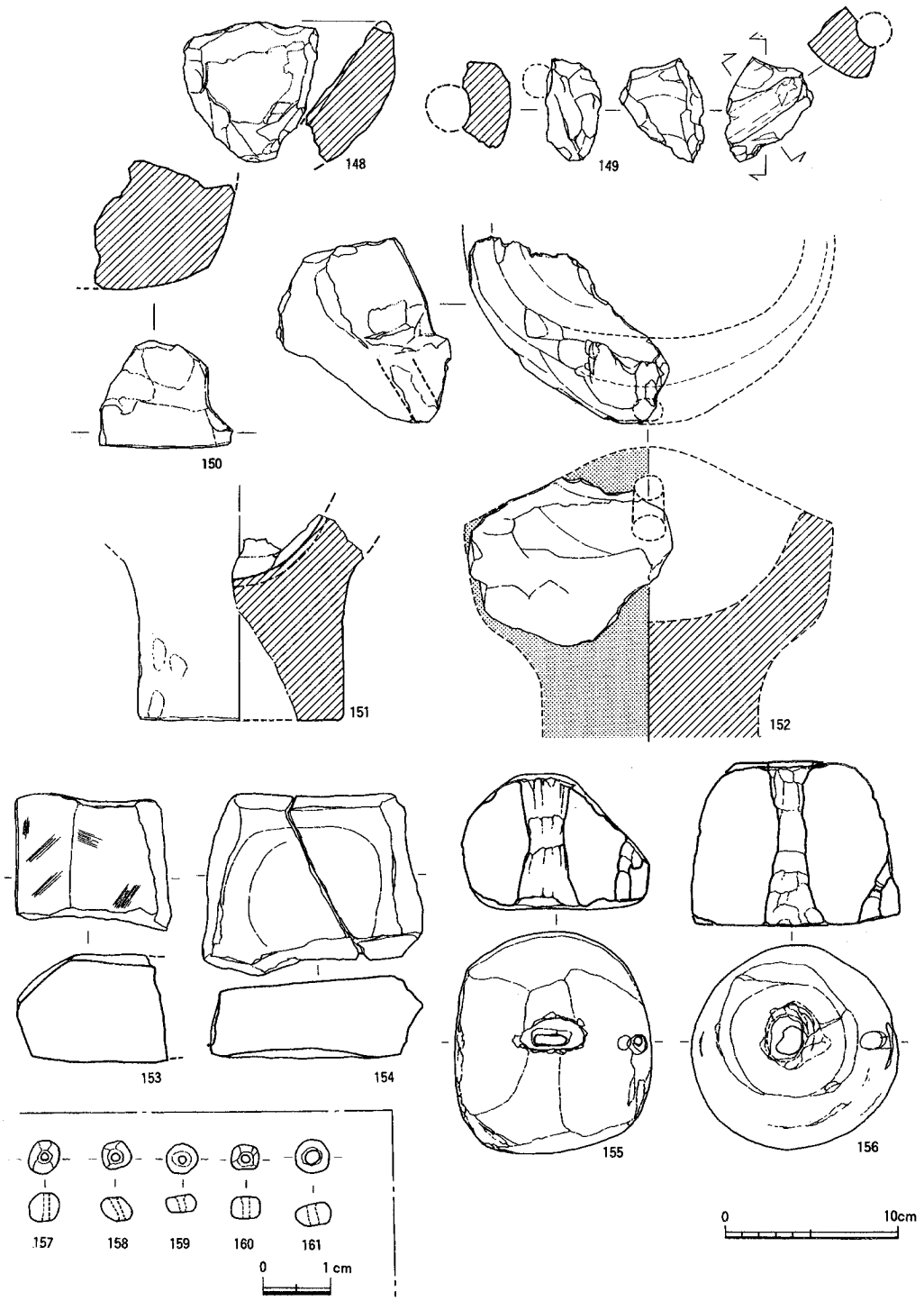
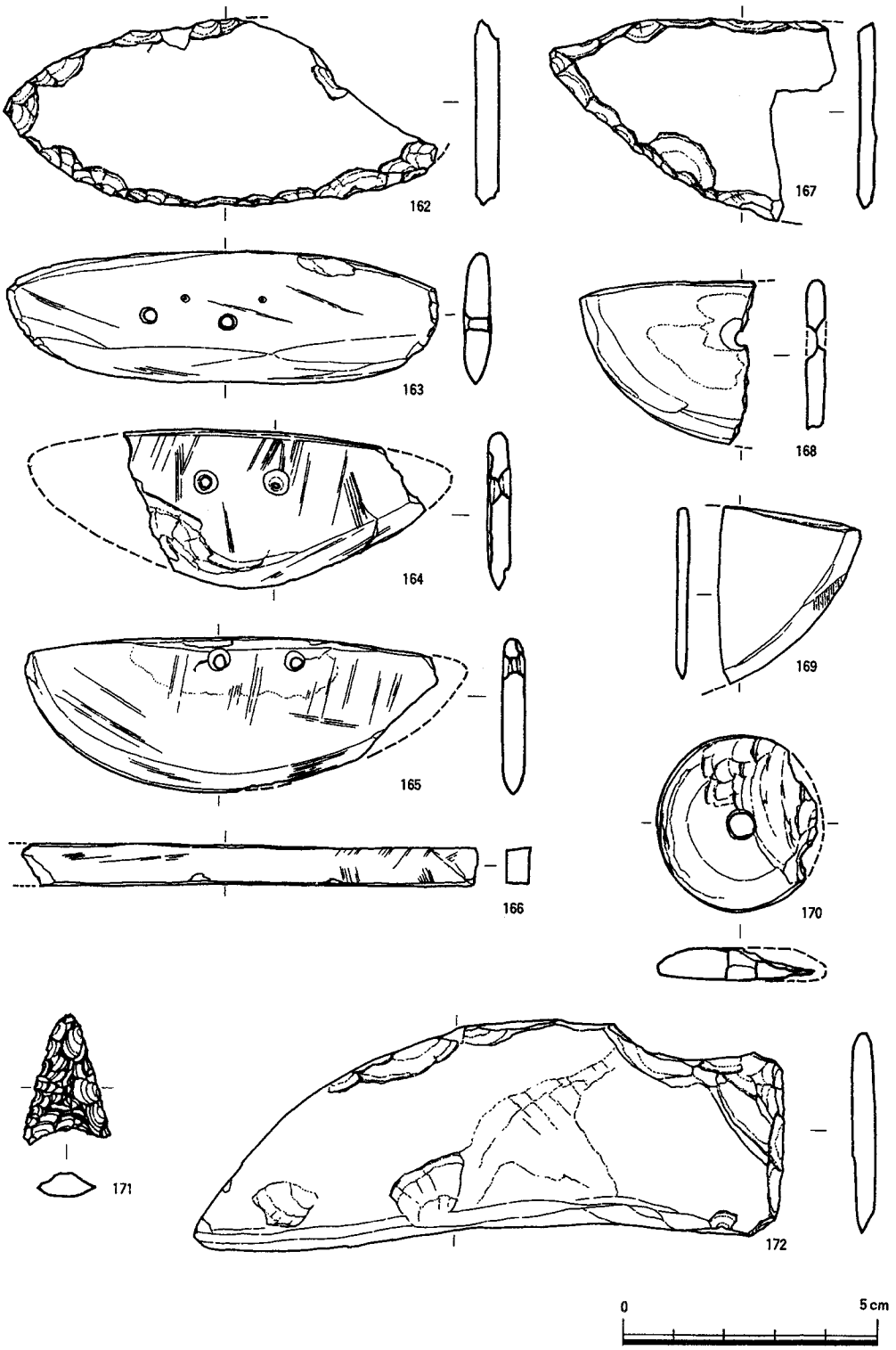



Fig.25　溝SD01出土土製取瓶復元実測図（1／4）




Fig,26　溝SD01・48出土遺物実測図（１／１・１／４）

(148～160；SD01、161；SD48)




Fig,27　溝SD01出土遺物実測図（1／2）

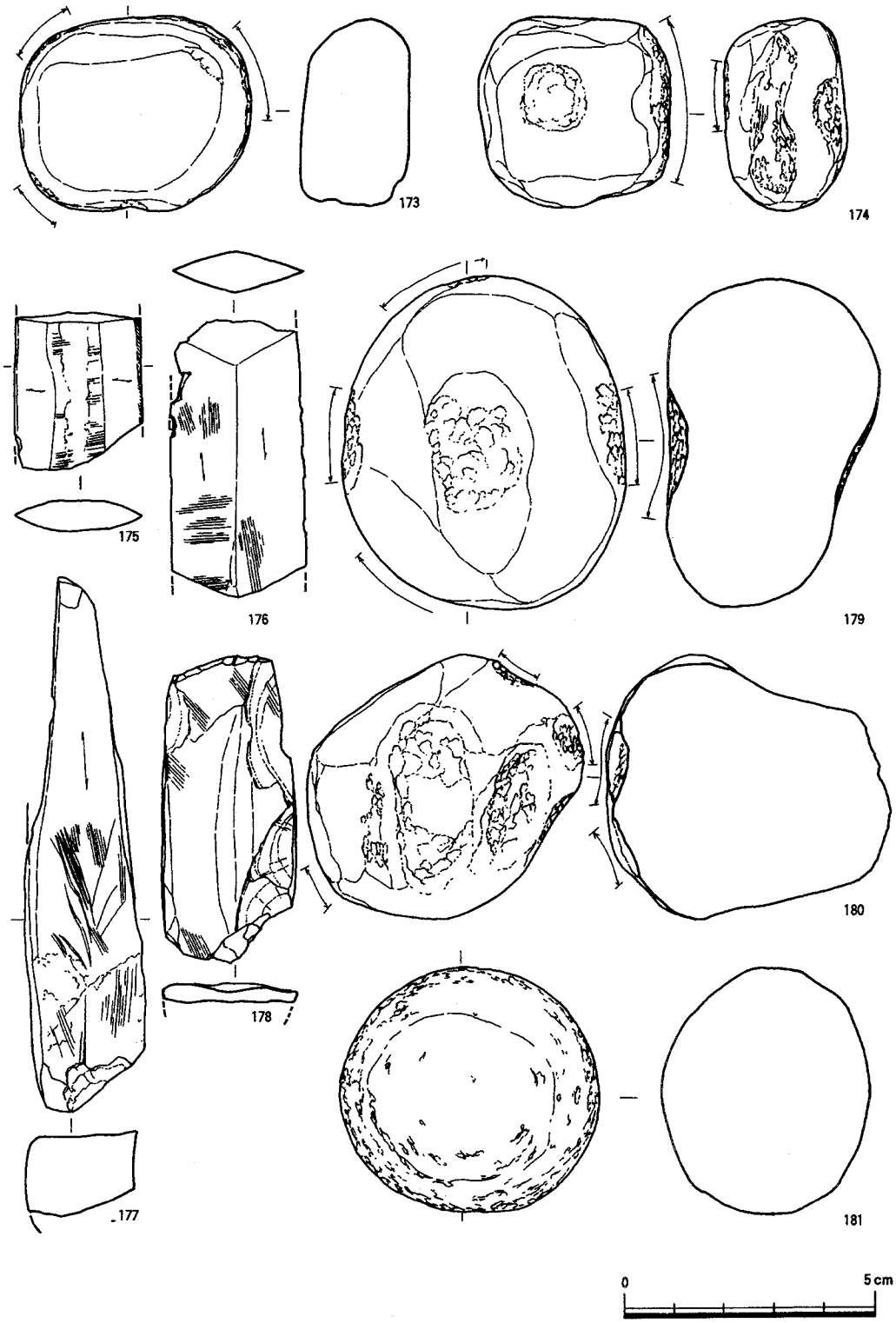
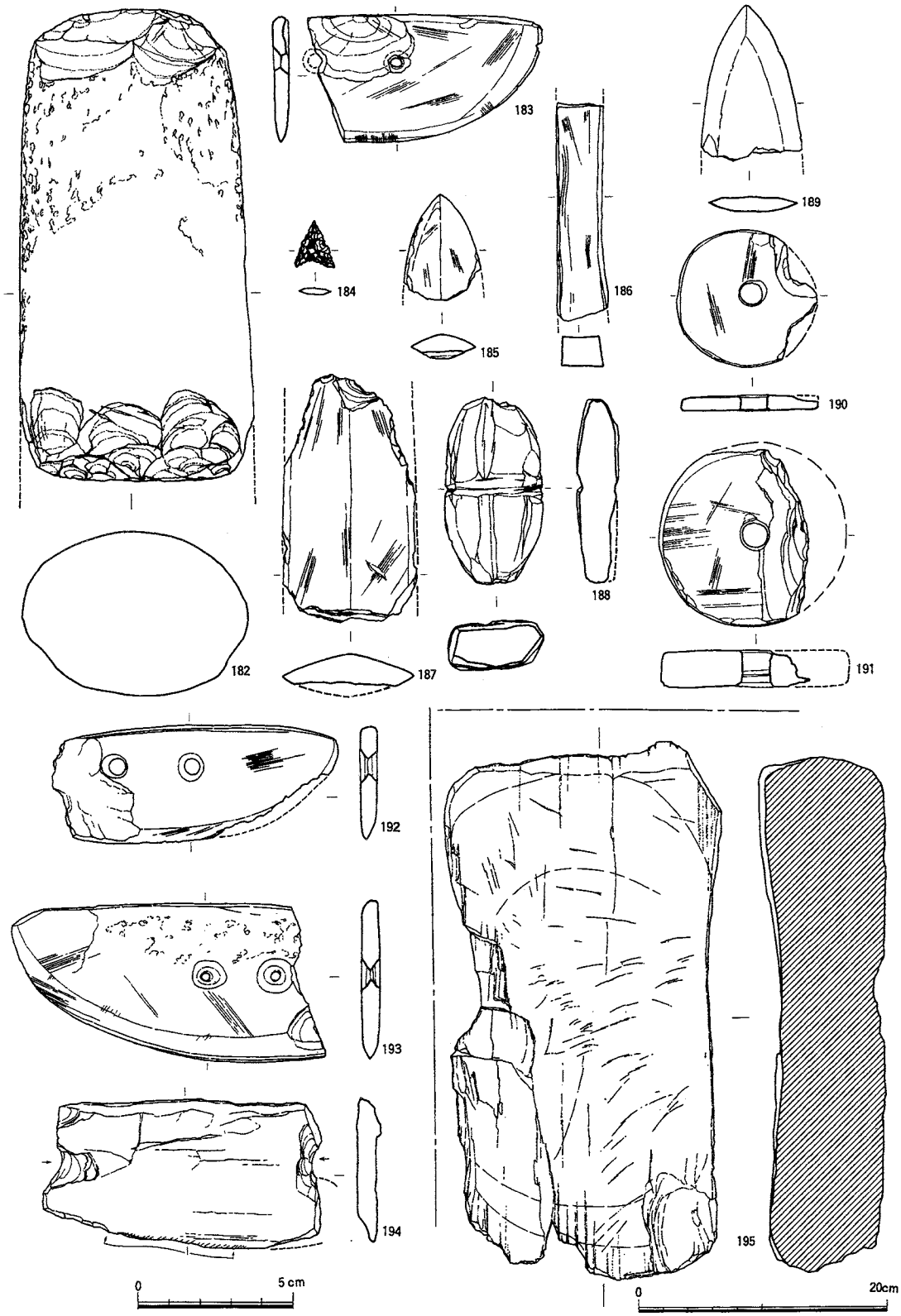



Fig.28　溝SD01出土遺物実測図（１／２）




Fig,29　溝SD01・48，包含層出土遺物実測図（1／2・1／5）

(182～188；SD48、189～194；包含層、195；SD01)

# ３、第42次調査

## (1)概要

本調査区においては、弥生時代中期から古墳時代後期までの遺構と遺物を確認した。

検出した遺構は、柱穴554、掘立柱建物22棟、竪穴住居跡15基、溝２条、井戸20基、土壙37基、方形周溝墓？１基である。遺構の重複と後世の削平によって遺存状況は全般的に悪い。

掘立柱建物は調査区中央から南東側にかけて分布している。弥生時代後期から古墳時代にかけてのものである。竪穴住居跡は、弥生時代中期から後期のものと古墳時代前期のものがある。平面形は円形および長方形である。規模は一辺約４～５ｍの小規模のものが多い。溝は江戸時代の潅漑用溝と、中世のものがある。井戸は、弥生時代後期前半から半ばと、弥生時代終末から古墳時代初頭のものがある。くり貫きの井筒を持つSE506以外はすべて素掘りの井戸である。規模は、検出面での直径が80㎝前後で、深さが１ｍほどのものと、直径が１ｍを超し、深さが２～2.5ｍの大型のものがある。また、埋め戻す際に大量の土器を投棄しているものと、まったく遺物を含んでいないものがある。土壙は、平面形がいずれも不定形で、断面形は浅皿状のものが多い。

出土遺物は、弥生土器、須恵器、土師器、石器、土製品、石製品、木製品などが出土している。遺物の出土量は、弥生時代中期から後期のものが主体を占め、古墳時代初頭、中世にかかるものがわずかに出土している。なお石製広形銅矛鋳型369は、第40次調査で出土した土製取瓶147～152(39・40頁)とともに、比恵遺跡群における弥生時代後期後半～末の青銅品生産の実態を知る貴重な資料である。

## (2)掘立柱建物（SB）

調査区全体において554の柱穴を検出した。埋土は暗褐色～黒褐色粘質土で、平面形は円形や隅丸方形のものなどがある。これらは弥生～古墳時代を主とするが、一部中世にかかるものがある。また掘立柱建物だけでなく、竪穴住居の柱穴も含まれている。柱穴の形態と配列、埋土等の共通性からみて22棟の建物を推定復元した。

SB01（Fig,31、Tab,７）

調査区中央東壁側に位置する間取り２×３間の東西棟である。梁行4.2m、桁行約5.94mの規模である。東西の両妻には中柱が南壁寄りにある。SE30に切られている。弥生時代後期。

SB02（Fig,31、Tab,７）

調査区中央東壁にかかっている。間取りは１×２間もしくは２×２間が考えられる。梁行2.46m以上、桁行4.5mの規模である。竪穴住居跡SC169から切られている。古墳時代のものか。

SB03（Fig,31、Tab,７）

調査区中央東壁寄りに位置し、SB02と重複している。先後関係は不明。間取りは２×３間か。梁行は約４ｍ前後、桁行は5.97mの規模の東西棟である。弥生時代後期と考えられる。

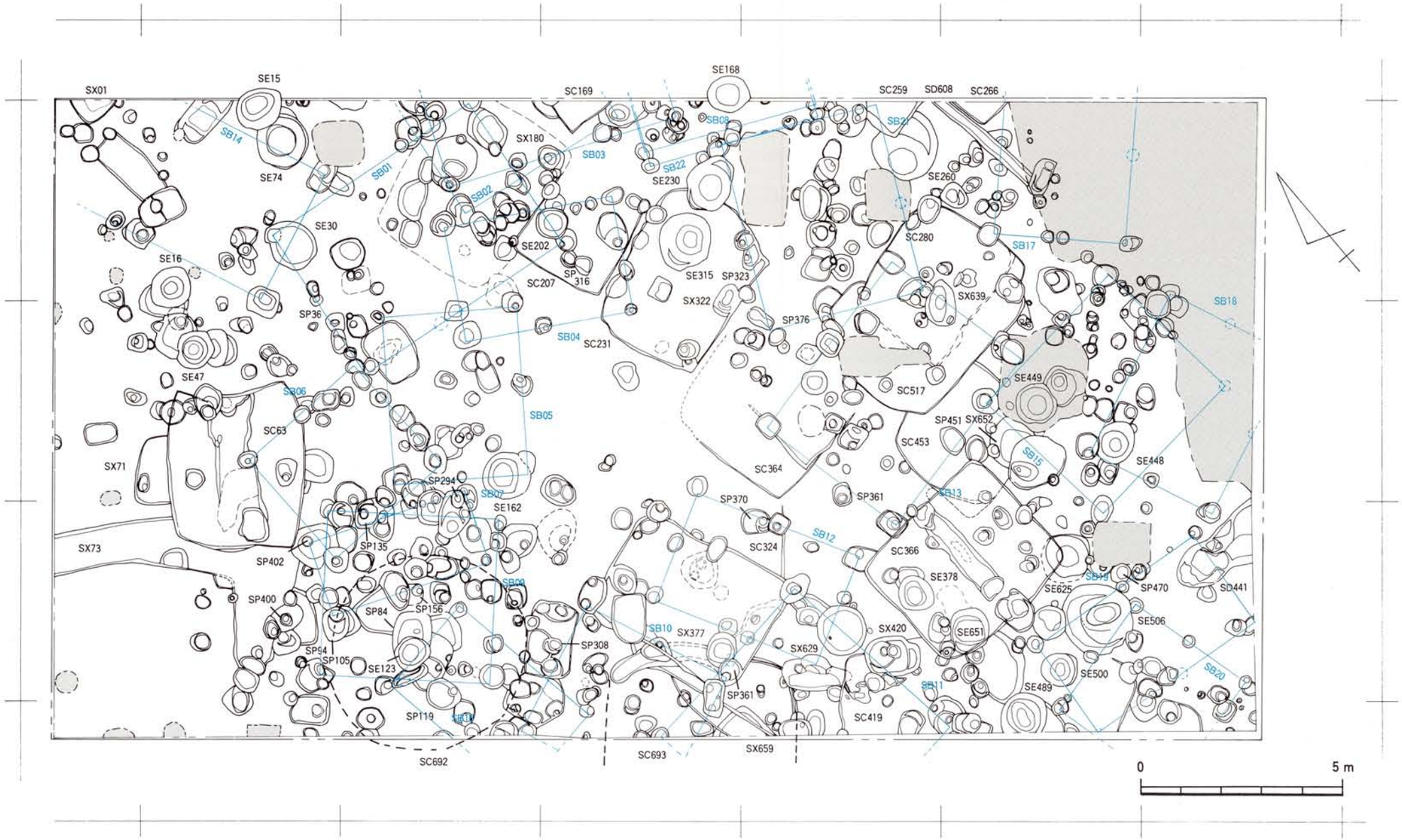



Fig. 30
第42次調査区遺構分布全体図（1／125）

※アミ部分は、現代撹乱

SB04 (Fig,31、Tab, 7)

調査区中央東壁寄りに位置する。竪穴住居跡SC231を切り、SC207から切られている。間取りは1×2間で、梁行2.9m、桁行約4.3mの規模の東西棟である。弥生時代後期。

SB05 (Fig,31、Tab, 7)

調査区中央やや北側に位置する。間取りが2×2間の南北棟である。梁行3.3m、桁行約4.2mの規模である。SE162を切っている。古墳時代か。

SB06 (Fig,31、Tab, 7)

調査区中央北側に位置する。間取りが2×2間の東西棟である。西側妻の中柱は未確認。梁行3.2m、桁行3.5mの規模である。SC63を切っている。古墳時代か。

SB07 (Fig,32、Tab, 7)

調査区中央南西部に位置する。間取りが1×2間の細長い東西棟である。梁行1.94m、桁行4.09mの規模である。SC692から切られている。弥生時代中期か。

SB08 (Fig,32、Tab, 7)

調査区北壁中央にかかる。間取りが1×2間もしくは2×2間の建物である。SB22から切られている。古墳時代か。

SB09 (Fig,32、Tab, 7)

調査区中央南西部に位置する。間取りが2×2間の東西棟である。南側中柱は未確認である。梁行4m、桁行4.3mの規模である。古墳時代のものか。

SB10 (Fig,32、Tab, 7)

調査区南壁中央にかかる。間取りが2×2間の建物である。一辺3.55m前後の規模である。古墳時代の住居跡SC324を切っている。出土遺物・柱間取りからみて、古墳時代後期以降のものと思われる。

SB11 (Fig,32、Tab, 7)

調査区南東壁にかかる。間取りが2×2間の建物である。一辺約5mの正方形となる。SC324を切り、SB10から切られている。建物中央東柱は未確認である。東側柱には柱根痕が残っている。古墳時代後期か。

SB12 (Fig,32、Tab, 7)

調査区中央南側に位置する。間取りが1×2間の南北棟である。梁行約2.9m、桁行約4.4mの規模で、SX629、SC324から切られている。弥生時代中期または後期か。

SB13 (Fig,33、Tab, 7)

調査区中央東側に位置する。間取りが2×2間の東西棟である。梁行は約4mあり東側辺にも中柱があった可能性がある。弥生時代後期の住居跡SC364、古墳時代のSC366から切られている。古墳時代後期のものか。

SB14 (Fig,33、Tab, 7)

調査区北側に位置する。1×2間の間取りが考えられる。柱間は3.4m前後ある。柱掘方は

平面形が矩形で、底面の形状と埋土(黒色粘質土)の堆積状況から礎板があった可能性がある。

**SB15** (Fig,33、Tab, 7)

調査区南側に位置する。２×２間の間取りで束柱がある。東西にやや長い建物である。梁行約４ｍ、桁行4.4ｍの規模である。SC366から切られている。古墳時代のものである。

**SB16** (Fig,33、Tab, 7)

調査区南壁中央東側にかかる。間取りが１×２間の南北棟である。梁行約2.6ｍ、桁行約4.3ｍの南北棟である。SC692よりは古い可能性がある。弥生時代中期か。

**SB17** (Fig,33、Tab, 7)

調査区南東隅に位置する。間取りが２×２間の東西棟である。一辺が約3.3ｍほどの規模である。古墳時代のSC280を切っている。

**SB18** (Fig,33、Tab, 7)

調査区南東隅に位置する。間取りが２×２間で、東西にやや長い建物である。梁行は約3.3ｍ、桁行は約4.4ｍの規模である。井戸SE448を切っている。

**SB19** (Fig,34、Tab, 7)

調査区南隅に位置する。間取りが１×２間の細長い東西棟である。梁行は約2.6ｍ、桁行約4.8ｍの規模である。古墳時代初頭以降の井戸SE506から切られている。

**SB20** (Fig,34、Tab, 7)

調査区南西隅に位置する。２×２間の間取りの建物である。一辺は約3.4ｍの規模である。SE506を切っている。古墳時代初頭～前期か。

**SB21** (Fig,34、Tab, 7)

調査区中央東側に位置する。間取りが２×２間の南北軸がやや長い建物である。梁行は約４ｍ、桁行約4.4ｍほどの規模である。SC231を切り、SE230から切られている。弥生時代後期前半以降のものか。

**SB22** (Fig,34、Tab, 7)

調査区北壁中央にかかる。２×２間の間取りか。SB08、SB21を切っている。古墳時代か。

**出土遺物**　復元した掘立柱建物の各柱穴埋土からは弥生時代～古墳時代の遺物が出土しているが、ほとんどが小片で、図示できるものは少ない。

SB01(SP 36)弥生時代中期末の壺口縁片196が出土している。

SB07(SP402)弥生時代後期の支脚207、中期壺底部片210・211が出土している。

SB10(SP361)古墳時代前期土師器甕209が柱抜き跡からほぼ完形で出土している。

SB13(SP451)弥生時代後期半ばの壺底部212が出土している。

以上の他に柱穴からは、弥生時代中期後半の甕口縁部片197(SP94)、中期末の壺口縁部片198(SP119)、後期の支脚199～201(SP294)、後期初頭の甕205、丹塗磨研土器器台脚部208(SP308)、中期後半～末のミニチュア鉢202、小型鉢203(SP323)、丹塗壺204(SP376)、後期大型甕206(SP400)、後期後半～末の器台310(SP470)、また土製紡錘車352(SP156)、投弾353(SP451)、石包

## Tab, 7　第42次調査　掘立柱建物一覧表

（先→後、・切合い関係不明）

| Fig, | PL | 遺構 (SB) | 規模 (間) | 規模(m) 桁行 | 規模(m) 梁行 | 棟方向 | 床面積 m² | 柱穴番号 (SP) | 先後関係 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 31 | — | 01 | 2×3 | 5.93 | 4.20 | N- 96° -E | 24.90 | 29, 36, 45, 178, 179, 199, 204, 281, 694 | SX180・SX177→SB01<br>SB01→SB05・SB14<br>→SE30・SE202<br>SP44→SB06→SB01 |
| 31 | — | 02 | 2×? | 4.50 | — | ——— | — | 176, 195, 283, 385 | SB02→SB01・SB04・SC169<br>→SP190, SP198 |
| 31 | — | 03 | ?×3 | — | 5.94 | N- 23° 50'-E | — | 173, 183, 196, 218, 221 | SB03→SP174, SX182→SB03<br>SP219→SB03→SB02<br>SP222・SP224→SP223→SB03 |
| 31 | — | 04 | 1×2 | 4.26 | 2.89 | N-120° -E | 12.34 | 203, 282, 290, 293, 318, 687 | SB02→SB04, SB04→SP285 |
| 31 | — | 05 | 2×2 | 4.22 | 3.34 | N- 36° -E | 14.13 | 46, 133, 141, 194, 289, 292, 329, 667 | SP694→SB05→SE162<br>SB05→SP134・SP142 |
| 31 | — | 06 | 2×2 | 3.56 | 3.28 | N- 89° -E | 11.74 | 43, 58, 62, 112, 130, 140 | SP44→SB06→SP45(SB01)<br>SP59・SC63・SP139→SB06<br>SP403→SB07→SB06→SB01 |
| 32 | — | 07 | 1×2 | 4.09 | 1.92 | N- 70° 50'-E | 7.85 | 106, 143, 148, 166, 402, 656 | SP110→SB07→SB06<br>SB07→SP154・SP294 |
| 32 | — | 08 | ?×2 | — | 4.46 | N- 25° -E | — | 217, 233, 256 | SB08→SB05・SB22 |
| 32 | — | 09 | 2×2 | 4.28 | 4.12 | N-133° 50'-E | 17.67 | 93, 108, 122, 159, 299, 599, 695 | SB09→SP92・SP107・SP109<br>→SP336・SP404<br>SB09→SP634→SP145<br>SB09→SB07, SP598→SB09 |
| 32 | — | 10 | 2×2 | 3.93 | 3.56 | N-158° -E | 13.95 | 325, 332, 341, 361, 696 | SB11→SC324→SB10, SP595<br>SB11→SP340, SB10→SP342 |
| 32 | — | 11 | 2×2 | 5.21 | 5.01 | N- 8° -E | 26.05 | 354, 369, 377, 423, 642, 356, 362, 371 | SC324・SC419・SP353→SB11<br>SB11→SP641 |
| 32 | — | 12 | 2×2 | 4.33 | 2.88 | N-152° -E | 12.61 | 387, 392, 628 | SC693→SB12<br>SB12→SX629・SC324 |
| 33 | — | 13 | 2×2 | 5.18 | 4.02 | N- 77° -E | 21.00 | 365, 383, 451, 454, 602, 613 | SB13→SC280・SC366<br>SC364・SC517・SP455→SB13 |
| 33 | — | 14 | 1×2 | 6.68 | 3.48 | N-158° -E | 23.24 | 03, 11, 61, 635 | SB01→SB14→SP23 |
| 33 | — | 15 | 2×2 | 4.40 | 4.01 | N- 83° 50'-E | 17.64 | 452, 467, 509, 547, 646, 697 | SB15→SP581・SP647<br>SC453→SB15 |
| 33 | — | 16 | 1×2 | 4.25 | 2.64 | N-170° 50'-E | 11.27 | 104, 116, 160, 335, 349 | SB16→SP607・SX592<br>SX595・SP348→SB16→SE123 |
| 33 | — | 17 | 2×? | 3.30 | — | N- 45° -E | — | 279, 536, 545, 645 | SB17→SD608<br>SC280→SB17 |
| 33 | — | 18 | 2×2 | 4.45 | 3.41 | N- 66° 50'-E | 14.72 | 443, 464, 512, 577, 665 | SB18→SP664→SP603<br>SB18→SP463, SB18→SE448 |
| 34 | — | 19 | 1×2 | 4.82 | 2.69 | N- 95° -E | 12.96 | 439, 445, 502, 526 | SB19→SP440<br>SB19→SE506 |
| 34 | — | 20 | 2×2 | 3.37 | 3.28 | N-170° -E | 11.12 | 438, 527, 573, 655, 663 | SB20→SE506<br>SP479・SP574 |
| 34 | — | 21 | 2×2 | 4.81 | 4.01 | N- 26° 50'-E | 19.28 | 236, 252, 290, 313, 376, 530, 535, 683 | SB21→SE230・SP639<br>SC231・SC259→SB21 |
| 34 | — | 22 | ?×2 | 4.40 | — | N- 24° -E | — | 255, 289, 291 | SB08→SB22・SP254 |

丁360(SP370)・361(SP377)等が出土している。

## (3)竪穴住居跡（SC）

竪穴住居跡は15基検出した。弥生時代中期末から古墳時代後期の時期のもので全般的に残りは悪い。住居跡は北へ向かって延びる尾根筋に平行して並んでおり、部分的には重複関係が顕著な地点がある。平面形は円形のものが1基のほかはいずれも隅丸長方形もしくは長方形で、比較的規模は小さい。調査区外の東側と西側にさらに広がっているものと思われる。

SC 63 (Fig, 36・58、PL, 14、Tab, 8)

調査区北西部に位置する。暗茶褐色土を埋土とする。平面形はやや不整な長方形である。床面は平坦で、床面中央では幅0.8～1.4mの溝状に地山を掘り込み、東西両壁に一段高くなったベット状の平坦面を平行して作り出している。主柱は明確でない。古墳時代のものと思われる。

**出土遺物**　出土土器は細片のために図示し得るものはないが、内面にケズリ痕のある薄手の土師器甕片がみられる。また滑石製有溝石錘357が床面の北東隅から出土している。

SC169 (Fig, 30、PL, 15)

調査区北壁中央部で検出。竪穴住居の北西隅部と考えられる。遺存状況は良好。遺存している壁高は28cmである。平面形は矩形であるが、規模等については不明である。SB02を切っており古墳時代のものと思われる。

SC207 (Fig, 36、PL, 15、Tab, 8)

調査区中央東側に位置する。暗褐色粘質土を埋土とする。規模の小さな方形の竪穴である。壁面高は西壁で6～10cmほどで、東壁は削平されている。井戸SE202から切られていることから本住居跡は、弥生時代終末前後のものと思われる。

なお本住居跡の北側に、平面形が南北幅3.3m、東西長さ4.3mの隅丸の長方形に暗褐色土が薄く分布している範囲が認められた。壁面は確認できなかったが住居跡の可能性がある。

**出土遺物**　細片のために図示し得るものはないが、弥生時代後期の甕片が若干出土している。

SC231 (Fig, 37・46・58、PL, 15・16、Tab, 8)

調査区中央東側に位置する。SC207の南側に隣接している。SC207同様遺存状況は良くなく、壁面は高さ5～10cmほどしか残っていない。平面形は不整な隅丸の長方形である。床面は平坦で、床面中央に地床炉がある。平面形は楕円形で長径約50cm、短径約40cm。断面形は浅皿状で、深さ約8cmである。南壁中央に接して楕円形の土壙が掘られている。床面上で確認された柱穴は東南隅と東北隅に位置する2穴のみである。弥生時代中期後半～末の時期のものである。

**出土遺物**　住居跡内の埋土からは弥生時代中期後半～末の壺213、甕214・216、高杯215、磨製石鏃358などが出土している。

SC259 (Fig, 37、PL, 17、Tab, 8)

調査区北壁際で検出した。竪穴住居の南東隅部と考えられる。遺存状況は比較的良好で、壁

面高は約25～30cmである。平面形は矩形であるが、規模は不明である。掘立柱建物SB21より古く、弥生時代後期の井戸SE260よりも新しい。

**出土遺物**　細片のため図示し得るものはない。

**SC266** (Fig, 37、PL, 17、Tab, 8)

調査区北壁際で検出した。SC259と同様に竪穴住居の南東隅部と考えられる。遺存状況は比較的良好で、壁面高は約25～30cmである。平面形は矩形であるが、規模は不明である。時期についても出土遺物がなく不明である。

**SC280** (Fig, 38、PL, 16、Tab, 8)

調査区東側で検出した。SC517から切られている。残りはあまり良くなく壁高は約10～15cmである。平面形は隅丸の長方形である。床面中央に平面形が楕円形の地床炉がある。床面で検出した柱穴は4穴である。いずれも壁面四隅近くに位置している。北壁には平面形が楕円形をなす深さ14cmの土壙を付設している。弥生時代中期末から後期初頭の時期と思われる。

**出土遺物**　細片のため図示し得るものはない。弥生時代中期末～後期の甕口縁部片が出土した。

**SC324** (Fig, 38・46・58・59、PL, 14・15、Tab, 8・11)

調査区西南部中央で検出した。古墳時代後期の竪穴住居跡である。暗褐色粘質土を埋土とする。平面形は不整な長方形である。東壁に灰白色粘土で造り付けた竈を有している。竈は下部のみが遺存していた。煙出し用の穴が北壁際にみられる。竈内には焼土および木炭片がみられた。床面は粗掘りした後に平坦に盛土整地している。盛土の厚さは約5～8cmである。西南隅に位置する土壙SX377から広形銅矛の石製鋳型369が出土している。SX377はSC324に伴うもので、先述の盛土層を切っている。

**出土遺物**　住居跡埋土から弥生時代中期～後期甕217・218・220、古墳時代前期甕219の他、須恵器杯蓋の小片が出土している。形態からみて6世紀後半のものである。なお、広形銅矛鋳型369については第4章(139～141頁)で説明する。

**SC364** (Fig, 39、PL, 16、Tab, 8)

調査区の中央に位置する。遺存状況は悪く、東側半分は削平され消滅している。最も残りの良い部分で、壁の高さは約10cmである。西壁には約1.2mの幅でベッド状遺構が残っている。本来は東西両壁に平行するベッド状遺構を有する住居跡であったと思われる。推定平面形の中央に木炭片が集中して分布する箇所があり、それを挟んで直径が約40cmの柱穴が検出できた。弥生時代後期後半の竪穴住居跡と思われる。

**出土遺物**　細片のため図示し得るものはない。

**SC366** (Fig, 39・46・58、PL, 21、Tab, 8)

調査区南側で検出した。古墳時代後期の竪穴住居跡である。SC419・453, SE378・625等の弥生時代の遺構を切っている。平面形は東西軸がやや長い長方形である。残りは比較的良好で、壁高は約20cmである。床面中央には地山面に幅が約80cmの溝を掘っており、溝を境として東

西床面を一段高く作り出している。南壁にSC324と同様に灰白色粘土による竈を有している。また竈と対面する北壁際には不定形の土壙がある。深さは約50cmである。主柱は4本柱と思われ、隅部からやや離れた位置に柱穴が検出された。

**出土遺物**　住居跡埋土から手捏土器221、弥生時代中期～後期の甕222・223・226・227、古墳時代前期の高杯224、叩き痕の残る器台225、砥石359が出土しているほか、須恵器小片が出土。

**SC419**（Fig, 40・46、Tab, 8）

調査区南壁側に位置している。柱穴、土壙等が多数重複しているため平面形状は不明確であるが、隅丸長方形と思われる。規模は小さく、一辺が約4mほどの大きさである。東隅部をSC366によって切られている。床面は平坦で、SC324でみられた盛土整地はみられない。主柱は4本柱と思われる。竈もしくは地床炉跡は確認できていない。古墳時代の住居跡か。

**出土遺物**　住居跡埋土から弥生時代中期後半の甕229、後期の甕228が出土している。

**SC453**（Fig, 40・46、PL, 16・17、Tab, 8）

調査区東側に位置している。北壁をSC517から、南隅部をSC366から切られている。SC207、SC419とほぼ同規模の小竪穴である。平面形は隅丸の方形である。壁面の残りは約13cmほどで残りは良くない。床面は平坦である。埋土中には木炭片、焼土(赤褐色土)小塊を多く含んでいる。柱穴は床面では確認できなかった。弥生時代後期半ば以降のものか。

**出土遺物**　住居跡埋土から弥生時代中期の甕230、後期前半の甕片231が出土している。

**SC517**（Fig, 38、Tab, 8）

調査区の東側に位置する。SC280・453を切っている。暗褐色～黒褐色粘質土を埋土とする。中央部分から東北隅部までのほぼ半分については削平を受けており残っていない。平面形は不整な隅丸長方形である。壁高は最も残りの良い西壁で10cmである。主柱については不明。

**出土遺物**　細片のため図示し得るものはない。

**SC692**（Fig, 41、Tab, 8）

調査区西北部で検出した。竪穴は残っていない。この地点ではかなりの数の柱穴が重複して遺存している。図面上で復元し、平面形が円形の竪穴住居跡と考えた。主柱は4本柱でほぼ円形に側柱が巡っている。柱穴の数からみると、竪穴住居跡は2基または3基が重複していたことが考えられる。平面規模は直径が5～6mほどと考えられる。弥生時代中期後半ころのものか。

**出土遺物**　細片のため図示し得るものはない。

**SC693**（Fig, 41、Tab, 8）

調査区西壁中央部で検出した。非常に残りが悪く、北側壁～南東壁に沿って壁溝がかろうじて残っているのみである。平面形は不整な隅丸長方形である。SC324によって東側壁は消滅している。また、SX659・SX629によって東南壁が削平されている。弥生時代中期末～後期の住居跡の可能性がある。

**出土遺物**　細片のため図示し得るものはない。

**Tab, 8　第42次調査　竪穴住居跡一覧表**

（先→後、・切合い関係不明）

| Fig, | PL | 遺構(SC) | 平面形 | 長軸(m) | 短軸(m) | 方向 | 先後関係 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 36 | 14 | 63 | 不整隅丸長方形 | 4.30 | 3.45 | N- 40°50'-E | SX71→SC63→SB06・SP59・SP60<br>SP395→SC63 |
| 30 | — | 169 | 長方形か | — | — | —— | SB02→SC169 |
| 36 | 15 | 207 | 正方形 | 2.83 | 2.52 | N- 71°-E | SB01→SC207→SE202<br>SB04→SC207 |
| 37 | 15<br>16 | 231 | 不整隅丸長方形 | 4.37 | 3.15 | N- 72°50'-E | SB21→SC231→SP238・SE230・SE315<br>SB04→SC231 |
| 37 | 17 | 259 | 方形 | — | — | —— | SE260→SC259→SB21 |
| 37 | 17 | 266 | 方形 | — | — | —— | ———— |
| 38 | 16 | 280 | 隅丸方形 | 3.50 | 3.23 | N- 40°50'-E | SX487→SC280→SB13<br>SC693→SB12→SX629→SC324→SB11 |
| 38 | 14<br>15 | 324 | 隅丸長方形 | 4.33 | 3.29 | N-157°-E | SB12→SC324→SB11→SB10<br>SB12→SC366→SB10 |
| 39 | 16 | 364 | 長方形 | 4.31 | 3.77 | N- 78°-E | SC364→SB13 |
| 39 | — | 366 | 長方形 | 4.15 | 3.68 | N- 86°-E | SB13・SE378・SC453・SE625・SE651→SC366<br>SB15→SC366 |
| 40 | — | 419 | 不整隅丸正方形 | 3.88 | 3.82 | N-122°-E | SB11→SC419<br>SE378→SC366<br>SB13→SC366<br>SE651→SC366 |
| 40 | 16<br>17 | 453 | 不整隅丸正方形 | 3.22 | 3.12 | N- 80°50'-E | SC453→SB15→SC366・SC517 |
| 38 | — | 517 | 不整隅丸長方形 | 4.27 | 3.28 | N- 79°50'-E | SC280→SC517→SB13(?) |
| 41 | — | 692 | 円形 | — | — | N-131°-E | SX84→SE123, SX84→SB16 |
| 41 | — | 693 | 隅丸方形 | — | — | —— | SB11<br>SX659→SC693→SB10→SC324 |

## (4)溝状遺構（SD）

SD441 (Fig, 30)

調査区南側に位置する。幅1.0～1.2m、深さ0.3mの溝である。断面形は「U」字形で、埋土は暗褐色～暗灰褐色粘質土である。

SD608 (Fig, 30)

調査区東側に位置している。南北方向に延びる溝で、中世以降のものである。幅28cm、深さ25cmで、断面形は「U」字形である。埋土は暗茶褐色粘質土である。水田に伴う畦溝か。

## (5)井戸（SE）

本調査区では20基の井戸が検出された。いずれも弥生時代後期の井戸である。分布は大きく３群に分かれる。遺物の出土状況は、底部もしくは埋土中位で完形の甕ないし壺形土器が単独もしくは複数投棄された状態で出土するものと、破片のみで完形品が出土しないものに大きく分かれる。

**SE15**（Fig,42・47、PL,18・21、Tab, 9）

調査区北側に位置する。SE74を切っている。平面形はやや不整な楕円形。井戸掘方は上部がやや開く円筒状で2.10mの深さを測る。底部はややすぼまっている。埋土は大きく４層に分かれるが、一時的に埋め戻されたと考えられる。第１層は暗褐色粘質土で弥生土器小片を多く含む。第２層は暗褐色～黒褐色粘質土である。第３層はかなり粘性の高い黒褐色粘質土で黄褐色粘土小塊を含む。第４層は底部から約70cm厚で堆積している。現在の湧水面は標高4.5mの面である。

**出土遺物**　完形の弥生時代後期半ばの土器が投棄された状況で出土している。また、長頸壺232・235、甕234・236が最下層から一括投棄の状況で出土している。甕233は上面からの出土で、混入の可能性がある。

**SE16**（Fig,42・47、PL,18・21、Tab, 9）

調査区北側に位置する。平面形はやや不整な円形である。掘方は円筒状で底部がややすぼまっている。埋土は大きく５層に分かれるがSE15と同様に一時的に埋め戻されたと思われる。現在の湧水面は標高4.5mの面である。

**出土遺物**　最下層の黒褐色粘土層から弥生時代後期半ば～後半の完形の壺が投棄された状態で出土している。また、弥生土器小片が中層に比較的多く出土している他、最下層から小型の長頸壺237、二重口縁壺238・239がほぼ完形で出土している。

**SE30**（Fig,42・48、PL,21、Tab, 9）

SE15の南側近くに位置する。SB01を切っている。平面形はやや不整な楕円形で、掘方は円筒状である。SE74・230・489とともに最も規模の大きいグループに属する。深さは2.72mを測る。埋土は３層に分かれる。第１層は暗褐色～黒褐色粘質土で黄褐色粘土小塊、木炭片、弥生土器片を含みよくしまっている。第２層は黒褐色粘質土で黄褐色粘土塊を含む。第３層は黒褐色～黒色粘土で非常に粘性が高く自然木等の植物遺体を多く含む。

**出土遺物**　最下層の第３層上部から中位（底部から＋40～50cm）の面で弥生時代後期後半の完形土器が、第２層から上層においては後期半ば以降の土器片が出土している。長頸壺240、壺241・243～246・248・249、鉢250は最下層からの出土である。古墳時代前期の壺242は上面からの出土である。混入の可能性がある。

**SE47**（Fig,42・48・49、PL,18・21、Tab, 9）

調査区北側で検出した。SE16の南側に位置する。東半分をSX163から切られている。平面

形はやや不整な円形で、掘方は円筒状である。掘方中位から底部へはややすぼまっている。深さは2.52mを測る。埋土は大きく6層に分かれる。第1層から4層までは暗褐色粘質土を主体として、黄褐色粘質土小塊の混入量が異なっており、一時的に埋め戻された可能性が高い。第5層および第6層は黒色粘質土で特に第6層は粘性が高く、また白色粘土ブロックを多く含んでいる。この6層からは弥生時代中期末～後期初頭に比定できる丹塗磨研土器がまとまって出土している。

**出土遺物**　上層から中層にかけては弥生時代中期から後期の土器片が多数出土している。最下層からは、小型の甕251、袋状口縁壺252・254、小型壺253、有孔壺255・大型甕口縁片256が出土している。251・256以外はいずれも赤色顔料を塗布している。

**SE74**（Fig,42・49～52・60、PL,18・21～23、Tab, 9）

調査区北側に位置しており、SE15から上部北側を切られている。SE30・489とともに最も規模の大きなグループに属する。深さは2.73mを測る。埋土は大きく3層に分かれる。第1層は暗褐色粘質土で井戸掘方のほぼ半分までを占めている。第2層は黒褐色～黒色粘質土で白色粘土塊を含み軟質である。最下層の第3層は黒灰色粘質土である。

**出土遺物**　第3層からは植物遺体、板片、弥生時代後期半ばから後半の壺257～259・261～270・274～278、甕260・273、手捏土器271、鉢272、高杯279、器台280・281がまとまって出土している。また杵370、横槌372、平面形が隅丸方形の容器371、中央に方形の穴が開けられた板材(鼠返しか)373等の木製品が出土している。

**SE123**（Fig, 42・53、PL,18、Tab, 9）

調査区北西部に位置する。SX84、SB16を切っている。平面形はやや不整な円形で掘方は円筒状である。規模は小さく浅い。深さは2.08mを測る。埋土は5層に分かれる。第1層は褐色～暗褐色粘質土で、黄褐色粘土小塊をわずかに含む。第2～4層は暗褐色粘質土で粗砂、小礫を含む。第5層は黒褐色粘土層で植物遺体の他板材片を含んでいる。土器は弥生時代後期後半から終末の土器片、甕の完形品が出土している。

**出土遺物**　弥生時代後期初頭～後半の甕片282・285、弥生時代終末から古墳時代初頭の壺284、甕片283が埋土下層から出土している。

**SE162**（Fig,42・53、PL,18・23、Tab, 9）

調査区中央に位置している。SB05を切っている。平面形は円形で掘方は円筒状である。中位から下部はややすぼまりながら底部へ続いている。深さは2.40mを測り規模は大きい。埋土は7層に分かれる。第1層は暗褐色粘質土、第2層から第4層は井戸中位にレンズ状に堆積する暗褐色～黒褐色粘質土である。黄褐色粘土小塊をいずれも含んでいる。第5層は黒褐色粘質土で白色粘土塊を含み軟質である。第6・7層は黒灰色粘土層で7層は粘性が高く黄白色・白色粘土塊を多く含んでいる。

**出土遺物**　第6層と7層の境（底面から＋45cm）あたりに弥生時代後期半ばの甕・壺がまとまって出土している。弥生時代後期後半の甕286、短頸壺287は井戸底部から出土している。

SE168（Fig,42、Tab, 9）

調査区東壁に半分かかって出土した。崩落の危険性があったため完掘はしていない。平面形は円形である。掘方は円筒状で深さは推定2.20mほどと思われる。埋土は5層以上に分かれる。第1層は暗褐色粘質土で粗砂・小礫、弥生土器小片を多く含む。第2層から第4層は掘方中位までレンズ状に堆積している暗褐色粘質土である。第5層は黒褐色～黒灰色粘質土である。底部まで掘り下げていないので明確ではないが、廃絶された時期は弥生時代後期半ばから後半頃と思われる。

**出土遺物**　細片のため図示し得るものはない。

SE202（Fig,43・53、PL,19、Tab, 9）

調査区北東部に位置する。SC207、SB01を切っている。平面形は円形で掘方は円筒状である。規模は他と比較して小さい。深さは1.37mを測る。埋土は5層に分かれる。第1層は黒褐色粘質土で砂礫を含む。第2～4層は暗褐色～黒褐色粘質土で黄白色粘土小塊を多く含む。第5層は黒灰色粘質土である。

**出土遺物**　第4層からの出土遺物を図示した。弥生時代中期末～後期前半の甕288、壺289・290・291がある。

SE230（Fig,43・53・58、PL,19・23、Tab, 9）

調査区東壁中央部に位置する。SB21、SC231を切っている。平面形は不整な円形で、掘方は円筒状である。底部に向かってすぼまっている。本調査区で検出された中では最も規模が大きい井戸である。東側壁中位は一部が崩落している。埋土は大きく3層に分かれる。第1層は暗褐色～黒褐色粘質土で細分は可能であるがほぼ掘方中位まで単純層である。第2層は黒褐色粘質土で、中位から約46cmの層厚でレンズ状に堆積。第3層は黒灰色粘土で白色粘土塊を多く含む。

**出土遺物**　第2層と第3層の境に弥生時代後期半ば前後の土器の大小の破片がまとまって出土している。図示したのは弥生時代後期後半の器台292、壺293・294である。いずれも投棄された状況で出土。また投弾354が第1層から出土している。

SE260（Fig,43・53、Tab, 9）

調査区東壁南側に位置する。SC259から東側半分を切られている。平面形は円形で、東壁は二段掘りとなっており、幅約45cmの平坦面を作り出している。掘方は浅く、深さは1.54mを測る。埋土は暗茶褐色粘質土の単一層で、弥生土器小片が出土している。弥生時代終末頃の井戸か。

**出土遺物**　ほとんどが小片である。図示したものは弥生時代後期後半から終末にかかる甕295と壺296である。

SE315（Fig,43・54、PL,19、Tab, 9）

SE230の西側にほぼ接している。SC231を切っている。平面形は円形で、掘方は円筒状である。西側壁上部に幅20cmほどの平坦面を作り出している。埋土は大きく7層に分かれる。第

1層は暗褐色粘質土、第2～4層は暗褐色～黒褐色粘質土で黄白色および黄褐色粘土塊を多く含む土層である。弥生土器片を多く含み軟質である。第5層と第6層は中位から下部にかけて堆積している黒褐色～黒灰色粘質土で第6層がやや砂礫を多く含む。第7層は最下部に層厚約50cmで堆積している黒色粘質土で灰白色粘土塊、植物遺体を含む。廃絶時期は弥生時代後期半ばと考えられる。

**出土土器**　弥生時代後期前半～半ばの土器が第7層でまとまって出土している。甕297、壺298～301がある。298以外は底部がわずかに丸みがある平底である。

**SE378** (Fig, 43・54、PL, 19、Tab, 9)

調査区南側に位置する。SC366の床面下で検出した。平面形は不整な円形で掘方は円筒状である。深さは1.52mを測る。埋土は4層に分かれる。第1層は暗褐色～暗灰褐色粘質土。第2層は黒灰色粘質土。第3層は黒灰色粘質土で黄白色粘土塊を多く含む。最下層の第4層は黒色粘質土である。約60cm厚で底部に堆積している。底面に弥生時代後期後半～終末の土器が出土。

**出土土器**　第4層の出土遺物を図示した。丸底をなす甕304以外はわずかに丸みのある平底の壺302・303である。

**SE448** (Fig, 43・54・55、PL, 19・23、Tab, 9)

調査区東南部に位置する。平面形は楕円形で掘方は円筒状である。西壁中位が一部崩落している。埋土は大きく5層に分かれる。第1層は暗褐色粘質土で木炭片、弥生土器小片を多く含む。第2～4層はいずれも暗褐色～黒褐色粘質土で黄褐色粘土・黄白色粘土塊を含む。第5層は底面から30～45cm厚で堆積している黒灰色粘土層で黄白色粘土塊を多く含んでいる。第4層～第5層からは弥生時代中期末～後期後半の土器片が出土している。

**出土遺物**　最下層の第5層の遺物を図示した。いずれも弥生時代後期後半から終末にかかる壺305・306、高杯307、甕308である。305・306の表面は丁寧なヘラミガキが施され、穿孔が肩部にみられる。

**SE449** (Fig, 43・55、PL, 19・23、Tab, 9)

調査区東南部に位置する。平面形は円形である。上部を削平されている。壁面中位が崩落し断面形は袋状をなしているが掘方は円筒状である。埋土は3層に分かれる。第1層と第2層は暗褐色～黒褐色粘質土で木炭片・植物遺体を含む。第3層は黒灰色粘土層で黄白色粘土塊を多く混入している。

**出土遺物**　弥生時代終末の完形の壺309が底面から20cm浮いた状態で1点出土している。底部はやや厚手の丸底である。口縁部は端部がわずかに外反している。

**SE489** (Fig, 44・55・58、PL, 20、Tab, 9)

調査区西南壁東側に一部かかって検出した。検出されたなかで最も規模が大きく深さ2.80mを測る。平面形は円形で、掘方は円筒状である。壁面中位が一部崩落している。埋土は8層に分かれる。第1層は暗褐色粘質土でよくしまっている。第2～4層は暗褐色～暗灰褐色粘質土

で、上部から中位にかけて堆積しており、砂礫、弥生土器小片を多く含んでいる。第5層は黄白色粘土層で壁の崩落土である。第6層は黒褐色粘質土、第7層は黒灰色粘質土で黄白色粘土小塊を多く含む。第8層は黒色粘土層で植物遺体を含む。湧水面は標高4.3m前後の面である。廃絶時期は弥生時代後期前半から半ば頃と思われる。

**出土遺物**　図示したものは第6～7層にかけて出土したものである。弥生時代後期初頭から前半にかかる甕311・313～315、壺318が出土。壺底部片312は318と比べてやや新しいと思われる。その他投弾355がある。

SE500（Fig,44・56、PL,19・24、Tab, 9）

調査区南側に位置している。SE489とSE506に隣接している。平面形は円形で、掘方は壁面中位がやや膨らんだ円筒形をなす。深さは2.23mを測る。埋土は大きく4層に分かれる。第1層は黒褐色粘質土。第2～3層は暗灰褐色粘質土で黄褐色粘土小塊を多く含む。上部から中位にかけて堆積している。第4層は黒色粘質土で弥生時代後期後半～終末の土器が投棄された状況で出土している。

**出土遺物**　図示したものは第4層黒色粘質土から出土した一括遺物である。弥生時代後期後半から終末に位置づけられるもので、鉢319、短頸壺320、壺321・322・324・325がある。320と321の底部はほぼ丸底となっているが、他は丸みのある小さな平底である。324の胴部下半には内面からの加圧による穿孔がある。323は器台脚部片と思われる。下端には弱い三角突帯を貼付け、櫛描による三角文を端部に巡らしている。特定は難しいが外来系と思われる。

SE506（Fig,44・57、PL,20・24、Tab, 9）

調査区南側で検出した。SE500の北側に位置する。平面形はやや不整な円形で、掘方は西側壁に平坦な面を作り出した二段掘となっており、井筒には板材もしくはくり貫き材を用いている。井筒の遺存状況は非常に悪く、ほとんど表皮を残すのみである。井筒は長径0.88m、矩径0.50m、高さは現存約0.20mを測る。井筒内から弥生時代終末から古墳時代前期の完形土器および土器片が出土している。

**出土土器**　弥生時代後期後半～終末の手捏土器326、壺327・328、333～335と古墳時代前期の甕329、高杯330、壺331、広口坩332が出土している。甕329と壺331は外来系のものである。

SE625（Fig,44・57、Tab, 9）

調査区南側、SE506の北側に位置する。SC366の床面下で検出した。平面形は円形で掘方は円筒形をなす。深さは2.1mである。埋土は大きく6層に分かれる。第1層は黒褐色粘質土で木炭片や砂礫を含みよくしまっている。第2層から第4層は井戸掘方内中位にレンズ状に堆積している。黒褐色粘質土で黄褐色粘土塊、白色粘土塊、木炭片、弥生土器片を多く含んでいる。第5層は白色粘土と黒褐色粘質土の混合土である。第6層は黒褐色～黒灰色粘質土で樹木片を含んでいる。

**出土遺物**　遺物は弥生時代の小片と、弥生時代後期後半の甕339が出土している。

## Tab. 9　第42次調査　井戸一覧表

a；長軸、b；短軸、c；深さ　　＊深さは検出面からの計測値

| Fig. | PL | 遺構(SE) | 平面形 | 断面形 | 計測値(m) a | b | c | 底面標高(m) | 先後関係(先→後) | 出土遺物概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 42 | 18 | 15 | 円　形 | 円筒形 | 1.22 | 1.03 | 2.10 | 3.45 | SE74→SE15 | 232～236 |
| 42 | 18 | 16 | 〃 | 〃 | 1.07 | 0.98 | 1.84 | 4.45 | ―― | 237～239 |
| 42 | ― | 30 | 〃 | 〃 | 1.23 | 1.15 | 2.72 | 3.88 | SB01→SE30 | 240～250 |
| 42 | 18 | 47 | 〃 | 〃 | 1.00 | 0.94 | 2.52 | 4.10 | ―― | 251～256 |
| 42 | 18 | 74 | 〃 | 〃 | 1.35 | 1.31 | 2.73 | 3.50 | SE74→SE15 | 257～281・370～373 |
| 42 | 18 | 123 | 〃 | 〃 | 0.93 | 0.89 | 2.08 | 3.10 | SB16→SE123<br>SX84→ | 282～285 |
| 42 | 18 | 162 | 〃 | 〃 | 1.11 | 1.23 | 2.40 | 4.20 | SB05→SE162 | 286～287 |
| 42 | ― | 168 | 〃 | 〃 | 1.09 | 0.90 | 2.21 | 4.20 | ―― | ―― |
| 43 | 19 | 202 | 〃 | 〃 | 0.81 | 0.79 | 1.37 | 4.83 | SC207→SE202 | 288～291 |
| 43 | 19 | 230 | 〃 | 〃 | 1.50 | 1.14 | 2.26 | 3.79 | SB21・SC231→SE230 | 292～294・354 |
| 43 | ― | 260 | 〃 | 〃 | 1.75 | 1.63 | 1.34 | 5.00 | SE260→SC259 | 295～296 |
| 43 | 19 | 315 | 〃 | 〃 | 1.48 | 1.36 | 2.16 | 4.03 | SC231→SE315 | 297～301 |
| 43 | 19 | 378 | 〃 | 〃 | 0.97 | 0.86 | 1.52 | 4.61 | SE378→SC366 | 302～304 |
| 43 | 19 | 448 | 〃 | 〃 | 1.07 | 0.88 | 2.12 | 3.91 | SE448→SB18 | 305～308 |
| 43 | 19 | 449 | 〃 | 〃 | 0.83 | 0.83 | 1.66 | 4.03 | ―― | 309 |
| 44 | 20 | 489 | 〃 | 〃 | 1.19 | 1.17 | 3.12 | 3.44 | ―― | 311～318・355 |
| 44 | 19 | 500 | 〃 | 〃 | 0.93 | 0.83 | 2.23 | 3.86 | ―― | 319～325 |
| 44 | 20 | 506 | 〃 | 〃 | 1.80 | 1.16 | 0.80 | 5.45 | ―― | 326～335 |
| 44 | ― | 625 | 〃 | 〃 | 1.10 | 1.07 | 2.01 | 3.98 | SE625→SC366 | 339 |
| 39 | ― | 651 | 〃 | 〃 | 1.17 | 0.95 | 1.27 | 5.12 | SE651→SC366 | ―― |

**SE651**（Fig,39、Tab, 9）

調査区南側、SE378の南に位置する。SC366の床面下で検出した。平面形は円形で掘方は円筒形をなす。深さは1.27mで浅い。埋土は黒灰褐色粘質土で、ほぼ単一層である。

**出土遺物**　遺物は弥生土器小片のみで図示できるものはない。弥生時代終末から古墳時代前期にかかるものか。

## (6)土壙（SX）

調査区全体に平面形が不整な円形または不定形の掘方を持つ土壙が点在しており、総数で37基を数える。断面形は浅皿状のもの、舟底状のもの、逆台形のもの等があり、平面規模は50～110cm、深さは15～80cmを測る。特徴的なSX629について述べる。

**SX629**（Fig,44、PL,20）

広形銅矛鋳型が出土した古墳時代住居跡SC324の南側に位置している。平面形は長楕円形で北側半分がやや幅が広い。長さ1.67m、最大幅0.78mを測る。横断面は舟底状をなしており、深さは0.46mである。東西両側壁の北側半分および北壁はかなり強い火を受けたと思われ、地山の黄褐色粘質土が赤橙色に変色している。埋土は暗褐色土で下部には木炭層が厚さ2cm前後の層をなして分布している。土壙周辺および土壙を覆っていた暗灰褐色土中にも焼土および木炭粒の分布が認められたことから、SX629は、鋳造に関係した何らかの土壙だったと考えられる。また鋳型の出土と合わせて考えると、SX629の周辺は鋳造に関する工房の一画だった可能性がある。

**出土遺物**　小片のため図示できないが、弥生時代中期後半から後期半ば前後の細片が出土している。

## (7)小結

本調査区では、弥生時代中期末から古墳時代前期、後期の遺構が非常に高い密度で重複して遺存していることがわかった。特に弥生時代後期後半の遺構の数および出土遺物の量はその前後の時期を圧倒しており、周辺の調査例も含めて考えると弥生時代後期における質的な変換を物語っている。これに関連して、本調査区で特筆すべき遺物は、SC224から出土した広形銅矛鋳型である。第40次調査で出土した取瓶とともに弥生時代後期後半～末における比恵遺跡の青銅器生産の実態を知る上で重要な資料といえる。この鋳型は古墳時代住居跡SC324からの出土であるが、本来はその下層において認められた弥生期の竪穴に含まれていた可能性が高い。また、周辺で確かめられた弥生時代後期後半～終末期の小竪穴(SC453)、土壙SX629も併せて考えると、当該調査区周辺に青銅製品の製作工房があった可能性がある。

## Tab,10　第42次調査掲載土器所見一覧

：法量の口径は外径、器台は台上部径、（　）は復元値

| Fig. | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 器種 | 法量(cm) 口径 | 器高 | 底径 | 胴部径 | 形態的特徴 成形上の手法 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 45 | — | 196 | 329 | 壺 | 19.4 | — | — | — | 頸部～口縁部片。外面はタテハケ、内面から口縁部はヨコナデ。口縁部は粘土紐を内傾させ貼付。 | 黄褐色 | やや粗い | やや不良 | SB01(SP36) |
| 45 | — | 197 | 330 | 甕 | — | — | — | — | 口縁部片。はね上げ口縁。口縁下部には三角突帯貼付。器面は磨耗し調整痕は不明。 | 明黄褐色 | 良 | 不良 | SP94 |
| 45 | — | 198 | 331 | 壺 | 17.1 | — | — | — | 頸部～口縁部片。外面はタテハケ、内面～口縁部はヨコナデ。口縁部は肥厚気味で、内傾。 | 明黄褐色 | やや粗い | 不良 | SP119 |
| 45 | — | 199 | 334 | 器台 | — | 9.0 | 10.0 | — | 底部片。内外面に指頭痕。ナデ仕上げ。 | 淡赤褐色 | 極て粗い | 不良 | SP294 |
| 45 | 21 | 200 | 333 | 器台 | 6.5 | 13.1 | 9.0 | — | 完形品。内外面に指頭痕。ナデ仕上げ。 | 淡黄褐色 | 極て粗い | 不良 | SP294 |
| 45 | 21 | 201 | 332 | 器台 | 9.2 | 15.7 | 10.4 | — | 完形品。内外面に指頭痕。ナデ仕上げ。 | 淡黄白～淡赤褐色 | 極て粗い | やや不良 | SP294 |
| 45 | 21 | 202 | 335 | 小型鉢 | 11.6 | 7.9 | 5.1 | — | 完形品。内外面ともハケ目調整後ナデ。体部中央に三角突帯貼付。 | 赤褐色 | 粗い | やや良好 | SP323 |
| 45 | — | 203 | 336 | 鉢 | 16.7 | 8.7 | 5.7 | — | 完形品。胴部下端に指圧痕。外面ハケ。 | 淡赤褐色 | やや不良 | 不良 | SP323 |
| 45 | — | 204 | 341 | 壺 | 9.0 | — | — | — | 底部片。外面は赤色顔料塗布後ヘラミガキ。 | 赤褐色 | 良好 | やや不良 | SP376 |
| 45 | — | 205 | 337 | 甕 | (24.0) | — | — | — | 口縁部破片。胴部は内傾し口縁は「く」字形に外反。内面ヨコナデ。 | 赤褐色 | 細かい | やや不良 | SP308 |
| 45 | — | 206 | 343 | 甕 | — | — | — | — | 口縁部片。「く」字形に屈曲。 | 暗褐色 | やや粗い | 不良 | SP400 |
| 45 | — | 207 | 342 | 器台 | — | — | 7.8 | — | 底部片。 | 黄～明褐色 | やや粗い | 不良 | SB07(SP402) |
| 45 | — | 208 | 338 | 高杯 | — | — | — | — | 脚部片。外面は赤色顔料塗布後ヘラミガキ。 | 赤褐色 | 細かい | やや良 | SP308 |
| 45 | 21 | 209 | 339 | 甕 | 16.0 | 20.2 | — | 19.6 | ほぼ完形品。外面肩部には叩き痕、内面はヘラミガキ痕。胴部下半はナデ。口縁端部をわずかに引き出す。 | 淡褐色 | 粗い | やや良好 | SB10(SP361) |
| 45 | — | 210 | 340 | 壺 | — | — | 7.8 | — | 底部片。 | 明褐色 | 細かい | 良 | SB07(SP402) |
| 45 | — | 211 | 344 | 壺 | — | — | 6.8 | — | 底部片。内外面ともナデ。 | 褐色 | やや細い | やや不良 | SB07(SP402) |
| 45 | — | 212 | 345 | 壺 | — | — | 6.8 | — | 底部～胴部片。底部はわずかに丸み有り。 | 暗褐色 | やや粗い | 良 | SB13(SP451) |
| 46 | — | 213 | 310 | 壺 | 20.4 | — | — | — | 頸部～口縁部片。内外面丁寧なヨコナデ。 | 褐色 | やや粗い | 不良 | SC231 |
| 46 | — | 214 | 311 | 甕 | 32.0 | — | — | — | 口縁部片。胴部は若干内傾。ヨコナデ。 | 褐色 | やや粗い | 不良 | SC231 |
| 46 | — | 215 | 312 | 高杯 | 25.8 | — | — | — | 杯部片。内外面赤色顔料塗布後ヘラミガキ。 | 赤褐色 | 良 | 不良 | SC231 |
| 46 | — | 216 | 313 | 甕 | 36.1 | — | — | — | 口縁部片。内外面ナデ。 | 褐色 | 粗い | 不良 | SC231 |
| 46 | — | 217 | 316 | 甕 | 21.0 | — | — | — | 口縁部片。胴部は若干内傾。 | 明褐色 | やや粗い | 不良 | SC324 |
| 46 | — | 218 | 315 | 甕 | 26.8 | — | — | — | 口縁部片。 | 明褐色 | やや粗い | やや不良 | SC324 |

：法量の口径は外径、器台は台上部径、（　）は復元値

| Fig. | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 器種 | 法量(cm) 口径 | 器高 | 底径 | 胴部径 | 形態的特徴 成形上の手法 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 46 | — | 219 | 314 | 甕 | 18.0 | — | — | — | 口縁部片。内面ヘラケズリ。 | 明黄褐白色 | やや細い | 不良 | SC324 |
| 46 | — | 220 | 317 | 甕 | 32.0 | — | — | — | 口縁部片。口縁部下端に三角突帯貼付。 | 黄褐白色 | 粗い | 不良 | SC324 |
| 46 | 21 | 221 | 322 | 鉢 | 6.9 | 4.5 | 2.4 | — | 手捏土器。底部は丸み有り。 | 淡赤黄色 | 粗い | やや良好 | SC366 |
| 46 | — | 222 | 323 | 甕 | 20.8 | — | — | — | 口縁部片。 | 淡赤色 | 極て粗い | 不良 | SC366 |
| 46 | — | 223 | 324 | 壺 | 22.0 | — | — | — | 口縁部片。 | 淡褐色 | やや粗い | やや不良 | SC366 |
| 46 | — | 224 | 321 | 高杯 | 11.2 | — | — | — | 脚～杯部片。外面はハケ目後ナデ。 | 明褐色 | 良好 | やや不良 | SC366 |
| 46 | — | 225 | 318 | 器台 | — | 12.0 | — | — | 底部欠損品。台部孔有り、一部嘴状。 | 明褐色 | やや粗い | 不良 | SC366 |
| 46 | — | 226 | 320 | 甕 | (28.0) | — | — | — | 口縁部片。口縁は「く」字形に外反。 | 褐色 | やや良 | 不良 | SC366 |
| 46 | — | 227 | 319 | 甕 | (32.0) | — | — | — | 口縁部片。口縁は強く外反。内面ナデ。 | 淡褐白色 | やや粗い | やや不良 | SC366 |
| 46 | — | 228 | 328 | 甕 | 22.0 | — | — | — | 口縁部片。口縁は「く」字形に外反。 | 褐色 | 粗い | 不良 | SC419 |
| 46 | — | 229 | 327 | 甕 | 30.8 | — | — | — | 口縁部片。内外面丁寧なヨコナデ。 | 明褐色 | 良 | 良 | SC419 |
| 46 | — | 230 | 326 | 甕 | 30.0 | — | — | — | 口縁部片。口縁は逆「L」字形に外反。 | 明褐色 | 細い | 不良 | SC453 |
| 46 | — | 231 | 325 | 鉢 | — | — | 8.9 | — | 底部片。器面は磨耗し調整痕不明瞭。 | 褐色 | やや粗い | 不良 | SC453 |
| 47 | 21 | 232 | 201 | 長頸壺 | 6.8 | 11.5 | 4.7 | 13.4 | 頸部内面から外面、体部下半はハケ目調整後ヨコナデ。肩部はタテハケ。底部はわずかに丸み有り。 | 明褐色 | やや粗い | 良 | SE15 |
| 47 | — | 233 | 203 | 甕 | 14.0 | — | — | — | 器壁は内外面とも荒れ調整痕不明。 | 明褐色 | やや粗い | 不良 | SE15 |
| 47 | — | 234 | 205 | 甕 | — | — | — | — | 胴部欠損品。底部はハケ目後ナデ。 | 灰褐色 | やや粗い | やや不良 | SE15 |
| 47 | 21 | 235 | 204 | 長頸壺 | 9.7 | 18.45 | 6.7 | 15.4 | 頸部内面から外面、体部下半はハケ目調整後ヨコナデ。肩部はタテハケ。底部はわずかに丸み有り。 | 明～灰褐色 | やや良 | やや良 | SE15 |
| 47 | — | 236 | 202 | 甕 | 15.0 | 17.8 | 5.7 | 17.9 | 口縁部1/2欠損。口縁部の屈曲はやや弱い。内外面ともタテハケ。底部はわずかに丸み有り。 | 褐～黒灰色 | やや粗い | やや不良 | SE15 |
| 47 | 21 | 237 | 206 | 小形壺 | 5.9 | 8.2 | 5.1 | 9.2 | 完形品。内面はヨコナデ。外面はヘラミガキ。口縁端部を内側へわずかに引き出す。胴部最大径は下半より下位。 | 淡灰褐色 | やや粗い | 不良 | SE16 |
| 47 | — | 238 | 208 | 壺 | 16.9 | 30.0 | 6.65 | 22.5 | 約1/4欠損品。底部はやや丸み有り。下部に穿孔。内底部はカキトリ後軽くナデケシ。 | 灰～黒褐色 | やや粗い | 良好 | SE16 |
| 47 | 21 | 239 | 207 | 壺 | 25.7 | 39.0 | 9.3 | 27.5 | 完形品。内側はハケ目を残す。外面はハケ目調整後軽くナデケシ。胴部中央刻目突帯、頸部下端に三角突帯。肩部に浮文を貼付(双耳の表現か)。 | 灰褐色 | やや粗い | 不良 | SE16 |
| 48 | 21 | 240 | 217 | 長頸壺 | 5.8 | 10.1 | 2.6 | 11.2 | ほぼ完形。頸部は縦方向、肩部は横位のヘラミガキ、下半部はナデ。底部はわずかに丸み有り。 | 灰～灰黒色 | やや細い | 良 | SE30 |

：法量の口径は外径、器台は台上部径、（　）は復元値

| Fig, | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 器種 | 法量(cm) 口径 | 器高 | 底径 | 胴部径 | 形態的特徴 成形上の手法 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 48 | — | 241 | 218 | 壺 | 17.2 | — | — | — | 頸部～口縁部片。口縁部外面屈曲部にヘラによる刻み目有り。 | 褐～灰黒色 | やや細い | 良 | SE30 |
| 48 | — | 242 | 209 | 壺 | 15.6 | — | — | — | 口縁部片。口縁部は直立。 | 灰白褐色 | やや粗い | 良好 | SE30 |
| 48 | — | 243 | 213 | 壺 | 20.6 | — | — | — | 頸部～口縁部片。口縁部はヨコナデ、内外面ともヨコハケ、タテハケ目調整。 | 明褐色 | 粗い | 不良 | SE30 |
| 48 | — | 244 | 215 | 壺 | 25.0 | — | — | — | 頸部～口縁部片。口縁部はヨコナデ、内外面ともヨコハケ、タテハケ目調整。 | 褐色 | やや粗い | 良 | SE30 |
| 48 | — | 245 | 214 | 壺 | 28.4 | — | — | — | 頸部～口縁部片。口縁部はヨコナデ、内外面ともヨコハケ、タテハケ目調整。 | 褐色 | やや粗い | 良 | SE30 |
| 48 | — | 246 | 219 | 壺 | 27.8 | — | — | — | 頸部～口縁部片。口縁部はヨコナデ、内外面ともヨコハケ、タテハケ目調整。口縁部は直線的に内傾。端部を引き出す。 | 明褐白～明淡灰褐白色 | やや細い | 良 | SE30 |
| 48 | — | 247 | 210 | 甕 | — | — | 9.0 | — | 底部片。わずかに丸み有り。外底にはハケ目残す。 | 褐～灰黒色 | やや粗い | やや不良 | SE30 |
| 48 | 21 | 248 | 216 | 甕 | 17.8 | 22.3 | 6.5 | 17.5 | 完形品。口縁部は「く」形に外反。内外面ハケ目調整。底部端部が外に張り出す。外面に炭化物付着。 | 黒褐色 | 良 | 良 | SE30下層 |
| 48 | — | 249 | 211 | 壺 | — | — | 8.4 | — | 底部片。内外面ともハケ目調整。底部はわずかに丸み有り。 | 灰褐色 | 細かい | 不良 | SE30 |
| 48 | — | 250 | 212 | 鉢 | 26.5 | 10.0 | 6.9 | — | 欠損品（1/4）。内面はヘラナデ。底部は丸み有り、ハケ目調整後ナデケシ。 | 灰色 | やや細い | 良 | SE30 |
| 48 | 21 | 251 | 221 | 小型鉢 | 9.4 | 6.6 | 4.6 | 7.6 | 完形品。外面はタテハケ調整。内面は指圧痕を残す。口縁は外反。 | 黄褐～黒色 | 細い | 良 | SE47 |
| 48 | — | 252 | 222 | 壺 | 12.0 | — | — | — | 頸部から口縁部片。内面ナデ。外面赤色顔料塗布後ヘラミガキ。 | 明褐色 | やや粗い | 不良 | SE47 |
| 48 | 21 | 253 | 220 | 壺 | 10.0 | 14.0 | 5.2 | 13.8 | ほぼ完形品。内外面とも赤色顔料塗布。外面は丁寧なヘラミガキ。胴部中位に鉤状突起痕が残る。 | 赤褐色 | 良好 | やや不良 | SE47 |
| 48 | — | 254 | 223 | 壺 | — | — | 8.1 | 21.0 | 胴部片。内面タテハケ。外面は赤色顔料塗布後ヘラミガキ。中位は横方向のヘラミガキ。底部はわずかに丸み有り。 | 赤褐色 | 良 | 良 | SE47 |
| 48 | 21 | 255 | 225 | 壺 | 16.8 | 17.8 | 8.9 | 21.0 | 完形品。頸部内面から外面には、赤色顔料を塗布。頸部中位に2カ所穿孔。外面はタテハケ。 | 内：褐色<br>外：赤褐色 | やや粗い | 良 | SE47 |
| 49 | — | 256 | 224 | 大型甕 | 58.0 | — | — | — | 口縁部片。体部は内傾し、逆「L」形の口縁部。口縁下に台形突帯を貼付。内外面ともナデ仕上げ。 | 明褐色 | 良 | 良 | SE47 |
| 49 | 21 | 257 | 242 | 甕 | 17.1 | 26.2 | 6.1 | 28.0 | 完形品。作りが上質。球形の胴部から「く」字形に口縁部が屈曲。底部わずかに丸み有り。 | 赤褐色～黒褐色 | やや細い | やや良 | SE74 |

：法量の口径は外径、器台は台上部径、（　）は復元値

| Fig, | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 器種 | 法量(cm) 口径 | 器高 | 底径 | 胴部径 | 形態的特徴 成形上の手法 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 49 | 21 | 258 | 233 | 甕 | 16.2 | 34.6 | 8.6 | 28.6 | ほぼ完形品。全体的に作りが丁寧。内外面ともハケ目調整。口縁部ヨコナデ。口縁端部をわずかに摘み出す。 | 明褐～明褐白色 | やや粗い | 良 | SE74 |
| 49 | － | 259 | 229 | 小型甕 | 13.0 | － | － | 17.6 | 底部欠損品。器面が摩耗し、調整痕不明。 | 明黄褐白色 | 良 | 良 | SE74 |
| 49 | － | 260 | 234 | 甕 | 13.3 | 15.6 | 7.5 | － | 1/2欠損品。器表面は摩耗し、調整痕は不明瞭。内外面、外底ともハケ目調整。底部はわずかに丸み有り。 | 褐色 | 細い | 不良 | SE74 |
| 49 | － | 261 | 231 | 壺 | 12.1 | 22.0 | 1.9 | 15.5 | 口縁部1/4欠損。外面はタテハケ。内面はヨコナデ。内面はヨコハケの後軽くナデケシ。 | 灰褐色 | やや粗い | 不良 | SE74 |
| 50 | 22 | 262 | 249 | 壺 | 10.5 | 19.9 | 6.5 | 15.1 | ほぼ完形品。頸部内面、底部内外底はナデ。他はタテハケ。底部と胴部の境は不明瞭。肩部の張りは弱い。 | 明褐白色 | やや粗い | やや不良 | SE74 |
| 50 | 22 | 263 | 226 | 壺 | 12.5 | 21.5 | 8.2 | 23.0 | 完形品。球形に近い胴部。底部はわずかに丸み有り。内外面・底部はハケ目調整。胴部中位は丁寧なハケ仕上げ。 | 淡灰褐～暗褐色 | やや良 | 良 | SE74 |
| 50 | 22 | 264 | 235 | 壺 | 15.5 | 28.5 | 9.5 | 24.9 | ほぼ完形品。内外面ともハケ目調整。胴部下半はナデケシ。頸部は球形の胴部から外湾しながら立ち上がる。 | 明褐色 | やや粗い | やや良 | SE74 |
| 50 | 22 | 265 | 247 | 壺 | 15.4 | 28.5 | 9.5 | 17.4 | 完形品。内外面とも斜位のハケ目調整。胴部はほぼ球形で、やや丸みのある平底。外底はハケ目調整後ナデケシ。 | 灰～黒褐色 | やや粗い | 良 | SE74 |
| 50 | 22 | 266 | 246 | 甕 | 18.4 | 33.7 | 9.1 | 27.4 | 完形品。口縁部は強く外反。胴部内外面はハケ目。底部はわずかに丸み有り。 | 淡黄白～淡赤褐色 | 粗い | 良好 | SE74 |
| 51 | 23 | 267 | 248 | 壺 | － | － | 9.8 | 26.9 | 口縁部欠損品。外面はタテハケ後部分的にナデケシ。内面は板小口によるカキトリ。底部はわずかに丸み有り。 | 褐白色 | やや粗い | やや不良 | SE74 |
| 51 | 22 | 268 | 243 | 壺 | 22.0 | 37.0 | 7.2 | 26.6 | 完形品。長胴の中央部、頸部下に三角突帯を貼付。内外面ともハケ目調整。胴部下半はナデケシ。底部は丸みあり。 | 灰～褐白色 | やや粗い | 良 | SE74 |
| 51 | － | 269 | 244 | 壺 | 22.0 | 37.0 | 8.4 | 29.7 | 完成品。胴部中位、頸部下端に三角突帯貼付。外面はハケ目後ナデ消し。底部はわずかに丸みあり。 | 褐色 | 良 | やや不良 | SE74 |
| 51 | 22 | 270 | 245 | 壺 | 26.3 | 39.0 | 8.9 | 29.2 | 完形品。胴の中央部、頸部下に三角突帯を貼付。口縁端部はわずかに外反。底部は丸みあり。 | 灰～灰褐色 | 良 | やや不良 | SE74 |
| 52 | 22 | 271 | 232 | 鉢 | 4.0 | 3.6 | 2.2 | － | 手捏土器完形品。鉢形で、全面に指頭痕を残す。（ミニチュア土器） | 淡褐白色 | やや粗い | 良好 | SE74 |
| 52 | 22 | 272 | 227 | 小型鉢 | 10.0 | 9.6 | 6.2 | 10.7 | 完形品。外面はタテハケ。内面はユビナデ。口縁部は内傾し丸くおさめる。 | 黒褐色 | 粗い | やや不良 | SE74 |
| 52 | － | 273 | 230 | 甕 | － | － | 6.5 | － | 底部片。底部下端はヘラ状のものによるカキトリ。外面はタテハケ。内面はヘラ？ナデ。 | 淡灰褐白色 | やや粗い | やや不良 | SE74 |

：法量の口径は外径、器台は台上部径、（　）は復元値

| Fig. | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 器種 | 法量（cm） 口径 | 器高 | 底径 | 胴部径 | 形態的特徴 成形上の手法 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 52 | 23 | 274 | 236 | 壺 | － | － | 6.8 | 19.0 | 口縁部欠損品。複合口縁でなく、短頸壺の可能性もある。底部はわずかに丸み有り。 | 淡灰褐白色 | 粗い | 不良 | SE74 |
| 52 | 23 | 275 | 250 | 壺 | 18.0 | 31.1 | 9.6 | 25.2 | 複合口縁部欠損品。内外面ともハケ目調整。内面はカキトリ。底部はわずかに丸み有り。頸部下端に三角突帯あり。 | 外：黄茶褐色<br>内：暗茶褐色 | やや不良 | 不良 | SE74 |
| 52 | 23 | 276 | 241 | 長頸壺 | 9.7 | 18.8 | 6.0 | 16.9 | ほぼ完形品。外面にはハケ目調整後暗文がヘラにより施文。内面はハケ目を軽くナデケシ。底部わずかに丸み有り。 | 淡灰褐色 | 粗い | やや良 | SE74 |
| 52 | 23 | 277 | 239 | 長頸壺 | 7.8 | 15.0 | 5.3 | 14.7 | 口縁部1/2欠損。内面～口縁部、胴部中位はナデ。他はハケ目。肩部は強めにハケ目をいれ文様的。底部はやや丸い。 | 淡灰白色 | 粗い | 良好 | SE74 |
| 52 | 23 | 278 | 240 | 壺 | － | 18.4 | 5.8 | 17.7 | 口縁部欠損品。肩から頸部はタテハケ。胴部中位から底部はハケ目後ナデ。底部はわずかに丸み有り。 | 淡褐～赤褐色 | やや粗い | やや良好 | SE74 |
| 52 | － | 279 | 228 | 高杯 | 脚高 13.9 | | 18.6 | － | 脚部片。外面は赤色顔料塗布後縦方向のヘラミガキ。内面はハケ目調整。三方に径1.5cmの穿孔有り。 | 明褐色 | 細い | 良 | SE74 |
| 52 | 23 | 280 | 237 | 器台 | 10.0 | 9.3 | 11.0 | － | ほぼ完形品。内外面ナデ仕上げ。底部内面はカキトリ。 | 内：淡褐色<br>外：淡黄褐色 | 粗い | 良好 | SE74 |
| 52 | 23 | 281 | 238 | 器台 | 11.4 | 13.6 | 12.7 | － | 完形品。全面に指圧痕残る。内面中央はナデ仕上げ。 | 暗灰褐色 | 極て粗い | 良好 | SE74 |
| 53 | － | 282 | 255 | 甕 | 26.4 | － | － | － | 口縁部片。「く」字形に屈曲。 | 褐色 | 細い | 良好 | SE123（下層） |
| 53 | － | 283 | 253 | 甕 | 24.8 | － | － | － | 口縁部片。内面はハケ目の後ナデ。 | 灰色 | 粗い | やや良 | SE123（下層） |
| 53 | － | 284 | 254 | 壺 | 25.2 | － | － | － | 口縁部片。口縁部は直線的に内傾。 | 褐色 | 細い | 良 | SE123（下層） |
| 53 | － | 285 | 252 | 壺 | － | － | 4.0 | － | 底部片。内面は指圧痕残る。 | 暗褐色 | やや粗い | やや良 | SE123 |
| 53 | 23 | 286 | 257 | 甕 | 17.0 | 19.5 | 7.2 | 17.1 | 完形品。口縁部は直線的に外反。底部はわずかに丸みある平底。内面はカキトリ後ナデ。 | 赤褐色 | やや粗い | 良好 | SE162 |
| 53 | 23 | 287 | 256 | 壺 | 11.3 | 23.7 | 7.5 | 19.0 | やや長めの胴部にわずかに外傾する頸部がつく。底部は丸みのある平底。外面はタテハケ。内面はカキトリ後ナデ。 | 赤褐色 | 細い | 良好 | SE162 |
| 53 | － | 288 | 260 | 甕 | － | － | 6.6 | － | 底部片。わずかに丸み有り。 | 黒褐色 | やや粗い | 不良 | SE202 |
| 53 | － | 289 | 259 | 壺 | － | － | 9.3 | － | 底部片。外面タテハケの後ナデ。 | 灰褐色 | 粗い | 良 | SE202 |
| 53 | － | 290 | 258 | 壺 | 20.6 | － | － | － | 袋状口縁部片。口縁部はヨコナデ。外面はタテハケ。 | 明黄褐色 | 粗い | 不良 | SE202 |
| 53 | － | 291 | 261 | 壺 | 10.3 | － | － | 14.7 | 肩部～袋状口縁部片。肩部に線刻有り。 | 暗褐色 | やや細い | 不良 | SE202 |
| 53 | － | 292 | 263 | 器台 | 15.0 | 18.0 | 15.6 | － | ほぼ完形品。内外面ともに丁寧なハケ目調整。脚部は中位でやや開く。 | 明褐色 | 粗い | やや不良 | SE230 |

：法量の口径は外径、器台は台上部径、（　）は復元値

| Fig. | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 器種 | 法量（cm） 口径 | 器高 | 底径 | 胴部径 | 形態的特徴 成形上の手法 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 53 | 23 | 293 | 262 | 壺 | － | － | 7.5 | 15.3 | 口縁部欠損品。頸部下端に三角突帯貼付。胴部はハケ目後軽くナデ。底部はやや丸み有り。 | 淡灰褐色 | 極て粗い | 良好 | SE230 |
| 53 | 23 | 294 | 264 | 壺 | － | 16.8 | 5.8 | － | 口縁部欠損品。底部わずかに丸み有り。 | 黄褐色 | 細い | 良 | SE230 |
| 53 | － | 295 | 265 | 甕 | 20.6 | － | － | 23.0 | 口縁～胴部片。叩き調整の後肩部をハケ目調整。内面は斜位のハケ目調整。 | 黒褐色 | やや粗い | やや良 | SE260 |
| 53 | － | 296 | 266 | 壺 | － | － | － | 27.8 | 肩部片。調整痕は不明。 | 明褐色 | 細い | 良 | SE260 |
| 54 | － | 297 | 270 | 甕 | 24.0 | － | － | 22.7 | 口縁～胴部片。外面は目の粗いタテハケ。 | 褐色 | やや粗い | 不良 | SE315 |
| 54 | － | 298 | 269 | 壺 | － | － | 6.8 | 19.5 | 底部～胴部片。底部端は若干張り出す。外面はハケ目調整後ナデ仕上げ。底部はわずかに丸み有り。 | 灰～灰黒色 | 粗い | 不良 | SE315 |
| 54 | － | 299 | 271 | 壺 | － | － | 5.4 | － | 底部片。 | 明褐白色 | やや粗い | 不良 | SE315 |
| 54 | － | 300 | 267 | 壺 | － | － | 7.1 | 18.7 | 胴部片。ハケ目調整後ヘラミガキ。頸部下に三角突帯貼付。赤色顔料を塗布。 | 赤褐色 | 細い | やや不良 | SE315 |
| 54 | － | 301 | 268 | 壺 | 18.5 | (26.5) | 7.0 | 18.4 | 袋状口縁部片、胴部片。頸部下端に三角突帯貼付。底部はわずかに丸み有り。外面はタテハケ。内面はナデ調整。 | 明黄褐白色 | 細い | 良 | SE315 |
| 54 | － | 302 | 273 | 甕 | － | － | 5.4 | － | 底部片。外面はヘラナデ。底は丸みあり。 | 褐色 | やや粗い | 良好 | SE378 |
| 54 | － | 303 | 274 | 壺？ | － | － | 3.7 | － | 底部片。 | 淡黄灰色 | 極て粗い | 不良 | SE378 |
| 54 | － | 304 | 272 | 甕 | 14.0 | 16.2 | － | 16.8 | 口縁～胴部片。内外面ともハケ目調整。外面調整は口縁部から底部に向けて。底部は丸底。 | 淡赤褐色 | 極て粗い | 良好 | SE378 |
| 54 | － | 305 | 276 | 壺 | － | － | 5.3 | 19.4 | 胴部～底部片。内外面ハケ目調整。外はその後縦方向のヘラミガキ。袋状口縁。 | 暗黄褐色 | やや不良 | 良 | SE448 |
| 54 | 23 | 306 | 275 | 壺 | 12.3 | 14.3 | 5.0 | 18.6 | 完形品。全体的に薄手精製品。胴部はヘラミガキ。肩部に穿孔有り。 | 黄褐～茶褐色 | やや粗い | 良好 | SE448 |
| 55 | － | 307 | 277 | 高杯 | 34.8 | 10.5 | － | － | 杯部片。器面は荒れ調整痕は不明瞭。 | 内：黄褐色 | やや不良 | 良 | SE448 |
| 55 | － | 308 | 278 | 壺 | 27.2 | － | － | － | 口縁部片。 | 内：淡茶褐色 | やや不良 | 良 | SE448 |
| 55 | 23 | 309 | 279 | 甕 | 13.3 | 30.5 | － | 23.3 | 完形品。ハケ目調整後底部から胴部中位にかけてヘラミガキ。内面は、横位のハケ目調整後ヘラケズリ。（ヘラカキトリ） | 赤褐色 | やや粗い | 良好 | SE449 |
| 55 | － | 310 | 280 | 器台 | 10.0 | 12.8 | 10.1 | － | 底部欠損。上台部には穿孔有り、嘴状に引き出されている。内外面ともハケ目調整後ナデケシ。 | 明褐色 | 粗い | 不良 | SP470 |
| 55 | － | 311 | 287 | 甕 | － | － | 5.6 | － | 底部片。 | 淡灰褐色 | やや粗い | 良 | SE489 |
| 55 | － | 312 | 288 | 甕 | － | － | 5.2 | － | 底部片。丸みのある平底。外面ナデ。 | 灰色 | やや粗い | 良 | SE489 |
| 55 | － | 313 | 286 | 甕 | － | － | 6.6 | － | 底部片。 | 淡黄灰色 | やや粗い | 良 | SE489 |

：法量の口径は外径、器台は台上部径、（　）は復元値

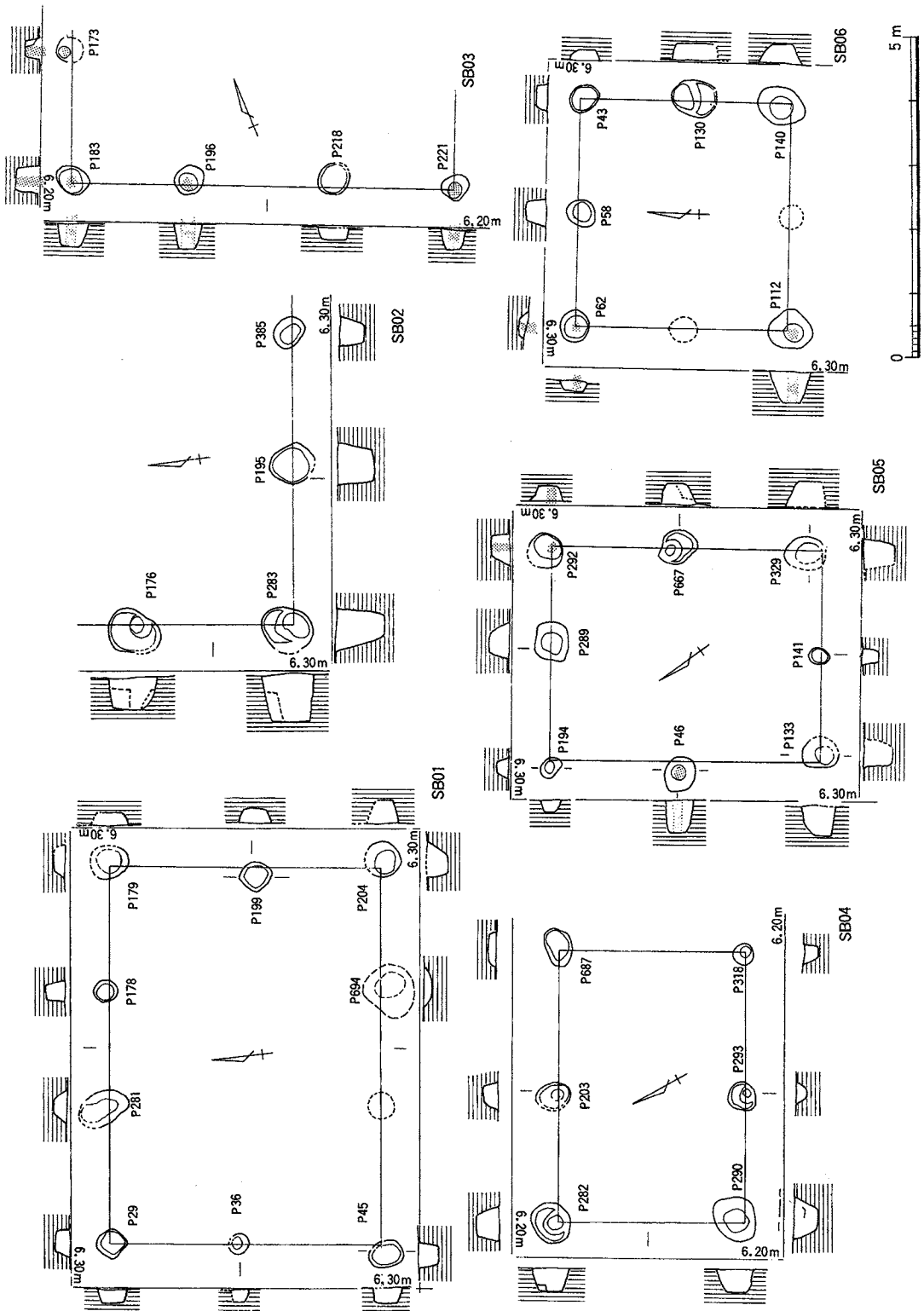
| Fig. | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 器種 | 法量（cm） | | | | 形態的特徴 | | | | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | 胴部径 | 成形上の手法 | 色調 | 胎土 | 焼成 | |
| 55 | — | 314 | 284 | 甕 | 15.6 | — | — | 15.2 | 口縁部～胴部片。口縁部は「く」字に強く外反。外面はハケ目。 | 赤褐色 | 粗い | 良 | SE489 |
| 55 | — | 315 | 283 | 壺 | 14.4 | — | — | — | 口縁部～胴部片。口縁部は「く」字に強く外反。全面ナデ仕上げ。 | 淡褐白色 | 粗い | 不良 | SE489 |
| 55 | — | 316 | 282 | 甕 | 17.8 | — | — | 16.5 | 口縁部片。口縁部は「く」字形に強く屈曲。外面斜位のハケ目。内面ナデ。 | 褐色 | やや粗い | 良 | SE489 |
| 55 | — | 317 | 285 | 甕 | 23.0 | — | — | 20.1 | 口縁部～胴部片。口縁部は「L」字形に外反。内面ナデ。 | 明褐白色 | やや粗い | 良 | SE489 |
| 55 | — | 318 | 281 | 壺 | 20.0 | — | — | — | 頸部～袋状口縁部片。頸部下端に二条の三角突帯貼付。 | 灰白色 | 粗い | 良 | SE489 |
| 56 | 24 | 319 | 290 | 鉢 | 9.0 | 10.2 | 1.9 | 10.2 | 完形品。砲弾状の器形。底部はわずか上げ底。口縁部は内傾。外面は丁寧な縦方向のヘラミガキ。内面～口縁部はナデ。 | 明褐色 | 良 | 良 | SE500 |
| 56 | 24 | 320 | 289 | 短頸壺 | 9.0 | 11.4 | — | 13.0 | 完形品。外面縦方向のヘラミガキ。頸部は内湾しながら直立する。底部は丸底だが径約1cmの平坦部あり。 | 灰～明褐色 | 良 | 良 | SE500 |
| 56 | — | 321 | 291 | 壺 | — | — | — | 15.6 | 頸部欠損品。外面は縦方向のヘラミガキ。内面は斜位のハケ目調整。 | 内：赤褐色<br>外：灰～黒灰色 | 良 | 良 | SE500 |
| 56 | 24 | 322 | 293 | 壺 | — | — | 5.5 | 21.0 | 口縁部欠損品。内外面ともハケ目調整。底部はやや丸み有り。頸部下半にはハケ目後に暗文風のナデ線をいれている。 | 明黄褐～褐色 | やや粗い | 良好 | SE500 |
| 56 | — | 323 | 292 | 高杯 | — | — | 26.8 | — | 脚部片。表面は摩耗し調整痕は不明瞭。脚部には2段の穿孔有り。下部に三角突帯を貼付し三角沈線文を施文する。 | 明褐色 | やや粗い | 不良 | SE500 |
| 56 | 24 | 324 | 294 | 壺 | 14.2 | 26.9 | — | 19.6 | 完形品。卵形の胴部下半には内側からの穿孔があり。肩部と頸部境には刺突列点文が巡る。内外面とも丁寧なハケ目。底部は丸みある平底。 | 黒褐色 | やや細い | 良 | SE500 |
| 56 | 24 | 325 | 295 | 壺 | 25.9 | 25.3 | 5.3 | 25.0 | 完形品。頸部下端と胴部下半に台形突帯を貼付。内外面ともハケ目調整。胴部下半はヘラミガキ。底部はわずかに丸み有り。 | 褐色 | やや粗い | 良 | SE500 |
| 57 | — | 326 | 296 | 鉢 | 5.5 | (4.3) | 2.5 | — | 手捏土器。全面ナデ。 | 褐色 | やや粗い | やや不良 | SE506 |
| 57 | — | 327 | 299 | 壺 | 13.0 | — | — | — | 口縁部片。内面はヨコハケ。 | 褐色 | 細い | 良 | SE506 |
| 57 | — | 328 | 308 | 壺 | 14.2 | — | — | — | 口縁部片。 | 明褐色 | やや細い | 良好 | SE506 |
| 57 | — | 329 | 298 | 甕 | 17.0 | — | — | — | 口縁部破片。内面ヘラケズリ調整。 | 黄褐色 | やや細い | 不良 | SE506 |
| 57 | — | 330 | 301 | 高杯 | 10.7 | 杯部高 4.0cm | | — | 杯部片。 | 褐～灰褐色 | やや粗い | 不良 | SE506 |
| 57 | — | 331 | 309 | 壺 | (18.0) | — | — | — | 口縁部片。外面には赤色顔料を塗布。表面はタテ方向のヘラミガキ。 | 明褐色 | やや粗い | 不良 | SE506 |
| 57 | — | 332 | 300 | 坩 | 13.6 | — | — | — | 口縁部片。直線的に口縁は広がる。 | 淡褐色 | 良好 | やや不良 | SE506 |

：法量の口径は外径、器台は台上部径、（　）は復元値

| Fig. | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 器種 | 法量（cm） | | | | 形態的特徴 | | | | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | 胴部径 | 成形上の手法 | 色調 | 胎土 | 焼成 | |
| 57 | 24 | 333 | 306 | 壺 | 7.6 | 9.0 | 3.6 | 8.1 | 完形品。胴部はハケ目の後ヘラミガキ。内面から口縁部にかけては丁寧なナデ。底部はわずかに丸みある平底。 | 赤褐色 | 良 | 良 | SE506 |
| 57 | 24 | 334 | 307 | 壺 | 14.8 | 20.9 | 2.4 | 18.0 | 完形品。球形の胴部に丸みのある小さな平底がつく。外面はハケ目後ナデ。胴部下半には指圧痕が残る。 | 褐～赤褐色 | やや粗い | やや不良 | SE506 |
| 57 | 24 | 335 | 297 | 壺 | － | － | 5.0 | 24.5 | 頸部～口縁部欠損品。胴部はハケ目調整後ヘラミガキ。底部は凸レンズ状。内面に粘土紐接合線が残る。 | 褐～黒灰色 | やや粗い | やや不良 | SE506 |
| 57 | － | 336 | 304 | 蓋 | 16.4 | 4.6 | － | － | 約1/2欠損品。径３mmの穿孔有り。 | 赤褐色 | 良 | やや不良 | SX618 |
| 57 | － | 337 | 302 | 甕 | 19.1 | 16.0 | － | 17.2 | 胴部欠損品。口縁部は逆「L」字形。 | 黒褐色 | やや細い | やや不良 | SX618 |
| 57 | － | 338 | 303 | 甕 | 29.0 | － | － | － | 口縁部片。胴部は内傾する。 | 赤褐色 | 粗い | 不良 | SX618 |
| 57 | － | 339 | 305 | 甕 | 24.0 | － | － | － | 口縁部片。口縁部は「く」字形に外反。 | 灰褐色 | 細い | やや不良 | SE625 |
| 58 | － | 340 | 346 | 甕 | (29.0) | － | － | 29.4 | 肩部～口縁部片。外面はハケ後ナデケシ。 | 暗褐色 | やや粗い | やや不良 | SX180 |
| 58 | － | 341 | 353 | 甕 | － | － | － | － | 口縁部片。 | 褐色 | 粗い | やや不良 | SX441 |
| 58 | － | 342 | 354 | 甕 | － | － | － | － | 口縁部片。 | 明褐色 | 粗い | 不良 | SX441 |
| 58 | － | 343 | 349 | 器台 | － | － | 11.0 | － | 底部片。内面ヨコナデ。 | 褐色 | 粗い | やや良 | SX420 |
| 58 | － | 344 | 348 | 甕 | (22.0) | － | － | － | 口縁部片。内外面ともナデ。 | 淡灰褐色 | やや粗い | 不良 | SX420 |
| 58 | － | 345 | 347 | 甕 | (25.0) | － | － | － | 口縁部片。 | 暗褐色 | 粗い | 不良 | SX420 |
| 58 | 24 | 346 | 352 | 鉢 | 4.5 | 4.9 | 2.9 | － | 手捏土器。底部は上げ底。 | 灰～暗褐色 | やや良 | 不良 | SX424 |
| 58 | 24 | 347 | 351 | 鉢 | 7.6 | 5.3 | 4.5 | 7.6 | ミニチュア土器。底部はタテハケ。 | 暗褐色 | やや粗い | やや良 | SX424 |
| 58 | － | 348 | 350 | 甕 | － | － | 4.6 | － | 底部片。外面叩き痕。内面ハケ後ナデケシ。 | 暗褐色 | やや粗い | やや不良 | SX424 |
| 58 | － | 349 | 356 | 甕 | 32.2 | － | － | － | 口縁部片。 | 明褐色 | 粗い | 不良 | SX652 |
| 58 | － | 350 | 355 | 甕 | 32.5 | － | － | － | 口縁部片。 | 明淡褐色 | 細い | 良好 | SX652 |
| 58 | － | 351 | 357 | 器台 | 7.3 | 14.4 | 8.2 | － | 完形品。内外面ナデ。 | 明黄褐色 | やや粗い | やや不良 | SX652 |

## Tab, 11　第42次調査掲載石器、土製品、その他遺物観察所見一覧

| Fig, | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 名　称 | 素　材 | 法　量 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 形態的または製作技術的特徴 | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 58 | — | 352 | 070 | 紡錘車 | 土製 | 径 3.8cm | 0.8 | — | 29.0 | 土器破片を転用。周縁を打ち欠いた後研磨し丸く仕上げている | SP156 |
| 58 | — | 353 | 058 | 投弾 | 土製 | 3.5 | 1.9 | 1.9 | 17.0 | 全面指ナデ仕上げ。 | SP451 |
| 58 | — | 354 | 068 | 投弾 | 土製 | 3.8 | 2.0 | 1.8 | 19.0 | 全面指ナデ仕上げ。 | SE230 |
| 58 | — | 355 | 069 | 投弾 | 土製 | 3.3 | 2.0 | 2.0 | 14.5 | 全面指ナデ仕上げ。 | SE489 |
| 58 | — | 356 | 059 | 投弾 | 土製 | 3.8 | 2.1 | 2.2 | 19.5 | 全面指ナデ仕上げ。 | SX659 |
| 58 | — | 357 | 001 | 石錘 | 滑石 | 3.9 | 1.7 | 1.2 | 12.8 | 縦位に断面「V」字形の溝を彫り込む。側面にも切れ込みをいれている。 | SC63 |
| 58 | — | 358 | 004 | 磨製石鏃 | 頁岩 | 2.2 | 1.7 | 0.3 | — | 先端部欠損品。 | SC231 |
| 58 | — | 359 | 005 | 砥石 | 粘板岩 | 5.8 | 1.3 | 1.1 | — | 一部欠損品。 | SC366 |
| 58 | — | 360 | 006 | 石包丁 | 頁岩 | 7.7 | 4.5 | 0.6 | — | 半欠品。刃部、孔は両面から。 | SP370 |
| 58 | — | 361 | 007 | 石包丁 | 泥質頁岩 | 13.9 | 5.4 | 0.8 | 孔間 2.15cm | 完形品。刃部は両面からの研磨。 | SP377 |
| 58 | — | 362 | 060 | 玉 | ガラス | 径 0.5cm | | 0.35 | 孔径 0.075cm | 青色 | SP084 |
| 58 | — | 363 | 061 | 玉 | ガラス | 径 0.4cm | | 0.30 | 孔径 0.09cm | 青色 | SP105 |
| 58 | — | 364 | 062 | 玉 | ガラス | 径 0.35cm | | 0.30 | 孔径 0.09cm | 青色 | SP105 |
| 58 | — | 365 | 065 | 玉 | ガラス | 径 0.4cm | | 0.45 | 孔径 0.09cm | 青色 | SC324 |
| 58 | — | 366 | 067 | 玉 | ガラス | 径 0.6cm | | 0.35 | 孔径 0.15cm | 青色 | SC366 |
| 58 | — | 367 | 063 | 管玉 | 硬玉 | 1.2 | 径 0.5cm | 孔径 0.018cm | | 濃緑色 | SP135 |
| 58 | — | 368 | 064 | 玉 | ガラス | 径 1.1cm | 孔径 0.04cm | | | 青色 | SP316 |
| 59 | 24 | 369 | 072 | 鋳型 | 石英長石斑岩 | 32.65 | 17.4 | 9.9 | 溝幅 2.5cm | 一部欠損品。砥石として転用。4側面はすべて研ぎ面として利用されている。上端から鋳型面にかけてわずかに黒灰色に変色。 | SC324 |
| 60 | — | 370 | 073 | 杵 | 芯持ち材 | 81.2 | 径 8.8cm | 柄径 3.7cm | | 一部欠損品。表面には整形痕が幅2～3cm残る。 | SE74 |
| 60 | — | 371 | 075 | 容器 | 柾目材 | 21.8 | 21.3 | 10.2 | — | 半損品。内面には整形痕残す。 | SE74 |
| 60 | — | 372 | 074 | 槌 | 芯持ち材 | 43.0 | 径 4.7cm | 柄径 2.3cm | | 身の一部のみ削り加工。半分以上表皮を残す。 | SE74 |
| 60 | — | 373 | 076 | 部材 | 柾目材 | 52.7 | 23.5 | 2.3 | — | 半損品。ネズミ返しか。長方形貫穴が中央にあく。 | SE74 |




Fig,31　掘立柱建物SB01～06平面および断面図（１／100）

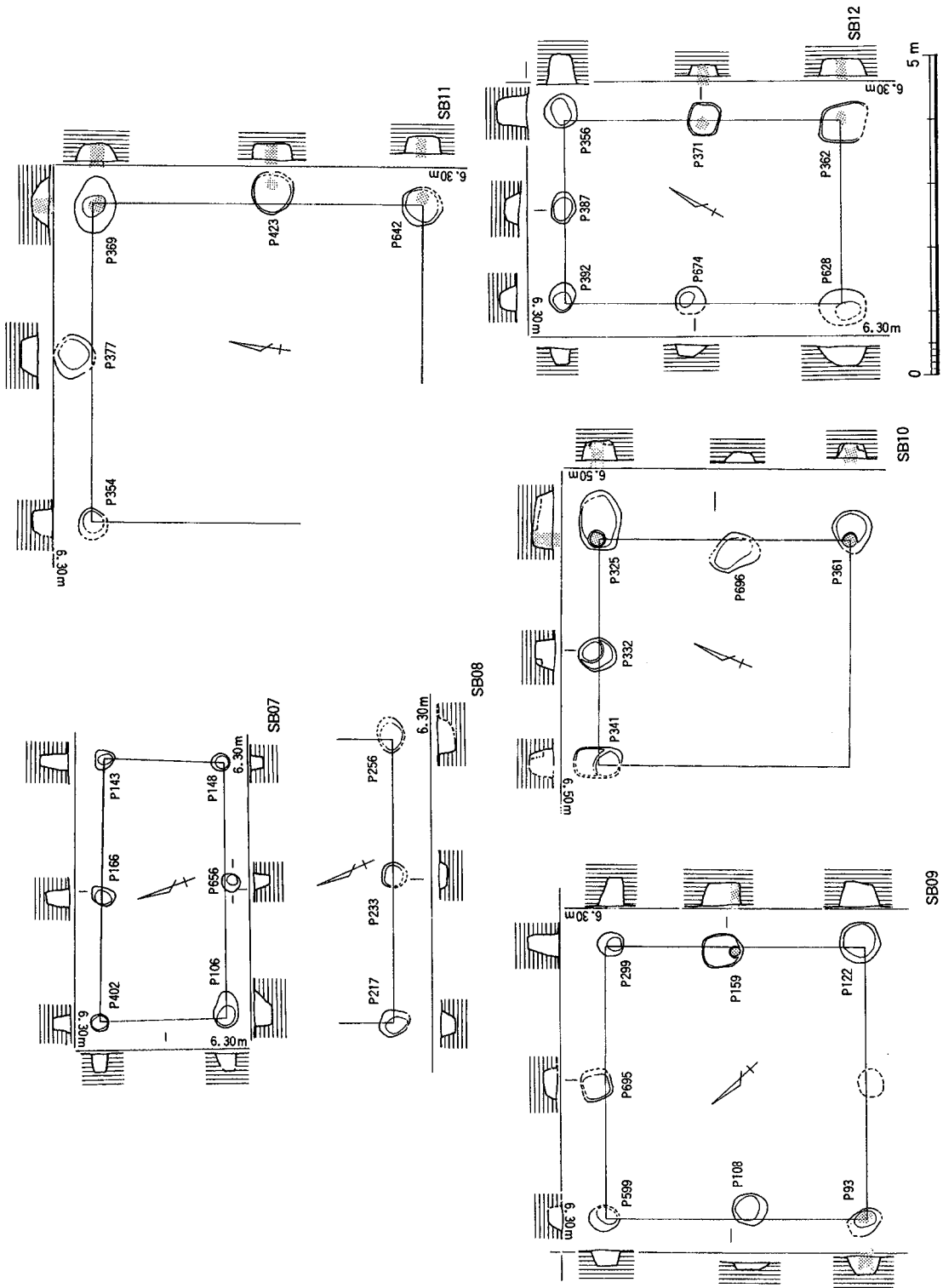



Fig.32　掘立柱建物SB07～12平面および断面図（1／100）

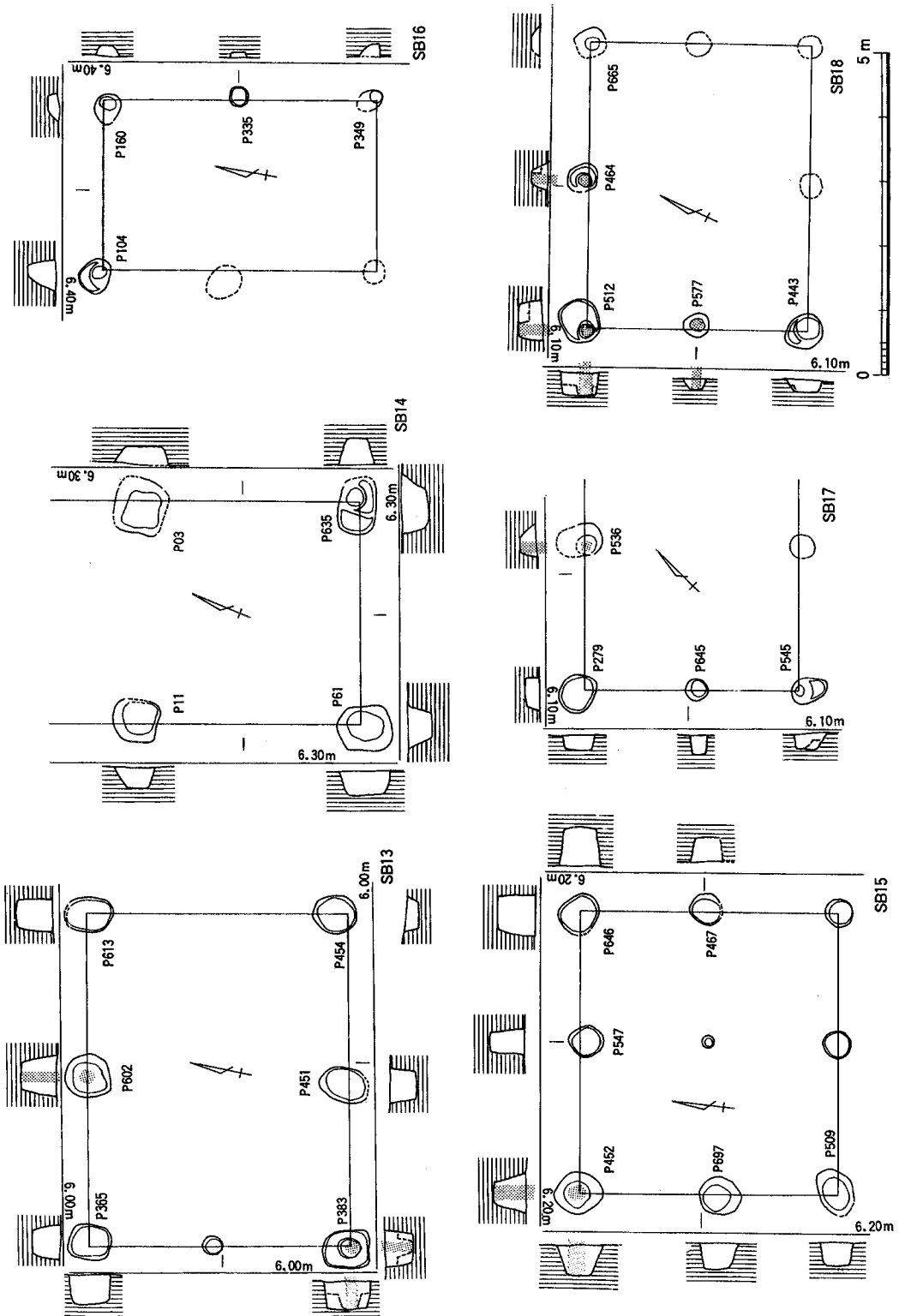
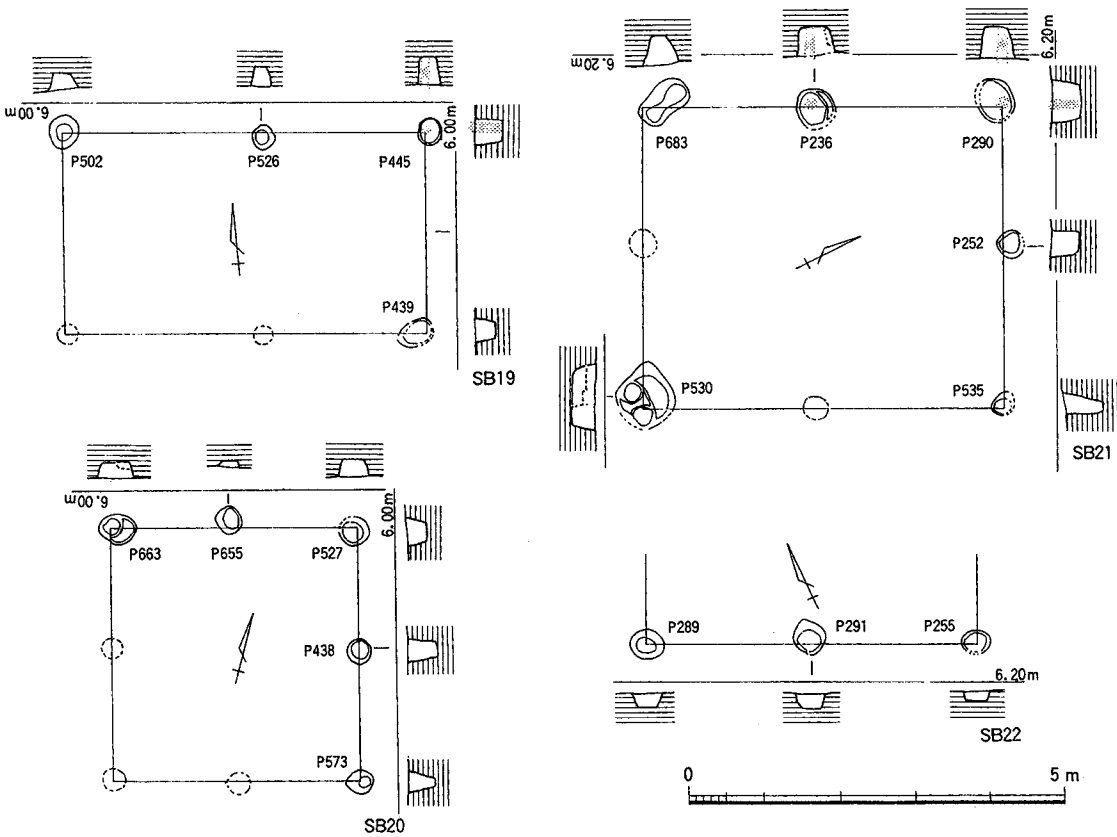
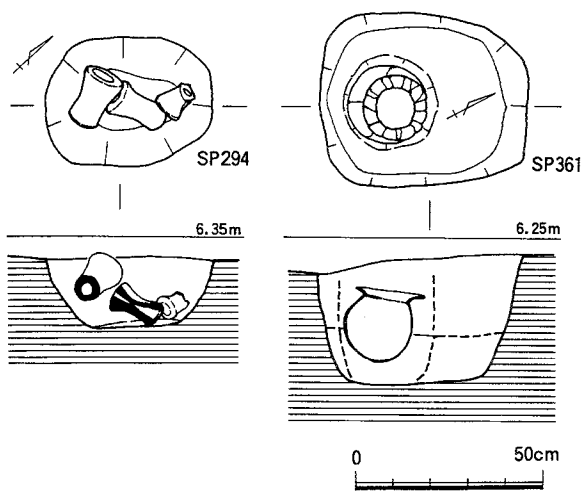



Fig.33　掘立柱建物SB13～18平面および断面図（１／100）




Fig,34　掘立柱建物SB19～22平面および断面図（1／100）




Fig,35　柱穴SP294・361内遺物出土状況実測図（1／20）

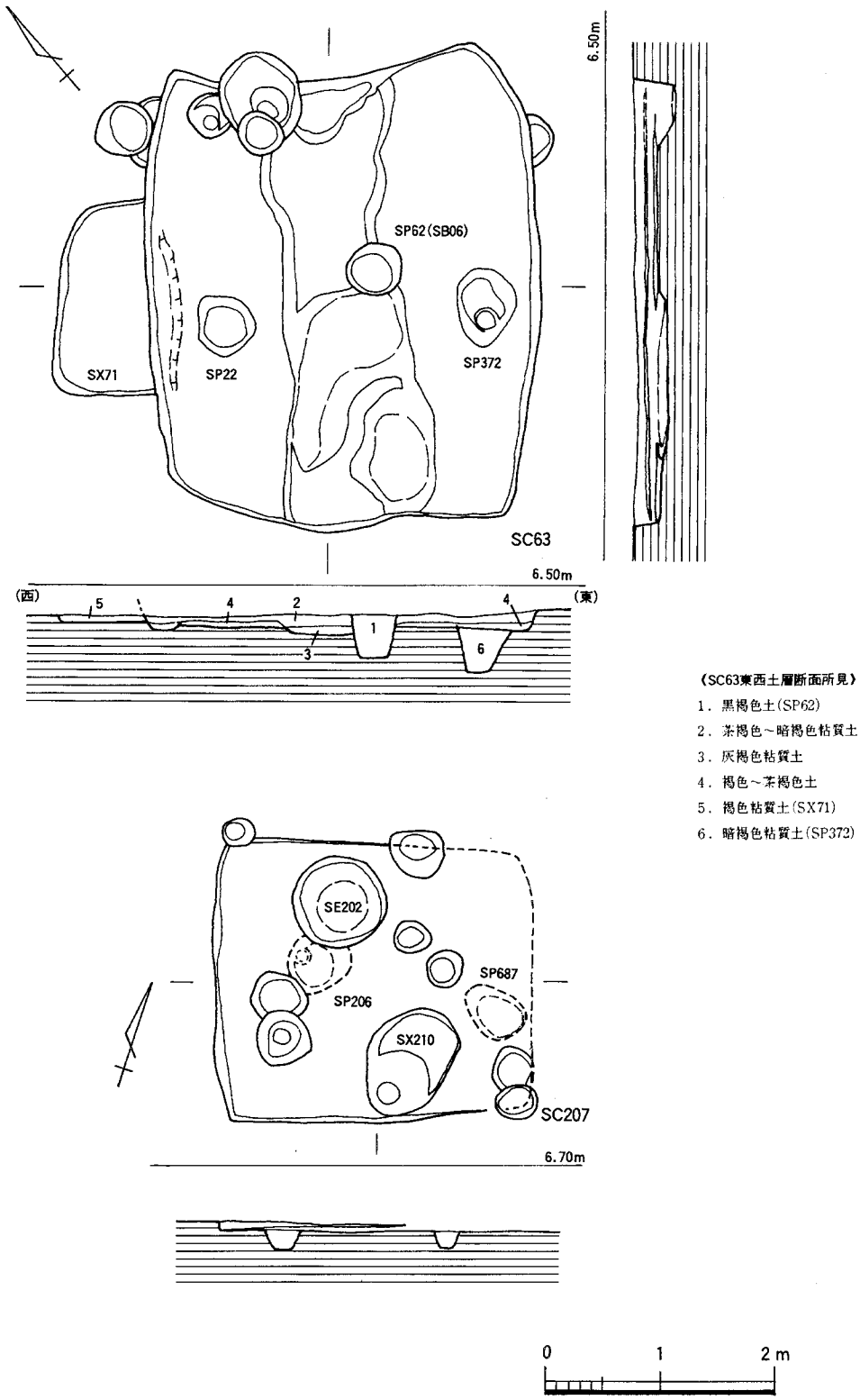
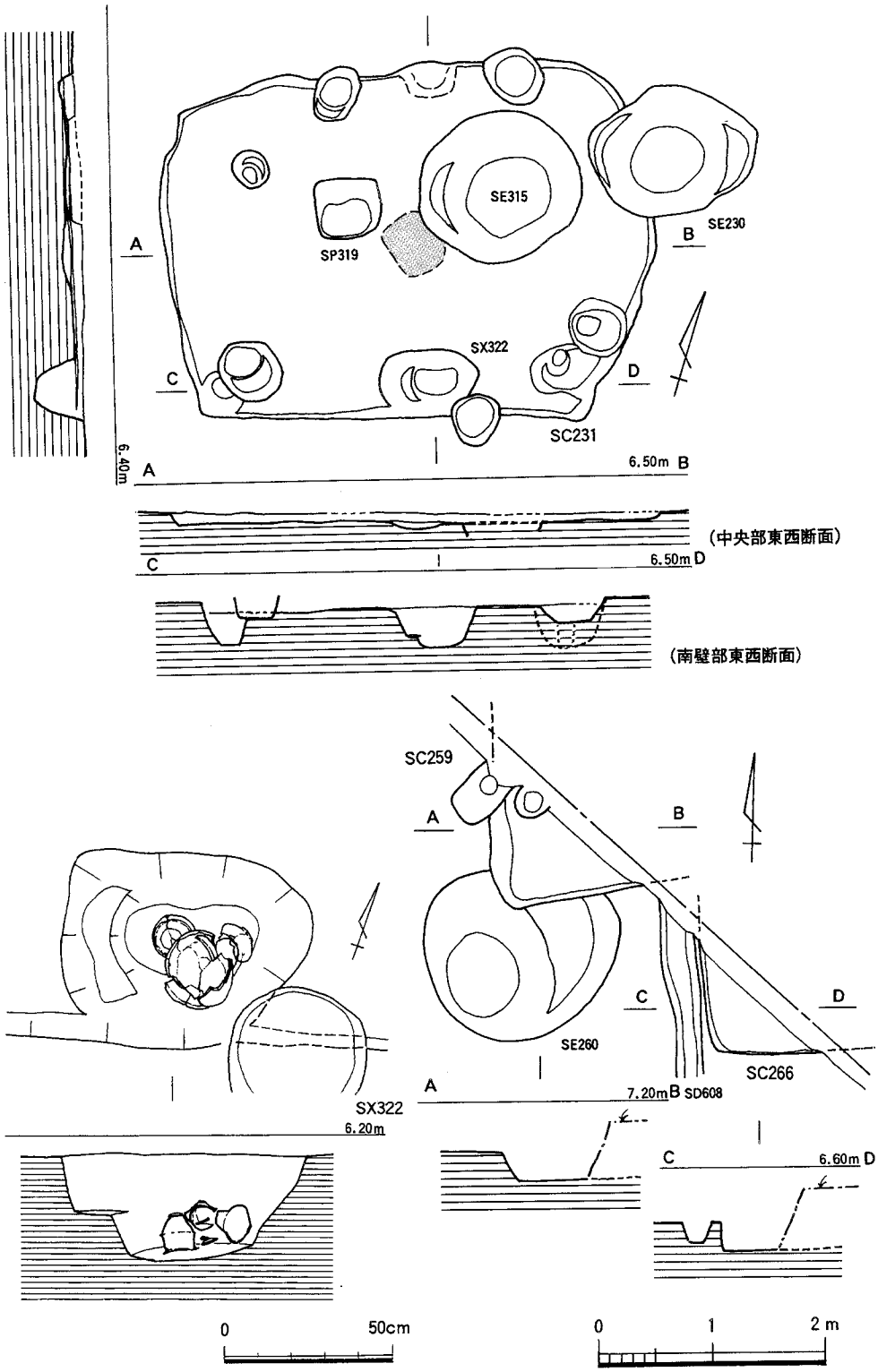



Fig.36　竪穴住居跡SC63・207平面および断面図（１／60）




Fig,37　竪穴住居跡SC231・259・266およびSC231内土壙SX322平面および断面図(1／20・1／60)
(アミカケ部分は焼土・木炭片の分布)

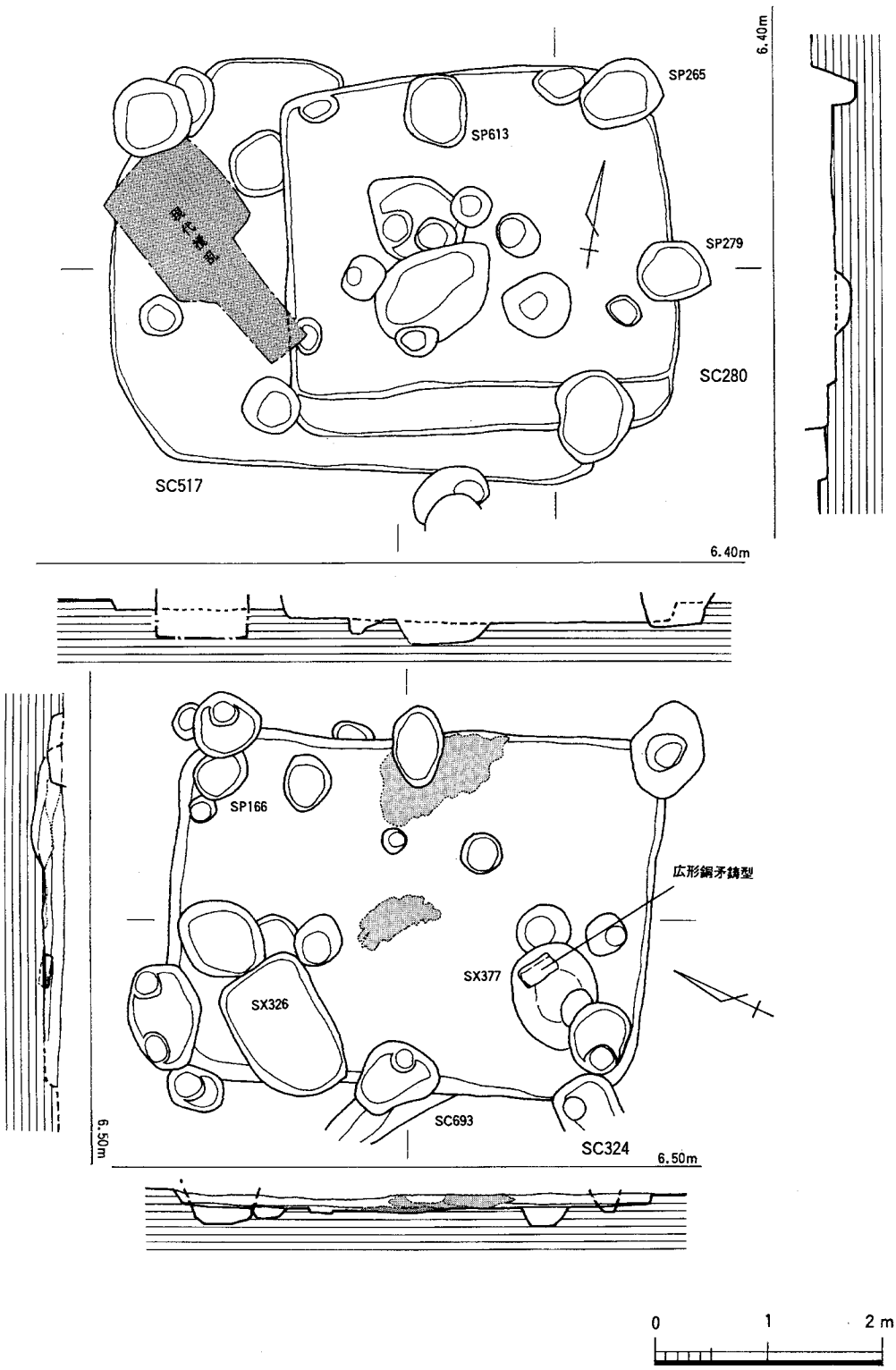
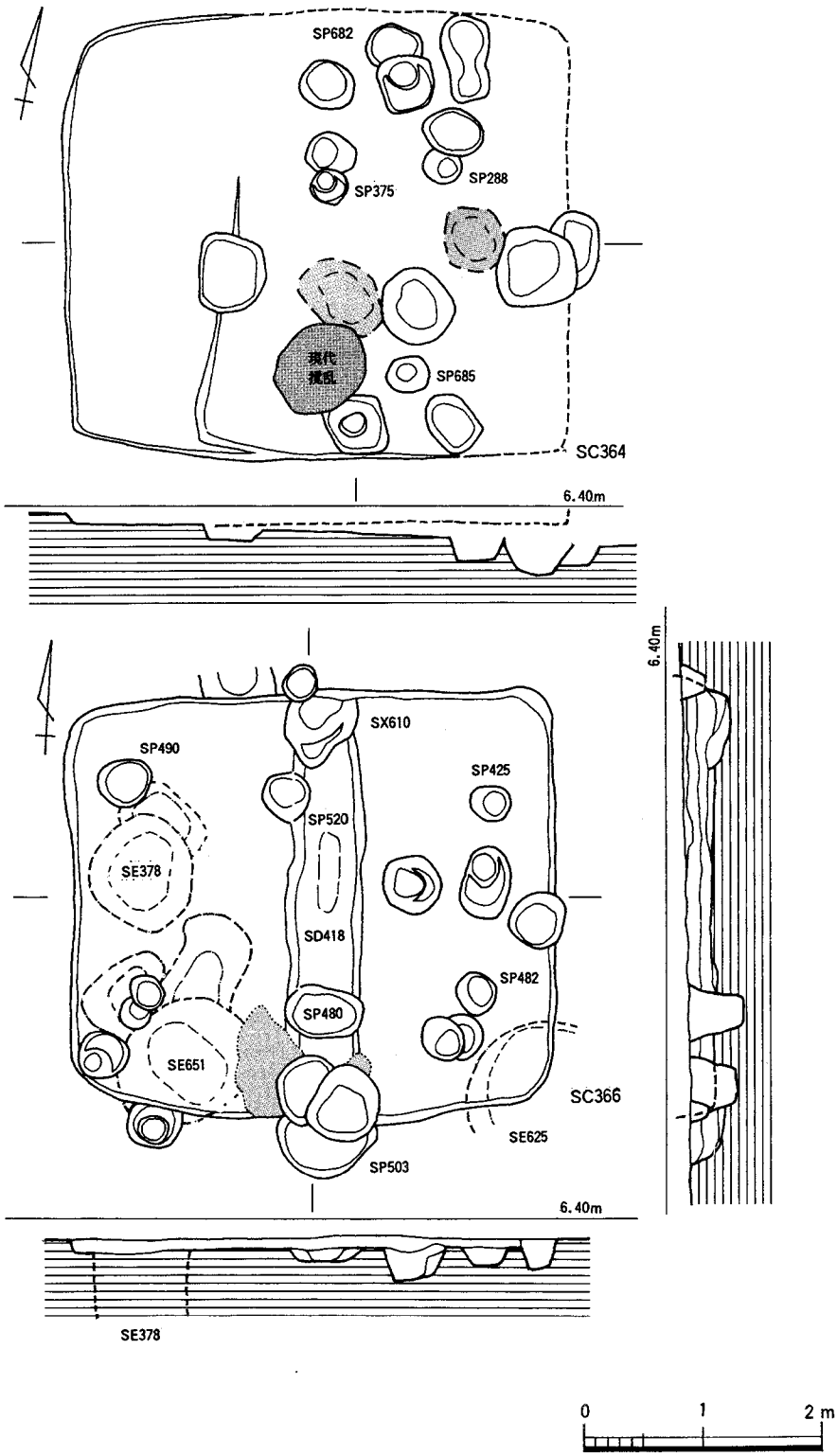
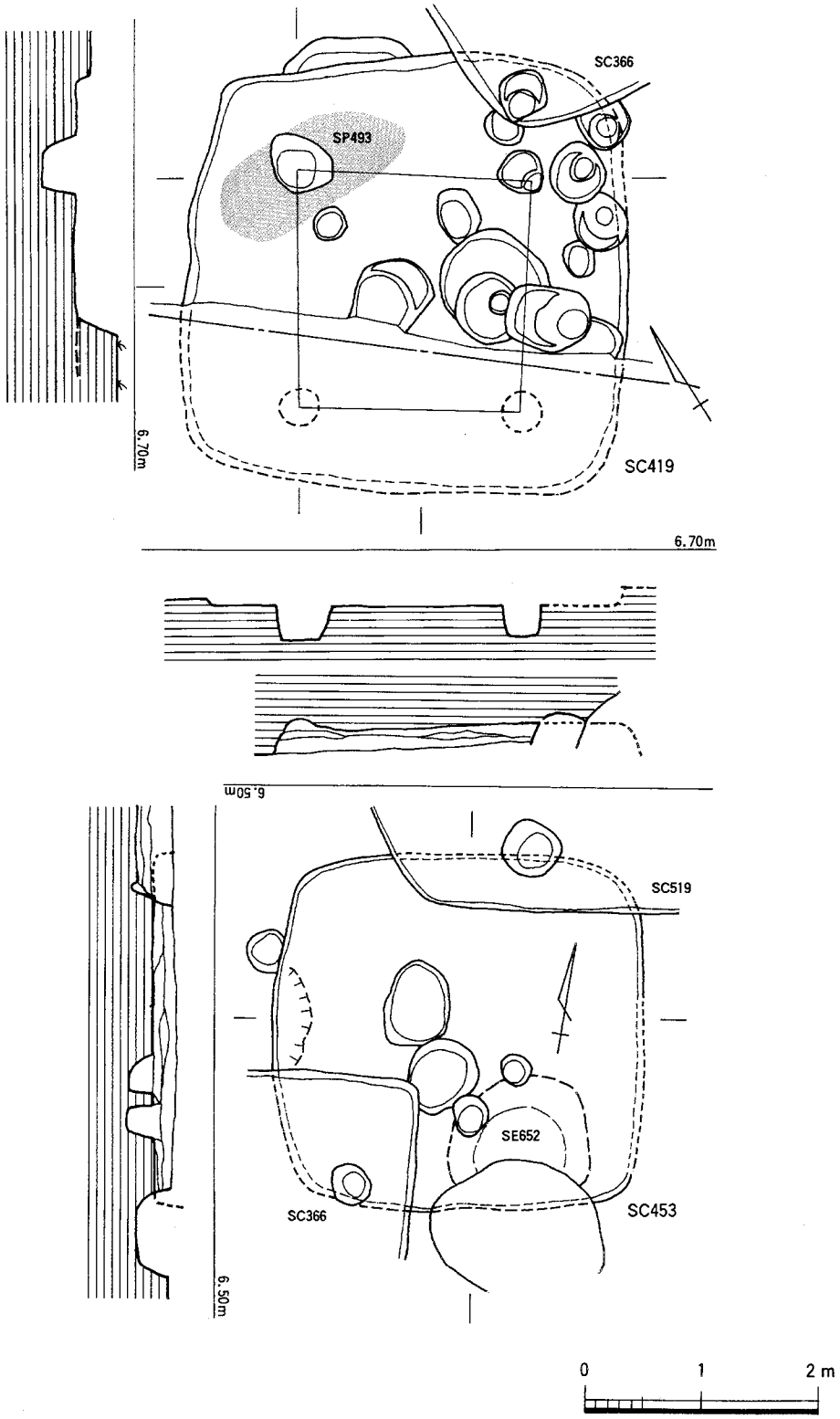



Fig.38　竪穴住居跡SC280・517・324平面および断面図（１／60）（アミカケ部分は灰白色粘土・焼土の分布）




Fig, 39　竪穴住居跡SC364・366平面および断面図（1／60）　（アミカケ部分は焼土・木炭片の分布）




Fig,40　竪穴住居跡SC419・453平面および断面図（１／60）　（アミカケ部分は焼土の分布）

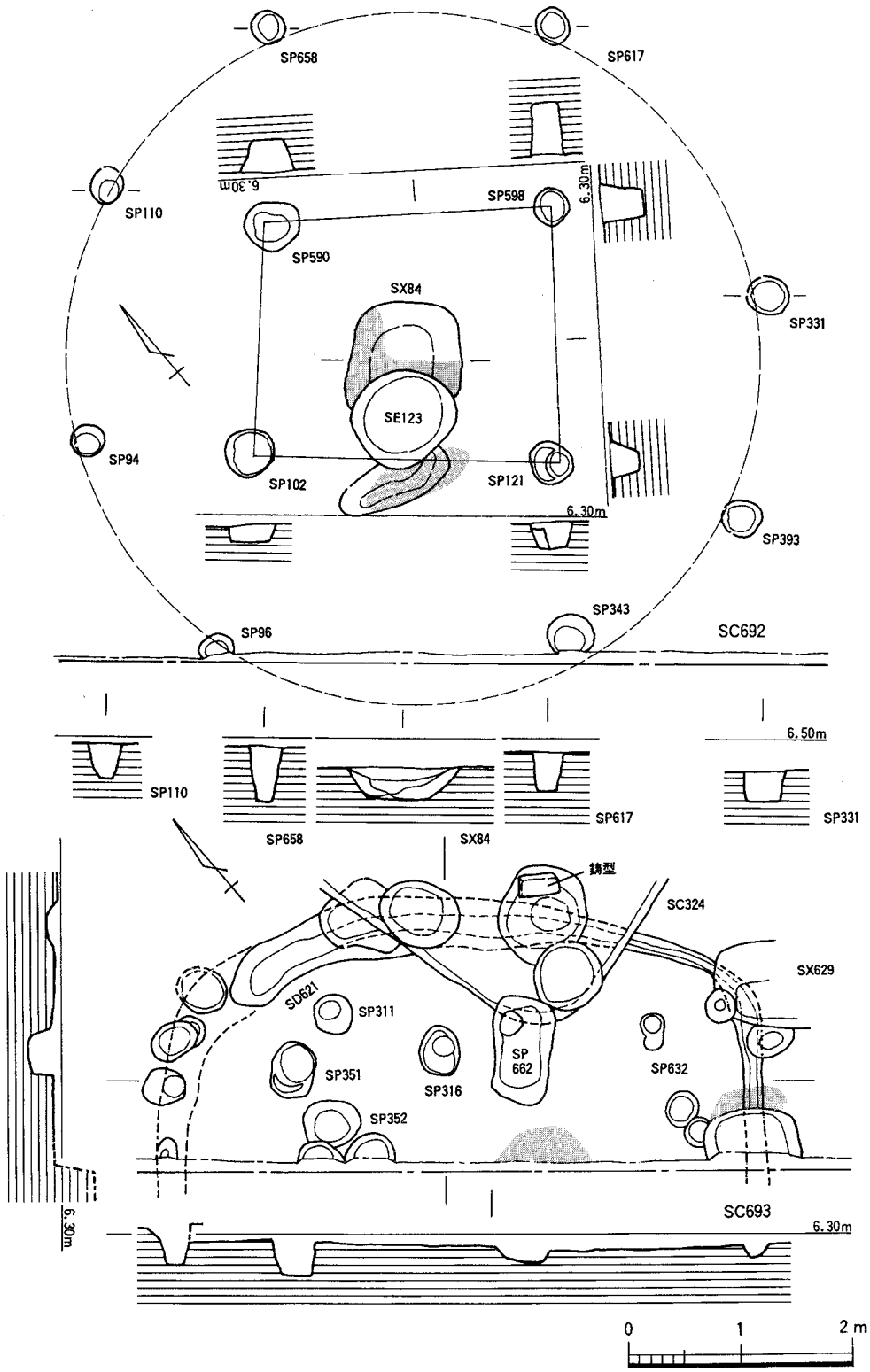



Fig. 41　竪穴住居跡SC692・693平面および断面図（1／60）　（アミカケ部分は焼土・木炭片の分布）

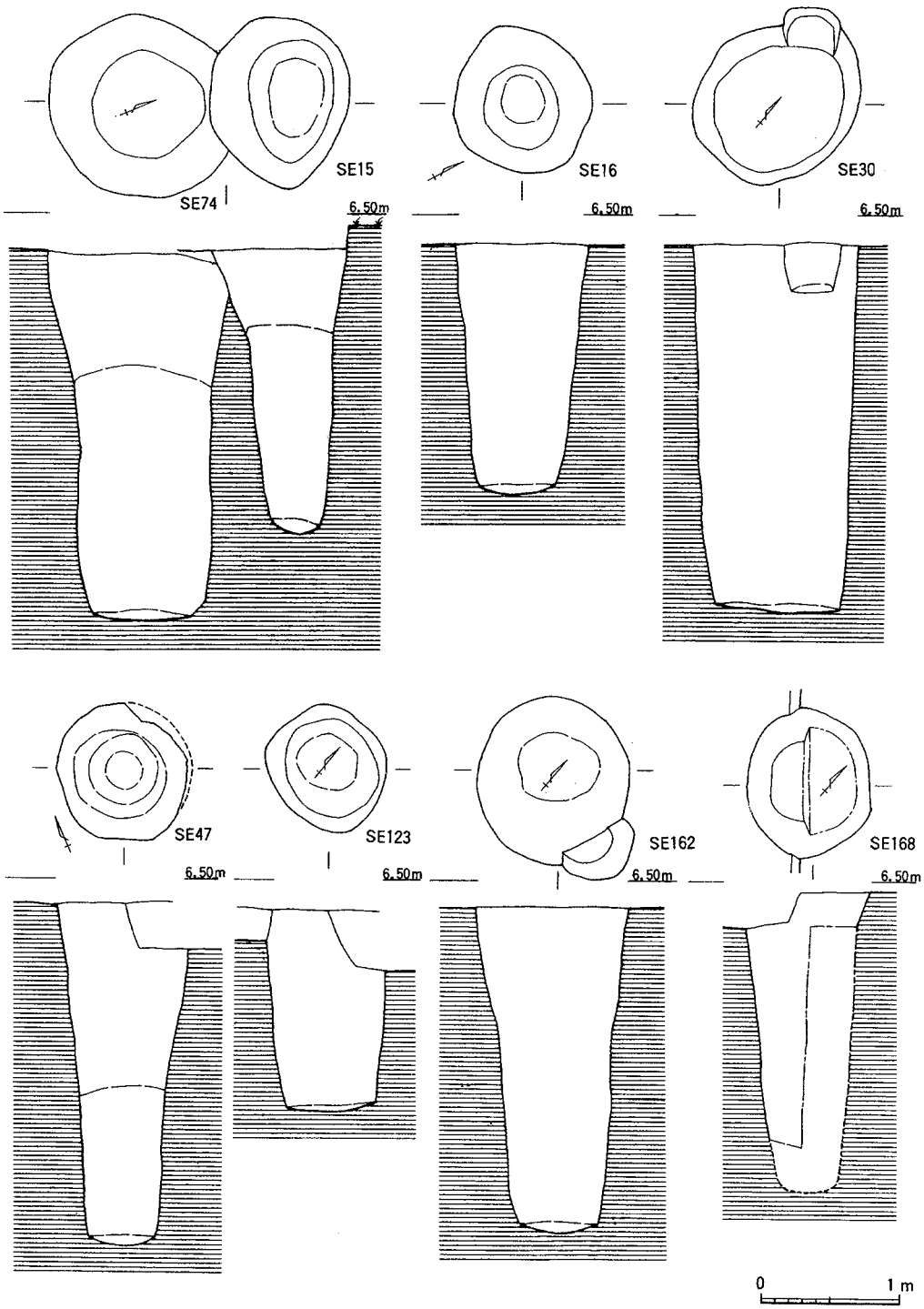
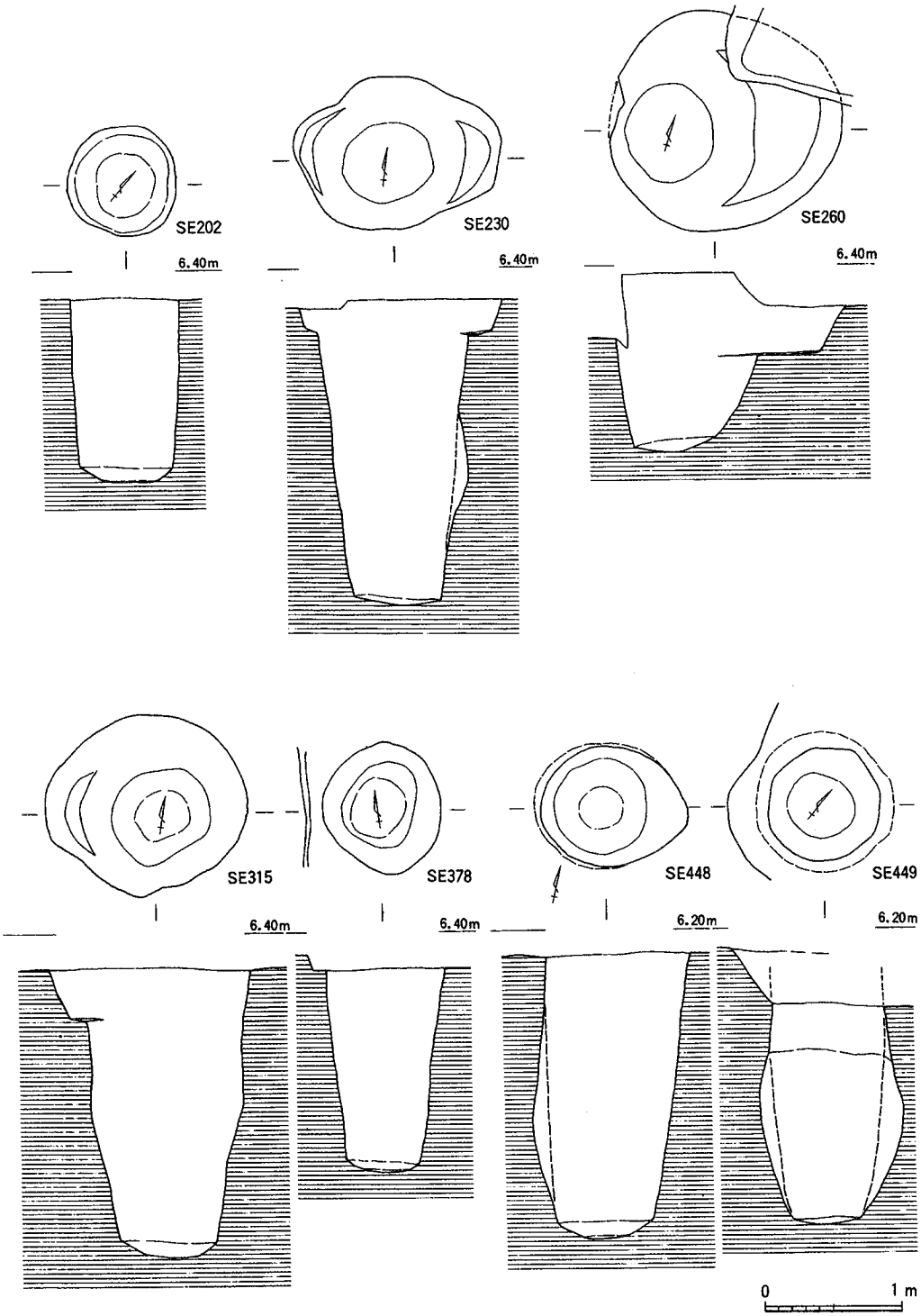



Fig.42　井戸SE15・16・30・47・74・123・162・168平面および断面図（１／50）




Fig,43　井戸SE202・230・260・315・378・448・449平面および断面図（1／50）

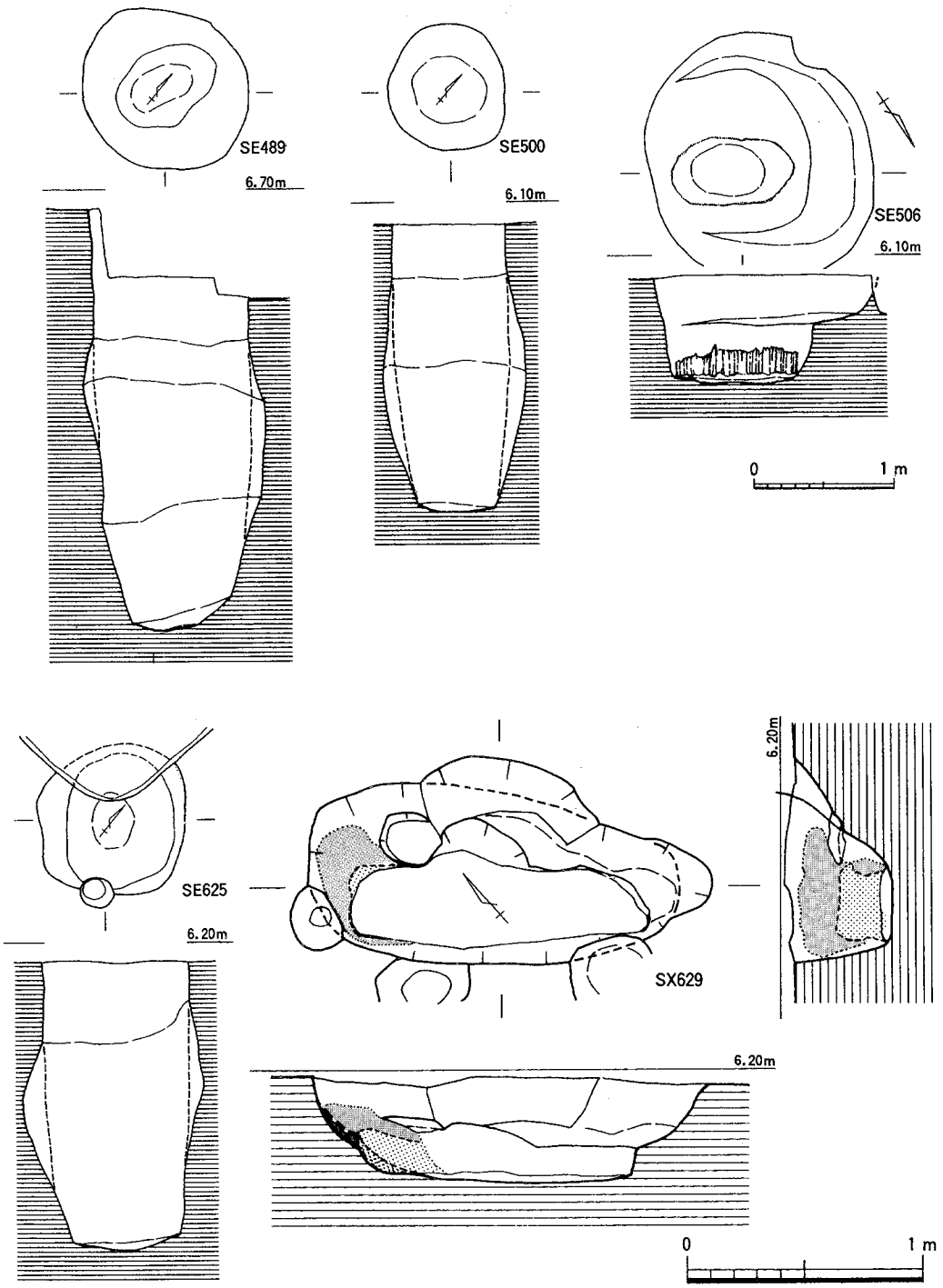
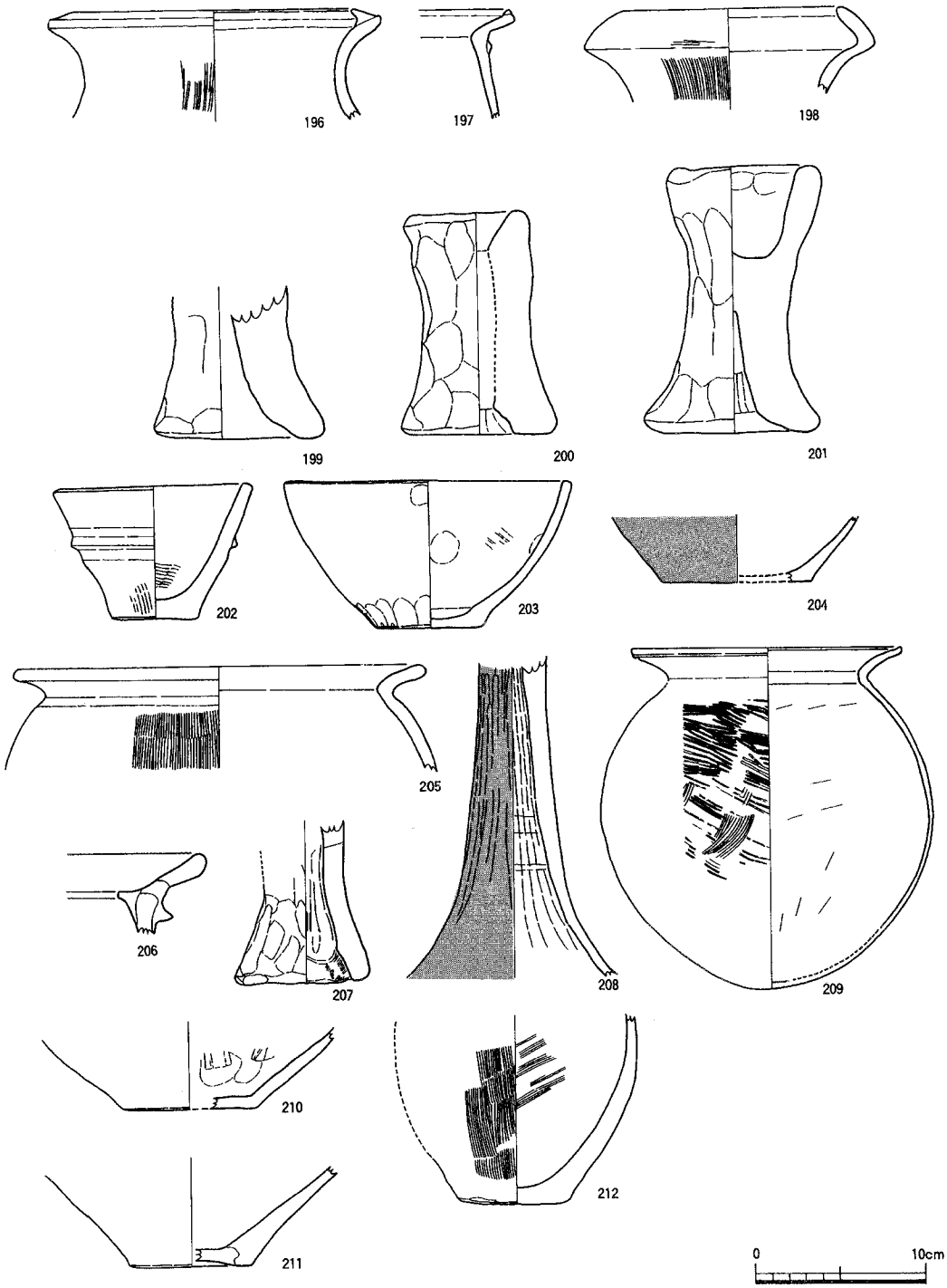



Fig.44　井戸SE489・500・506・625、土壙SX629平面および断面図（１／50・１／30）




Fig,45　柱穴出土遺物実測図（1／4）
(196；SP36、197；SP94、198；SP119、199～201；SP294、205・208；SP308、209；SP361、202・203；SP323、204；SP376、206；SP400、207・210・211；SP402、212；SP451)

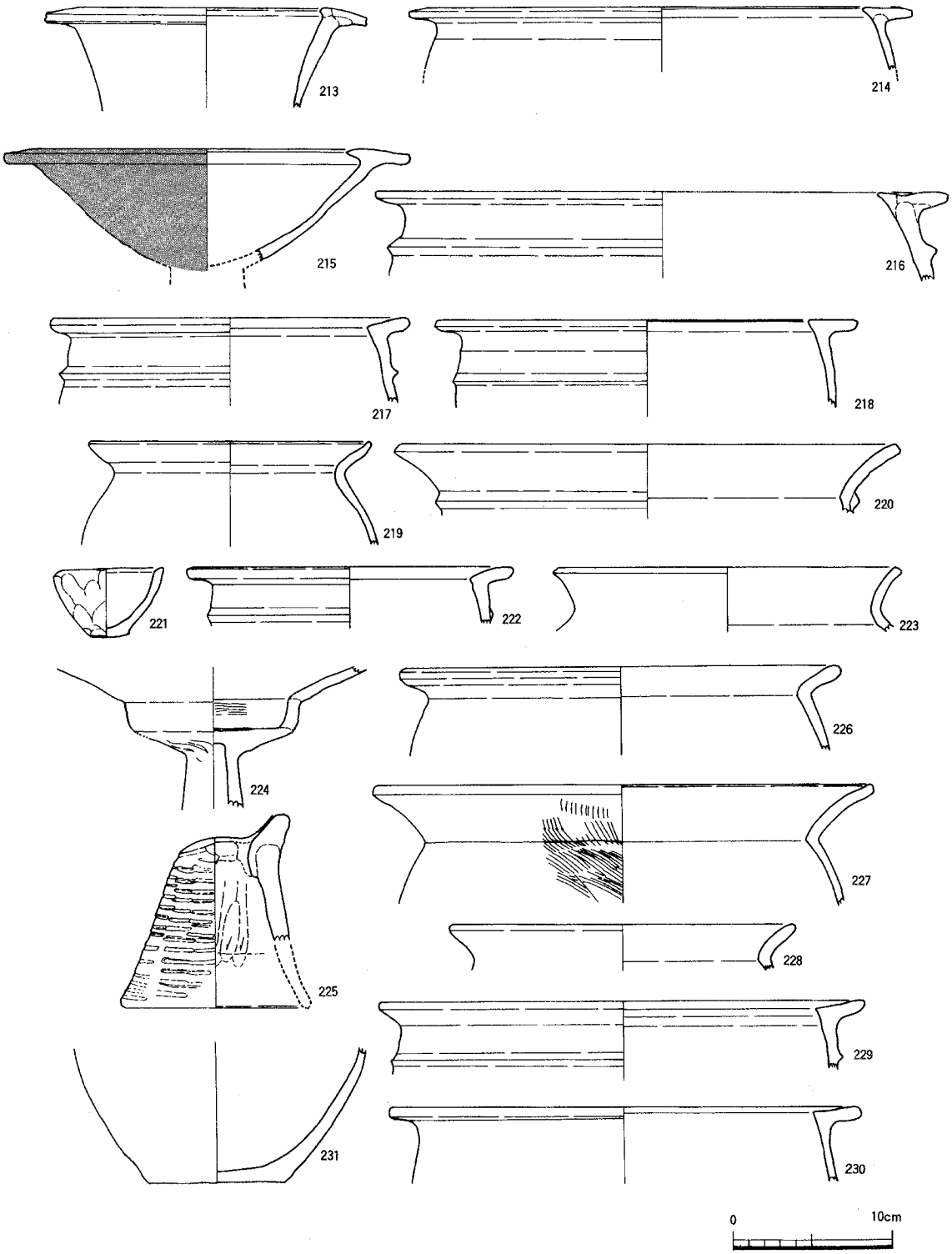



Fig.46　竪穴住居跡SC231・324・366・419・453出土遺物実測図（１／４）

(213～216；SC231、217～220；SC324、221～227；SC366、228・229；SC419、230・231；SC453)

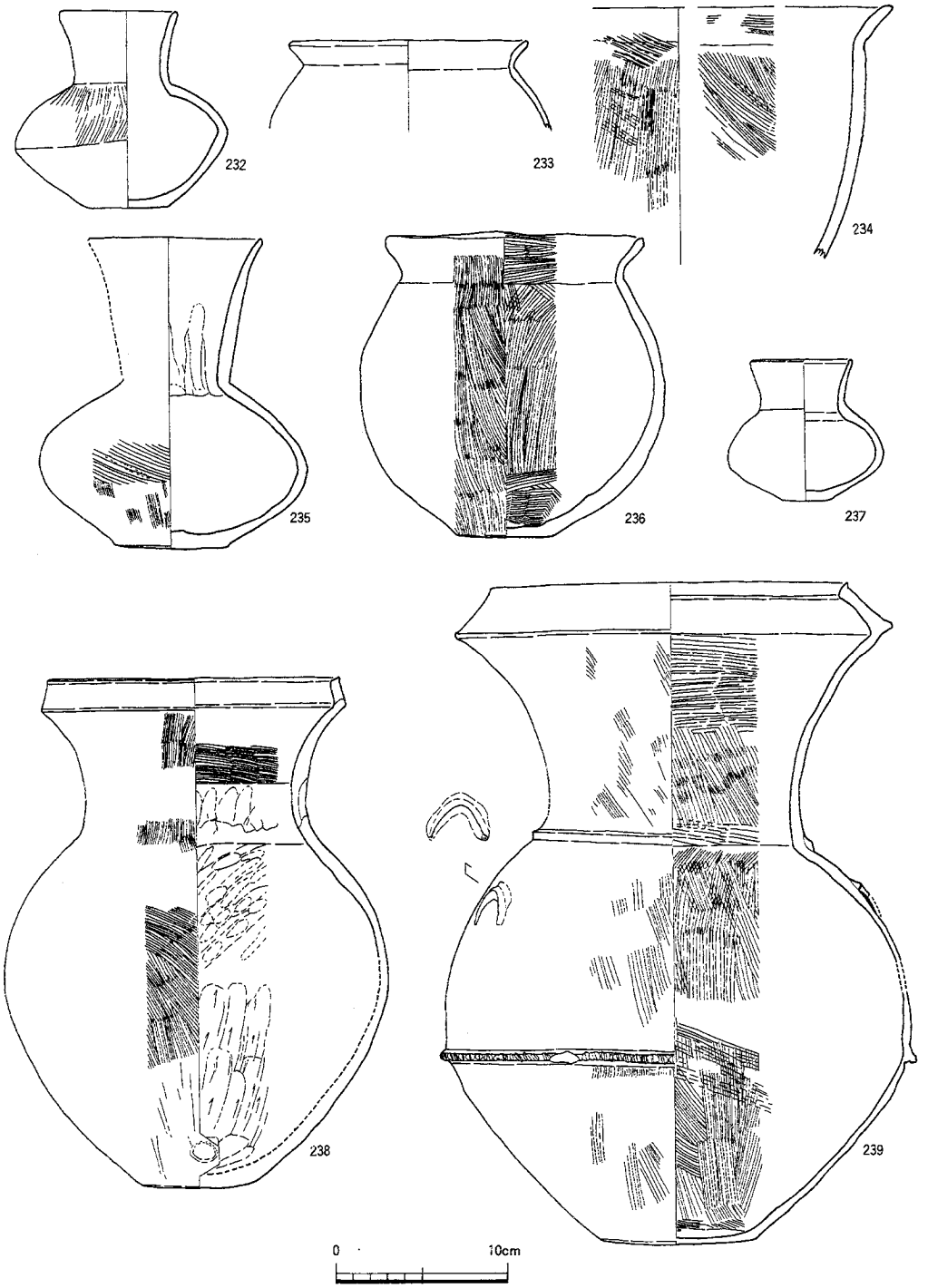
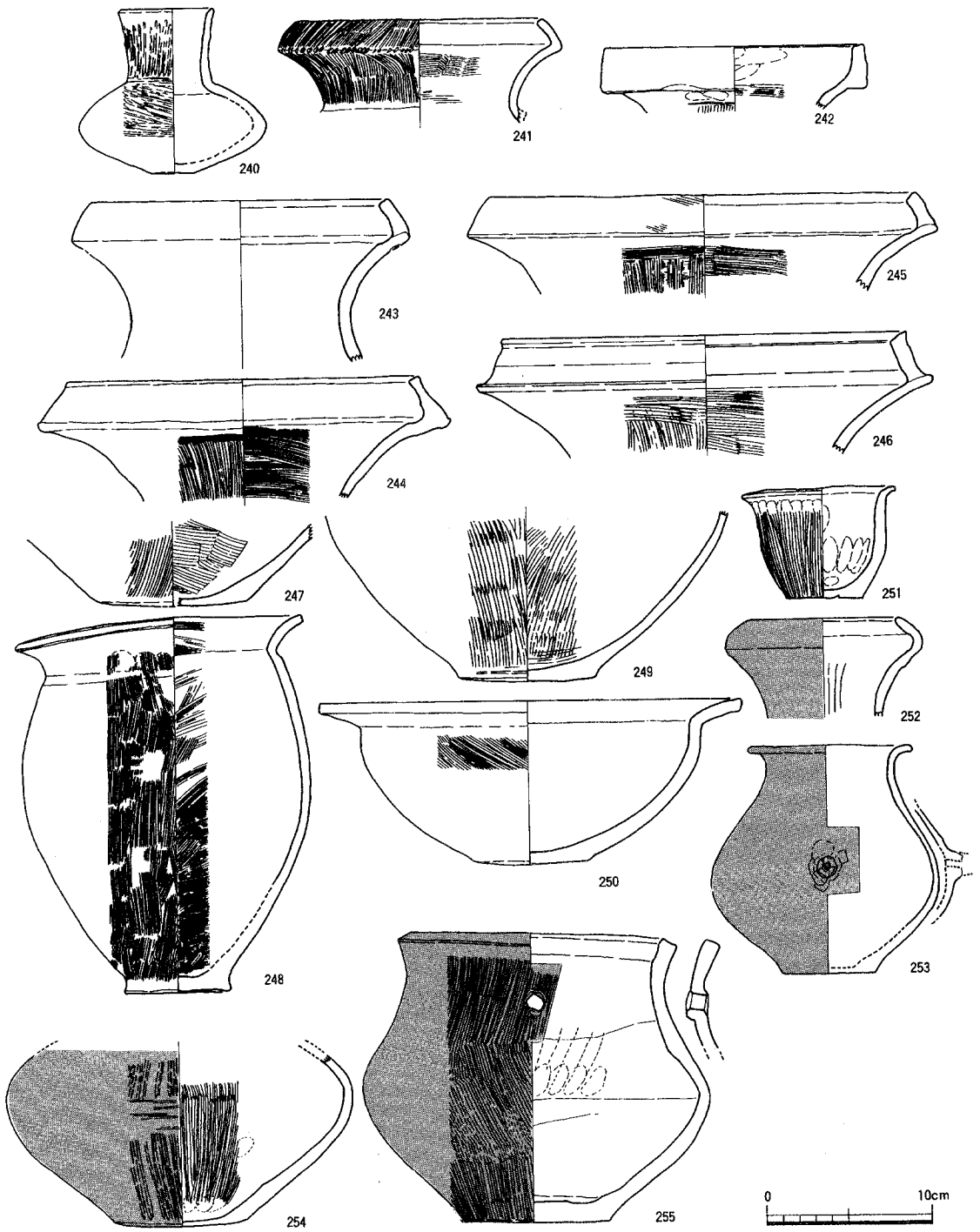


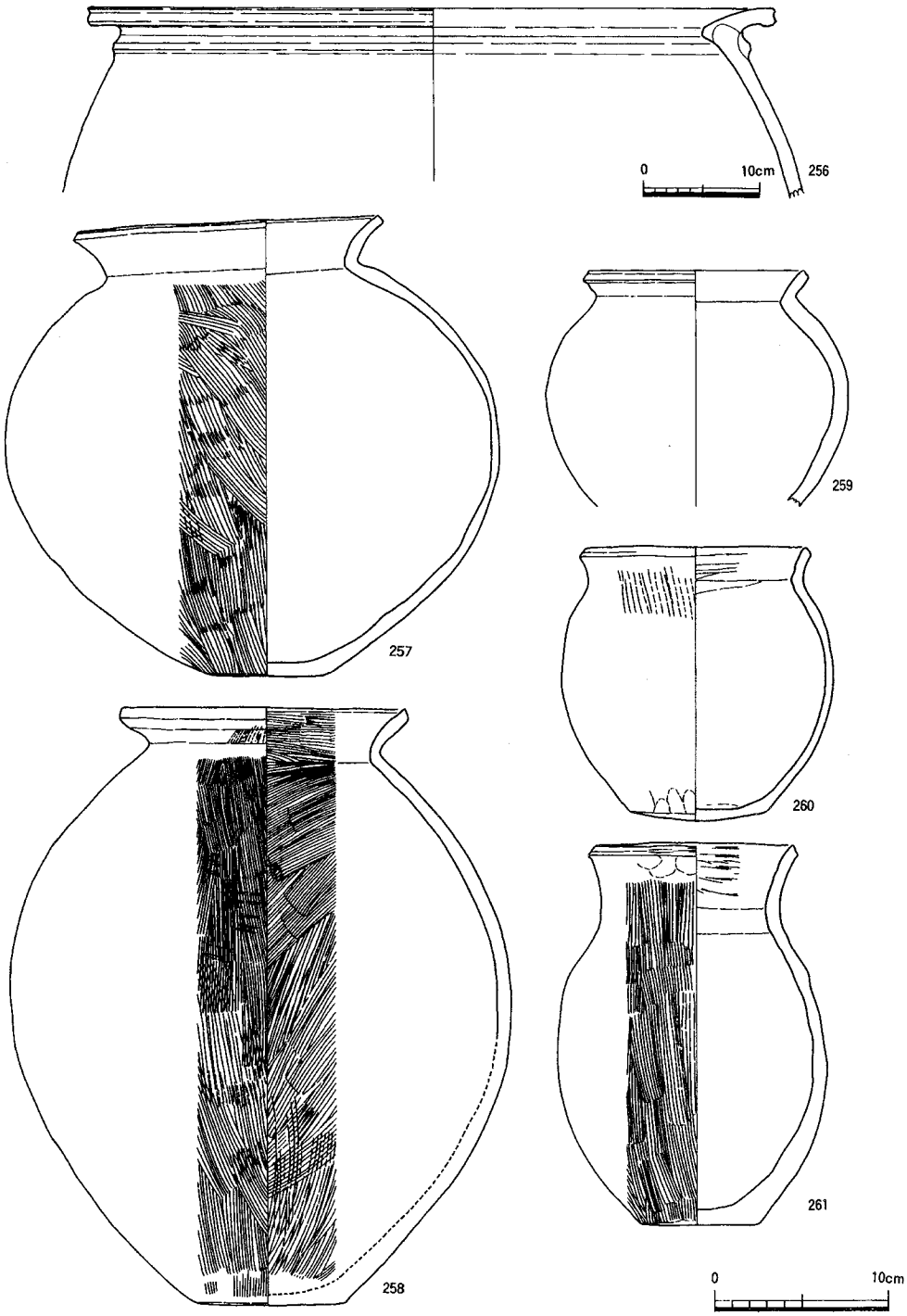

Fig.47　井戸SE15・16出土遺物実測図（1／4）

(232～236；SE15、237～239；SE16)



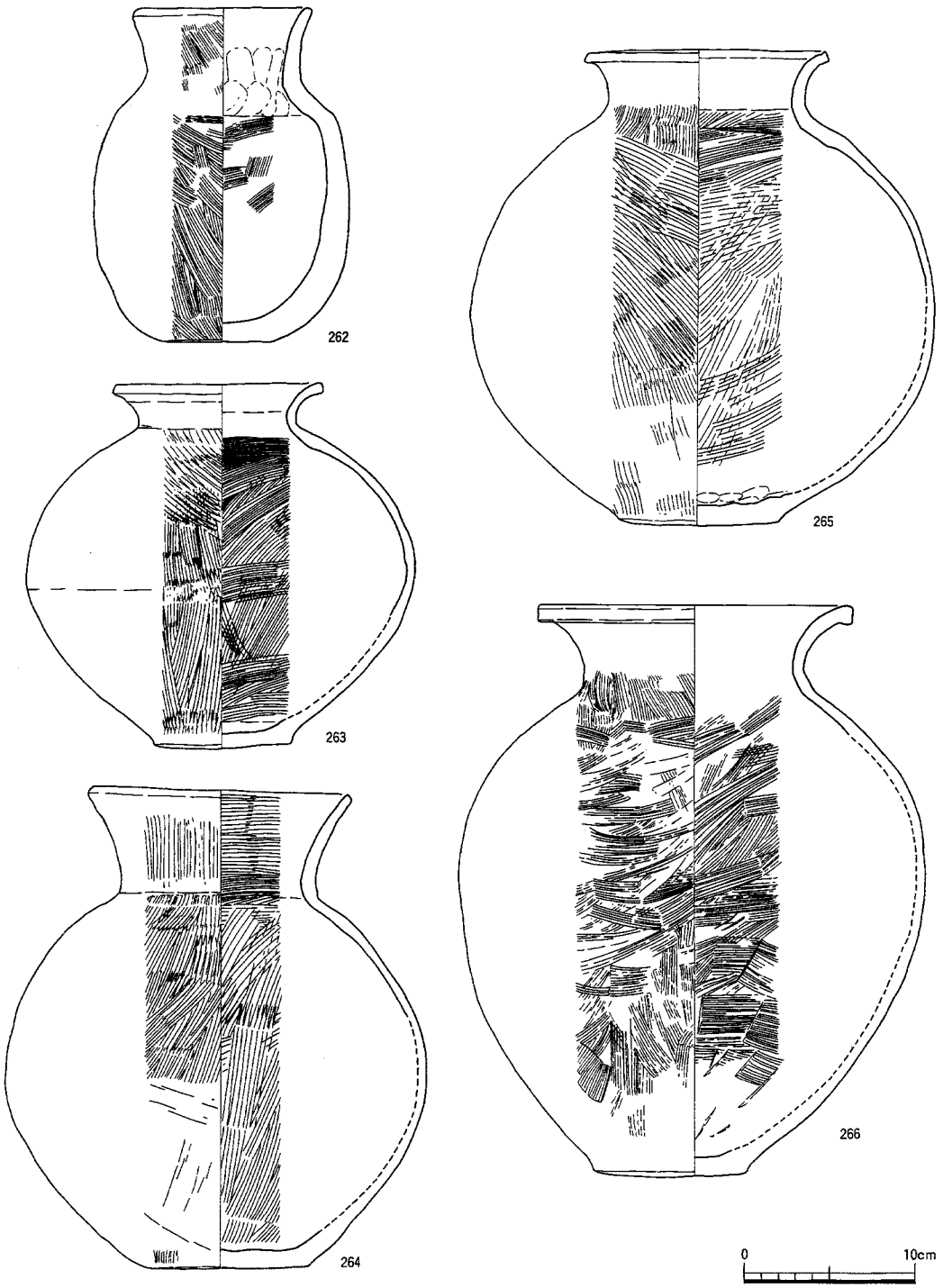

Fig, 48　井戸SE30・47出土遺物実測図（１／４）

(240～250；SE30、251～255；SE47)




Fig,49　井戸SE47・74出土遺物実測図（1／4・1／6）

(256；SE47、257～261；SE74)




Fig,50　井戸SE74出土遺物実測図（１／４）

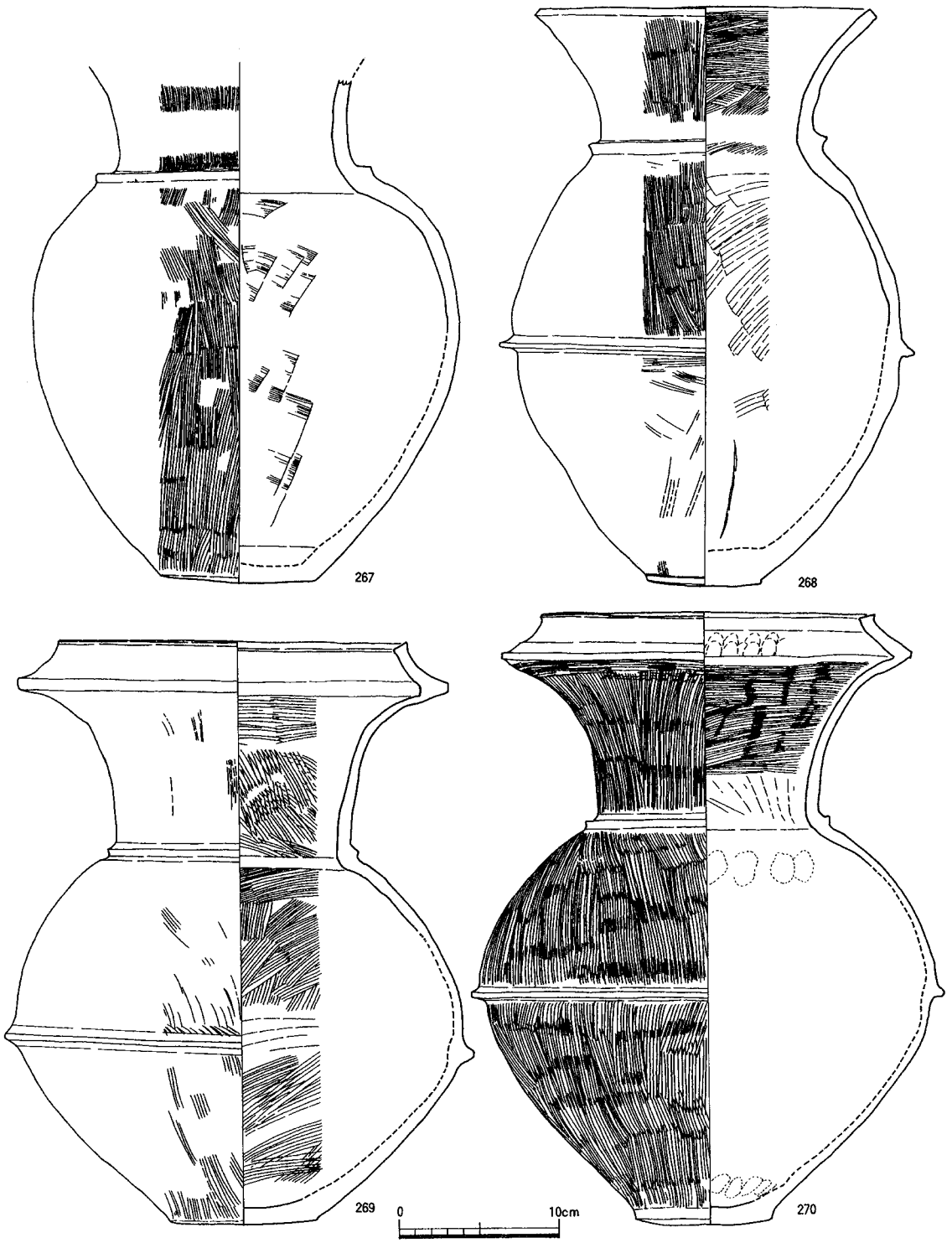



Fig.51　井戸SE74出土遺物実測図（1／4）

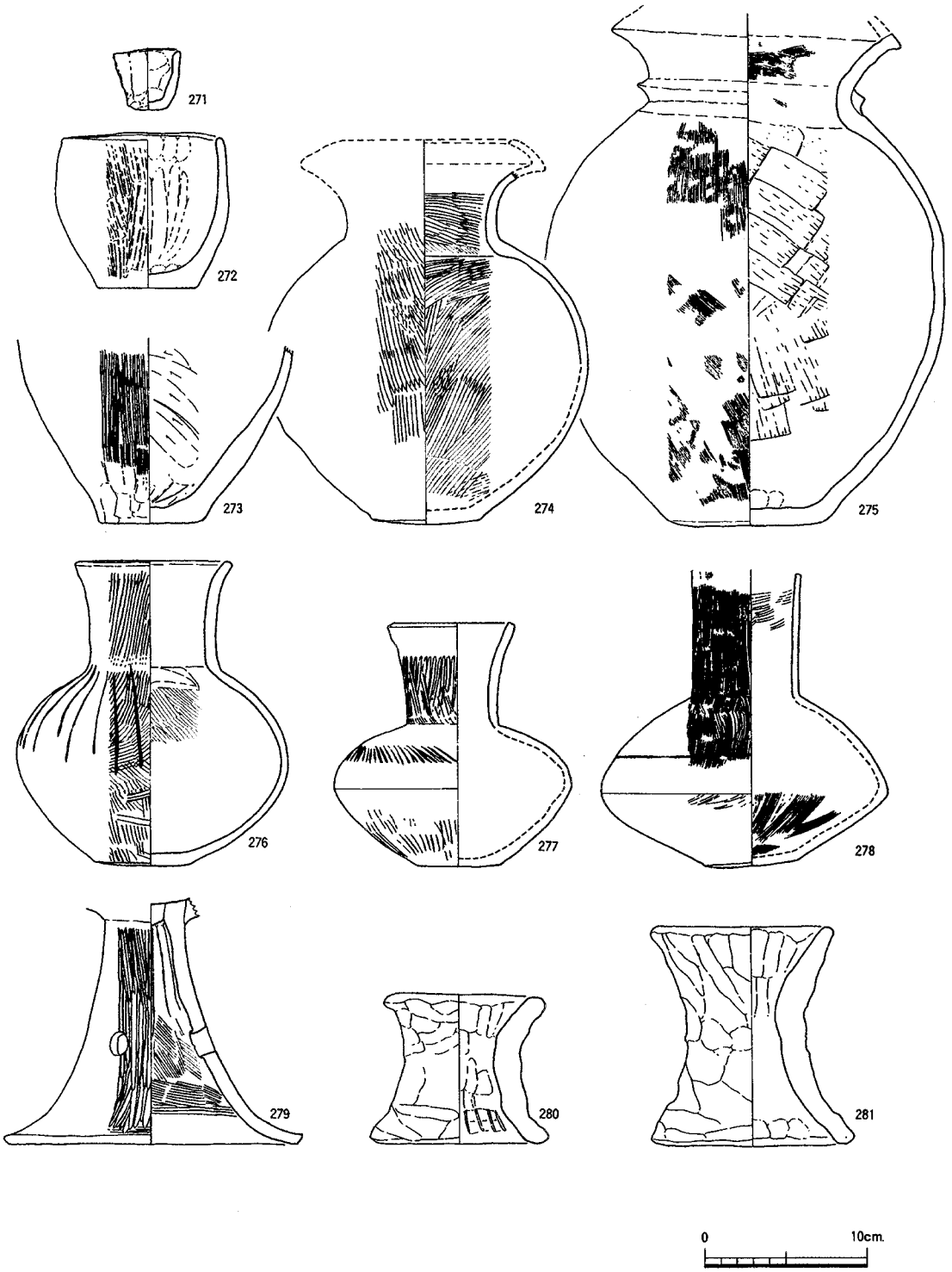



Fig.52　井戸SE74出土遺物実測図（１／４）

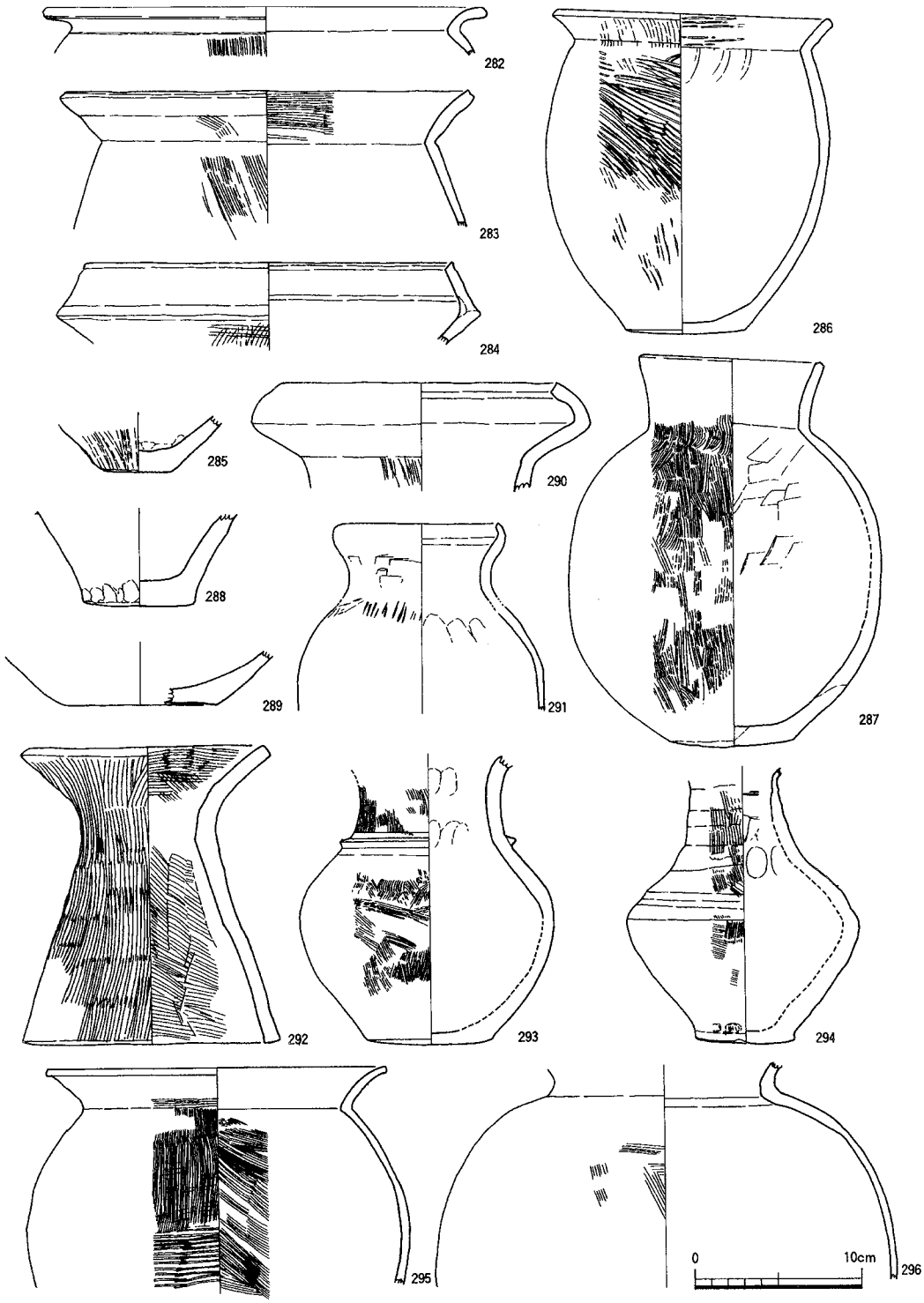



Fig.53　井戸SE123・162・202・230・260出土遺物実測図（1／4）

（282～285；SE123、286・287；SE162、288～291；SE202、292～294；SE230、295・296；SE260）

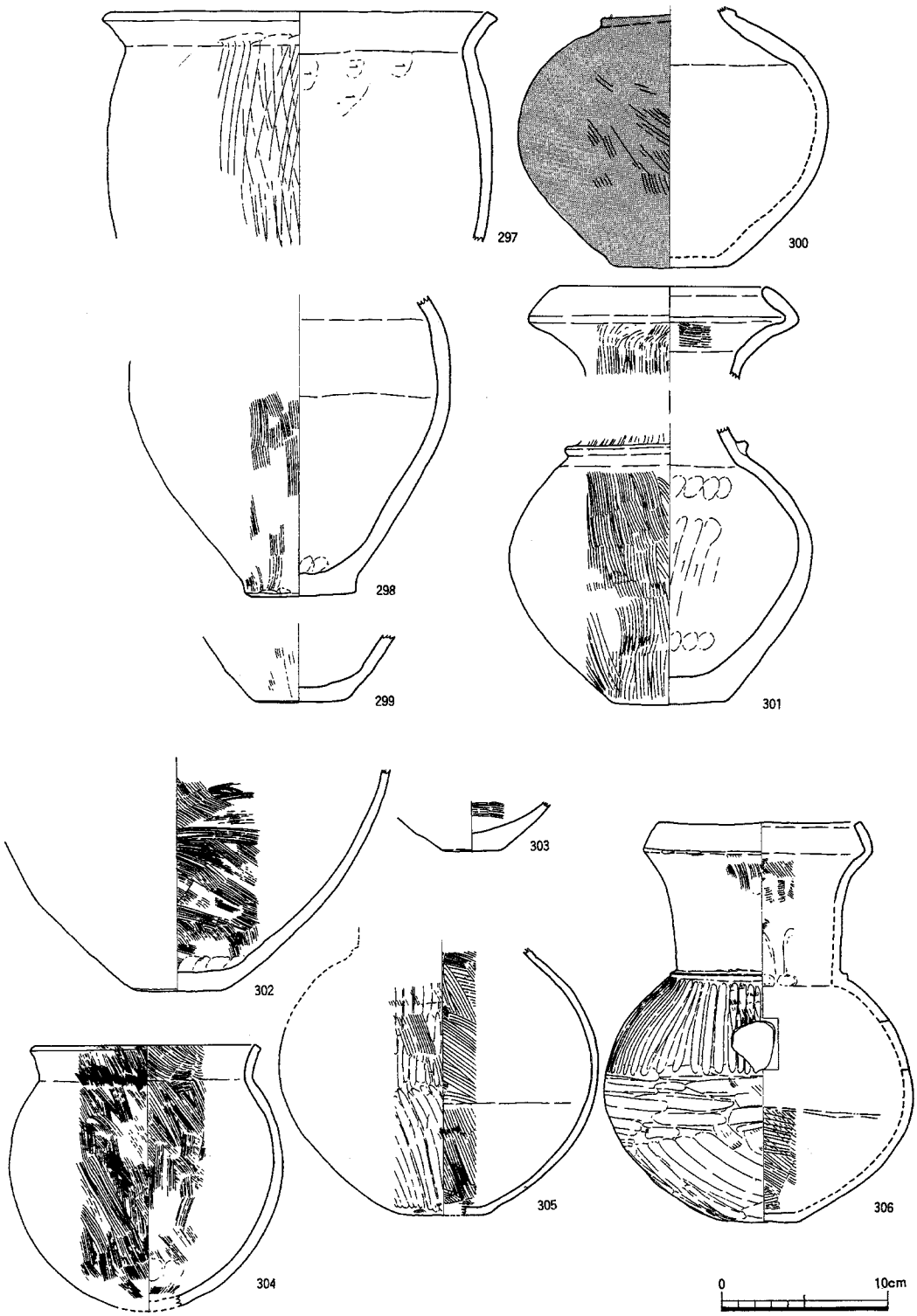



Fig.54　井戸SE315・378・448出土遺物実測図（１／４）

(297～301；SE315、302～304；SE378、305・306；SE448)

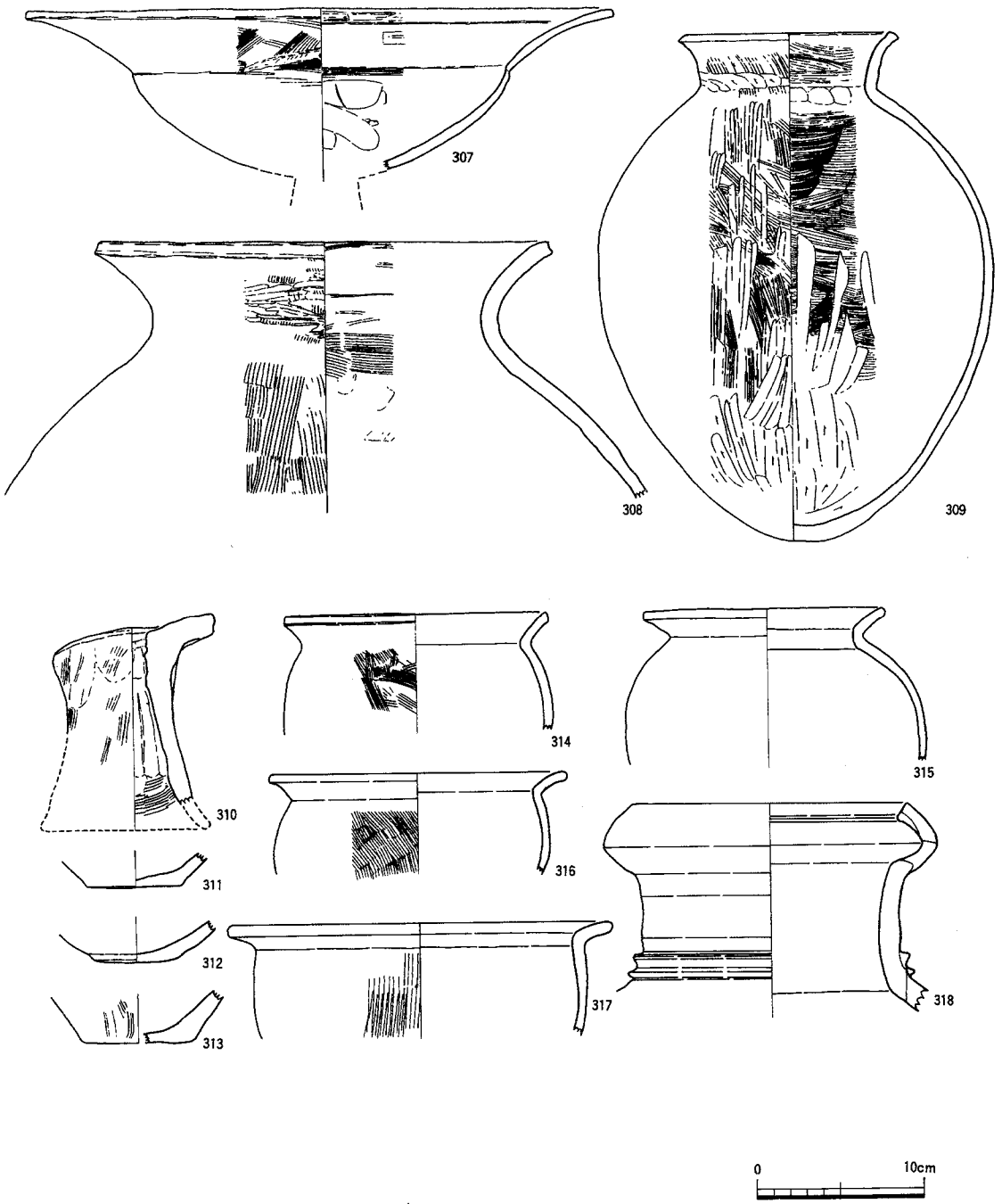



Fig.55　井戸SE448・449・489、柱穴SP470出土遺物実測図（1／4）

(307・308：SE448、309：SE449、310：SP470、311～318：SE489)

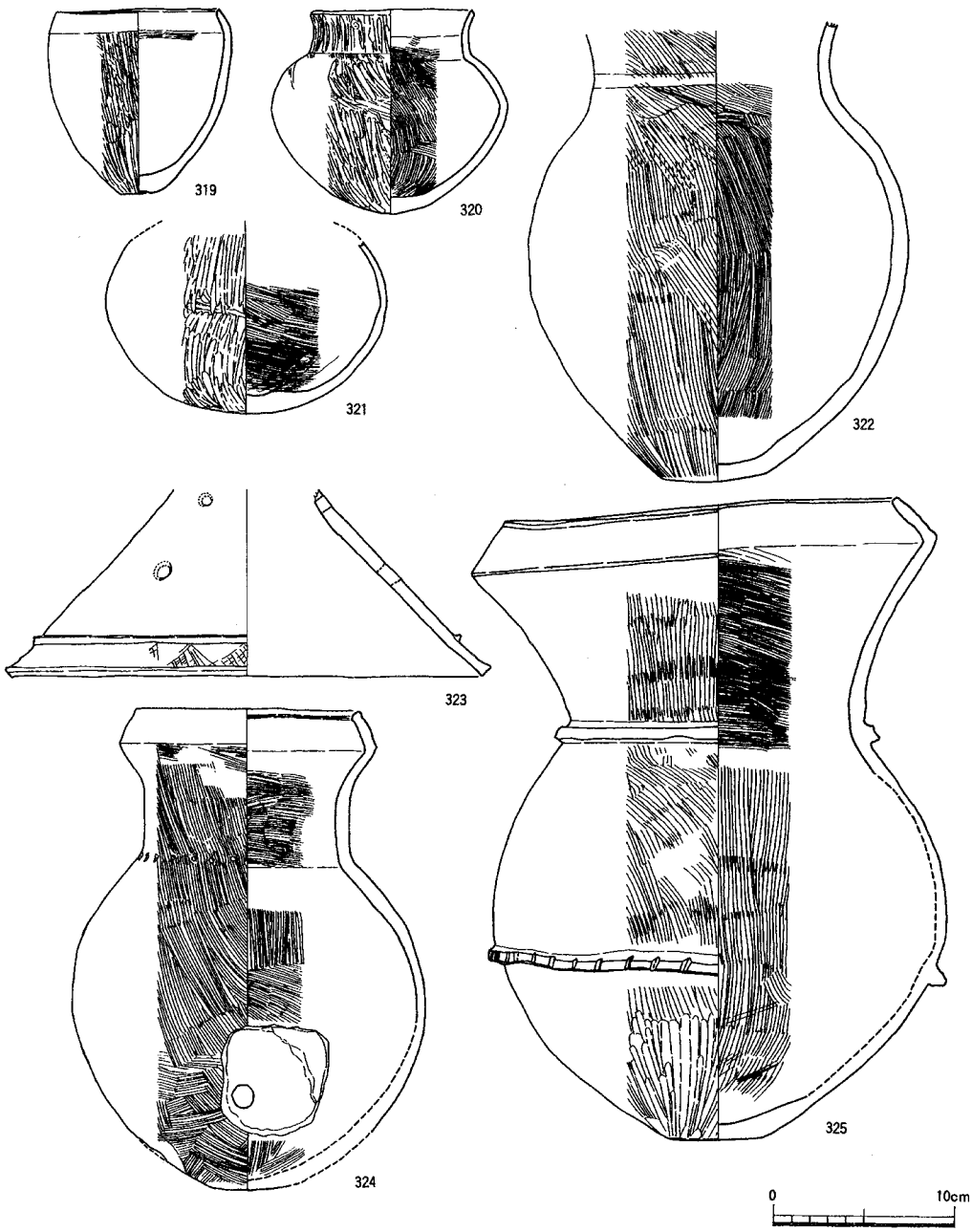



Fig.56　井戸SE500出土遺物実測図（１／４）

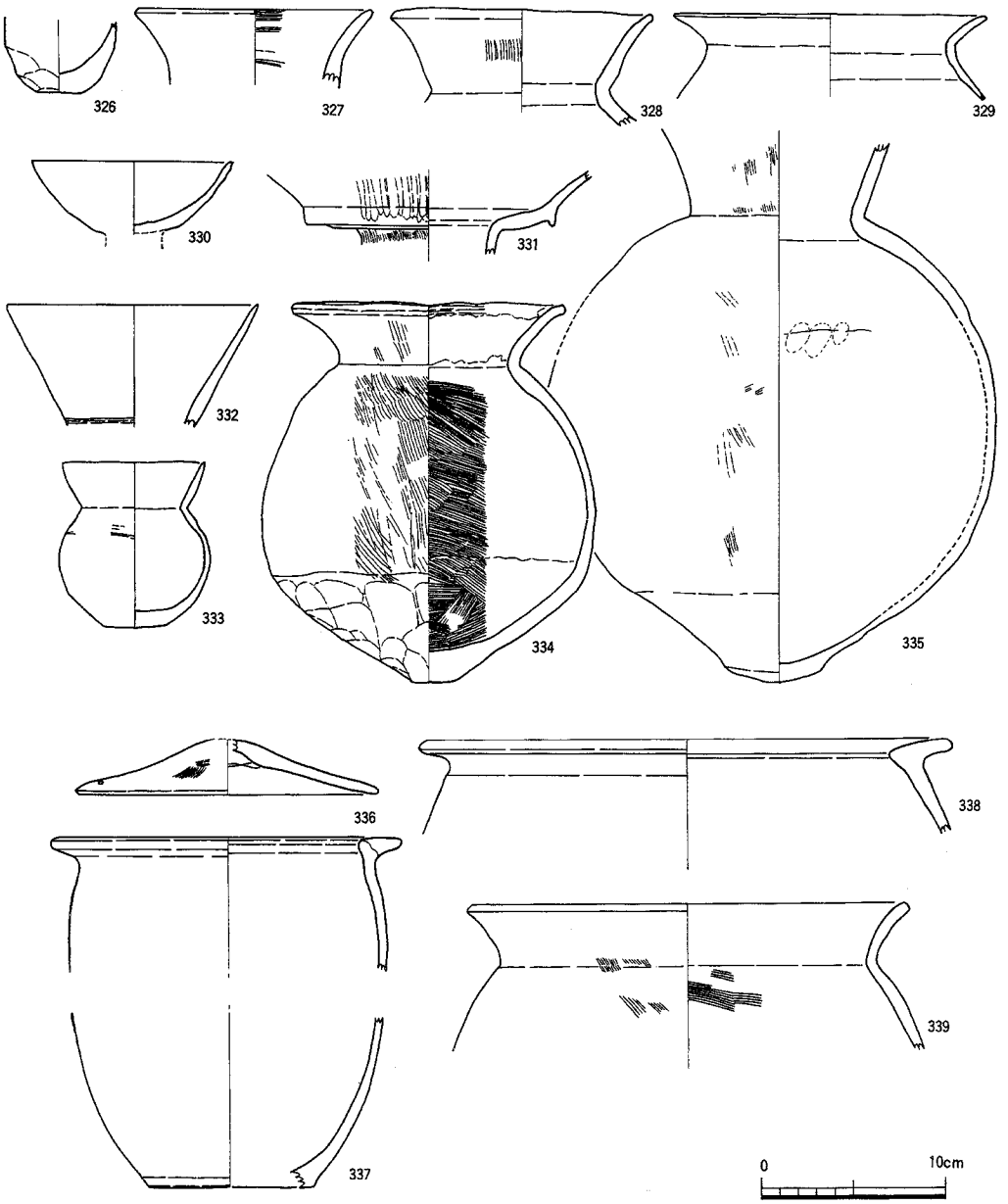
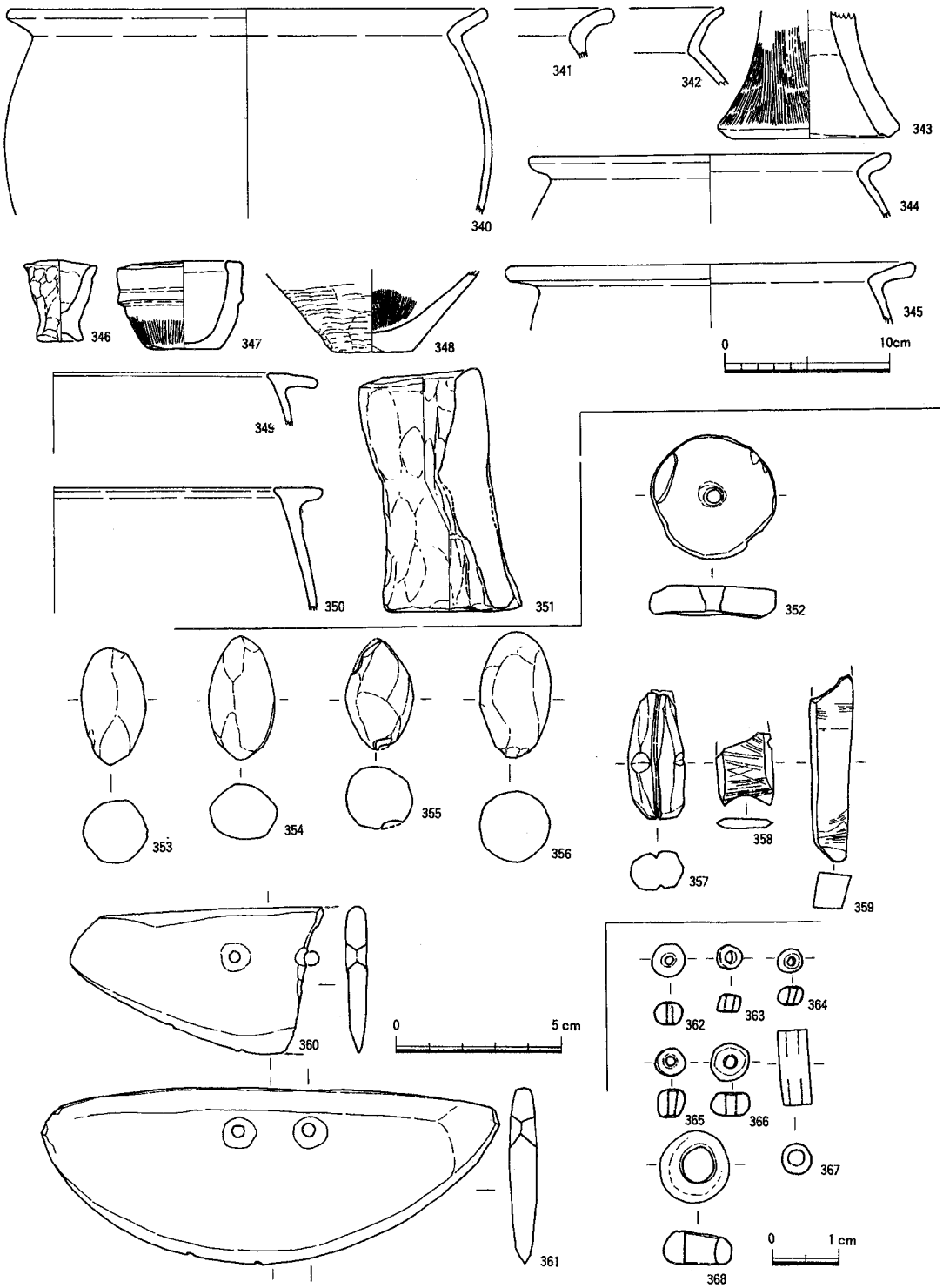


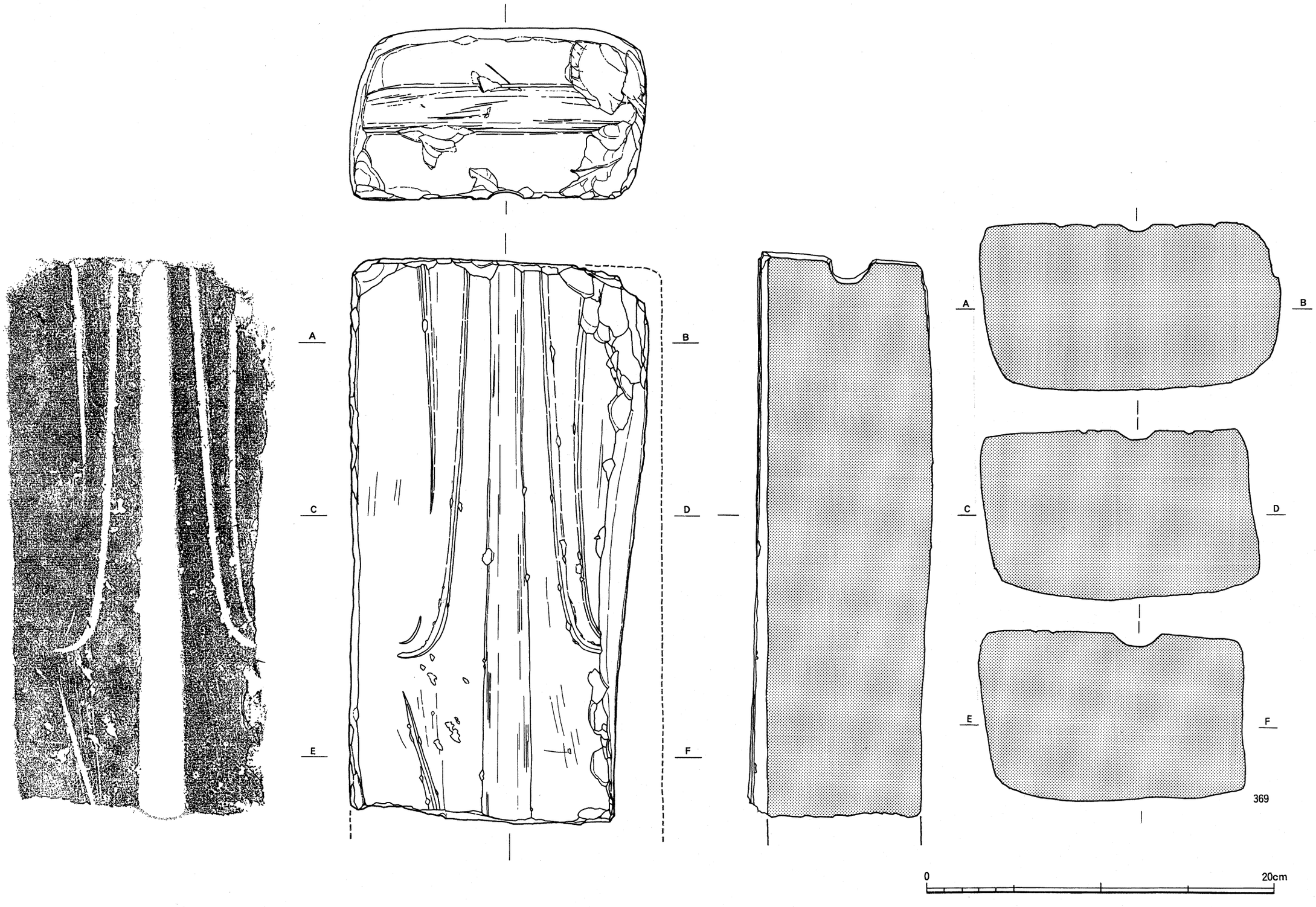

Fig.57　井戸SE506・625、土壙SX618出土遺物実測図（1／4）

(326～335；SE506、336～338；SX618、339；SE625)




Fig,58　柱穴・井戸・土壙・包含層出土遺物実測図（１／１・１／２・１／４）

(340；SX180、341・342；SX441、343～345；SX420、346～348；SX424、349～351；SX652、352；SP156、353；SP450、354；SE230、355；SE489、356；SX659、357；SC63、358；SC231、359・366；SC366、360；SP370、361；SP377、362；SP84、363・364；SP105、365；SC324、367；SP135、368；SP316)




Fig,59　竪穴住居跡SC324出土
石製広形銅矛鋳型実測図(1／2.5)

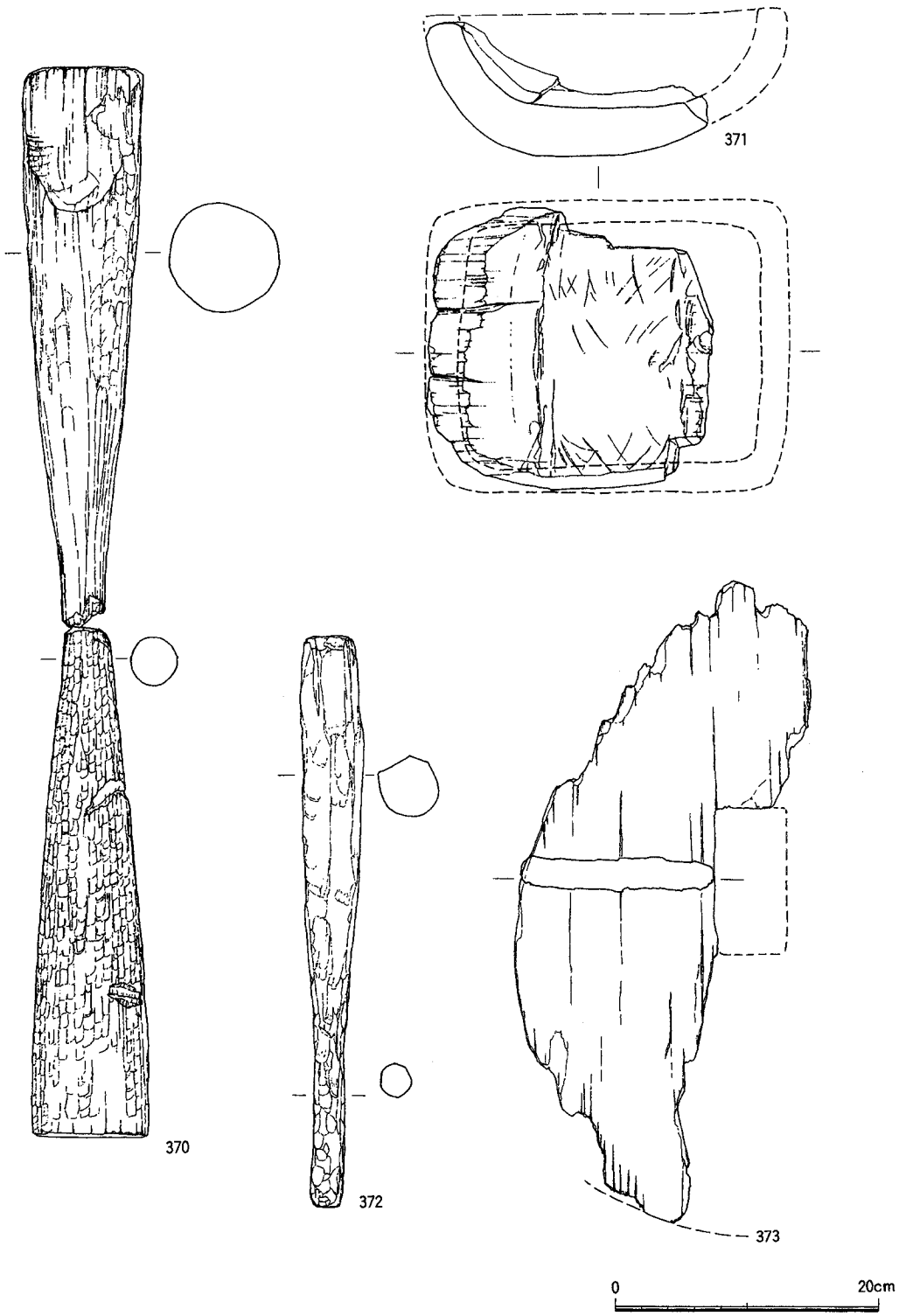



Fig.60　井戸SE74出土遺物実測図（1／5）

# ４、第44次調査

## (1)概要

調査地点は第40次調査区の南西部に隣接している。調査面積が狭いために遺構、遺物ともに少ない。弥生時代後期の井戸１基、古墳時代前期の井戸２基、南北方向に延びる弱い段落ちSX152を検出した。

## (2)井戸（SE）

**SE134**（Fig,63・64、PL,25、Tab,12）

調査区北側に位置する。平面形は不整な楕円形で、掘方は円筒形状である。深さは1.24mを測る。埋土は３層に分かれる。第１層は黒褐色粘質土で黄白色粘土小塊を含む。弥生土器小片が混入している。第２層は黒灰色粘質土で黄白色粘土小塊、木炭、砂礫を含む。第３層は黒色粘質土で樹木片、木炭片を含む。廃絶時期は、弥生時代後期前半頃と思われる。

**出土遺物**　弥生時代中期の甕375、後期の甕374・376が出土している。

**SE138**（Fig,63・64、PL,25・35、Tab,12）

SE134の南側に隣接している。平面形は不整な楕円形で、掘方は円筒形状である。深さは1.25mを測る。埋土は４層に分かれる。第１層は黒褐色粘質土で弥生土器小片を含む土師器甕が完形品で出土している。第２層は暗褐色～黒褐色粘質土で黄白色粘土小塊、砂礫を含む。第３層は黒色粘質土で樹木片、木炭片を含む。第４層は黒色粘質土である。出土遺物からみて古墳時代初頭から前期に廃絶されたと思われる。

**出土遺物**　弥生時代後期後半から終末の壺377・382・386、古墳時代初頭～前期の器台380、坩379・381、高杯384、甕385が出土している。手捏土器378は時期は不明。382の肩部にはヘラによる三角幾何文を施している。

**SE143**（Fig,63、PL,25、Tab,12）

SE138の南側に位置している。平面形は円形で、掘方は円筒形状である。深さは1.33mを測る。埋土は３層に分かれる。第１・２層は暗褐色～黒褐色粘質土である。第３層は黒色～黒灰色粘質土である。遺物は各層から弥生時代後期～古墳時代前期の土器片が出土している。廃絶時期は古墳時代前期と思われる。

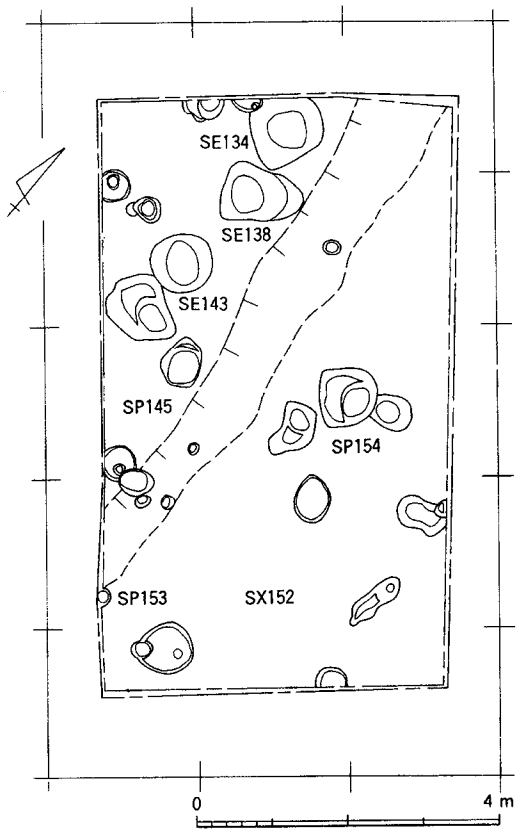
**出土遺物**　図示し得るものはない。

## (3)柱穴（SP）

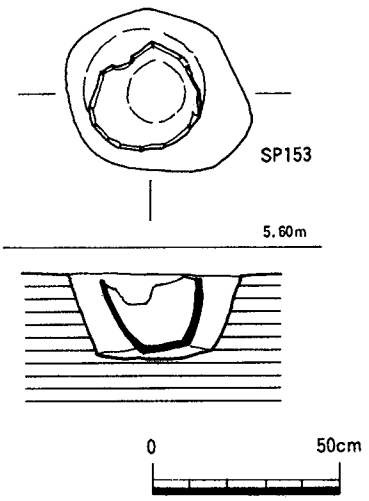
柱穴はおそらく掘立柱建物のものと思われるが、本調査区では復元することはできなかった。埋土からの出土遺物からみて弥生時代後期および古墳時代以降のものと思われる。

**SP153**（Fig,62・64、PL,25・35、Tab,13）

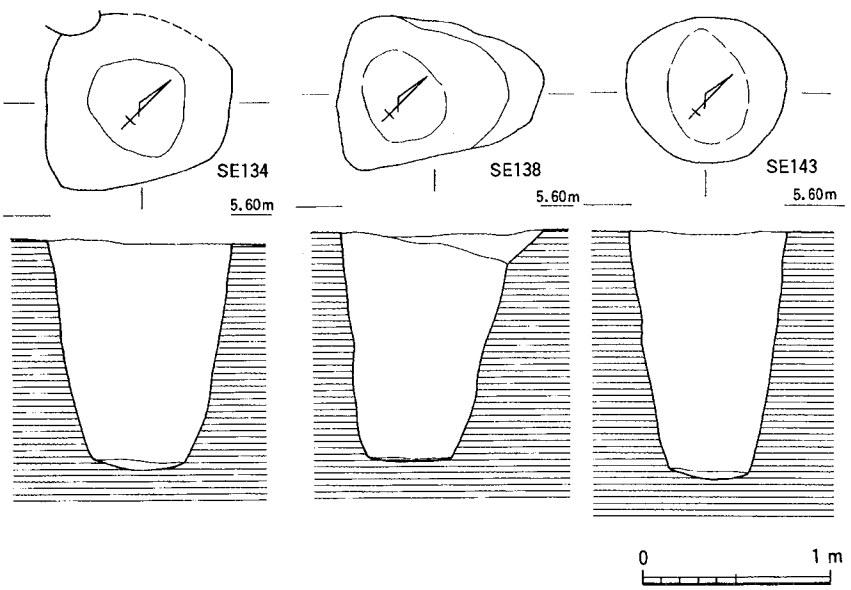
南壁に一部かかっている。直径は約25cmで、深さ23cmの円形の柱穴である。柱抜き跡に弥



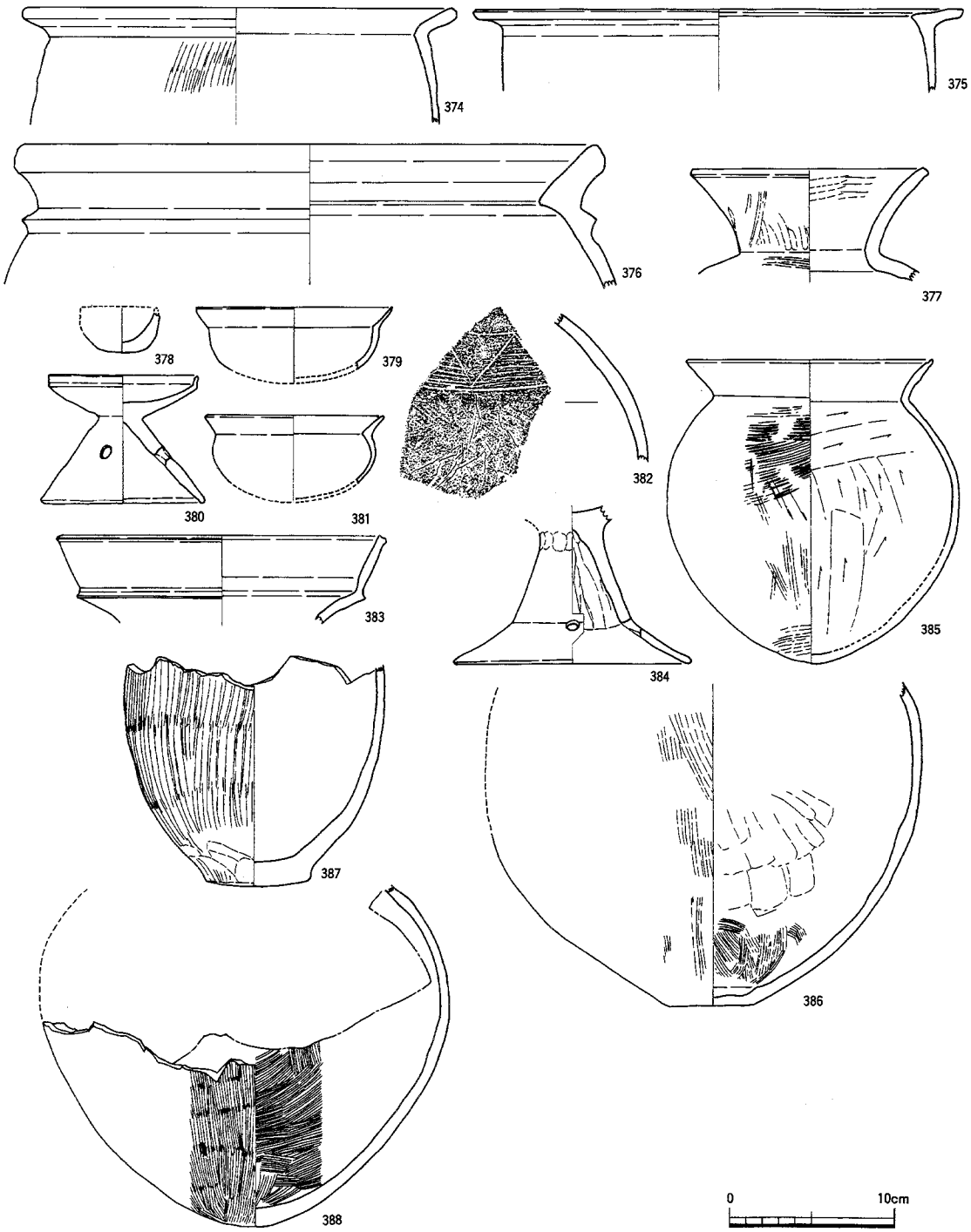

Fig,61　第44次調査区遺構分布全体図（1／100）




Fig,62　柱穴SP153内遺物出土状況実測図（1/20）




Fig,63　井戸SE134・138・143平面および断面図（1／40）




Fig,64　井戸SE134・138、柱穴SP153・155出土遺物実測図（１／４）

(374～376；SE134、377～386；SE138、387；SP153、388；SP155)

生時代後期半ば～後半の壺形土器387が出土している。

**SP155出土遺物**　弥生時代終末の壺下半部388が出土している。

## (4)その他の遺構

ほぼ南北に延びる段落ちSX152を検出した。弥生時代の遺物を多く含む暗褐色～黒褐色粘質土が堆積している。段落ちの線は第40次調査SD01に平行している。その東側の範囲はSD01と平行して延びるSD48の西縁までである。幅は約20mあり、帯状に南北に延びているが、本来の分布範囲はさらに広かったものと思われる。第40次調査ではその範囲を遺物包含層としたが、SD01が完全に埋没した弥生時代終末後に形成された古墳時代以降の水田跡の可能性が考えられた。

**Tab,12　第44次調査　井戸一覧表**

＊深さは検出面からのマイナス値

| Fig, | PL | 遺構(SE) | 平面形 | 断面形 | 計測値(m) a | b | c | 床面標高(m) | 先後関係 | 出土遺物概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 63 | 25 | 134 | 円　形 | 円筒形 | 1.00 | 0.95 | 1.24 | 4.23 | SX152より古い | 374～376 |
| 63 | 25 | 138 | 〃 | 〃 | 1.10 | 0.82 | 1.25 | 4.27 | 〃 | 377～386 |
| 63 | 25 | 143 | 〃 | 〃 | 0.84 | 0.78 | 1.33 | 4.16 | 〃 | 弥生中～後期・土器小片 |

**Tab,13　第44次調査掲載土器所見一覧**

：法量の口径は外径、器台は台上部径、(　)は復元値

| Fig, | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 器種 | 法量(cm) 口径 | 器高 | 底径 | 胴部径 | 形態的特徴 成形上の手法 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 64 | — | 374 | 205 | 甕 | 26.3 | — | — | — | 口縁部片。口縁は「く」字形。 | 灰褐色 | やや粗い | やや不良 | SE134 |
| 64 | — | 375 | 204 | 甕 | 29.8 | — | — | — | 口縁部片。口縁は逆「L」字形。 | 灰褐色 | 粗い | やや不良 | SE134 |
| 64 | — | 376 | 203 | 甕 | (36.0) | — | — | — | 口縁部片。胴部は強く内傾。内外面ヨコナデ。 | 明褐色 | 粗い | 良 | SE134 |
| 64 | — | 377 | 207 | 壺 | 14.6 | — | — | — | 口縁部片。外面ヘラミガキ。 | 明褐色 | 細かい | 良 | SE138 |
| 64 | — | 378 | 209 | 鉢 | (4.9) | (2.9) | 1.8 | — | 口縁部欠損品。手捏土器。 | 明褐色 | 細かい | やや軟 | SE138 |
| 64 | — | 379 | 210 | 坩 | 12.0 | 4.8 | — | 10.4 | 底部欠損品。内外面とも丁寧なナデ。 | 明赤褐色 | 細かい | 良 | SE138 |
| 64 | 35 | 380 | 206 | 器台 | 9.1 | 7.9 | 10.0 | — | 胸部一部欠損品。赤色顔料塗布後ヘラミガキ。胸部には径1.5cmの穿孔あり。 | 赤褐色 | 細かい | やや不良 | SE138 |
| 64 | — | 381 | 208 | 坩 | 11.0 | 5.4 | — | 10.0 | 口縁部片。器壁が荒れ調整痕不明。 | 黄褐白色 | 細かい | 良 | SE138 |
| 64 | — | 382 | 212 | 壺 | — | — | — | — | 肩部片。線刻幾何文を施文。 | 褐色 | やや粗い | 良 | SE138 |
| 64 | — | 383 | 211 | 壺 | 20.2 | — | — | — | 口縁部片。内外面ともヨコナデ。 | 灰褐色 | やや粗い | 良 | SE138 |
| 64 | — | 384 | 213 | 高杯 | — | — | 14.4 | — | 胸部片。径1.5cmの穿孔あり。 | 明黄褐色 | 細かい | やや不良 | SE138 |
| 64 | 35 | 385 | 214 | 甕 | 15.0 | 18.7 | — | 17.8 | 完形品。胴部は均整のとれた卵形。肩の張りは弱い。内面はヘラケズリ。底部には叩き痕が残る。 | 明黄白色 | 極て粗い | やや不良 | SE138 |
| 64 | — | 386 | 215 | 壺 | — | — | 5.3 | 26.3 | 底～胴部片。内面はカキトリ。外面はナデ。 | 褐～黒灰色 | やや粗い | やや不良 | SE138 |
| 64 | 35 | 387 | 201 | 壺 | — | — | 6.5 | 16.0 | 底～胴部片。内面はハケ目後ナデ。底部はやや丸みあり。 | 灰褐色 | やや粗い | やや不良 | SP153 |
| 64 | — | 388 | 202 | 壺 | — | — | — | 25.0 | 胴部片。内外面丁寧なハケ目。 | 暗褐色 | やや粗い | やや不良 | SP155 |

# ５、第48次調査

## (1) 概要

第48次調査区は、第40次調査区の北東部に隣接する地点である。第40次調査SD01の延長部が検出された第35次調査区は本調査区の北東部に近接している。調査区においては、弥生時代後期から古墳時代前期にかかる遺構と遺物、また江戸期から近代まで利用されていた潅漑用水路を検出した。検出した遺構は、井戸29基、溝３条、土壙47基、柱穴198である。また掘立柱建物を28棟推定復元した。昭和20年代の区画整理およびその後の工場建設による削平・撹乱を大きく受けており全般的にみて遺構の遺存状況は悪く、南側が分布密度が低くなっている。遺構検出面の高さは標高4.8～5.1mである。北東方向に低くなっている。

出土した遺物は、弥生土器、須恵器、陶質土器、土師器、陶器、石器(石包丁、石鎌、砥石、石錘、紡錘車、磨石、石鏃、黒曜石片)、土製品(紡錘車、投弾)、木製品(槌、板材)、銅鏃がある。遺物の出土量からみると、弥生時代後期のものがこの地点でも主体を占めるが、丘陵尾根の中央部に位置する第42次調査区と比べ古墳時代前期以降の遺構と遺物がやや目立ち、遺構の時期がやや新しい傾向が窺える。

## (2) 掘立柱建物（SB）

SB01 (Fig,66、PL,26、Tab,14)

調査区の南側に位置する。梁行１間または２間、桁行３間の東西棟である。規模はSB20とともに本調査区では最も大きい。柱穴は、一辺約80～100cmの不整な隅丸の方形または円形で、いずれも基底面に礎板を置いている。現存壁高は20～35cmほどである。現存する礎板は厚さ３～５cmほどで長さは約30cmである。埋土は黒灰色粘質土である。柱痕跡はSP35以外の柱穴で認められた。柱径は20～25cmほどと推定できる。東側妻の中柱は検出していない。切合い関係はSB02・05を切り、SD03から切られている。弥生時代後期後半～末期頃と思われる。

SB02 (Fig,66、PL,27、Tab,14)

調査区の南側、SB01と重複する位置にある。梁行１間、桁行２間の南北棟である。規模はやや大きい。柱穴の遺存状況は悪く、壁高は６～13cmほどである。埋土は黒灰色粘質土である。切合い関係はSB01に切られている。弥生時代後期前半から半ば頃と思われる。

SB03 (Fig,66、PL,28、Tab,14)

調査区の南西部に位置する。SB09と重複している。梁行１間、桁行２間の東西棟である。規模はやや大きい。柱穴の遺存状況はよく、壁高は15～45cmほどが残っている。埋土は暗褐色～黒褐色粘質土でよくしまっている。いずれの柱穴も底面に礎板を残している。切合い関係はSD04から切られている。弥生時代後期半ば頃のものと思われる。

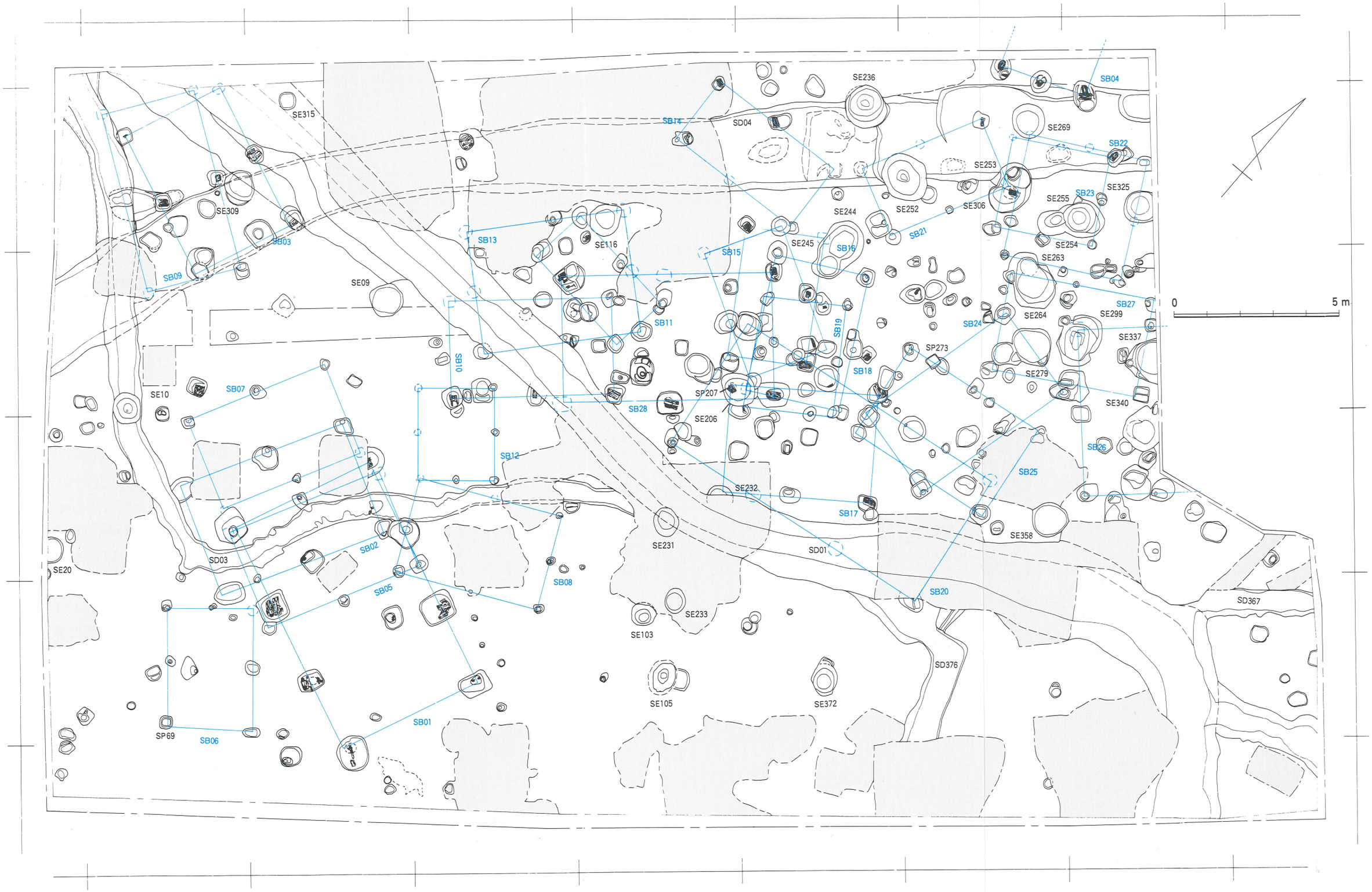



Fig. 65
第48次調査区遺構分布全体図（1／125）
※アミ部分は、現代撹乱

SB04 (Fig,66、PL,28、Tab,14)

調査区北側に位置する。2間×2間規模の掘立柱建物と思われる。総柱の可能性がある。規模はやや小さい。柱穴は壁高が25～40cmほどで残っている。埋土は黒灰色粘質土で、いずれも礎板を有する。礎板は幅が15～20cm、厚さ4cmほどで残っており、直交させて二重に重ねて柱穴底面に設置している。SD04を切っており、古墳時代のものと思われる。

SB05 (Fig,66、Tab,14)

調査区の南側、SB01と重複している。梁行1間、桁行2間の東西棟である。規模はやや小さい。柱穴の遺存状況は悪く、壁高は10cmほどしか残っていない。埋土は黒褐色粘質土である。切合い関係はSD03を切り、SB01から切られている。弥生時代後期のものと思われる。

SB06 (Fig,67、Tab,14)

調査区の南側、SB01に近接している。梁行2間、桁行2間の南北棟である。柱穴の遺存状況は良く、壁高は28～40cmほどで残っている。埋土は暗褐色～黒褐色粘質土である。時期は不明確であるが、弥生時代後期のものと思われる。

SB07 (Fig,67、Tab,14)

調査区の南側、SB01の西側に位置している。梁行1間、桁行2間の南北棟である。柱穴の遺存状況は良く、壁高は14～20cmほどである。埋土は暗褐色土で、柱痕跡が残っている。柱径は15cm前後である。弥生時代後期のものと思われる。

SB08 (Fig,67、Tab,14)

調査区の南側に位置する。梁行2間、桁行2間の東西棟である。柱穴の遺存状況は悪く、壁高は10cmほどである。埋土は黒褐色粘質土である。西側妻の中柱SP36は南西隅柱側にやや寄っている。弥生時代後期のものと思われる。

SB09 (Fig,67、Tab,14)

調査区南西側に位置する。梁行1間、桁行2間の東西棟である。柱穴の遺存状況は良く、壁高は40～50cmほどで残っている。SP308の底部には礎板が残る。埋土はいずれも暗褐色～黒褐色粘質土。SD04から切られている。弥生時代後期のものと思われる。

SB10 (Fig,67、Tab,14)

調査区の中央に位置する。梁行1間もしくは2間、桁行2間の東西棟と考えられる。柱穴の遺存状況は南側柱は比較的良好である。南側柱SP78・84・133に礎板がわずかに残っている。埋土は黒褐色粘質土である。弥生時代後期か。

SB11 (Fig,67、Tab,14)

調査区の西側に位置する。梁行1間もしくは2間、桁行2間の東西棟である。SD01によって南側柱が削平されている。2×2間規模の可能性が高い。柱穴の遺存状況は良好で、壁高は30～38cmほどである。埋土は黒褐色粘質土。古墳時代のものと思われる。

SB12 (Fig, 68、Tab, 14)

調査区中央南側に位置する。梁行２間、桁行２間の東西棟と考えられる。規模は小さい。柱穴の遺存状況はやや悪く、壁高は10～15cmほどが残っている。埋土は暗褐色～黒褐色粘質土である。柱穴の配列は整然としている。南側柱は確認できていない。時期は不明確であるが古墳時代のものか。

SB13 (Fig, 68、Tab, 14)

調査区中央の南側に位置する。梁行２間、桁行２間の南北棟と考えられる。規模は比較的大きい。柱穴の遺存状況は良く、壁高は20～27cmほどが残っている。埋土は暗褐色～黒褐色粘質土で、SP128・132・114には柱痕跡が残る。柱径は16～20cmほどの大きさが想定できる。時期は明確ではないが古墳時代のものか。

SB14 (Fig, 68、Tab, 14)

調査区西北部に位置する。梁行１間、桁行２間の東西棟である。柱穴の遺存状況は比較的良好であるが、一部SD04によって削平されている。埋土は黒褐色粘質土で、SP165・166・237に礎板がわずかに残っている。時期は明確ではないが弥生時代後期のものと思われる。

SB15 (Fig, 68、Tab, 14)

調査区西北部に位置する。梁行１間、桁行２間の南北棟である。規模はやや小さい。柱穴の遺存状況は良好である。40～50cmほどの深さで残っている。埋土は黒褐色粘質土。SP199・222には礎板がわずかに残っている。弥生時代後期のものと思われる。

SB16 (Fig, 68、Tab, 14)

調査区西北部、SB15と主軸をやや違えて重複している。梁行１間、桁行２間の東西棟である。柱穴は比較的残りがよいが、北隅柱が弥生時代後半～終末時期のSE244によって削平されている。埋土は黒褐色粘質土である。SP220・238に礎板が残っている。弥生時代後期前半頃のものと思われる。

SB17 (Fig, 68、Tab, 14)

調査区の中央に位置する。梁行１間、桁行２間の南北棟である。梁行の柱間がやや広いが、中柱は検出されていない。柱穴の遺存状況は良好である。壁高は30～38cmほどで残っている。埋土は暗褐色～黒褐色粘質土で、良くしまっている。SP208・382・290に礎板が残っている。SP290に残った礎板は厚さが５cmほどあったことが想定できる。切合い関係はSE206・232を切っている。弥生時代後期後半から終末と思われる。

SB18 (Fig, 69、Tab, 14)

調査区中央に位置する。梁行１間、桁行２間の東西棟である。柱配列は整然としている。梁行がやや広い。柱穴の遺存状況は良好である。壁高は40～50cmほどの深さで残っている。埋土は黒褐色粘質土である。SP249・376・242には柱痕跡が残っている。柱径は20～26cmほどの大きさが推定できる。弥生時代後期のものと思われる。

SB19 (Fig,69、Tab,14)

調査区の中央に位置する。SB15・16・18とはほぼ同じ位置で重複している。梁行1間、桁行2間の南北棟である。南隅部の柱は未確認である。その他の柱穴の遺存状況は良好である。壁高は35～45cmほどで残っている。SP205・256には柱痕跡が残っている。柱径は12～15cmほどと推定できる。弥生時代後期後半から終末にかけてのものと思われる。

SB20 (Fig,69、Tab,14)

調査区中央東側に位置する。梁行1間、桁行3間の大型の掘立柱建物である。SB01と比べて梁行、桁行ともにSB20のほうが長く、平面面積は6.2m²広い。柱穴は直径が60～80cmで、深さは50～60cmほどであり規模が大きい。礎板はその痕跡がSP244でわずかに確認されていることから、本来はSB01と同様に柱穴全部に用いられていたことが考えられる。時期は明確でないが弥生時代後期後半ころと考えられる。

SB21 (Fig,69、Tab,14)

調査区北側に位置する。梁行1間、桁行2間の南北棟である。柱穴の遺存状況は良いが、SD04によって一部が削平されている。SE306から切られている。埋土は黒褐色粘質土である。SP268には礎板がわずかに残っている。弥生時代後期のものと思われる。

SB22 (Fig,69、Tab,14)

調査区北側に位置する。梁行2間、桁行2間の規模が想定でき、総柱の可能性がある。柱穴は径30cm前後でやや小さい。SD04、SE253・306・325を切っている。SE269との切合い関係は不明である。弥生時代後期終末から古墳時代前期のものと思われる。

SB23 (Fig,70、Tab,14)

SB22とほぼ重複している。梁行2間、桁行2間の南北棟である。柱穴はやや残りが悪く、SE306から切られている。柱穴の遺存状況はあまり良くないが、SP323・400には礎板がわずかに残っている。埋土は黒褐色～黒灰色粘質土である。弥生時代後期後半～終末のものと思われる。

SB24 (Fig,70、Tab,14)

調査区北側中央に位置する。梁行1間、桁行2間のやや長大な南北棟である。柱穴の遺存状況は良く、壁高は30～48cmほどで残っている。埋土は黒褐色粘質土で、SP281・404には礎板の痕跡がわずかに残っている。弥生時代後期後半のものと思われる。

SB25 (Fig,70、Tab,14)

調査区の北側中央に位置する。梁行1間、桁行2間の東西棟である。柱の配列は整然としている。柱穴の遺存状況は良好で、壁高は40～47cmほどで残っている。埋土は黒褐色粘質土。SP277・377・351には礎板痕跡がわずかに残っている。弥生時代後期のものと思われる。

## Tab,14　第48次調査　掘立柱建物一覧表

| Fig, | PL | 遺構(SB) | 規模(間) | 規模(m) 桁行 | 規模(m) 梁行 | 棟方向 | 床面積(m²) | 柱穴番号(SP) | 礎板有無 | 先後関係(先→後) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 66 | 26 | 01 | 2×3 | 7.50 | 4.44 | N-111°-E | 33.30 | 35,36,41,42<br>50,51,54,55 | ○ | SB02・05→SB01<br>SB01→SD03 |
| 66 | 27 | 02 | 1×2 | 5.30 | 3.58 | N-29°-E | 19.00 | 44,47,49,73<br>191,419 | ? | SB02→SB01 |
| 66 | 28 | 03 | 1×2 | 4.72 | 3.25 | N-112°50′-E | 15.38 | 06,305,310<br>311,429 | ○ | SB03→SD04<br>SP02・SP312,SB03→SD03 |
| 66 | 28 | 04 | 2×? | 2.72 | — | N-160°-E | — | 300,322,414 | ○ | SD04→SB04 |
| 66 | 27 | 05 | 1×2 | 4.96 | 3.14 | N-49°-E | 15.60 | 37,39,40,46 | ? | SB05→SB01・SD03 |
| 67 | — | 06 | 2×2 | 3.69 | 2.60 | N-140°50′-E | 9.59 | 63,66,69<br>70,417,418 | × | ——— |
| 67 | 26 | 07 | 1×2 | 4.52 | 2.90 | N-27°50′-E | 13.19 | 32,33,34,45 | × | SB07→SD01 |
| 67 | 26 | 08 | 2×2 | 4.48 | 2.96 | N-64°-E | 13.26 | 36,38,90,91<br>98,99 | × | ——— |
| 67 | 26 | 09 | 1×2 | 5.58 | 2.93 | N-125°-E | 16.51 | 07,308,430 | ○ | SB09→SB03・SD03<br>SB09→SP309→SD04 |
| 67 | 26 | 10 | 1×2 | 4.98 | 2.95 | N-47°50′-E | 14.79 | 78,84,120<br>126,133 | × | SP79→SB10→SD01<br>SP177→SB10→SP127 |
| 67 | 26 | 11 | 2×2 | 3.65 | 1.85 | N-97°-E | 6.75 | 113,115,123<br>131,170 | × | SP172→SB11 |
| 68 | 26 | 12 | 2×2 | 2.82 | 2.33 | N-139°-E | 6.57 | 82,85,86,87 | × | SP81→SB12 |
| 68 | 26 | 13 | 2×2 | 4.85 | 3.76 | N-41°50′-E | 18.23 | 77,114,128<br>132 | × | SD01→SB13 |
| 68 | 27 | 14 | 1×2 | 4.40 | 2.20 | N-87°15′-E | 9.68 | 165,167,237<br>240 | ○ | SB14→SP239 |
| 68 | 27 | 15 | 1×2 | 4.03 | 2.52 | N-119°50′-E | 10.15 | 192,200,218<br>239,436 | ○ | SB28→SP435→SB15<br>SB14・SB16・SB20→SB15<br>SB15→SP222 |
| 68 | 27 | 16 | 1×2 | 3.95 | 2.44 | N-148°-E | 9.66 | 168,191,201,221,238 | ○ | SP216→SB16→SP222<br>SB16→SB15 |
| 68 | 27 | 17 | 1×2 | 4.54 | 3.29 | N-54°-E | 14.93 | 207,223,290<br>379,382 | ○ | SP208→SB17,SP289→SB17<br>SE206・232→SB17 |
| 69 | 27 | 18 | 1×2 | 4.21 | 2.92 | N-157°-E | 12.32 | 196,206,241<br>249,269,376 | × | SB18→SB19,SP270→SB18<br>SB28→SB18→SB20 |
| 69 | 26 | 19 | 1×2 | 3.42 | 2.41 | N-146°-E | 8.16 | 198,205,219,256,280 | × | SB18→SB19 |
| 69 | 27 | 20 | 1×3 | 8.89 | 4.33 | N-82°-E | 38.58 | 184,194,225<br>293,392 | ○ | SP195→SB20,SP183→SB20<br>SB20→SP182 |
| 69 | 27 | 21 | 1×2 | 3.92 | 2.21 | N-27°-E | 8.70 | 248,268,400<br>422,425 | ○ | SB21→SP246・SD04<br>SE306→SB21 |
| 69 | 27 | 22 | 2×2 | 3.76 | 3.67 | N-152°50′-E | 13.79 | 331,410,413<br>431 | × | SD04→SB22 |
| 70 | 26 | 23 | 2×2 | 3.03 | 2.78 | N-61°-E | 8.42 | 256,266,323<br>411,412 | ○ | SP324→SB23<br>SB23→SE255 |
| 70 | 26 | 24 | 1×2 | 5.30 | 3.00 | N-14°50′-E | 15.90 | 281,296,349<br>404 | ○ | SB25→SB24 |
| 70 | 26 | 25 | 1×2 | 4.63 | 3.10 | N-82°-E | 14.47 | 272,275,347<br>351,357,377 | ○ | SB25→SB24 |
| 70 | 27 | 26 | 2×? | 5.06 | — | N-47°50′-E | — | 298,339,346<br>359,432 | × | SE340→SB26→SE299 |
| 70 | 27 | 27 | 1×2 | 4.44 | 3.00 | N-60°50′-E | 13.32 | 276,296,338<br>409,433,434 | ○ | SB27→SE263<br>SB27→SX278・SP295 |
| 70 | 27 | 28 | 1×2 | 6.45 | 3.84 | N-48°50′-E | 24.89 | 163,180,210<br>243 | ○ | SB28→SP435→SB15<br>SB28→SP242 |

＊礎板の有無は調査によって確認されたもの

SB26 (Fig,70、Tab,14)

調査区の北縁に位置する。梁行2間、桁行2間の掘立柱建物で、総柱になると思われる。柱穴の遺存状況は比較的良好である。SE340を切り、SE299から切られている。古墳時代前期のものと思われる。

SB27 (Fig,70、Tab,14)

調査区北側に位置する。梁行1間、桁行2間の南北棟である。柱穴の配列は整然としている。遺存状況は比較的良好である。埋土は黒褐色粘質土で、SP296・338には礎板の痕跡が残る。SE263から切られている。弥生時代後期のものと思われる。

SB28 (Fig,70、Tab,14)

調査区の中央に位置する。梁行1間、桁行2間の南北棟である。規模は比較的大型のものである。柱穴の遺存状況は良好である。SP180・163・210には礎板がわずかに残る。壁高は35～48cmほどが残っている。埋土は黒灰褐色。柱痕跡がSP179に残っており、柱径は約20cmである。SB15から切られており、弥生時代後期半ば～後半のものと思われる。

**出土遺物**　柱穴から出土した土器はいずれも細片で図示できるものは少ない。SP69からは弥生時代後期の壺389が、SB17(SP207)からはおそらく弥生後期と思われる壺底部390が、またSP273からは弥生時代後期後半の甕391と小型鉢392・393が出土している。

## (3)溝 (SD)

SD01・371 (Fig,65・75、PL,26、Tab,16)

調査区西隅から東隅にかけて東西に延びる近代～現代の灌漑用水路である。比恵第6次調査においては西側延長部が検出されている。北東部では向きを大きく南東方向に変えて延びている。東隅のSD371はこの溝の一支流である。幅は1.5～2.3m、深さは0.7～0.9mを測る。埋土は茶褐色砂質土が全体を覆っており、最下層は暗青灰色粘質土である。近世陶磁器の破片、下駄や流木、ガラス、器台396、甕405が出土している。

SD03・367・376 (Fig,65、PL,26・29)

これらの溝は中世以降の畦溝と思われるもので第40次調査SD117とは一連のものである。幅は50～70cmで深さは30～45cmを測る。断面形は「U」字形をなす。緩く蛇行しながら、調査区南側と東側で大きく屈曲している。埋土は褐色～暗褐色粘質土で弥生土器をはじめとして龍泉窯系青磁片等がわずかに出土している。

SD04 (Fig,71・75、PL,28・29、Tab,16)

調査区の西南部から西壁に沿って検出された弥生時代後期後半から終末の溝である。第40次調査のSD48の北側延長部にあたる。南側はSD01とSD03により寸断され、また調査区中央部では現代の撹乱により大きく削平を受け消滅している。幅は2.3～2.8m、深さは30～45cmを測り、底面のレベルは北へ向かってわずかずつ低くなっている。おそらく台地の縁辺に沿う溝であり、溝の東側の平坦部分と西側の緩斜面とを画する溝であった可能性がある。

埋土は暗褐色～黒褐色粘質土できめ細かな泥土である。二次堆積した弥生時代中期から後期終末、および古墳時代前期の土器片が多く出土しているが、第40次調査のSD01にみられたような完形土器がまとまって投棄された状況はみられない。

**出土遺物**　弥生時代後期後半の壺402、高杯397、終末の壺394・398・399、器台395・400・401、大型の甕403・404・406・407の他、古墳時代初頭にかかる甕片が出土している。

## (4)井戸（SE）

本調査区においても井戸が多数検出された。総数で29基ある。井戸は弥生時代後期半ば～古墳時代前期のものである。規模は直径が80cm前後で、深さが約１ｍのものと、直径が１ｍを超し、深さが2.5～３ｍのものとがある。前者は弥生時代終末から古墳時代にかけてのものが多く、後者は弥生時代後期半ば前後のものが多い傾向がある。なお現在の湧水面は標高3.6ｍ前後の面である。ちなみに尾根頂部近くに位置する第42次調査区においては湧水面は、4.3～4.5ｍの面であるので約１ｍほどの差があることになる。

**SE09**（Fig,72・77、PL,32・35、Tab,15・16）

調査区の南側に位置する。SD01から北側上部を切られている。平面形は円形で掘方は円筒形状をなす。深さは1.03mを測る。埋土は３層に分かれる。第１層は暗褐色粘質土で黄白色粘土小塊を若干含む。第２層は暗灰褐色粘質土で木炭片・小礫を含む。この層からまとまって弥生時代終末の土器群が出土している。第３層は黒褐色粘質土である。床面から＋20～35cm厚で堆積している。

**出土遺物**　弥生時代後期後半～末の鉢414、器台408・412、支脚409～411・413、高杯415・416、壺417・420、大型の甕418、中型の甕419が出土している。いずれも第２層からの一括遺物である。

**SE10**（Fig,72・77、PL,32・35、Tab,15・16）

調査区の南側に位置する。SD03から上部を切られている。平面形は円形で掘方は円筒状である。深さは1.18mである。埋土は４層に分かれる。第１層は暗褐色粘質土で灰白色粘土小塊を若干含む。第２層は黒褐色粘質土である。木炭片を多く含む。第３層は黒灰色粘質土である。第４層は黒褐色粘質土で小礫や土器片を比較的多く含んでいる。出土した土器は弥生時代終末の時期である。

**出土遺物**　壺421・422が出土している。いずれも第４層から出土したものである。

**SE20**（Fig,72・77、PL,32、Tab,15・16）

調査区南壁に半分かかっている。北側半分のみ掘り下げた。平面形は円形である。深さは底面まで掘り下げていないので不明確であるがSE10程度と思われる。掘方は円筒形状をなす。埋土は２層まで確認した。第１層は暗灰褐色粘質土である。黄白色粘土小塊を含み軟質である。第２層は黒褐色粘質土で弥生時代中期から後期後半の土器片を比較的多く含んでいる。

**出土遺物**　壺胴部424が出土している。底部は丸みのある平底である。

**SE103** (Fig,72・77、PL,32、Tab,15・16)

調査区中央の東側に位置する。現代撹乱によって上部は削平を受けている。平面形は円形で、掘方は円筒形状をなす。深さは0.78mを測る。埋土は2層に分かれるが、一括して埋め戻された状況である。底面に弥生時代後期後半の口頸部を打ち欠いた壺が1点出土している。

**出土遺物**　壺胴部423が出土している。

**SE105** (Fig,72、PL,32、Tab,15)

SE103の東側に位置する。平面形は不整な楕円形で、掘方は袋状をなしている。本来は円筒形状をなしていたものが壁面の崩落により袋状となったと思われる。底部は平坦ではなく中央部をさらに一段掘り下げている。深さは1.68mを測る。埋土は5層に分かれる。第1層は茶褐色粘質土である。第2～4層は上部から中位にレンズ状に堆積している暗褐色～黒褐色粘質土で、弥生土器の小片や木炭片、木片を含んでいる。第5層は黒灰褐色粘質土と黄白色粘土の混合土層である。時期は不明確であるが弥生時代後期後半頃と思われる。

**SE116** (Fig,72・77、PL,32・35、Tab,15・16)

調査区中央の西側に位置する。平面形はやや不整な円形で、掘方は円筒形状をなす。深さは2mを測る。埋土は大きく7層に分かれる。第1層は暗褐色粘質土。第2～4層は上部から中位に堆積する暗灰褐色粘質土で黄白色粘土小塊や灰白色粘土小塊が混入する土層である。一度に埋め戻されたものと思われる。第5層は黒灰色粘質土で弥生時代中期～後期の土器片を含む。第6層は黒灰褐色粘質土で砂礫がやや目立つ。第7層は黒褐色～黒灰褐色粘質土で、弥生時代後期後半から終末の壺や甕が投棄された状況で出土している。

**出土遺物**　長頸壺425、壺426・428、大型の甕が出土している。これらは第7層からの出土で、いずれも弥生時代終末期のものである。

**SE206** (Fig,72・78、Tab,15)

調査区中央に位置する。SB18から切られている。平面形は円形で、掘方は円筒形状をなす。深さは0.88mを測り浅い。埋土は4層に分かれる。第1層は暗灰褐色～黒褐色粘質土である。第2層は暗灰褐色粘質土である。第1・2層は一時に埋め戻されたものと思われる。第3層と4層は底面上にレンズ状に堆積している黒灰褐色粘質土である。黄白色粘土小塊を若干含んでいる。

**出土遺物**　弥生時代後期後半の甕429、終末期の壺430～432が出土している。これらは第4層からの出土である。

**SE231** (Fig,72・78、PL,35、Tab,15・16)

調査区中央に位置する。現代の撹乱で上半部が削平されている。平面形は円形で、掘方は円筒形状をなす。深さは1.81mを測る。埋土は4層確認した。第1層は暗褐色～黒褐色粘質土である。第2層は暗褐色粘質土でほとんど底面まで堆積している。第3層と第4層は黒灰色粘質土で黄白色粘土小塊や弥生土器片を含む。底面からは弥生土器後期後半～終末の甕が出土している。

**出土遺物**　第４層から弥生時代後期後半～終末の甕435が完形で出土している。

**SE232**（Fig, 72・78、Tab, 15）

調査区中央、SE231の北側に位置する。現代の撹乱で上半部が削平されており原状をほとんど留めていない。平面形は円形で、掘方は円筒形状だったと思われる。埋土は黒褐色粘質土である。弥生時代後期半ば頃の土器片が出土している。

**出土遺物**　小型の壺口縁部片433・434が出土している他は細片である。

**SE233**（Fig, 73・78、Tab, 15）

調査区中央部東側、SE108の北側に位置する。底部がかろうじて残っている。平面形は円形である。埋土は黒褐色～黒色粘質土である。底部からSE231とほぼ同じ時期の弥生土器の壺436が完形で出土している。

**SE236**（Fig, 73・78・79、PL, 33・35・36、Tab, 15・16）

調査区北西部に位置する。SD04から東側半分を切られている。平面形は円形で、掘方は円筒形状をなす。底面の中央はさらに一段深く掘り下げている。深さは2.10mを測る。埋土は大きく３層に分かれる。第１層は黒褐色～黒灰褐色粘質土で灰白色粘土小塊を含む。層厚は0.90mで、この層の下部に弥生時代後期半ば前後の壺を主体とした土器群がまとまって出土している。

**出土遺物**　弥生時代後期半ばの壺437以外はすべて後半のものである。甕445、大型の壺438、中型の壺447～451、小型の壺439・441・442・446、長頸壺443・444、鉢440がある。

**SE244**（Fig, 73・80、PL, 33・36、Tab, 15・16）

調査区北西部に位置する。SE245を切っている。平面形は円形である。掘方は円筒形状をなす。深さは1.76mを測る。埋土は大きく４層に分かれる。第１層は黒灰色粘質土である。第２～３層は上部から下部にかけてブロック状に堆積した黒灰色～黒灰褐色粘質土である。弥生時代中期から後期の土器片を含んでいる。第４層は底部直上に約40cm厚で堆積している黒灰褐色～黒色粘質土である。底面からやや浮いた面に弥生時代後期後半～終末の土器片が出土している。

**出土遺物**　支脚452以外はすべて壺453～458である。455・458は弥生時代後期半ば頃と思われるが、他は終末期のものである。

**SE245**（Fig, 73・80、PL, 33・36、Tab, 15・16）

SE244によって北側上部から壁面中位が削平されている。平面形は円形である。掘方は円筒形状をなす。深さは1.73mを測る。埋土は９層に分かれる。第１層は黒灰色～黒灰褐色粘質土である。第２～５層は上部から中位に堆積する黒灰色～黒褐色粘質土である。第６～８層は中位から底部近くに堆積する層で黄白色粘土小塊を多く含む黒色粘質土である。第９層は底部に厚さ35～45cmで堆積する黒灰色～黒色粘質土である。この層から弥生時代後期後半～終末の土器が出土している。

**出土遺物**　壺459は第９層から出土した。胴部はやや扁平な球形で丸底である。弥生時代終末期のものと思われる。

SE252 (Fig,73、Tab,15)

調査区の北側に位置する。平面形は円形で、掘方は円筒形状をなす。深さは2.76mを測る。本調査区では最も規模の大きな井戸である。埋土は大きく4層に分かれる。第1層は黒褐色粘質土である。第2～3層は上部から下部に堆積する黒灰褐色粘質土で黄白色粘土小塊や木片、弥生土器小片を含む。第4層は黒灰色～黒色粘質土である。出土遺物は弥生土器等の小片ばかりで時期比定の目安となるものはないが、SD01から切られていることから弥生時代後期半ばから後半の頃のものと思われる。

SE253 (Fig,73、PL,33、Tab,15)

調査区北側に位置する。SE306を切り、SD04に切られている。平面形は不整な円形で、掘方は円筒状である。深さは2.38mを測る。埋土は大きく8層に分かれる。第1～3層は暗褐色～黒褐色粘質土で、掘方上位から中位にかけて堆積している。第4～6層は中位から底面近くに堆積している黒灰色～黒褐色粘質土で、黄白色粘土小塊、弥生土器片や木炭片を多く含む。第7・8層は底面に堆積している層で灰白色粘土小塊を多く混入する黒色粘土層である。弥生時代後期後半のものと思われる。

SE254 (Fig,73・80、PL,36、Tab,15)

調査区北側に位置する。SE255を切っている。平面形はやや不整な楕円形で、掘方は円筒形状をなす。上部東壁と西壁は広がっているが、壁の崩落によるものである。深さは1.61mを測る。埋土は5層に分かれる。第1層は黒褐色粘質土である。第2～4層は中位～底部にかけて堆積する黒灰色～黒色粘質土で黄白色粘土と灰白色粘土小塊を多く含んでいる。第5層は黒褐色～黒色粘質土で底部に堆積する。第4層から5層にかけて弥生時代後期後半の壺が完形でまとまって出土している。

**出土遺物**　図示した460～463は第9層から出土した弥生時代終末期のものである。いずれも壺で、461以外は完形品である。長頸壺460は古墳時代初頭か。

SE255 (Fig,73・81、PL,33、Tab,15・16)

SE254と重複する位置にありSE254から切られている。平面形は円形で、掘方は円筒形状をなす。深さは1.02mを測る。埋土は3層に分かれる。第1層は暗褐色～黒褐色粘質土である。弥生土器片や小礫を含む。第2層は暗灰褐色粘質土で底部近くにレンズ状に堆積している。第3層は黒褐色粘質土で黄白色粘土小塊をわずかに含む。

**出土遺物**　底面から弥生時代終末期の壺464が完形で1点出土している。開き気味の口頸部径は小さく胴部は良く整った卵形である。底部はわずかに痕跡をとどめる程度である。

SE263 (Fig,74・81、PL,37、Tab,15・16)

調査区北側に位置する。SE264から切られている。平面形はやや不整な円形で、掘方は円筒形状をなす。深さは0.85mを測る。埋土は5層に分かれる。第1層は暗褐色～黒褐色粘質土である。第2～4層は黒灰色～黒褐色粘質土で黄白色粘土小塊を多く含み軟質である。第5層は底部に厚さ30cmほどで堆積している黒灰色粘質土である。

**出土遺物**　第５層からは弥生時代後期終末期の壺465が１点完形で出土している。開き気味の口頸部径は小さく肩部がやや張っている。

**SE264**（Fig,74・81、PL,37、Tab,15・16）

SE263と重複する位置にあり、SE263を切っている。平面形は不整な楕円形で、掘方は円筒形状をなす。深さは0.84mを測る。埋土は３層に分かれる。第１層は黒褐色粘質土である。第２層は黒褐色～黒灰褐色粘質土である。第３層は底面に堆積している黒褐色粘質土で厚さが約30cmあり、弥生土器片を多く含む。底面には弥生時代後期半ばから古墳時代前期の土器が出土している。

**出土遺物**　弥生時代後期半ば～後半の高杯470、甕472、古墳時代前期の高杯467以外は弥生時代終末期のものである。鉢466、壺468・469・473がある。いずれも第３層からの出土である。

**SE269**（Fig,74・82、PL,33・37、Tab,15・16）

調査区北端に位置する。SD04から切られている。平面形は円形で、掘方は円筒形状をなす。深さは1.01mを測る。埋土は４層に分かれる。第１層は黒褐色粘質土である。第２～３層は黒灰褐色粘質土で灰白色粘土小塊が混入している。第４層は厚さ25cm前後で底面に堆積しており弥生土器片、弥生時代後半～終末の完形土器を含んでいる。

**出土遺物**　甕477・478・480、壺474・475・476・479がある。いずれも最下層からの出土遺物であるが壺以外は二次的な混入品であろう。

**SE279**（Fig,74、Tab,15）

調査区北側に位置する。平面形は不整な円形で、掘方は円筒形状をなす。深さは0.83mを測る。埋土は５層に分かれる。第１層は黒褐色粘質土、第２～４層は黒灰褐色～黒褐色粘質土である。第５層は黒灰褐色粘質土で底面に約20cm厚で堆積している。各層から弥生土器片等が出土しているが時期の比定につながるものはない。弥生時代後期末～古墳時代前期のものと思われる。

**SE299**（Fig,74・83、PL,37、Tab,15・16）

調査区北側に位置する。平面形は円形で、掘方は円筒形状をなすが、底面に向かって掘方はすぼまっている。深さは1.43mを測る。埋土は大きく４層に分かれる。第１層は黒褐色粘質土で上面から中位にかけて堆積している。この層中に弥生時代後期～古墳時代前期の遺物がまとまって出土している。第２層は黒灰色～黒褐色粘質土である。第３層は黒灰褐色粘質土である。黄白色粘土小塊を多く含んでいる。

**出土遺物**　弥生時代後期半ばの鉢481、終末期壺494、高杯484以外はいずれも古墳時代前期のものである。壺482・483・493、高杯487～490、甕485・491・492は古墳時代前期初頭よりもやや新しい時期、布留式古段階のものと考えられる。

SE306 (Fig, 73、Tab, 15)

調査区北側に位置し、SE253に切られている。平面形は円形で、掘方は円筒形状をなす。深さは1.67mを測る。埋土は大きく6層に分かれる。第1層は黒褐色～黒灰色粘質土である。第2・3層は黄白色粘土および灰白色粘土の混合層で掘方上部から下部にかけて厚く堆積しており、若干黒褐色粘質土を含む。第4・5層は黒灰色～黒褐色粘質土でレンズ状に堆積しており弥生土器片を比較的多く含む。第6層は黒灰色粘質土で底面に堆積している。弥生時代後期半ば～後半にかけてのものと思われる。

SE309 (Fig, 74、Tab, 15)

調査区南側に位置する。SD04から切られている。平面形はやや不整な円形で、掘方は浅い円筒形状をなす。深さは0.59mを測る。埋土は灰白色粘土小塊を含む黒灰色粘質土である。弥生土器小片が二次的な堆積の状況で出土している。時期は明確ではないが弥生時代後半から終末のものと思われる。

SE325 (Fig, 74・83、PL, 33、Tab, 15・16)

調査区の北端に位置し、北壁に一部かかっている。平面形は円形で、掘方は円筒形状をなす。深さは1.74mを測る。埋土は大きく3層に分かれる。第1層は黒灰色粘質土で上部から中位にかけて堆積している。黄白色粘土小塊を若干含む。第2層は黒灰褐色粘質土で黄白色粘土を多く含んでいる。第3層は黒灰色粘質土で弥生土器片を含んでいる。弥生時代後期後半以降のものである。

**出土遺物**　弥生時代後期半ばの高杯496、後半の高杯497以外は細片である。

SE337 (Fig, 74・83、PL, 34、Tab, 15・16)

調査区の北端に位置し、北壁に一部かかっている。平面形は円形で、掘方は円筒形状をなす。深さは1.06mを測る。埋土は2層に分かれる。第1層は暗灰褐色粘質土で灰白色粘土小塊や黄白色粘土小塊を多く含んでいる。第2層は底部に堆積する黒灰色粘質土で弥生土器片や古墳時代前期の土師器片を含んでいる。古墳時代前期の井戸である。

**出土遺物**　古墳時代前期、布留式古段階の甕口縁片498が出土している。

SE340 (Fig, 74・83、PL, 34・37、Tab, 15・16)

調査区の北端に位置し、北壁に一部かかっている。平面形は円形で、掘方断面は浅い逆台形であるが本来は円筒状をなしていたと思われる。深さは0.63mで浅い。埋土は黒灰色粘質土である。底部から古墳時代前期の土師器完形品が出土している。

**出土遺物**　いずれも井戸底部から一括出土した古墳時代前期、布留式古段階の甕495・500、と高杯499と新段階の甕501である。501は在地折衷のものであろう。

SE358（Fig,74、Tab,15）

調査区の北東側に位置する。平面形は円形で、掘方は円筒形状をなす。深さは0.76mを測る。埋土は２層に分かれる。第１層は茶褐色～暗褐色粘質土で黄白色粘土小塊を多く含む。第２層は黒灰褐色粘質土である。土器片が若干出土しているのみで時期の比定につながるものはない。古墳時代のものか。

SE372（Fig,74、Tab,15）

調査区の東側に位置する。平面形は現状は楕円形であるが、本来は円形である。掘方は円筒形状をなす。深さは1.09mを測る。埋土は３層に分かれる。第１層は褐色粘質土で上位から下部まで一時に埋まった状況である。第２層は黒灰色粘質土で灰白色粘土小塊を多く含む。第３層は黒褐色粘質土である。第２層中には土器片等が含まれているが時期の比定につながるものはない。弥生時代後期後半頃のものか。

## (5)小結

本調査区では、弥生時代後期後半～終末期と思われる掘立柱建物SB01を初めとする建物群の他に、尾根筋に分布する井戸群よりやや新しい時期、古墳時代前期の井戸群が存在することが確認でき、弥生時代後期後半以降に集落の広がりが東側へ拡大したことが確認できた。竪穴住居跡は検出できなかったが、土層堆積の状況、遺構の遺存状況および後世の撹乱の状況からみると、本来この地点（SD04東側）には掘立柱建物および井戸群しかなかった可能性が高いと考えられる。当該地における弥生時代後期後半以降の集落構成については、本調査区の東側および西側部分の将来の調査結果をみて検討すべき課題と思われる。

掘立柱建物はSB01のように大型のものや、SB12やSB11などの小型のものなど規模のばらつきが大きい。竪穴住居跡とは異なり、機能的にかなり多様性を持たせたものであったかもしれない。構造的には１×２、２×２、１または２×３間の間取りで、礎板を持つものと持たないものとに分かれ、持つものは柱穴掘方がやや不整な方形をなすものが多いのに対して、持たないものは不整な円形で規模が小さいという共通性がある。基礎の工法の違いが時期差を表出している可能性があるが、調査では明確にできなかった。

建物の長軸の方向性は大きく４群に分かれる傾向がうかがわれるが、基本的にはその当時の地形上の制約と、第40次調査のSD01、本調査区のSD04等の溝の方向に少なからず影響された配置であろうと思われ、当時、各建物の方向性を律する何らかの規制が存在したかどうかについては明確でない。

## Tab,15　第48次調査　井戸一覧表

a；長軸、b；短軸、c；深さ　＊深さは検出面からのマイナス値

| Fig. | PL | 遺構(SE) | 平面形 | 断面形 | 計測値(m) a | b | c | 底面標高(m) | 先後関係(先→後) | 出土遺物概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 72 | 32 | 09 | 円　形 | 円筒形 | 1.03 | 1.02 | 0.93 | 4.14 | ―― | 408～420 |
| 72 | 32 | 10 | 〃 | 〃 | 0.95 | 0.86 | 1.18 | 3.99 | SD03→SE10 | 421～422 |
| 72 | 32 | 20 | 〃 | 〃 | 0.80 | 0.73 | 0.90 | 4.48 | ―― | 424 |
| 72 | 32 | 103 | 〃 | 〃 | 0.77 | 0.74 | 0.78 | 4.30 | ―― | 423 |
| 72 | 32 | 105 | 〃 | 〃 | 0.86 | 0.69 | 1.68 | 3.40 | ―― | ―― |
| 72 | 32 | 116 | 〃 | 〃 | 0.99 | 0.98 | 1.95 | 2.96 | ―― | 425～428 |
| 72 | ― | 206 | 〃 | 〃 | 1.03 | 1.00 | 0.93 | 4.03 | ―― | 429～432 |
| 72 | ― | 231 | 〃 | 〃 | 0.97 | 0.94 | 1.60 | 3.48 | ―― | 435 |
| 72 | ― | 232 | 〃 | 〃 | 0.80 | 0.78 | 0.88 | 3.98 | SE232→SD01 | 433～434 |
| 73 | 33 | 233 | 〃 | 〃 | 0.76 | 0.64 | 1.09 | 4.01 | ―― | 436 |
| 73 | 33 | 236 | 〃 | 〃 | 1.37 | 1.33 | 2.10 | 2.62 | SD04→SE236 | 437～451 |
| 73 | 33 | 244 | 〃 | 〃 | 1.30 | 1.21 | 1.76 | 3.35 | SB16→SE244 | 452～458 |
| 73 | 33 | 245 | 〃 | 〃 | 1.08 | 0.88 | 1.73 | 3.19 | ―― | 459 |
| 73 | ― | 252 | 〃 | 〃 | 1.46 | 1.41 | 2.76 | 1.63 | SE252→SD04 | ―― |
| 73 | 33 | 253 | 〃 | 〃 | 1.15 | 1.12 | 2.38 | 3.90 | SD04→SE253 | ―― |
| 73 | ― | 254 | 〃 | 〃 | 1.58 | 1.18 | 1.61 | 3.29 | ―― | 460～463 |
| 73 | 33 | 255 | 〃 | 〃 | 0.83 | 0.80 | 1.02 | 3.90 | SB23→SE255 | 464 |
| 74 | ― | 263 | 〃 | 〃 | 0.95 | 0.88 | 0.88 | 4.08 | SB27→SE263 | 465 |
| 74 | ― | 264 | 〃 | 〃 | 1.43 | 1.33 | 0.84 | 4.21 | SB27→SE264 | 466～473 |
| 74 | 33 | 269 | 〃 | 〃 | 1.07 | 0.99 | 1.01 | 3.65 | SD04→SE269 | 474～480 |
| 74 | ― | 279 | 〃 | 〃 | 1.18 | 1.03 | 0.83 | 4.25 | ―― | ―― |
| 74 | ― | 299 | 〃 | 〃 | 1.67 | 1.26 | 1.43 | 4.67 | SB26→SE299 | 481～494 |
| 73 | ― | 306 | 〃 | 〃 | 1.11 | 1.06 | 1.67 | 3.29 | SE306→SE253・SB21 | ―― |
| 74 | ― | 309 | 〃 | 〃 | 1.12 | 0.88 | 0.59 | 4.63 | SE309→SD04 | ―― |
| 74 | 33 | 325 | 〃 | 〃 | 1.08 | 1.00 | 1.74 | 3.47 | SB22→SE325 | 496～497 |
| 74 | 34 | 337 | 〃 | 〃 | 1.36 | 0.77 | 1.06 | 3.96 | ―― | 498 |
| 74 | 34 | 340 | 〃 | 〃 | 1.40 | 1.35 | 0.63 | 4.51 | ―― | 495・499～501 |
| 74 | ― | 358 | 〃 | 〃 | 1.12 | 1.05 | 0.76 | 4.30 | ―― | ―― |
| 74 | ― | 372 | 〃 | 〃 | 1.03 | 0.81 | 1.09 | 3.88 | ―― | ―― |

## Tab,16　第48次調査　掲載土器所見一覧

凡例：法量の口径は外径、器台は台上部径、（　）は復元値

| Fig. | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 器種 | 法量（cm） | | | | 形態的特徴 | | | | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | 胴部径 | 成形上の手法 | 色調 | 胎土 | 焼成 | |
| 75 | － | 389 | 296 | 壺 | (13.4) | － | － | － | 口縁部片。口縁は強く屈曲し、端部を丸く肥厚させる。 | 褐色 | 細い | 良 | SP69 |
| 75 | － | 390 | 297 | 壺 | － | － | 5.8 | － | 底部片。わずかに丸みあり。 | 褐色 | 良 | 良 | SP207 |
| 75 | － | 392 | 299 | 小形鉢 | 11.0 | 6.3 | 4.7 | － | 完形品。内外面ハケ目後ナデケシ。 | 灰白色 | 粗い | やや不良 | SP273 |
| 75 | － | 393 | 298 | 小鉢 | (11.6) | 7.3 | (4.8) | － | 完形品。内外面ハケ目後ナデケシ。 | 淡黄褐色 | 粗い | 不良 | SP273 |
| 75 | － | 391 | 300 | 甕 | (16.6) | － | － | 17.5 | 底部欠損品。内面ヘラケズリ。外面ハケ目。 | 褐～橙色 | 極て粗 | 不良 | SP273 |
| 75 | － | 394 | 301 | 甕 | － | － | 5.4 | － | 底部片。外面ユビナデ。内面ハケ目。 | 黄褐色 | やや粗い | 不良 | SD04 |
| 75 | － | 395 | 316 | 器台 | 4.6 | 6.8 | 10.2 | － | ほぼ完形。外面にはタタキ痕。 | 褐～灰褐色 | 粗い | 良好 | SD04 |
| 75 | － | 398 | 313 | 壺 | 23.0 | － | － | － | 口縁部片。口縁下端に押圧刻目を施文。 | 灰褐色 | やや粗い | やや不良 | SD04 |
| 75 | － | 396 | 303 | 器台 | 10.4 | － | － | － | 上台部片。外面ハケ目後ナデ仕上げ。 | 黄褐色 | やや不良 | やや不良 | SD01 |
| 75 | － | 397 | 306 | 高杯 | － | － | 9.4 | － | 脚部片。内面ナデ。外面ヘラミガキ。 | 淡褐色 | 粗い | 不良 | SD04 |
| 75 | － | 399 | 312 | 壺 | 22.8 | － | － | － | 頸部～口縁端部片。口縁端部強く外反。下端にはヘラによる刻み目あり。 | 褐色 | 粗い | 不良 | SD04 |
| 75 | － | 400 | 311 | 器台 | － | － | 13.0 | － | 脚部片。外面はタタキ後軽いナデ。 | 淡橙褐色 | 粗い | やや良好 | SD04 |
| 75 | － | 401 | 310 | 器台 | － | － | 13.9 | － | 脚部片。外面にはタタキ痕残る。 | 明橙々色 | 粗い | やや良好 | SD04 |
| 75 | － | 402 | 317 | 壺 | 22.4 | － | － | － | 頸～口縁部片。肩上端に三角突帯貼付。 | 淡赤褐色 | やや不良 | 良 | SD04 |
| 75 | － | 403 | 309 | 甕 | － | － | － | － | 頸部片。頸部上端に刺突列点文を施文した突帯貼付。内面はヘラケズリか。 | 赤褐色 | 極て粗い | 不良 | SD04 |
| 75 | － | 404 | 307 | 甕 | － | － | － | － | 口縁部片。内外面ともハケ目調整。 | 淡赤褐色～淡黄白色 | 極て粗い | 不良 | SD04 |
| 75 | － | 405 | 304 | 甕 | 31.0 | － | － | － | 口縁部片。外面はタタキ後ハケ目。 | 黄褐色～淡赤灰色 | やや不良 | やや不良 | SD01 |
| 75 | － | 406 | 308 | 甕 | － | － | － | － | 口縁部片。内外面ともハケ目。肩部上上端に幅3.7cmの突帯貼付。 | 暗褐色 | 極て粗い | 不良 | SD04 |
| 75 | － | 407 | 318 | 甕 | 28.2 | － | － | － | 口縁部片。頸部下端に押圧刻目突帯施文。 | 灰褐色 | やや粗い | 不良 | SD04 |
| 76 | － | 408 | 202 | 器台 | － | － | 9.55 | － | 底部片。内外面ともにナデ。指頭痕残る。 | 暗茶褐色 | やや不良 | 良 | SE09 |
| 76 | － | 409 | 203 | 器台 | － | － | 13.8 | － | 1/2欠損品。外面タタキ後ナデケシ。 | 淡茶褐色 | やや不良 | 不良 | SE09 |
| 76 | 35 | 410 | 211 | 器台 | － | － | 13.4 | － | ほぼ完形。上台部には穿孔あり。内外面ハケ目後ナデケシ。嘴状に引き出す。 | 暗茶褐色 | やや不良 | 不良 | SE09 |
| 76 | 35 | 411 | 213 | 器台 | － | － | 13.0 | － | 完形品。上台部に穿孔あり。端部は嘴状に伸ばす。体部外面にはタタキ痕。 | 黄褐色 | やや不良 | 良 | SE09 |
| 76 | 35 | 412 | 210 | 器台 | 17.4 | 20.2 | 19.8 | － | ほぼ完形品。内外面ともハケ目調整。強く屈曲する台部縁には押圧刻み目。 | 暗黄褐色 | やや不良 | やや不良 | SE09 |
| 76 | 35 | 413 | 212 | 器台 | － | － | 14.7 | － | ほぼ完形。上台部には穿孔あり。内外面ハケ目後ナデケシ。嘴状に引き出される。 | 暗黄褐色 | やや不良 | 不良 | SE09 |
| 76 | 35 | 414 | 209 | 鉢 | 16.7 | 10.7 | － | － | ほぼ完形品。内外面ともハケ目の後、軽くナデケシ。底部はやや厚みあり。 | 淡赤褐色 | やや不良 | 不良 | SE09 |
| 76 | － | 415 | 204 | 高杯 | 脚高 13.8cm | | 15.0 | － | 脚～杯部片。外面はハケ目後、丁寧なナデ。脚部には２カ所の穿孔あり。 | 黄褐色 | やや不良 | 良 | SE09 |
| 76 | － | 416 | 201 | 高杯 | 35.0 | － | － | － | 脚部欠損品。全面ハケ目後ナデケシ。脚には２カ所の穿孔あり。 | 暗褐色～赤褐色 | 良 | 良 | SE09 |
| 76 | － | 417 | 208 | 壺 | 14.7 | － | － | 21.0 | 肩～口縁部片。口縁は内湾に直立。 | 灰白色 | 細い | 不良 | SE09 |
| 76 | － | 418 | 205 | 甕 | 54.4 | － | － | － | 口縁部片。頸部上端に子目沈線を施文した幅1.5cmの突帯貼付。 | 暗茶褐色～黄褐色 | やや不良 | 良好 | SE09 |
| 77 | － | 419 | 206 | 甕 | 22.5 | 31.9 | － | 24.5 | 底部欠損品。内外面ともハケ目。 | 暗褐色 | やや粗い | やや不良 | SE09 |

凡例：法量の口径は外径、器台は台上部径、（ ）は復元値

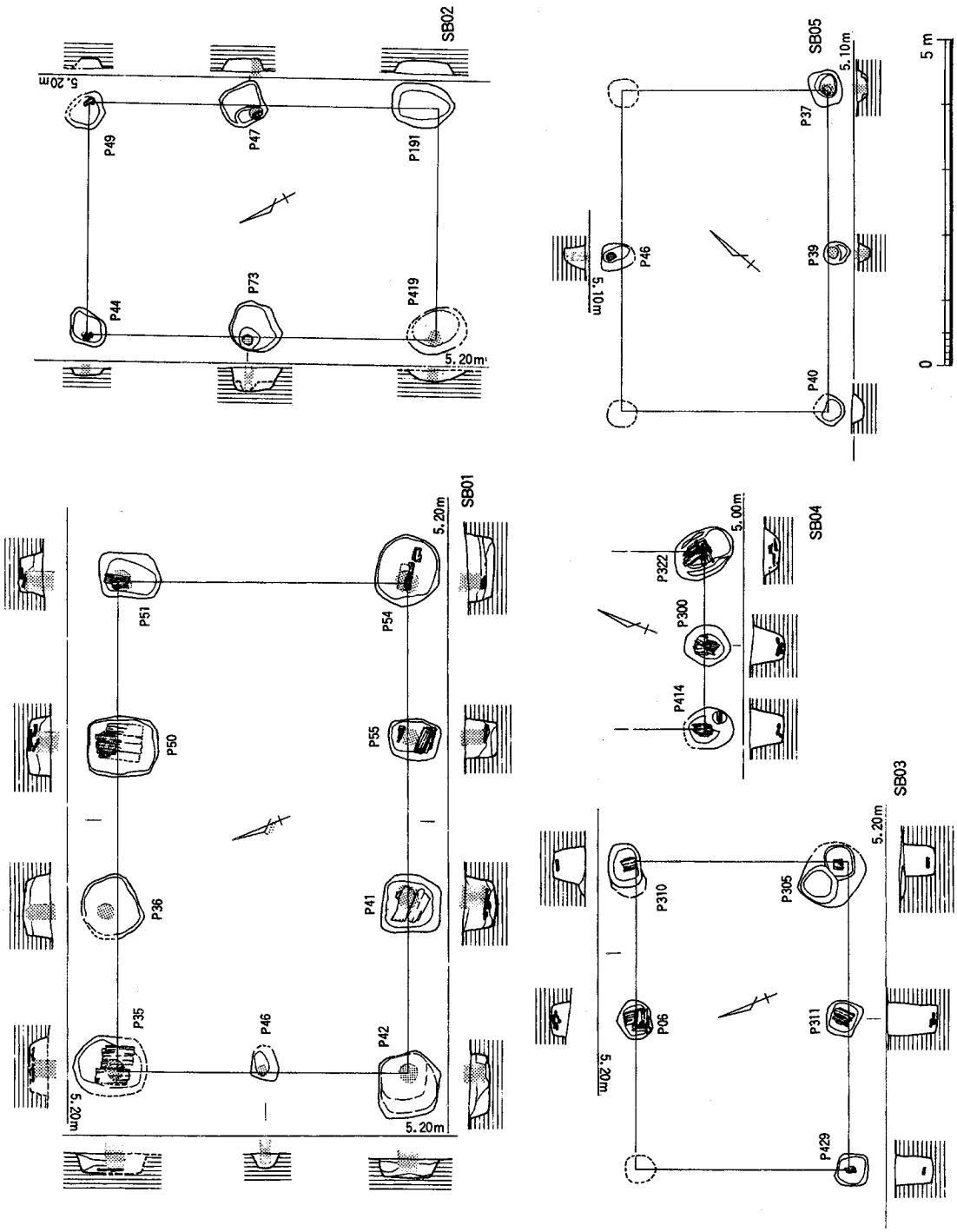
| Fig. | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 器種 | 法量（cm） 口径 | 器高 | 底径 | 胴部径 | 形態的特徴 成形上の手法 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 77 | — | 420 | 207 | 壺 | 17.0 | 30 | — | 22.0 | 底部欠損品。内外面ハケ目後ナデケシ。口縁部と頸部の境の稜線は弱い。 | 明黄褐色 | 粗い | 不良 | SE09 |
| 77 | — | 421 | 215 | 壺 | (13.8) | — | — | — | 胴部以下欠損品。口縁部はほぼ直立。端部は若干内傾する。 | 明褐白色 | やや良 | やや不良 | SE10 |
| 77 | 35 | 422 | 214 | 壺 | (10.2) | 14.8 | 3.05 | 16.2 | 口縁部一部欠損品。胴部下半はタタキ。内外面ハケ目。底部はわずかに丸みあり。 | 黄褐色 | やや不良 | 良 | SE10 |
| 77 | — | 423 | 217 | 甕 | — | — | 6.0 | 26.0 | 口縁部欠損品。外面はタタキ後ハケ目。内面はカキトリ後軽くナデケシ。底部はわずかに丸みあり。 | 明褐色 | やや粗い | 不良 | SE103 |
| 77 | — | 424 | 216 | 壺 | — | — | 8.0 | 21.1 | 頸～口縁部欠損品。胴部下半はヘラケズリ。肩部は並行タタキ。最大径は胴部下半にあり。 | 淡灰褐～淡灰黒色 | 極て粗い | やや良好 | SE20 |
| 77 | — | 425 | 218 | 壺 | — | — | — | 17.9 | 頸部欠損品。胴部は扁平な球形。肩部にはヘラミガキ後暗文を施文。内面はナデ。肩部には径1.5cmの穿孔あり。 | 灰色 | 細い | 良 | SE116 |
| 77 | 35 | 426 | 219 | 壺 | 13.7 | 18.9 | — | 17.7 | 口縁部一部欠損品。頸部内面はハケ目後ヘラミガキ。頸部下端に押圧刻み目突帯を貼付。底部は若干レンズ状に膨らむ。 | 明褐色 | やや細い | 良 | SE116 |
| 77 | — | 427 | 221 | 甕 | 47.4 | — | — | — | 口縁部片。内外面ハケ目。口縁部は直線的に「く」字形に屈曲。胴部上端部に格子刻み目突帯を貼付。 | 灰白色 | 粗い | 不良 | SE116 |
| 77 | — | 428 | 220 | 壺 | 19.6 | — | — | — | 口縁部片。内外面ともハケ目後軽くナデケシ。 | 灰色 | 細い | 不良 | SE116 |
| 78 | — | 429 | 225 | 甕 | 14.8 | — | — | 13.2 | 口縁部片。口縁部は「く」の字に屈曲。 | 黒褐色 | やや細い | 良 | SE206 |
| 78 | — | 430 | 224 | 小型壺 | — | — | — | 9.2 | 口縁部欠損品。体部外面はハケ目後ナデ。 | 淡灰褐色 | 細い | 良 | SE206 |
| 78 | — | 431 | 223 | 壺 | — | — | 5.2 | — | 底部片。底部わずかに丸みあり。 | 明褐～ | 粗い | やや良 | SE206 |
| 78 | — | 432 | 222 | 壺 | 12.0 | 14.1 | 3.7 | 17.7 | 底部欠損品。内外面ともハケ目調整。縁部、底部周辺はハケ調整後軽くナデケシ。底部は凸レンズ状。 | 暗褐色 | 細い | やや不良 | SE206 |
| 78 | — | 433 | 228 | 壺 | 13.2 | — | — | — | 口縁部片。全面ナデ仕上げ。 | 灰色 | やや粗い | 不良 | SE232 |
| 78 | — | 434 | 227 | 壺 | 13.0 | — | — | — | 口縁部片。内面ヨコハケ。外面ナデ仕上げ。 | 明褐色 | やや細い | 不良 | SE232 |
| 78 | 35 | 435 | 226 | 甕 | 21.8 | 30.9 | 5.5 | 24.6 | 完形品。良品である。内外面丁寧なハケ目。底部は丸みあり。 | 暗褐～ | やや粗い | 不良 | SE231 |
| 78 | — | 436 | 229 | 壺 | 13.9 | 31.3 | 4.7 | 25.9 | ほぼ完形品。外面タテハケ。胴部下半、口縁部内面はナデケシ。底部はやや丸み。 | 明褐色 | やや粗い | やや良 | SE233 |
| 79 | — | 439 | 239 | 小型壺 | (7.1) | 8.0 | — | 9.8 | 口縁部一部欠損品。肩がやや張る胴部で、丸底となる。底部には径1.5cmの平坦面がある。内面ヘラケズリ。 | 明褐色 | やや粗い | 不良 | SE236 |
| 79 | — | 440 | 236 | 鉢 | 13.3 | 7.1 | 4.8 | — | 口縁部破損品。内外面ハケ目後ナデケシ。 | 灰褐色 | やや粗い | 良 | SE236 |
| 79 | — | 441 | 235 | 小型壺 | 8.2 | 13.3 | 4.3 | 10.8 | 完形品。全体に厚手の作り。外面は目の粗いハケ目。頸部～口縁部はナデ。口縁部は頸部端から強く外反する。肩はやや張り、雑なヨコハケ目調整。 | 灰褐色 | やや粗い | 良 | SE236 |
| 79 | 35 | 442 | 238 | 壺 | 8.0 | 14.0 | 4.9 | 12.5 | 口縁部一部欠損品。肩がやや強く張る。胴部は球形、底部はやや丸みの有る平底。全体にやや厚手の作り。 | 暗灰～黒灰色 | やや粗い | 良 | SE236 |
| 79 | 35 | 443 | 240 | 壺 | — | — | 4.8 | 16.6 | 頸～口縁部欠損品。胴部は算盤玉状。外面はタテハケ。内面下半部は板小口によるナデ。底部は平底でナデ。 | 灰褐色 | やや粗い | 良 | SE236 |
| 79 | 35 | 444 | 243 | 壺 | 8.1 | 15.8 | 4.8 | 14.8 | 完形品。外面ハケ目後軽くナデケシ。口縁端部はわずかに外反。底部は平坦。 | 淡褐白色 | やや粗い | やや不良 | SE236 |
| 79 | — | 445 | 241 | 甕 | 17.6 | — | — | 16.6 | 胴部～口縁部片。内面ナデ。外面タテハケ。 | 淡灰褐色 | やや粗い | 良 | SE236 |
| 79 | 35 | 446 | 237 | 小型甕 | 13.5 | 14.2 | 4.9 | 14.9 | 完形品。口縁部以外は全面ハケ目調整。全体に厚手の作り。底部は平底。 | 灰白～灰褐色 | 細い | 良 | SE236 |
| 79 | 35 | 447 | 233 | 壺 | 10.4 | 21.2 | 6.7 | 16.6 | 完形品。全体に厚手の作り。外面はハケ目後ナデ仕上げ。胴部下半は強いナデツケ。底部は1.8cm厚で、若干丸みあり。 | 暗褐色 | やや粗い | 良 | SE236 |

凡例：法量の口径は外径、器台は台上部径、（　）は復元値

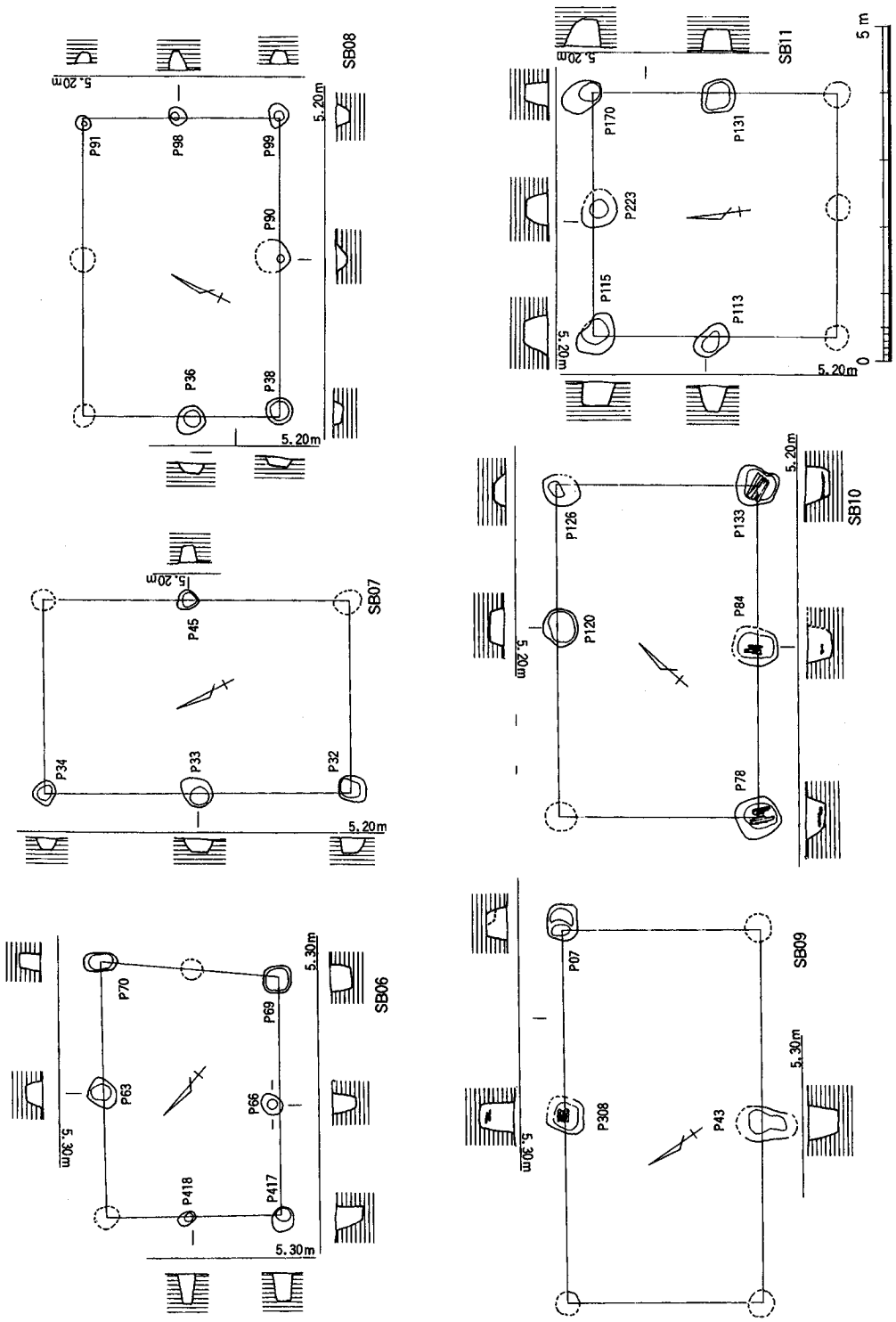
| Fig. | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 器種 | 法量（cm） | | | | 形態的特徴 | | | | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | 胴部径 | 成形上の手法 | 色調 | 胎土 | 焼成 | |
| 79 | 35 | 448 | 234 | 壺 | 11.5 | 24.3 | 5.8 | 17.8 | 完形品。全体に厚手の作り。外面はハケ目後ナデ仕上げ。胴部下半は強いナデツケ。口縁部は頸部端から強く外反する。 | 灰褐色 | やや粗い | 良 | SE236 |
| 79 | 36 | 449 | 232 | 壺 | 12.0 | 22.8 | 6.4 | 16.0 | ほぼ完形品。全体に厚手の作り。底部、口縁部はハケ目後ナデケシ。底部は厚手。袋状口縁端部をわずかに上へ引き出す。 | 灰褐色 | やや粗い | 良 | SE236 |
| 79 | 36 | 450 | 231 | 壺 | 11.8 | 23.6 | 10.4 | 18.5 | 完形品。外面はタテハケ内面、口縁部はナデ仕上げ。口縁は外湾。底部はわずかに丸みあり。 | 灰褐色 | やや粗い | 良 | SE236 |
| 79 | 36 | 451 | 230 | 壺 | 13.4 | 26.1 | 5.5 | 19.7 | 完形品。口縁部、胴部内面下半以外全面ハケ目。口縁端部はやや肥厚し外反。底部はわずかに丸みあり。 | 暗褐色 | やや粗い | 良 | SE236 |
| 78 | 36 | 438 | 244 | 壺 | － | － | 9.3 | 29.6 | 頸～口縁部欠損品。頸部下端と胴部中位に三角突帯貼付。内外面ともハケ目調整。底部は凸レンズ状に膨らむ。 | 淡灰褐色 | 極て粗い | やや良好 | SE236 |
| 78 | 36 | 437 | 245 | 壺 | － | － | 8.8 | 30.0 | 頸～口縁部欠損品。頸部下端と胴部中位に三角および台形突帯貼付。内外面ともにハケ目調整。底部はわずかに丸みあり。頸部は故意に打ち欠いたか。 | 淡灰褐色 | 粗い | やや良好 | SE236 |
| 80 | － | 452 | 251 | 器台 | (6.4) | 7.5 | 10.6 | － | 上台部一部欠損品。内外面ハケ目後ナデ。 | 褐色 | 細い | 良好 | SE244 |
| 80 | － | 453 | 248 | 甕 | － | － | 6.5 | － | 底部片。内面はカキトリ。 | 黒褐色 | 細い | 良好 | SE244 |
| 80 | － | 454 | 247 | 甕 | － | － | 9.0 | － | 底部片。底部外面にヘラ描きによる「×」印が有る。内外面ナデ。 | 淡灰褐色 | 極て粗い | やや良好 | SE244 |
| 80 | － | 455 | 250 | 壺 | 15.0 | － | － | － | 頸～口縁部片。器面荒れ調整痕不明。 | 淡橙褐色 | やや粗い | 良好 | SE244 |
| 80 | 36 | 456 | 252 | 壺 | 15.2 | 15.2 | － | 20.8 | 口縁部一部欠損品。内外面ハケ目。口縁部ヨコナデ。口縁部は若干外傾する。 | 淡褐色 | 極て粗い | やや良好 | SE244 |
| 80 | － | 457 | 246 | 甕 | － | － | 7.5 | 30.6 | 肩～口縁部欠損品。内面カキトリ。外面ハケ目調整。底部はナデ仕上げでやや丸みあり。 | 褐色～赤褐色 | 極て粗い | やや良好 | SE244 |
| 80 | － | 458 | 249 | 甕 | 23.0 | － | － | － | 頸～口縁部片。器面荒れ調整痕不明。 | 淡黄白色 | 極て粗い | やや良好 | SE244 |
| 80 | 36 | 459 | 253 | 壺 | 14.1 | 16.1 | － | 19.6 | 口縁部一部欠損。内面下半は板小口によるナデ。外面はヘラミガキ。口縁部ナデ。胴部最大径は中位からやや下部にある。 | 淡灰褐色<br>底部：黒色 | 細い | 良好 | SE245 |
| 80 | 36 | 462 | 254 | 壺 | 9.0 | 11.0 | 4.5 | 12.0 | 完形品。全面ハケ目後ナデ仕上げ。底部はやや丸みある平底。若干肩張る。 | 灰白色 | 粗い | 不良 | SE254 |
| 80 | 36 | 460 | 255 | 広口壷 | 10.2 | 12.6 | － | 12.1 | 完形品。外面はヘラミガキ。内面は丁寧なハケ目調整。胴部はやや扁平な球形。 | 淡灰褐色 | 細い | 良 | SE254上 |
| 80 | 36 | 461 | 256 | 壺 | － | － | 7.1 | 21.6 | 胴部片。内外面ともハケ目。肩部はヘラミガキ。底部はやや丸みある平底。 | 灰褐～灰黄褐色 | やや細い | 良 | SE254 |
| 80 | 36 | 463 | 257 | 壺 | 28.1 | － | 7.7 | 26.4 | 完形品。頸部下端、胴部中位に三角および台形の突帯貼付。胴部突帯には押圧刻目を施文。底部はやや丸みある平底。 | 淡灰褐色 | やや粗い | やや良 | SE254 |
| 81 | － | 464 | 258 | 壺 | 12.8 | － | 5.0 | 26.9 | 完形品。均整のとれた卵形の胴部。器壁薄く良品である。胴部上半部はハケ目後ナデケシ。底部はやや丸みのある平底。 | 淡褐白色 | やや粗い | 良 | SE255 |
| 81 | 37 | 465 | 259 | 壺 | 11.5 | － | 5.1 | 22.3 | 完形品。口縁部、胴部下半はハケ目調整後ヨコナデ。内面肩部には粘土紐継目が残る。底部は丸底に近い平底。 | 灰褐～黒褐色 | やや粗い | やや良 | SE263 |
| 81 | － | 466 | 267 | 鉢 | 14.8 | － | － | － | 1/2欠損品。底部はわずかに平底。 | 灰白色 | やや粗い | 不良 | SE264 |
| 81 | － | 467 | 266 | 高杯 | － | － | 11.8 | － | 脚部片。外面ヘラミガキ。穿孔２カ所あり。 | 明褐色 | やや粗い | 不良 | SE264 |
| 81 | 37 | 468 | 260 | 壺 | 10.4 | 13.7 | 4.9 | 16.3 | 完形品。口縁部はほぼ直立。底部は丸みあり。内面は丁寧なハケ目。外面は肩部で縦のヘラミガキ。中位の横方向のヘラミガキ。底部には指頭痕が残る。 | 淡黄褐色 | 細い | やや良 | SE264 |
| 81 | － | 469 | 264 | 甕 | 17.5 | － | － | － | 肩～口縁部片。内外面ともハケ目。 | 淡灰褐色 | 粗い | 不良 | SE264 |
| 81 | － | 470 | 261 | 高杯 | 25.1 | － | － | － | 口縁部片。内外面ともヘラミガキ。 | 明褐色 | 細い | 不良 | SE264上 |
| 81 | － | 471 | 263 | 高杯 | 33.0 | － | － | － | 杯部片。器面は摩耗し調整痕は不明。 | 明褐色 | やや粗い | 不良 | SE264 |
| 81 | － | 472 | 265 | 甕 | 33.0 | － | － | － | 口縁部片。器壁は２～３㎜で薄手。調整痕は不明。胴部上端に三角突帯貼付。 | 黒褐色 | 粗い | 不良 | SE264 |

凡例：法量の口径は外径、器台は台上部径、（ ）は復元値

| Fig. | PL | 掲載遺物番号 | 登録番号 | 器種 | 法量（cm） | | | | 形態的特徴 | | | | 出土遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | 胴部径 | 成形上の手法 | 色調 | 胎土 | 焼成 | |
| 81 | 37 | 473 | 262 | 壺 | 17.5 | 27.6 | 6.1 | 23.1 | 完形品。全体に厚手作り。内面はカキトリ後ナデケシ。外面はハケ目後ナデケシ。底部はやや丸みある平底。 | 暗褐色 | やや粗い | やや不良 | SE264 |
| 82 | — | 474 | 271 | 壺 | — | — | 5.7 | 18.0 | 頸～口縁部欠損品。内面はナデ。外面下半はハケ目後ナデ。底部は丸みある平底。 | 明褐白色 | 粗い | やや不良 | SE269 |
| 82 | — | 475 | 270 | 甕 | (11.4) | (20.3) | — | 18.2 | 口縁、底部欠損品。全体に焼き歪む。ハケ目後雑なナデケシ。底部内面にはカキトリ痕が残る。丸みのある平底か。 | 暗褐～黒褐色 | 粗い | やや不良 | SE269 |
| 82 | 37 | 476 | 268 | 壺 | 12.5 | 22.3 | 3.2 | 19.1 | 完形品。均整のとれた卵形の胴部。器壁が薄く良品である。胴部下半部はハケ目後ナデケシ。底部はやや丸みのある平底。肩部に炭化物付着。 | 暗褐～黒褐色 | やや良 | やや良 | SE269 |
| 82 | — | 477 | 273 | 甕 | 29.0 | — | — | 28.0 | 口縁部片。内外面ヨコハケ。底部は丸みある平底（同一個体あり）。全体に薄手。 | 褐～灰褐色 | やや粗い | やや不良 | SE269 |
| 82 | — | 478 | 272 | 甕 | (27.2) | — | — | 30.0 | 肩から口縁部片。肩上端部と胴部中位に突帯貼付。内外面ともハケ目後ナデ。 | 淡灰褐色 | 極て粗い | やや良好 | SE269 |
| 82 | 37 | 479 | 269 | 甕 | 16.0 | 23.5 | (2.8) | 19.7 | ほぼ完形品。肩部はハケ目後ナデ。内面はカキトリ後ナデ。表面には指圧痕残る。底部は丸底だが平底の痕跡をわずかに残す。 | 黒褐色 | やや粗い | 良 | SE269 |
| 82 | — | 480 | 274 | 甕 | 40.6 | — | — | — | 肩～口縁部片。胴部上端部に三角突帯。 | 灰白色 | 粗い | 不良 | SE269 |
| 83 | 37 | 481 | 275 | 小型鉢 | 7.8 | 5.4 | 3.6 | — | 完形品。全面ナデ。口縁端部は先細る。 | 褐白～ | 細い | やや不良 | SE299 |
| 83 | 37 | 482 | 276 | 広口坩 | 9.7 | 5.7 | — | — | 内外面ともヘラミガキ。底部にタタキ痕跡。 | 明褐色 | 良 | やや良 | SE299 |
| 83 | — | 483 | 287 | 広口坩 | 7.4 | 7.3 | — | 8.6 | 完形品。作りは精良。調整痕は不明。 | 明褐白色 | 細い | 不良 | SE299 |
| 83 | — | 484 | 281 | 高杯 | 13.0 | 杯部高 5.4cm | | — | 杯部片。脚との接合面は板小口を押圧し、凹凸面を作っている。 | 赤褐色 | 細い | 不良 | SE299 |
| 83 | — | 485 | 285 | 甕 | (13.1) | — | — | — | 肩～口縁部片。胴部内面はヘラケズリ。（土師器） | 灰白色 | やや不良 | やや不良 | SE299 |
| 83 | — | 486 | 282 | 高杯 | (10.4) | — | — | — | 口縁部片。器面は荒れ調整痕は不明。 | 淡橙々色 | 細い | 不良 | SE299 |
| 83 | — | 487 | 278 | 高杯 | — | — | 11.2 | — | 脚部片。内面はナデ。外面はヨコナデ。 | 明褐白色 | 良好 | やや不良 | SE299 |
| 83 | — | 489 | 288 | 高杯 | 21.2 | 杯部高 7.3cm | | — | 杯部片。内外面ともヘラミガキ。 | 灰白色 | 細い | やや不良 | SE299 |
| 83 | — | 491 | 283 | 甕 | (14.4) | — | — | — | 肩～口縁部片。胴部内面はヘラケズリ。 | 淡黄褐色 | 粗い | やや良好 | SE299 |
| 83 | — | 488 | 280 | 高杯 | — | — | 12.6 | — | 脚部片。穿孔が4カ所あり。 | 赤褐色 | 細い | 不良 | SE299 |
| 83 | — | 490 | 279 | 高杯 | 22.4 | 杯部高 7.4cm | | — | 杯部片。器面は荒れ調整痕不明。 | 赤褐色 | 細い | やや不良 | SE299 |
| 83 | — | 492 | 284 | 甕 | (17.3) | — | — | — | 肩～口縁部片。胴部内面はヘラケズリ。 | 黄褐色 | 極て粗い | やや不良 | SE299 |
| 83 | — | 493 | 277 | 広口坩 | 11.2 | 11.4 | — | 14.5 | ほぼ完形品。ハケ目後ナデケシ。 | 明褐白色 | 細い | 不良 | SE299 |
| 83 | — | 494 | 286 | 壺 | — | — | 4.9 | 25.5 | 底～胴部片。内面はハケ目後ナデ仕上げ | 褐色 | やや粗い | やや不良 | SE299 |
| 83 | — | 496 | 290 | 高杯 | 34.0 | — | — | — | 杯部片。内外面ともハケ目後ヘラミガキ。 | 明褐白色 | 細い | 良 | SE325 |
| 83 | — | 497 | 289 | 高杯 | — | — | — | — | 杯部片。内外面ともハケ目後ヘラミガキ。 | 明褐白色 | やや粗い | やや不良 | SE325 |
| 83 | — | 498 | 291 | 甕 | 22.4 | — | — | — | 肩～口縁部片。内面はヘラケズリ。外面はハケ目後ナデケシ。 | 灰褐白色 | やや粗い | やや不良 | SE337 |
| 83 | — | 499 | 293 | 高杯 | 16.6 | 杯部高 5.1cm | | — | 杯部片。口縁端部は丸くおさめる。杯底部縁には段がある。 | 明褐白色 | 細い | 良 | SE340 |
| 83 | 37 | 495 | 294 | 甕 | 13.4 | 14.7 | — | 15.1 | 完形品。胴部はやや肩が張る球形。口縁部中位は肥厚する。内面はヘラケズリ。口縁～肩部はハケ目後ナデケシ。 | 淡灰褐色 | やや良 | やや良 | SE340 |
| 83 | — | 500 | 292 | 甕 | 15.8 | 21.4 | — | 20.2 | 完形品。胴部は肩がやや張る均整のとれた卵形。口縁端部を内側に引き出す。内面はヘラケズリ。器壁の厚さは3～4mm。 | 明褐～暗褐色 | 細い | やや不良 | SE340 |
| 83 | — | 501 | 295 | 甕 | 14.7 | 23.6 | — | 18.7 | 口縁部1/2欠損品。胴部は肩がやや張る均整のとれた卵形。口縁中位は肥厚する。内面はヘラケズリ。器壁厚は4～6mm。 | 淡灰褐色 | 極て粗い | やや良好 | SE340 |




Fig,66　掘立柱建物SB01～05平面および断面図（１／100）




Fig,67　掘立柱建物SB06～11平面および断面図（1／100）

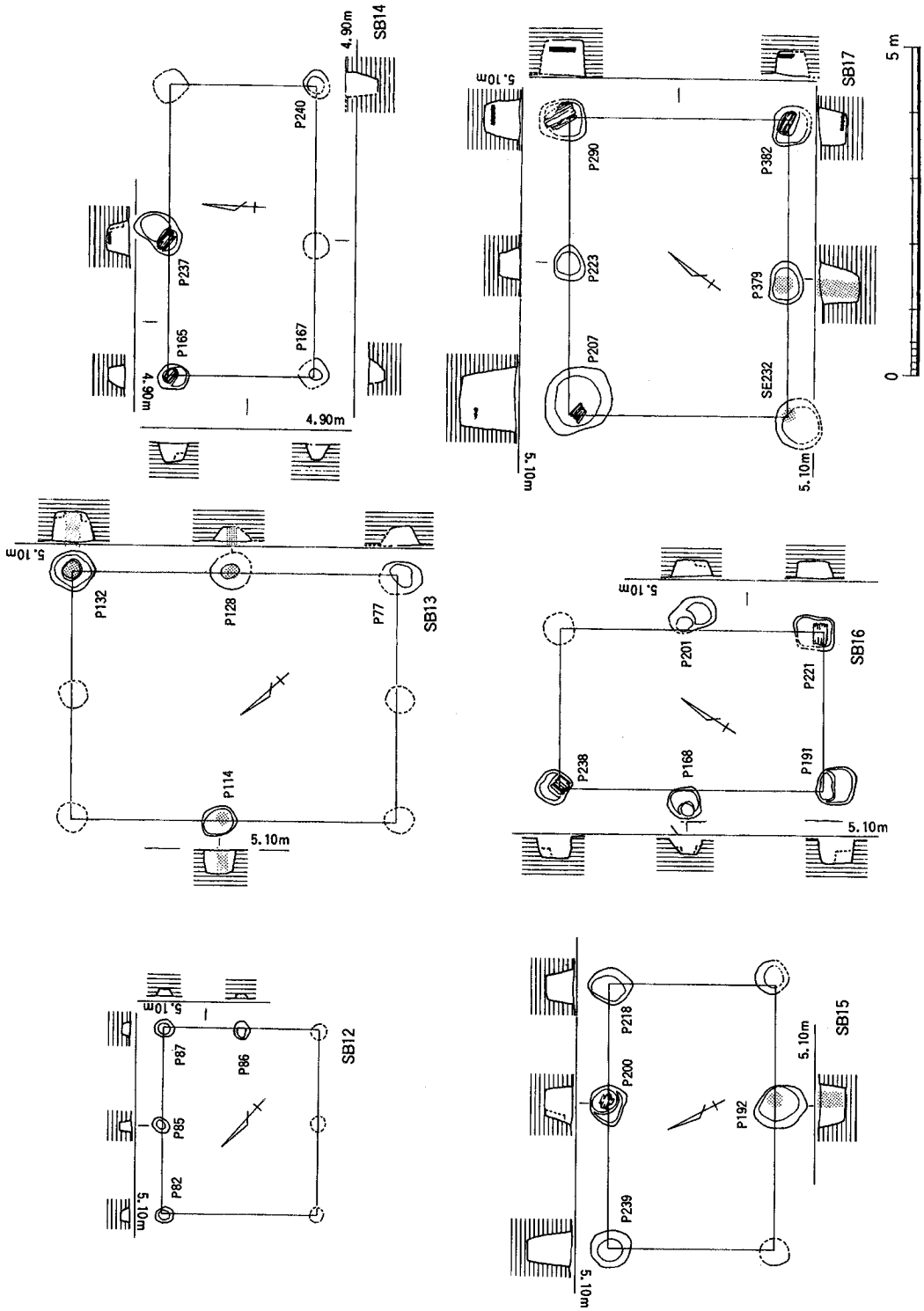
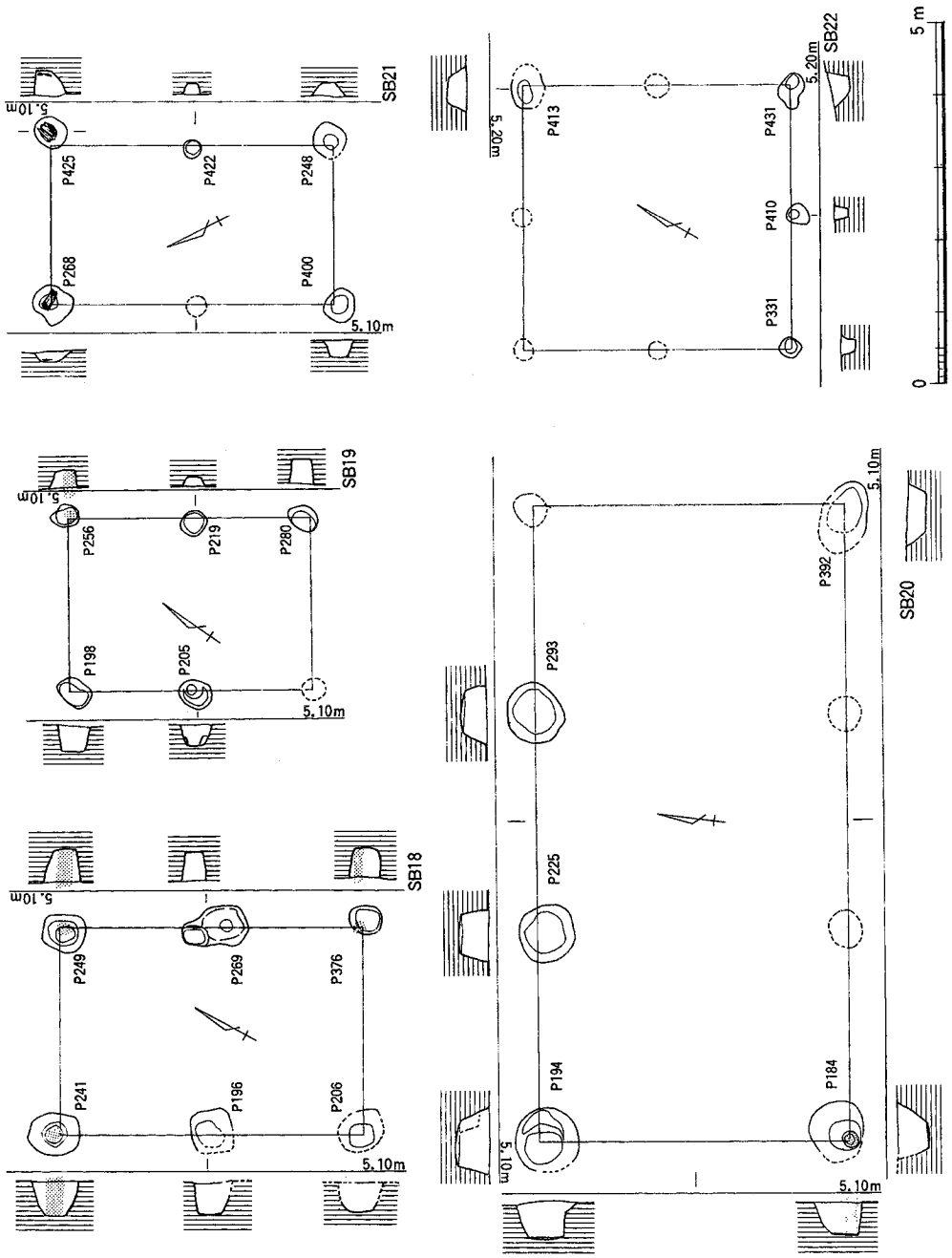



Fig.68　掘立柱建物SB12～17平面および断面図（１／100）




Fig,69　掘立柱建物SB18～22平面および断面図（1／100）

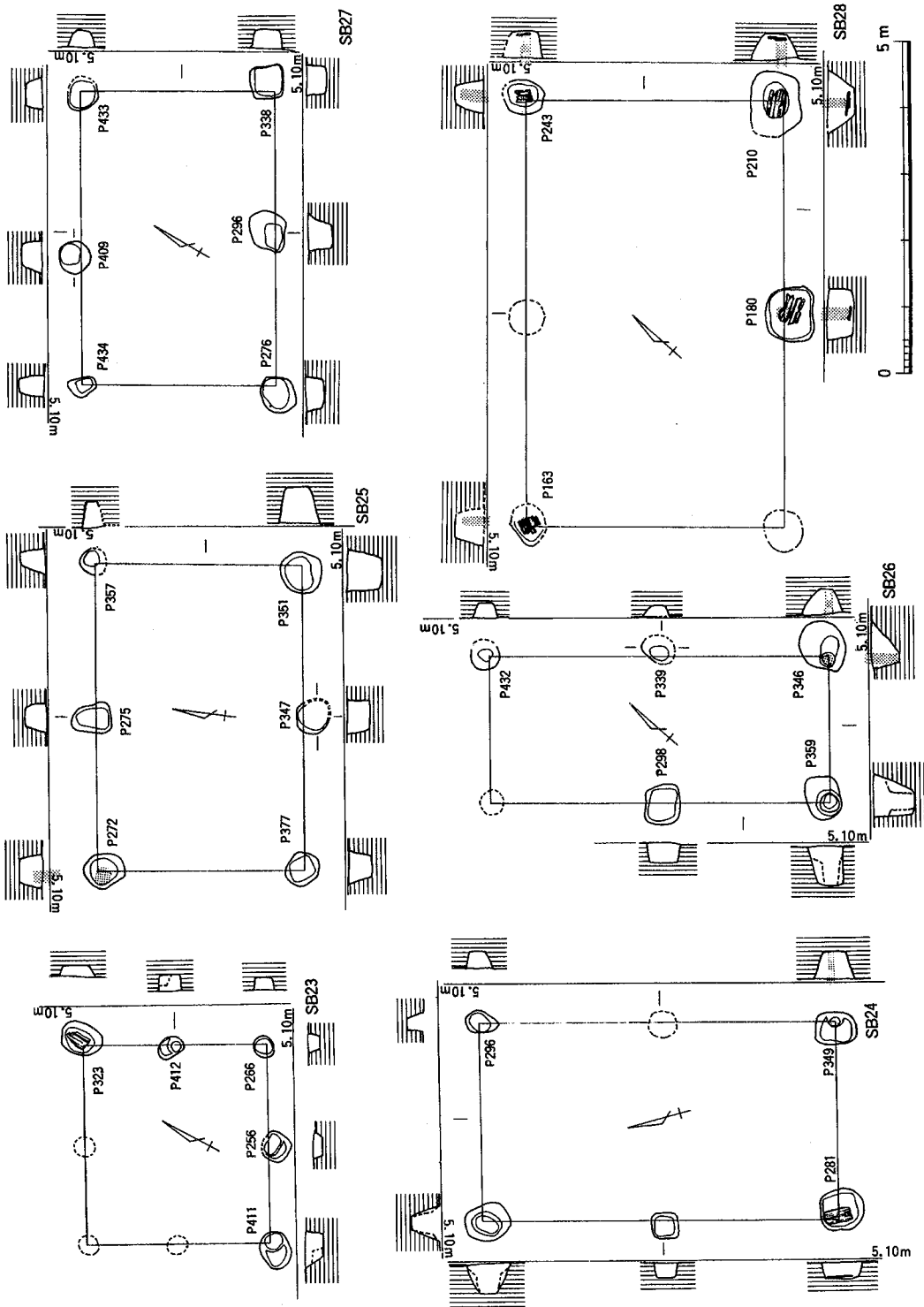
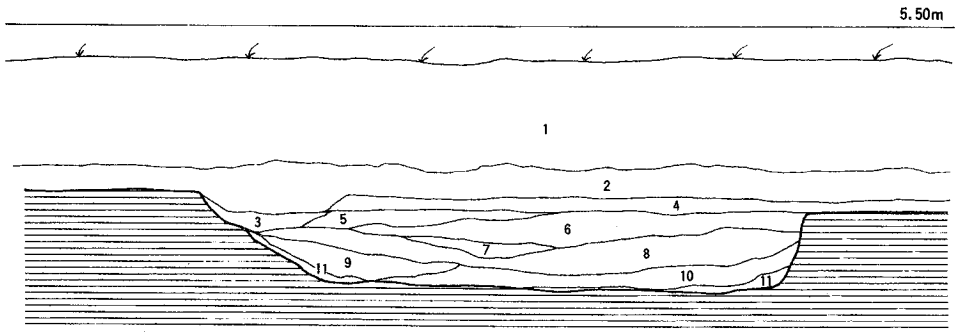


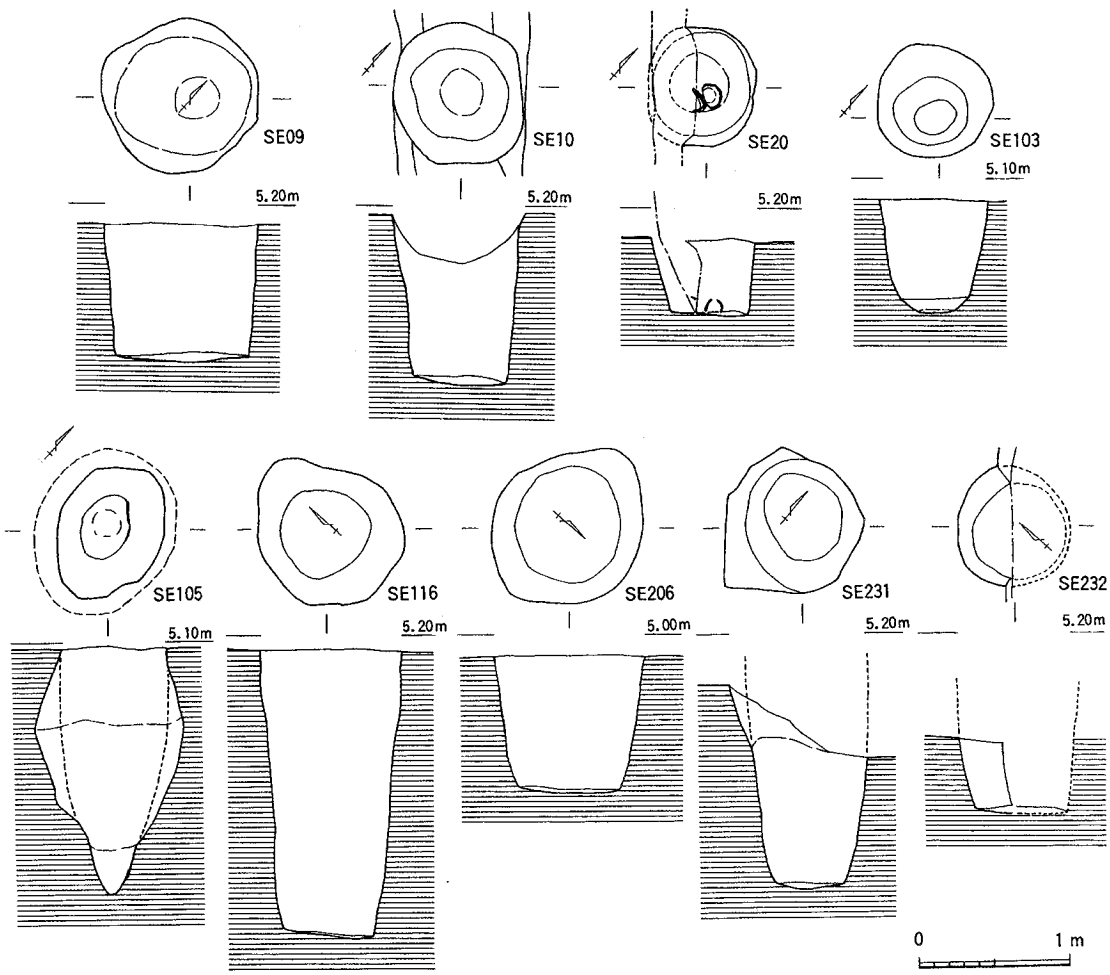

Fig.70　掘立柱建物SB23～28平面および断面図（１／100）




《溝SD04土層断面所見》

1．盛土
2．田耕作地
3．暗青灰色土層
4．黒褐～暗褐色土層
5．黒褐～黄褐色粘土
6．黒褐色土層
7．黄褐色粘土
8．黒褐色粘質土層
9．暗灰～暗灰褐色土層
10．暗灰～暗灰褐色土層(黄褐色粘土混入)
11．暗灰褐色土層

Fig,71　溝SD04土層断面図（1／40）




Fig,72　井戸SE09・10・20・103・105・116・206・231・232平面および断面図(1／50)

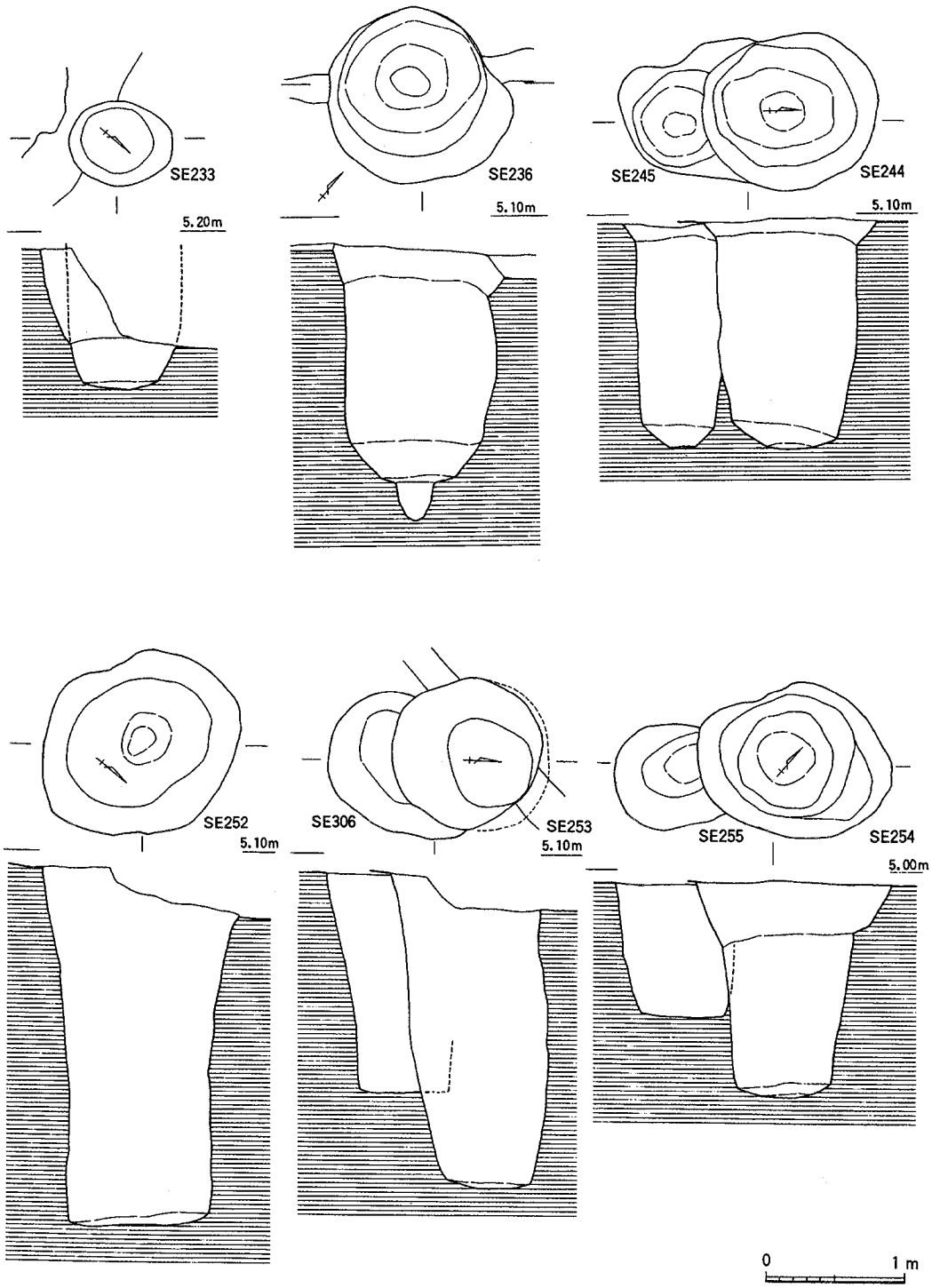
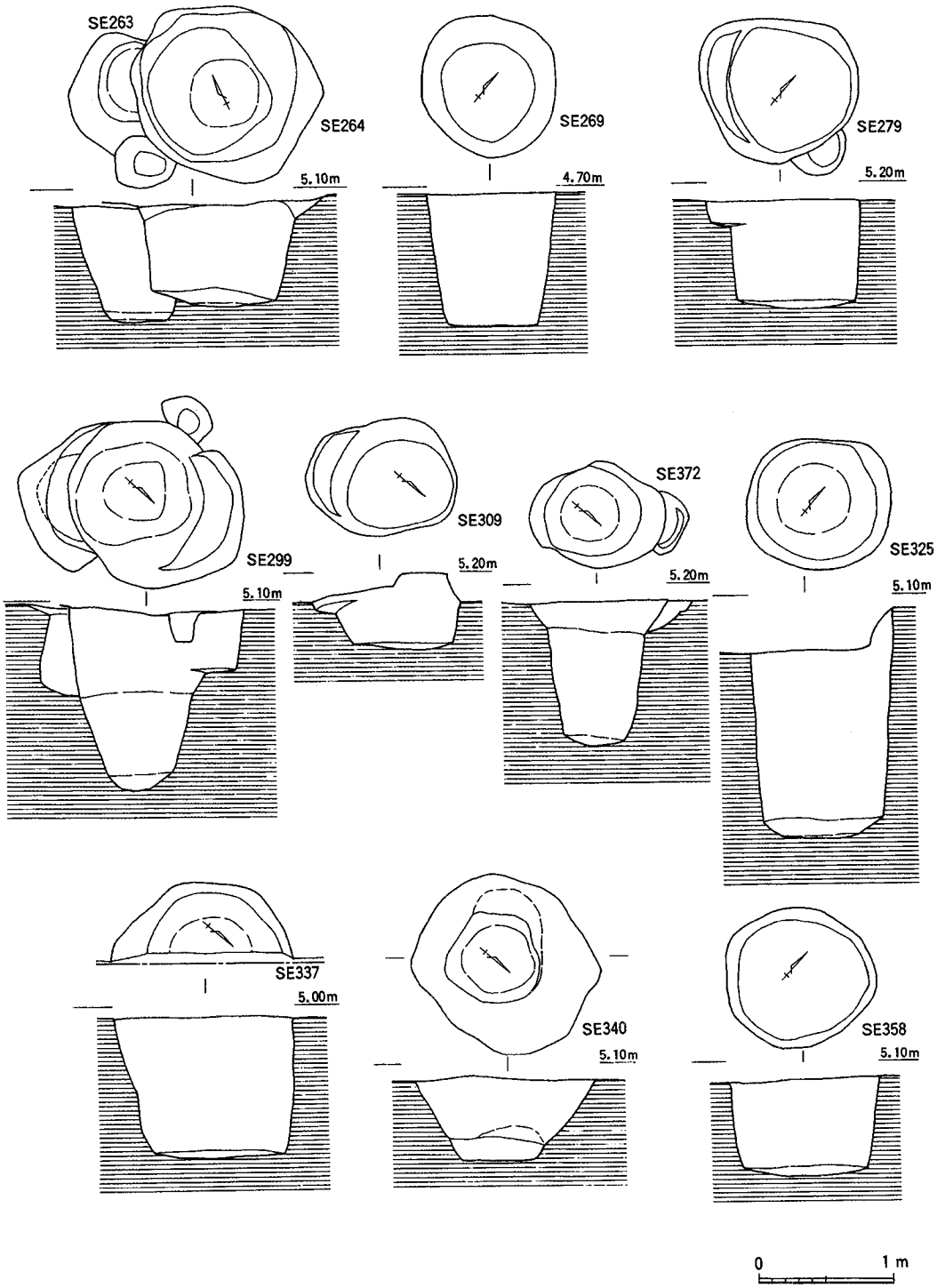
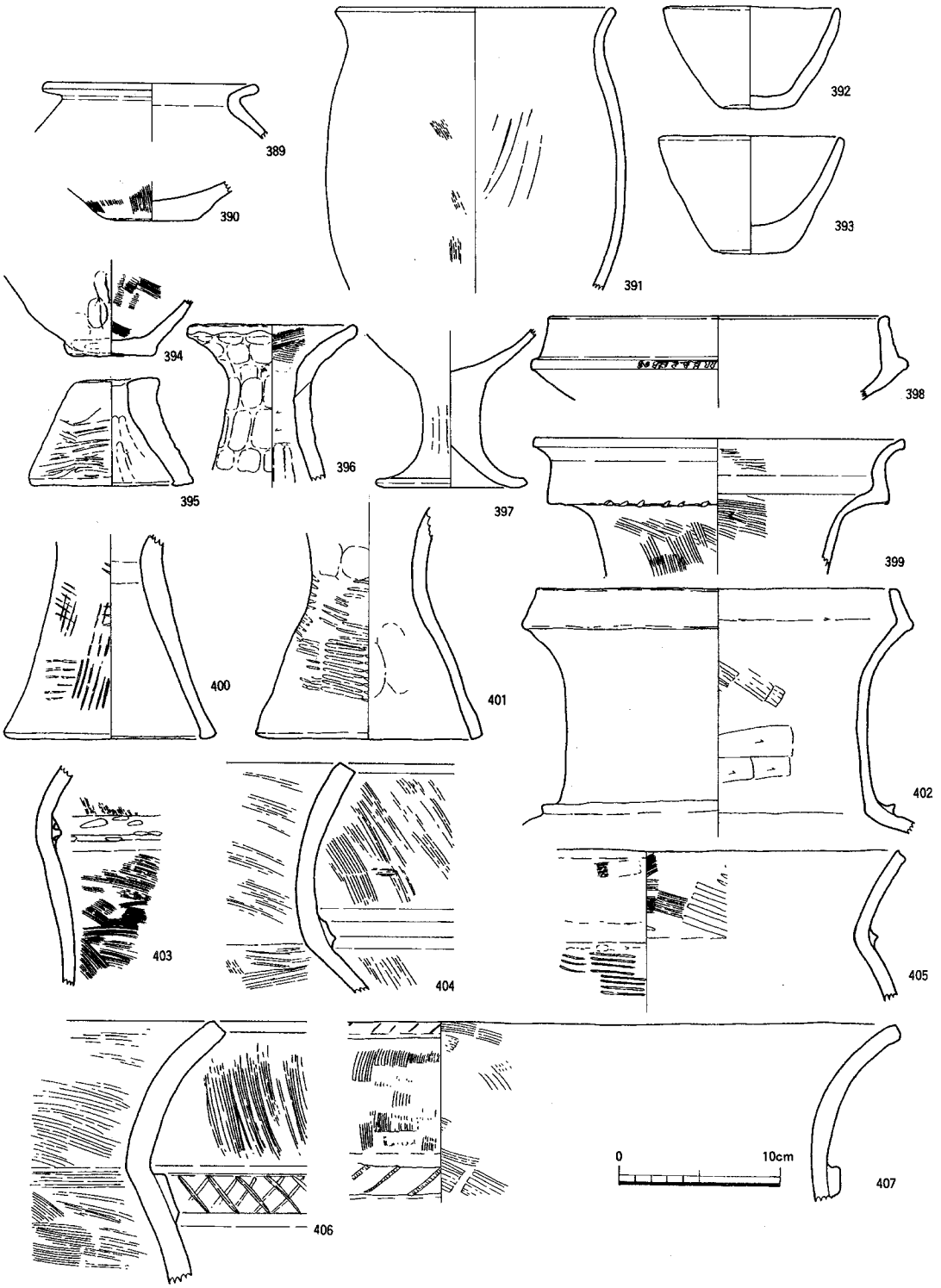



Fig.73　井戸SE233・236・244・245・252・253・254・255・306平面および断面図（１／50）

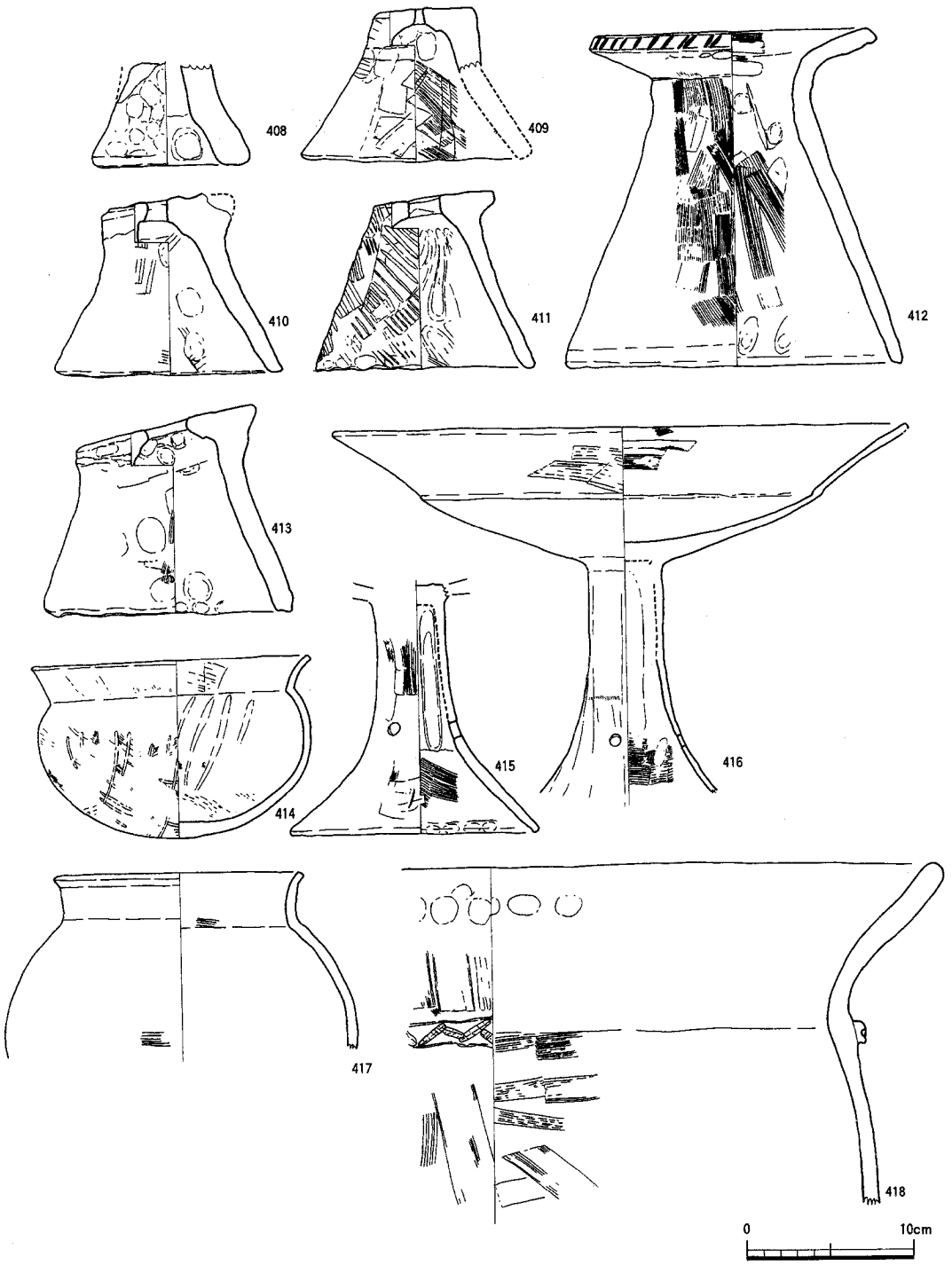



Fig, 74　井戸SE263・264・269・279・299・309・325・337・340・358・372平面および断面図（1／50）

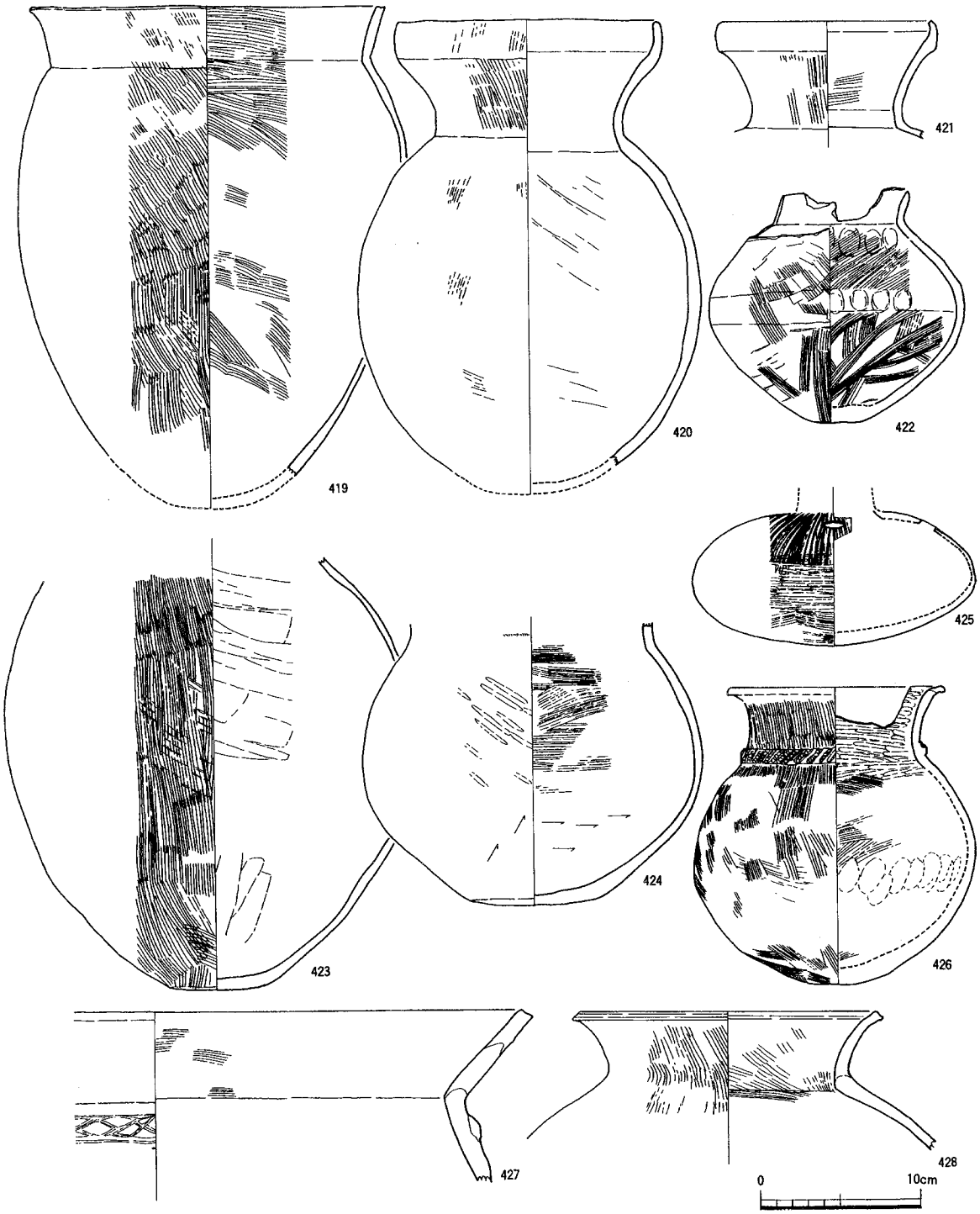



Fig,75　柱穴SP69・207・273、溝SD01・SD04出土遺物実測図（１／４）

(389；SP69、390；SP207、391～393；SP273、396・405；SD01、394・395・397～404・406・407；SD04)

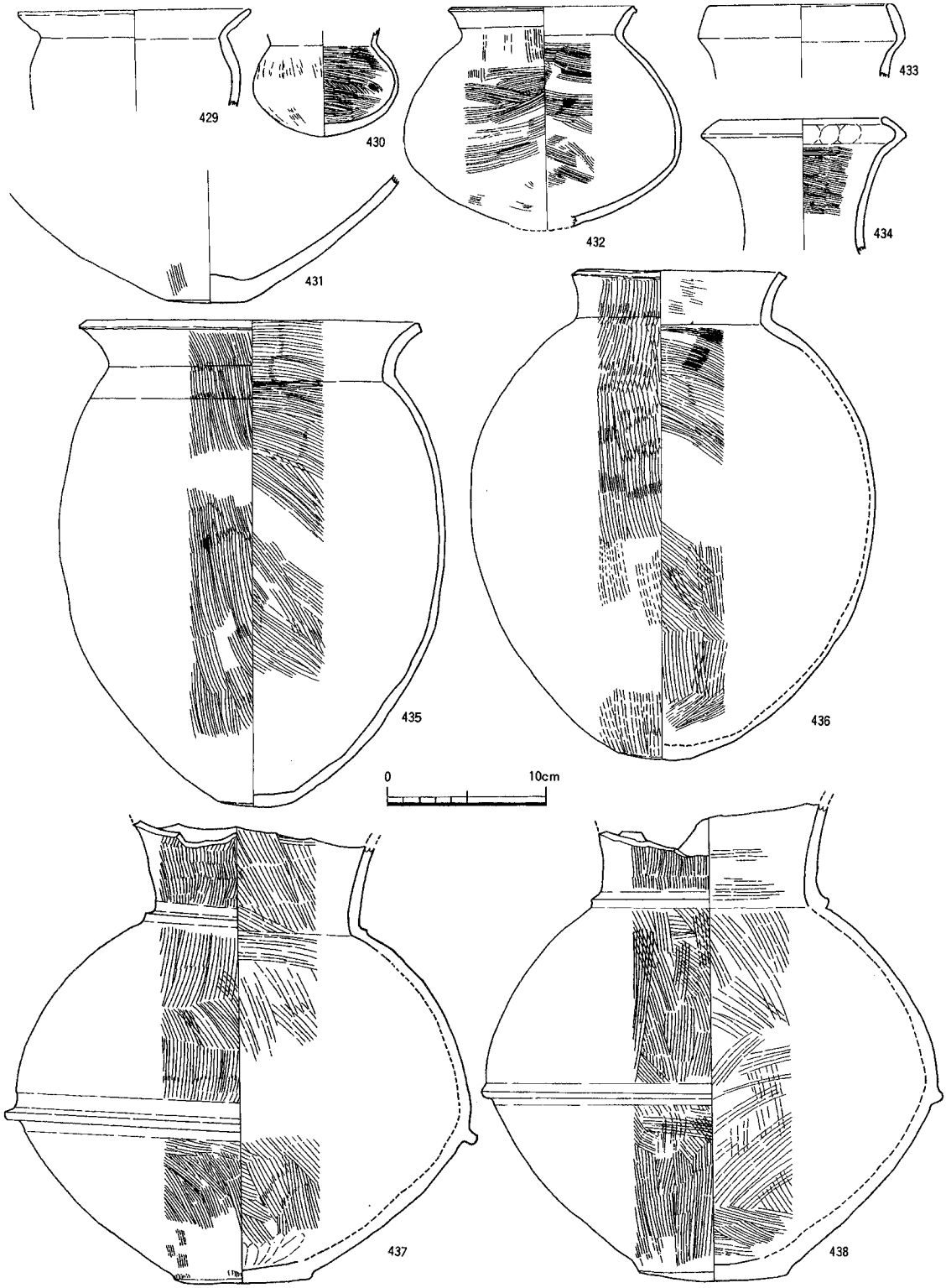



Fig,76　井戸SE09出土遺物実測図（1／4）




Fig,77　井戸SE09・10・20・103・116出土遺物実測図（１／４）

(419・420；SE09、421・422；SE10、423；SE103、424；SE20、425～428；SE116)




Fig,78　井戸SE206・231・232・233・236出土遺物実測図(1／4)

(429～432；SE206、433・434；SE232、435；SE231、436；SE233、437・438；SE236)

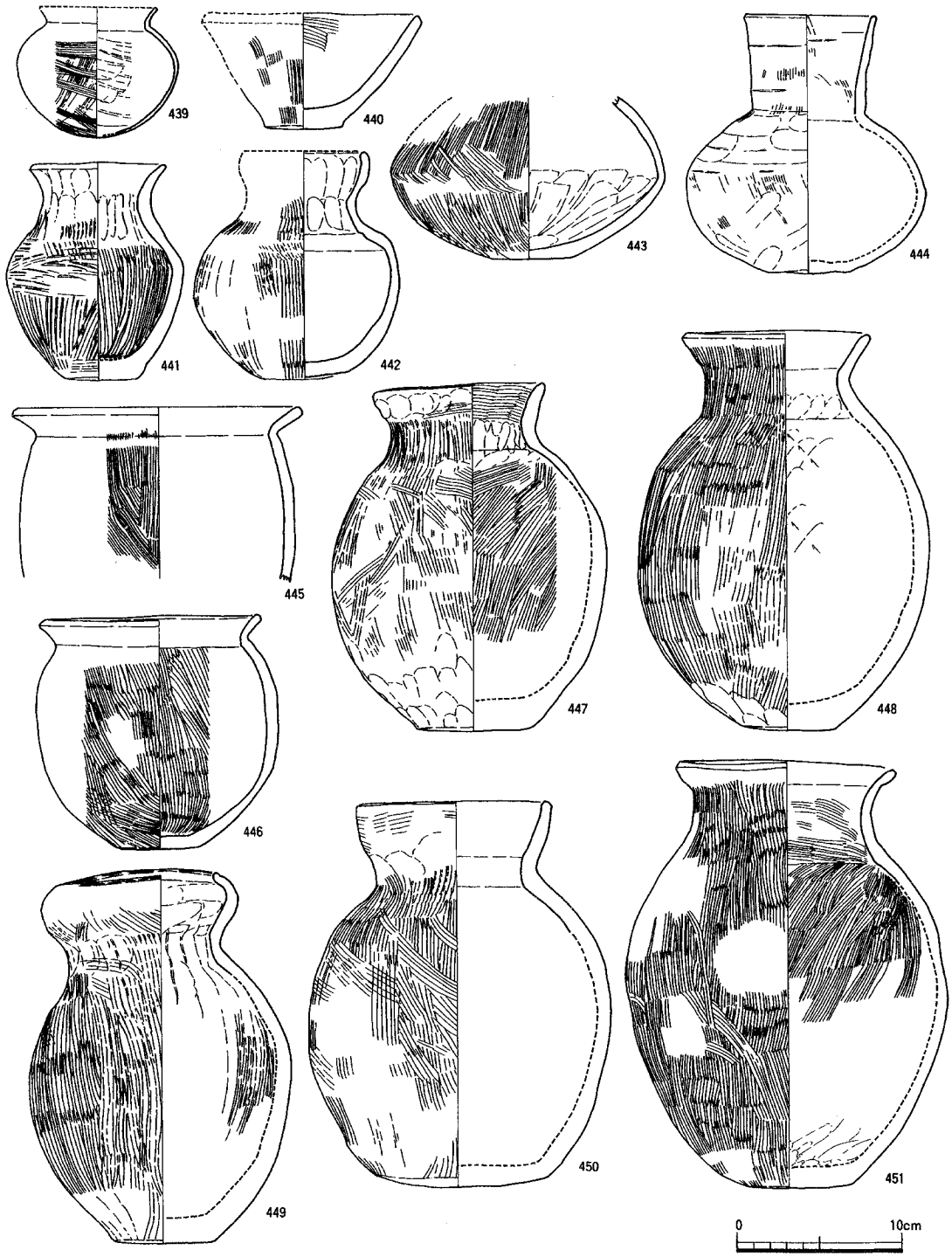



Fig.79　井戸SE236出土遺物実測図（１／４）

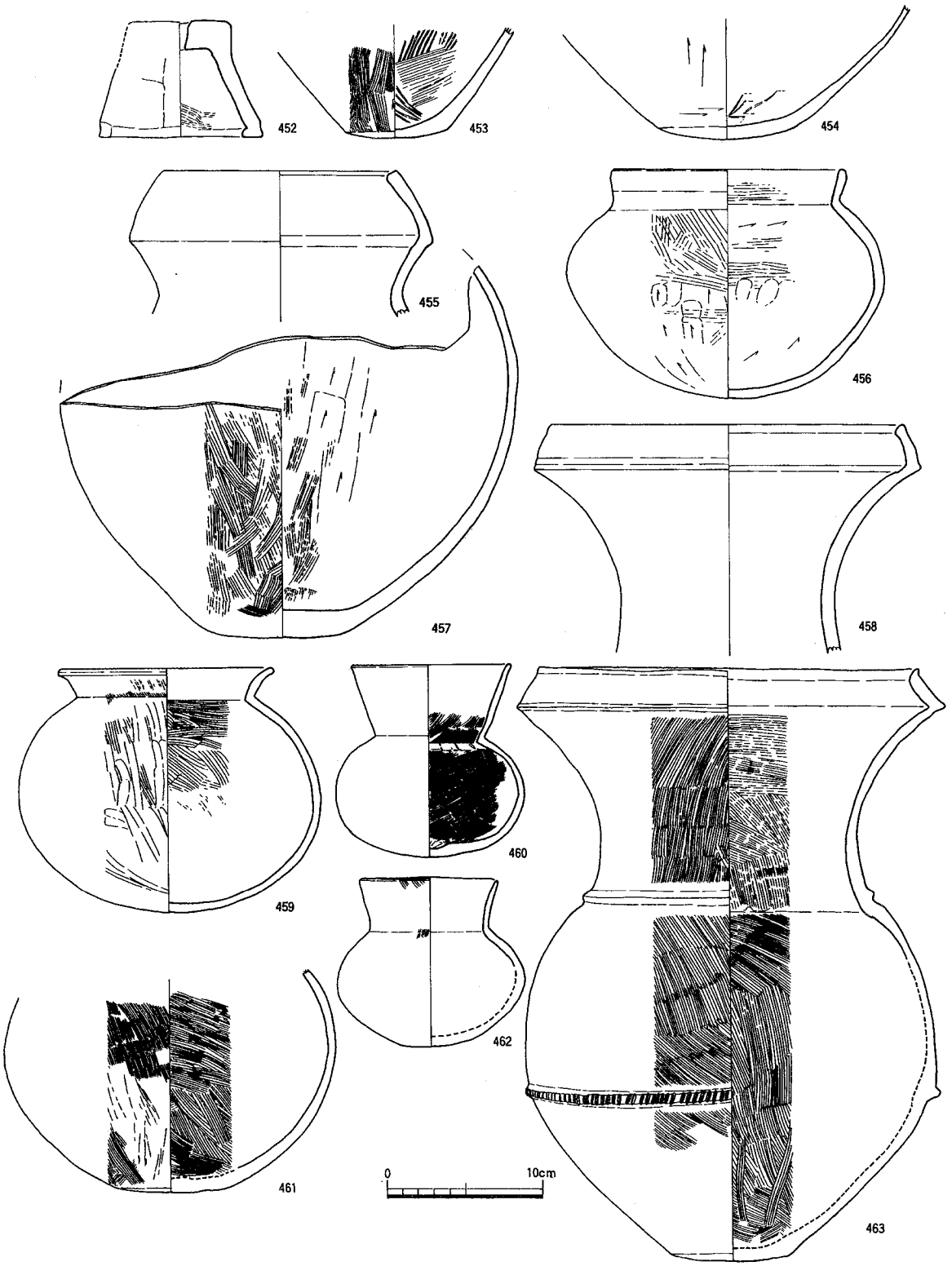



Fig.80　井戸SE244・245・254出土遺物実測図（1／4）

(452～458；SE244、459；SE245、460～463；SE254)

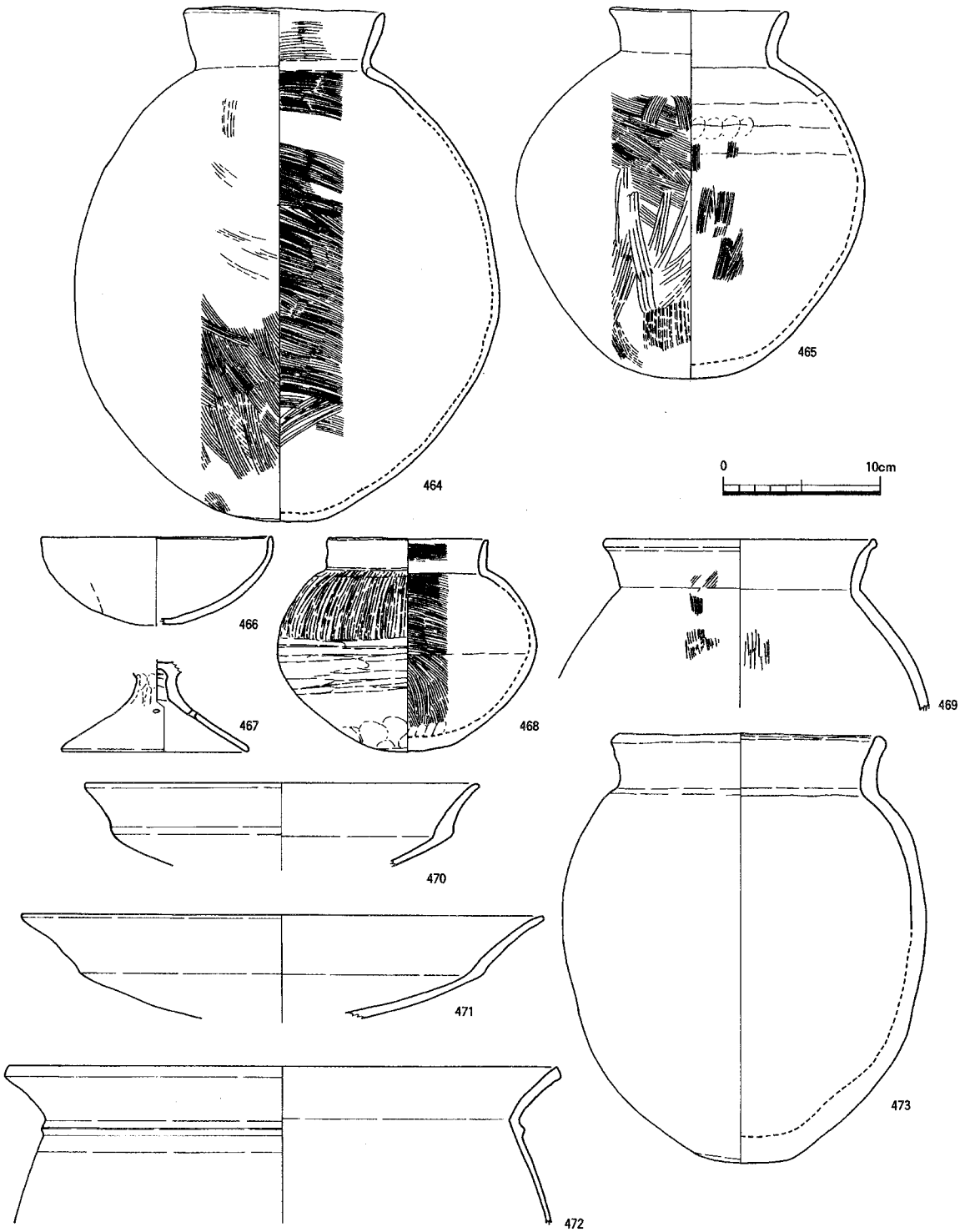



Fig.81　井戸SE255・263・264出土遺物実測図（１／４）

（464；SE255、465；SE263、466～473；SE264）

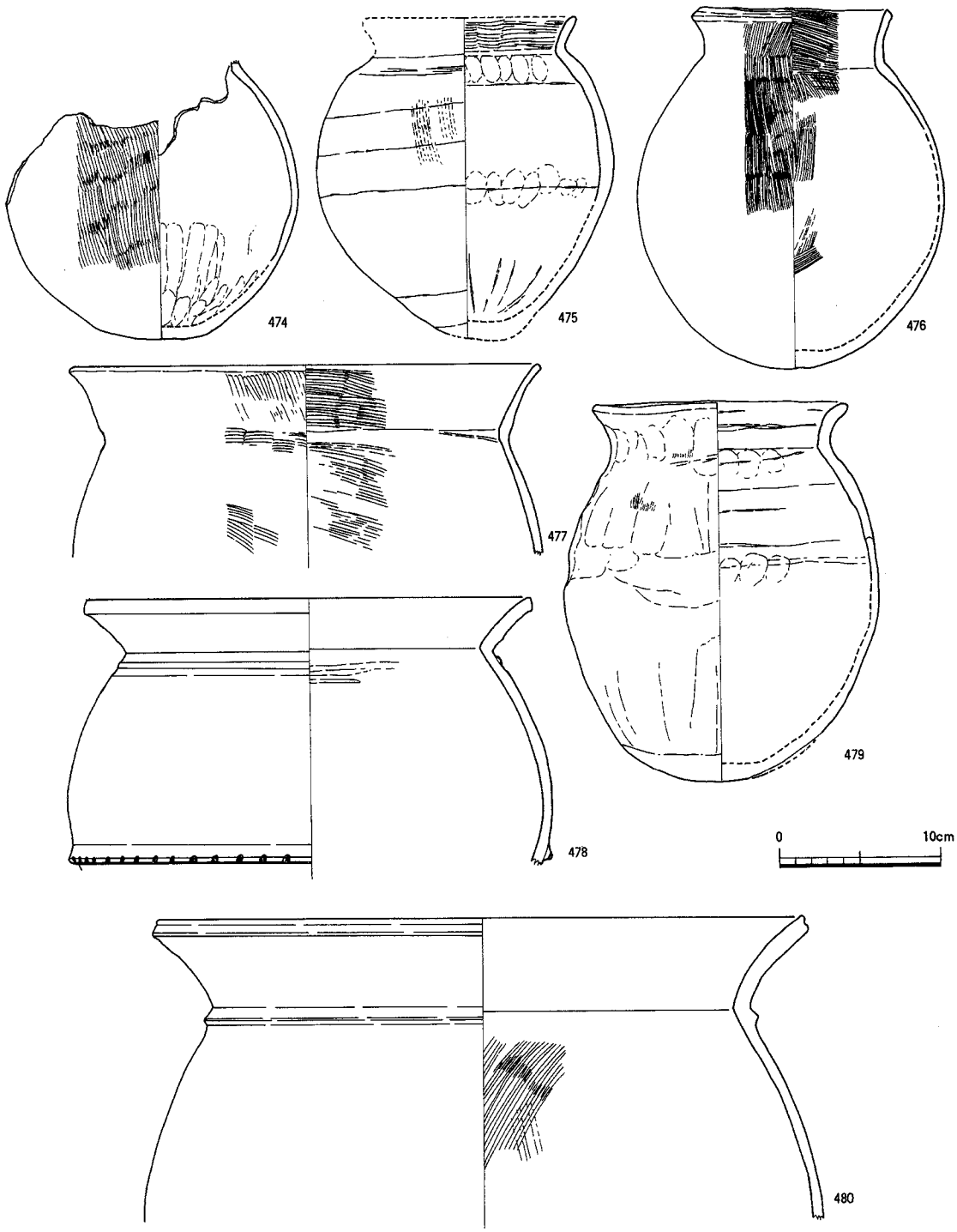
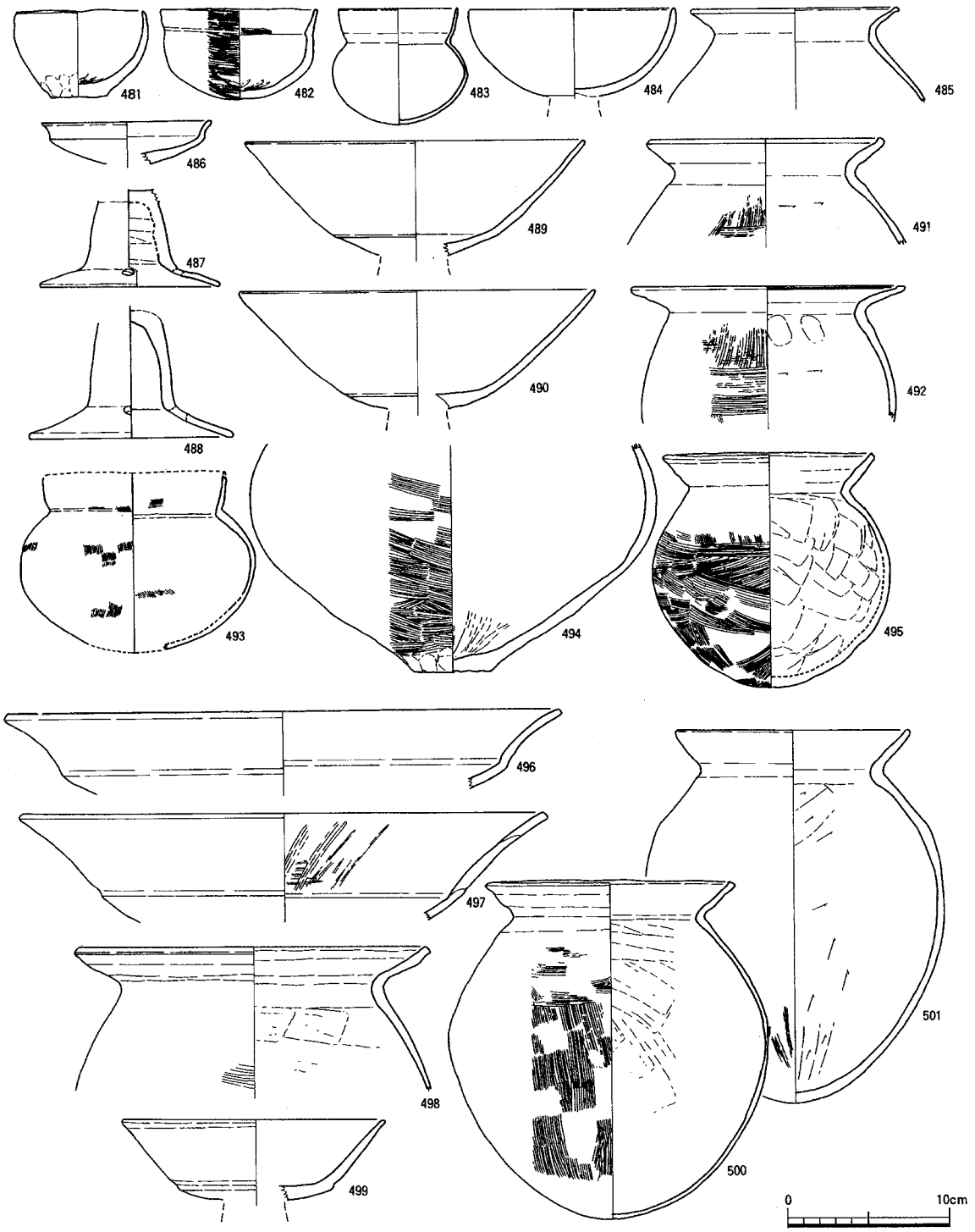



Fig.82　井戸SE269出土遺物実測図（1／4）




Fig,83　井戸SE299・325・337・340出土遺物実測図（１／４）

(481～494；SE299、495・499～501；SE340、496・497；SE325、498；SE337)

# 第4章　結　語

ここでは、第40次・42次・44次・48次の各調査区における調査結果を踏まえながら、集落の関係遺構の推移、第40次調査で出土した土製取瓶、第42次調査で出土した石製広型銅矛鋳型について述べ、調査のまとめとしたい。

## 1、集落の推移（付図）

今回調査した4地点は、比恵遺跡群のほぼ中央部に位置する低丘陵の北東部緩斜面上に位置している。最も西側に位置している第42次調査区と東側の第48次調査区とは中央部間で108m離れ、検出面の比高差は1.2m前後を測る。尾根筋にあたる第42次調査区周辺は削平が特に顕著であるので本来の比高差は2m前後はあったものと考えられる。第42～48次調査区で検出された遺構群は山王神社が立地する孤立丘との間に形成された細い小谷部に面した緩斜面に分布していたといえる。

各調査区で検出した遺構は弥生時代中期末から古墳時代初頭にかかる集落関係の竪穴住居跡、掘立柱建物、井戸、溝、土壙などである。これらの遺構の推移を時期別に周辺の調査成果と合わせて概観すると以下のようになる。

弥生時代中期後半～末期の竪穴住居跡、掘立柱建物、井戸の分布は、第40次および第35次調査で認められた溝SD01を東限域としながら、第6次調査で確認された甕棺墓群を含んで広範囲に展開している。分布の中心は中期円形竪穴住居跡が濃厚に分布する第5次～17次調査区周辺で、第40次調査区もその分布域に含まれていることがSC692などから考えられる。すなわち、低丘陵の尾根筋とその西側から南側にかけての平坦部に当該期集落は展開していた。なお第6次調査地点から約150m北側に位置する第43次調査では中期後半の円形竪穴住居跡が検出されており、集落関係遺構は北側の尾根筋まで広がることが予想される。ただし、谷地形もしくは斜面などの微妙に変化する自然地形の単位でまとまりながら分布していたことも考えられ、旧地形の復元も併せて今後検討する必要がある。甕棺墓群は弥生時代中期初頭（6次SK01他）から後期初頭（6次SK27他）を通じて共同墓地として営まれ、当該時期が最も数的に増加する時期である。これまでのところ、副葬品を多量に持つ墓は確認されてはいない。素掘りの井戸がみられるようになるのは中期末からである。6次SE04・17他、42次SE47・202などが甕棺墓域の周囲を囲うように点在している。

後期前半の時期は一般的に遺跡・遺構の密度が減少する傾向があるが、当該各地点も同様に遺構の分布は少なくなる。分布域は第17次調査区周辺に偏っている。ただし第42次調査区においては竪穴住居跡SC231・280、第44次調査区ではSE138がみられ、継続的な集落の営みの痕跡を残している。

後期半ば以降になると遺構が増加する。竪穴住居跡は第6次調査で8棟、第42次ではSC366

他2棟が分布している。ただし第42次調査区では規模の小さなものが密集して尾根筋を中心とした範囲に分布している点が特徴的である。また甕棺墓域の周囲に小グループを形成しながら井戸が利用されている。現在までに6次で21基、40次で2基、42次で10基、44次で1基、48次で6基検出されており、約8～10群ほどにまとまって尾根筋東側傾斜地に分布している。なお東側を画していた溝SD01は徐々に埋没し始めるようになり、防御および水路としての本来の機能が失われていくかのようである。

後期後半～終末期は、竪穴住居跡が引き続いて尾根筋部にみられるとともに掘立柱建物が東側緩斜面から旧谷部だった低地に向かって拡大している。当該時期の特徴は、東側低地部分(第40次・48次調査区)では掘立柱建物と井戸の組み合わせで、また尾根筋部分では竪穴住居と掘立柱建物、井戸との組み合わせをとる集落構成がうかがえる点である。溝SD01はこの時期には埋没した状況を示している。SD01の埋土の遺物をみると、後期前半代の甕棺片も含まれていることから、甕棺墓域周辺の土取りと削平が行われ、溝の埋め戻しが大々的に行われたと考えられる。第40・48次調査区溝SD48は集落規模の拡大に伴いSD01埋没後に設定され、区画割りを考慮された溝であった可能性がある。掘立柱建物は第48次調査区において大型の高床式もしくは平地式の建物が想定できるSB01・20や、倉庫と考えられるSB13・18・28などのように、規模や間取りで個体差のあるものが多数検出されている。そのほとんどが礎板を持っている。建物の方向性は自然地形の条件に合致させたと考えられるものがほとんどである。溝SD04に規制を受けたと考えられるもの(48次SB10・28)があるが、建物の配列には規格性もしくは計画性はないといえる。なお大量の土器群とともに出土した取瓶片は本来丘陵尾根筋側に存在したものが二次混入したと考えられ、鋳造工房は甕棺墓域の南側周辺の尾根筋上(第42次調査区周辺)に存在した可能性がある。

古墳時代初頭の遺構として確定できる遺構は、転々と散在する井戸と掘立柱建物である。この時期に含まれる掘立柱建物には42次SB20、48次SB22がある。遺物の出土量も減少する傾向にある。なおこの時期にはすでに48次溝SD04は埋没している。

古墳時代後期になると、弥生時代甕棺墓域の北西側に古墳(比恵1号墳)が築造され、また竪穴住居跡が点在するようになる。当該期の集落の広がりはこれまでのところ明確ではないが第42次調査区周辺から西側に展開していたと思われる。第42次調査区SC324から出土した石製広形銅矛鋳型はおそらく、その近辺から持ち込まれ、砥石に転用されたものと思われる。

今回調査した地点においては、弥生時代後期前半から半ば頃をターニングポイントとして弥生後期後半から末の段階で大がかりな造成および集落の再構成が行われていることは注意される。この状況は、福岡平野の他の遺跡、特に須玖岡本遺跡を中心とした地域での集落の動態と軌を一にした状況が見て取れる。

## 2、第40次調査溝SD01出土の取瓶(Fig,25・26、PL,10・11、Tab,5)

比恵遺跡群における鋳造関係の遺物は、これまでの39次におよぶ調査において、第30次調査でわずか1点の銅剣鋳型破片が出土しているのみである。今回の調査で出土した取瓶は、第42

次調査で出土した広型銅矛鋳型とともに、本遺跡群における鋳造関係遺物の欠を補うものであり、また当該期の青銅製品の鋳造技術の解明にあたって貴重な出土例となったといえる。

鋳造関係遺物の出土例は、比較的出土例が多い鋳型を除くと、北部九州では佐賀県鳥栖市安永田遺跡、福岡県春日市大谷遺跡、須玖尾花町遺跡、須玖唐梨遺跡、福岡市博多区那珂遺跡群8次調査地点、また工房跡も確認された遺跡としては佐賀県三田川町吉野ヶ里遺跡、須玖坂本遺跡、須玖岡本遺跡L地点、須玖永田遺跡、黒田遺跡などが挙げられる。近畿地方およびその周辺では、兵庫県北山遺跡、今宿丁田遺跡、平方遺跡、東奈良遺跡、鬼虎川遺跡、瓜生堂遺跡、唐古鍵遺跡等で報告されている。しかしこれらのうち、坩堝や取瓶の出土例はきわめて少ない。坩堝については可能性が指摘されている例として唐古鍵遺跡があるのみである。また、取瓶とされる遺物は須玖永田遺跡例が代表的な資料で、その他数例しか知られていないのが現状である。こうした点を踏まえて、ここでは当該地点で出土した取瓶の分類を行い、若干の問題点について述べたい。なお個別説明はTab, 5を参照されたい。

## (1)出土取瓶の廃棄時期

SD01から出土した取瓶147～152・153(Fig,25・26、PL,10・11)は破片数にして15点出土した。口縁部が7点、体部が4点、脚台部が4点である。胎土、成形手法の違いからみて3～4個体分の破片と思われる。出土状況は、いずれも溝の埋土上層から多数の土器片とともに二次的な堆積状況で出土した。意識的に破砕され廃棄された可能性がある。これらの破片の廃棄時期は共伴する土器から見て、弥生時代後期後半から末期の時期と考えられる。製作および使用時期は遡っても弥生時代後期半ば頃と思われる。

## (2)分類

口縁部・体部・脚部の形態、胎土、焼成からみて2類に大きく分けられる。

第1類は、胎土がきめ細かな泥質の粘土を素材とし、焼成が良好で堅く焼き締まり重量感があるもので、器壁は厚手で、口縁上端がほぼ水平な平坦面を持つものである。この第1類についてはその全体形を推定できる資料が得られた。

153は、破片のうち同一個体とみなされる5点と脚台部151を参考に全体の器形を推定復元したものである。器形は杯部と円筒形の脚台部で構成される。復元値は、器高16cm、杯部口径(外径：24.7cm、内径17.0cm)、杯部高(外法：10.2cm、内法5cm)、脚台部は径15cm、高14.5cmである。杯部容量は約280ccを測る。復元重量は2,650gほどである。全体に肉厚で、重心が低く安定した作りである。胎土は精良できめの細かい泥質土を用いており、肉眼では微細な石英砂、角閃石が含まれている。焼成は良く、堅く焼き締まっている。色調は全体的に明灰白色を基調とするが、内面は黒灰色、外面は部分的に暗灰色～黒灰色になる部位がある。

杯部は浅い鉢形である。体部器壁は4cm前後で厚手である。口縁部は幅3.5～4.0cmの平坦面を形成しながら注口部へと続いている。平坦面はわずかに内側に向かって傾斜している。注

口部には漏斗状の張り出しが付く。おそらく鋳型湯口に注ぐ際のオーバーフローの防止と、溶解した金属材料表面の湯滓を除去するためのものと思われる。杯部内面は全面に非常にきめの細かい真土が約0.5～0.8mmの厚さで塗られている。なお口縁部平坦面にも同様に真土が塗布されている点は注意される。内面は焼けており、表面が黒灰色に変色するとともに細かなヒビ割れが生じている。黒灰色にやけた表層の厚さは約1.5～2mmで、その下層は赤褐色に約2～3mmほどの厚さで変色しており、高熱を受けたことがわかる。また内面には溶解した金属素材残滓が融着している部分があるが、内面底部から注口部にわずかであるがまとまって残っている。外面には植物繊維質の紐状の圧痕がみられる。紐状圧痕は口縁端部に沿いながら、注口部では「襷掛け」状にみられる。これは乾燥前の自重による型くずれを防ぐため縄掛けし補強した跡と思われる。151の底部平面形はほぼ円形であるが、同じ脚台である150は完全な円形ではなく、不整な多角形もしくは一部分が直線的である。

なお、内面に残った金属残滓物については、平尾良光氏の分析結果が得られている(142頁)。

第2類は、胎土はきめが粗く軟質で脆い。口縁部は器壁が2～3cmほどでやや薄く、端部を丸くおさめるもの(148)である。全体に軽い仕上がりで、後述する第2類と比較すると小型である。全体の器形については判然としないが、口縁部の形状等からみて基本的には鉢形をなし、口縁部上端片口状の注口部を設けるか、または口縁上端部からやや下に穴を穿ち注口部を作りつける永田遺跡例に近い形状のものが想定できる。器壁は内面のみが焼けていることも特徴である。また図示しなかったが、底部片の出土例からみて上げ底気味の低い脚台を持つ例もあると考えられる。

類例である唐古鍵遺跡出土例は、永田出土例と近似しており鉢形が考えられるが、坩堝とする根拠は明確でない。また須玖永田出土の取瓶は鉢形で、体部器壁が薄く、スサ等を混入している点と、注口部内面に湯滓の除去を助ける「桟」様のものを造りつけている点が大きな特徴であり、本遺跡例とは形態的な違いが指摘できる。

## (3)第1類と第2類の使用法

一般的に鋳造作業は、溶解炉(坩堝)における銅合金の溶解後に、溶解した銅合金を直接か又は取瓶で受けた後、鋳型へ流し込み、一連の工程を経て製品化される。当該遺跡出土例を分類整理する過程で考えられた鋳造過程について幾つかの点についてまとめておく。

先述したように、第1類と第2類の大きく異なる点は、形態的に口縁部の形状と、脚台部の有無または大小の差、および胎土の質的な異なりと重量の軽重に集約される。また二次的に加熱されたと考えられる器壁面の焼け方が、第1類が内外面におよんでいるのに対し、第2類は内面のみである点は注意される。これは鋳造作業上における用途の違い、または作業工程上の異なりを表していると考えられる。すなわち、第1類とした取瓶はその形態的な特徴と第2類に具有していない諸特徴から、銅合金の溶解に深く関わる可能性がある。例えば口縁部の平坦面は、合金素材を混入し木炭等の燃焼材をその上に覆う際の余剰分の受け部、もしくは遊びの部分の可能性が高い。また高温度で溶解するとともに器全体、特に杯部が同時に熱せられるよ

うな所作が行われたことが内外面の二次焼成の状況から考えられる。すなわち坩堝として利用され、合金溶解後は取瓶として鋳型湯口に直接注いだか、もしくは専用の取瓶に湯を小分けしたものと考える。これに対して、第2類は坩堝から高温で溶解した湯を受けるいわゆる取瓶としての機能の面が強く感じられる。ただし、第2類においても合金溶解が行われた可能性も考えられ、第1類と第2類は形態的には明確な違いがあるものの、いずれも坩堝と取瓶としての機能が兼用された可能性があること、あるいは明確な使い分けがなされていなかったと現段階では考えておき、今後の資料の増加を待って検討すべき課題としておきたい。

## 3、第42次調査竪穴住居SC324出土の広形銅矛鋳型

広形銅矛・戈は、弥生時代後期終末期における北部九州の地域性を象徴する代表的な武器形祭器である。その生産地は須玖岡本遺跡を核として福岡平野部に中心があったことはすでによく知られているところである。しかしながら比恵遺跡群においてはこれまで鋳造関係遺物の出土例は第30次出土例の1例のみで、その生産の実態については明確でなかったといえる。ここでは出土鋳型について観察所見を述べ、編年的な位置づけについて述べる。なお鋳型の説明にあたっては、製品原型を彫り込んだ笵面を表にし、鋒側を上に向けた状態で上下および左右側面、裏面と呼ぶ。また製品原型が彫られた範囲を特に鋳型面と呼ぶ。計測値は現存長であるが、(　)内の数値は推定値である。

### (1)出土状況

鋳型369(Fig, 59)は、古墳時代住居跡SC324の床面で検出された(Fig, 38)。この住居跡は北東壁に灰白色の粘土による竈を持ち、おそらく4本柱の主柱を持つ6世紀後半頃の竪穴住居である。住居跡の中央からやや南側に住居跡に付設すると思われる長径約60cmの不整な楕円形土壙SX377があり、本例の出土位置はその上面にあたる。鋳型は笵面を下に伏せて、ほぼ水平に寝かせた状態で出土した。古墳時代において住居内で使用され、遺棄されたものと思われる。

### (2)出土鋳型の特徴

鋳型素材の石質は、唐木田芳文氏による肉眼観察所見では石英長石斑岩と推定された。色調はかすかに褐色がかった明灰白色を基調とする。新たに欠けている部分はわずかに灰色がかった明白色である。鋳造作業の結果、黒灰色に変色した部分が、鋳型面の上半分(身)および、左右側面から裏面にかけてみられる。特に刃縁部と、鋳型の連接部にあたる上側面縁は黒色に変色しており、いわゆるバリが生じた範囲がわかる。笵面以外の各面では笵面に沿って帯状に黒ずんでいる部分や縞状にみられる箇所があるが、本来は器面全体がうすい黒灰色を呈していたと思われる。これらの諸点から本例は鋳型として供されたものと判断される。

鋳型は袋部から関部および身の一部にかかる範囲のものであるが、袋部は失われている。現存値で最大長32.5cm、最大幅17.1cm、最大厚10.2cmを測る。砥石として転用された結果、

笵面中央から左下半部、左右両側面・背面の一部が本来の形状を失い、製品原型は留めていない。上側面の四隅はわずかに欠けている。断面形は蒲鉾形である。裏面および側面は成形のためのケズリ痕がみられる。

上側面には笵面平坦面から4cm、鋳型面から3.8cm下に、幅2.4cm、深さ1.4cm、長さ15.5cmの溝が彫られている。溝断面は「U」字形で、表面にはケズリ痕が残っている。面の仕上げはやや雑である。この溝については鋳型を連結するためのものとされるがその方法については正確には不明である。本例の連結部分(鋳型面上縁)には黒色に変色した部分が観察できる。若干の隙間から湯が流れその結果バリが生じた結果であろうと思われる。

左右側面に合印があったかどうかは不明である。現状では観察できない。

笵面は、砥石として使われた中央左側と右側下半部がかなり磨耗しており、特に左側の関部から下部は消滅している。

笵面の現存長は32.4cm、最大幅15.2cmである。型は関から上端までが22.5cm、下端部までが9.9cmである。関幅は現存長が11.9cmで、推定復原で13.4～13.7cmほどである。身幅は上端部で推定10.1cm。下部は不明。また最小幅は、関から9.1cmの部位で8.8cmを測る。脊は断面形が半円形をなす。鎬は彫り込まれていない。なお彫り込み面の仕上げはやや粗く、上下方向の擦痕を多く残している。樋との稜線は磨耗しやや不明瞭である。幅・深さは下端部で2.9cm・0.75(1.0)cm、上端部で1.5cm・0.4(0.6)cmを測る。樋は左右ともに縁を1～1.5mmの深さで断面形「V」字状に彫りこんでいる。上端部はいずれも1.4cmが推定される。葉部は樋側が深く、刃部縁側が浅く彫られている。刃部縁は断面形「V」字状に彫られているが、稜線は丸みがあり鈍い。

## (3)出土鋳型の編年的位置づけ

これまで知られている広形銅矛鋳型は本例も含めて24点があげられる(Tab,17)。これらのうち、佐賀県唐津市大深田遺跡と飯倉D遺跡出土例が両面鋳型で、ほとんどが片面鋳型である。大深田遺跡例は両面に矛型を、また飯倉D遺跡例は内行花文鏡型と矛型を彫り込んでいる。また伝世品以外で出土状況の比較的明かなものは8～9例であるが、いずれも投棄、または二次的な混入で、鋳型の使用時期については出土遺構および共伴関係からは明らかにできない。

観察所見で述べたように本資料の脊には鎬は彫られていない。他例では鎬を彫り込むもの(皇后峯)と彫り込まないもの(高宮2号・3号等)がある。製品には鎬を有するものと無いものがあることから鋳造後に鎬を研ぎ出す場合も考えられ、鋳型においては一概に鎬の有無が製品型式の推定に直接結びつけられないことも考慮に入れておく必要があるので即断はできないが、関幅についてみると推定で13.4～13.7cmが考えられ、本例は津古東台遺跡出土例よりやや狭いものの、広形銅矛製品例と比較すると関幅が広い範疇に含まれるようである。また身幅の最小値を測る部位の形状等も考慮すると、本例は岩永省三氏による広形銅矛b式に対応する鋳型と考えられ、先述した第40次調査出土の取瓶とほぼ同時期の、弥生時代後期半ば～終末にかかる時期の所産と考えておきたい。

## Tab,17　広形銅矛鋳型(出土地)一覧表

| NO | 遺　跡　名 | 所　在　地 | 出土遺構または出土状態 | 部位および所見 | 文　献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 型式が確定し現存するもの | | | | | |
| 1 | 伝高宮八幡宮付近 | 福岡市南区高宮 | 不明(2号) | 袋部～関・身下半部(袋部は欠損、連接部・側面には溝有り) | ① ⑭ |
| 2 | 伝高宮八幡宮付近 | 福岡市南区高宮 | 不明(3号) | 身中央部(連接部に溝有り) | ① ⑭ |
| 3 | 伝高宮八幡宮付近 | 福岡市南区高宮 | 不明(4号) | 身上半部(矛先は欠損・側面に溝有り) | ① ⑭ |
| 4 | 伝高宮八幡宮付近 | 福岡市南区高宮 | 不明(5号) | 身上半部(矛先は欠損・側面に段または溝有り) | ① ⑭ |
| 5 | 伝五十川付近 | 福岡市南区五十川 | 不明 | 湯口～袋部(側面に段有り) | ⑥ ⑬ |
| 6 | 飯倉D遺跡 | 福岡市城南区七隈3丁目 | 弥生時代後期後半以降竪穴住居跡SC246床面 | 袋部(両面鋳型、裏面は内行花文鏡鋳型面を残す) | ⑱ |
| 7 | 板付遺跡6次 | 福岡市博多区板付 | G－26トレンチ包含層 | 関付近の身下部 | ⑨ |
| 8 | 比恵遺跡群42次 | 福岡市博多区 博多駅南4丁目 | 古墳時代竪穴住居跡SC324床面 | 関部～身下部(湯口部は欠損、連接部に溝有り) | ⑰ |
| 9 | 伝元岡 | 福岡市西区元岡 | 不明 | 矛先～身下半部(連接部に溝有り) | —— |
| 10 | | 大野城市瓦田 | 調査区表土 | 身 | 未 報 告 |
| 11 | 伝皇后峰 | 春日市岡本町 | 不明(1号) | 矛先～身中央部(連接部に溝有り) | ② ⑫ ⑭ |
| 12 | 伝皇后峰 | 春日市岡本町 | 不明(2号) | 湯口～身中央部(連接部と側面に溝有り) | ② ⑫ ⑭ |
| 13 | 熊野神社裏バンジャク | 春日市岡本3丁目 | 不明(果樹園造成時に出土) | 袋部 | ⑤ |
| 14 | 熊野神社吉村氏宅 | 春日市岡本3丁目 | 不明 | 身中央部 | ⑤ |
| 15 | 熊野神社吉村氏宅 | 春日市岡本3丁目 | 不明 | 身中央部(樋先端横位付近) | ⑤ |
| 16 | 津古東台遺跡 | 小郡市津古 | 弥生時代後期土器溜まり | 湯口～身下半部(連接部に溝、湯口裏に段有り) | ⑮ ⑯ |
| 17 | 三雲 | 前原市三雲 | 不明 | 身中央部 | ⑧ |
| 18 | 三雲川端 | 前原市三雲川端 | 不明 | 湯口～袋部(側面に溝有り) | ③ ⑧ |
| 19 | 石崎 | 福岡県二丈町石崎 | | | |
| 20 | 柏崎大深田 | 佐賀県唐津市柏崎大深田 | | 矛先と袋部の両面鋳型 | ⑪ |
| 型式が未確定のもので広型の可能性があるもの | | | | | |
| 21 | 赤井手 | 春日市弥生1・4・7丁目 | A－5区遺構検出時 | 矛または戈、矛先端部 | ⑩ |
| 22 | 赤井手 | 春日市弥生1・4・7丁目 | A－14区遺構検出時 | 矛または戈、刃部 | ⑩ |
| 出土が知られているが現存しないもの | | | | | |
| 23 | 熊野権現 | 福岡市南区井尻 | 塚の際から掘り出す | 完形で2枚一組となる。 | ④ ⑦ |
| 24 | 熊野権現 | 福岡市南区井尻 | 塚の際から掘り出す | | ④ ⑦ |

**《参考文献》**


①青柳種信『筑前国風土記拾遺』
②淡厓「銅鉾型ニ関セル江藤氏ノ報告」東京人類学会雑誌3巻24号　1888
③高橋健自『銅鉾銅剣の研究』1925
④中山平次郎『井尻の弥生式遺蹟』考古学雑誌第14巻第12号　1924
⑤中山平次郎「須玖岡本の遺物」考古学雑誌第17巻第8号　1927
⑥中山平次郎「銅鉾鎔笵の新資料」『史前学雑誌』1巻3号　1929
⑦森本六爾「失はれた青銅器鎔笵」考古学第4巻第10号　1933
⑧東亜考古学会『対馬』1953
⑨後藤直・沢皇臣『板付』福岡市埋蔵文化財調査報告書第35集　福岡市教育委員会　1976
⑩丸山康晴『赤井手遺跡』春日市文化財文化財調査報告書第6集　春日市教育委員会　1980
⑪堀川義英「大深田遺跡」『末盧国』唐津湾周辺遺跡調査委員会　1982
⑫後藤　直「青柳種信の考古資料(三)」福岡市立歴史資料館研究報告　第7集　福岡市教育委員会　1983
⑬後藤　直「銅鉾鎔笵残欠　伝福岡市南区五十川出土」『福岡市の文化財ー考古資料』福岡市教育委員会　1987
⑭後藤　直「福岡市高宮八幡宮所蔵鋳型の調査報告」福岡市埋蔵文化財調査報告書第218集　福岡市教育委員会　1990
⑮片岡宏二「福岡県小郡市津古遺跡出土の銅矛鋳型」日本考古学協会第58回総会研究発表要旨　1992
⑯片岡宏二『津古遺跡群Ⅰ』小郡市文化財調査報告書第84集　1993
⑰田中壽夫『比恵遺跡群13』福岡市埋蔵文化財調査報告書第368集　福岡市教育委員会　1994
⑱山口譲治「飯倉D遺跡群第1次調査」福岡市埋蔵文化財年報VOL.7　福岡市教育委員会　1995

# 福岡市比恵遺跡から出土した
# 土製取瓶付着物の自然科学的研究

東京国立文化財研究所保存科学部
平尾良光・榎本淳子・小林直子

## 1、はじめに

福岡市教育委員会の田中壽夫氏から、同市比恵遺跡の第40次調査で出土した土器片の内側に付着した物質について自然科学的手法による調査の依頼があった。土器片は取瓶と推定されるという。依頼された資料は土器に付着した金属の錆と推測され、土器の用途が鋳造に関連したかどうかを明らかにすることであった。この調査は当研究室における「弥生時代青銅器の研究」の一環として十分に協力する価値があったので、自然科学的な測定を次のように行った。

## 2、資　料

金属溶解用のルツボあるいは鋳造用の取瓶と推定される土器片の２点が提供された(写真１～４)。考古学的な判断から、これら土器片は同一個体であり、一方は脚部分(写真１・２)、他方は口縁注口部(写真３・４)と考えられ、復元すると口径25cm、器高20～24cmの「取瓶」になるという(写真５)。それぞれの土器片の金属酸化物と思われる付着物を試料として採取し(写真６・７)、蛍光Ｘ線分析および鉛同位体比の測定に供した。なおこの報告の中で便宜上、脚部分の試料をＳ－１(写真８)、口縁注口部から採取した試料をＳ－２(写真９)とした。

土器が出土したのは、福岡市の比恵遺跡で写真10で示される。出土した遺構の年代は弥生時代後期半ば頃と推定されている。さらに、この遺跡の第42次調査では広形銅矛の鋳型が発見されている。(*1)

## 3、調査法

本調査において、試料の化学組成の測定は非破壊で測定できる蛍光Ｘ線分析法(*2)を利用した。また産地推定には鉛同位体比法(*3)を利用した。２種の試料(Ｓ－１・Ｓ－２)を採取し、化学組成の測定を行い、その後鉛同位体比を測定した。

### 3－1）化学組成

資料の化学組成は材質を判断する上で最も基礎的な要素である。例えばそれが金でできているのか、真鍮なのか、あるいは有機物なのかによって資料の歴史的価値や意義、修理方針、保存方法等が異なる。また青銅と称する一群の合金は古代においてよく利用されたが、その銅と

スズの量比の違いで利用する場合の性質は著しく異なる。それ故、どのような資料であれ、材料の化学組成を明らかにすることは文化財をより正確に理解する第一歩である。

化学組成の測定方法として、資料の一部を採取し、機器に導入して測定する方法にはICP分析法、[*4] 原子吸光分析法、放射化学分析法[*5] などがある。また試料を採取しないでX線を照射するだけで測定する方法には蛍光X線分析法がある。化学組成を結晶化学的に調査する場合にはX線回析分析法が有効である。

今回の調査では、試料が金属酸化物であるかどうかを明らかにすること、そして金属であればその産地に関する情報を得ることを目的とした。

### 3－1－1］蛍光X線分析法による化学組成の測定

本調査において化学組成の測定には非破壊で分析できる蛍光X線分析法を用いた。[*2] 蛍光X線法による化学組成の測定はフィリップ社製波長分散型蛍光X線分析装置PW1404LSで行った。本機器の試料測定室は間口80cm、奥行60cm、高さ60cmあり、かなり大きな文化財資料でもそのまま測定できるように設計されている。

機器の使用条件はモリブデン管球を用い、60kV、30mAで一次X線を発生させて、試料に照射した。試料から発生する二次X線は元素毎に波長が異なるため、フッ化リチウムの結晶でX線を角度毎に分散させ、シンチレーションカウンターおよびガスフローカウンターで分散角度におけるX線強度を測定した。

## 3－2）産地推定

### 3－2－1］鉛同位体比法による産地推定法の原理

産地推定のために鉛同位体比法を利用した。[*3] 一般的には鉛は4種類の安定な同位体で構成されている。この鉛は地球ができたときに他の元素と一緒に岩石中に含まれており、その同位体比は地球上どこでも一定であったとされている。鉛の同位体のいくつかはこの岩石の中でウランおよびトリウムという元素の天然放射壊変で後から付加される。それ故、鉛の同位体比は岩石の年齢、および岩石中のウラン・トリウムと鉛の濃度比によって変化する。このような岩石から地質学的な変化で鉛鉱山が形成されたとすると、鉛鉱山を形成する岩体の組成や年齢が違えば、それぞれの鉱山毎に異なった鉛同位体比を持つこととなる。それ故産地によってそれぞれ異なった値を示すことが期待される。例えば古い年代を示す大陸地殻である中国本土と、大陸周辺部地域の朝鮮半島、大陸から離れ、わりあい新しく形成された島嶼地域の日本は異なった鉛同位体比を示すと期待される。そこで鉛の産地の違いが同位体比に現れるならば、文化財資料に含まれる鉛の同位体比の違いは材料の産地を示すと推定される。古代日本の青銅製品に関する鉛同位体比の測定は今までに当研究室でかなり行われており、幾つかの報告にまとめられ、[*6・7・8・9・10] 文化財の原料産地の推定に大きな役割を果たしている。

古代の青銅には鉛が微量成分として0.01～1％程度、あるいは主成分の一つとして5～20％含まれているので、鉛同位体比の測定をほぼすべての青銅製品に応用できる。

鉛同位体比の測定に用いられる鉛量は測定器(質量分析計)の感度が非常に良いため、1マイクログラムの鉛があれば十分である。また資料は青銅の金属部分でも錆部分でも、同位体比は変わらないことが実験的に確かめられているので、資料からは錆を微少量採取だけで十分である。

そこで、化学組成の調査後、この方法を本資料の原料産地の推定に利用することを試みた。鉛を化学的に分離し、表面電離型質量分析計で同位体比を測定した。[*11]

**3－2－2］鉛同位体比の測定**

資料から錆の微少量を(1mg以下)を採取して、鉛同位体比測定用の試料とした。錆試料を石英製のビーカーに入れ、硝酸を加え加熱、溶解した。この溶液を白金電極を用いて直流電圧2Vで電気分解し、鉛を二酸化鉛として陽極に集めた。析出した鉛を硝酸と過酸化水素水で溶解し、鉛濃度を求めた。0.4μgの鉛をリン酸－シリカゲル法で、レニウムフィラメント上に載せ、VG社製の全自動表面電離型質量分析計Sector-Jに装着した。分析計の諸条件を整え、フィラメント温度を1200℃に設定して鉛同位体比を測定した。同一条件で測定した標準鉛NBS-SRM-981で規格化し、測定値とした。

今回の試料は化学組成の測定から明らかなように鉛が多量に検出されており、青銅中の鉱山鉛の同位体比を測定したこととなる。これは金属鋳造過程で意図的に鉛が加えられたとみなすことができるからである。

銅に関していえば、例えば純銅製品であっても僅かながらの鉛が存在しており、それが銅鉱山の歴史、即ち固有の同位体比を示す。[*12] しかし一方、青銅の中に鉛が5％以上含まれていた場合、鉛を意図的に加えた可能性が極めて高く、鉛量は銅鉱石に不純物として含まれる鉛量と比べると約100倍以上となる。従って、鉛同位体比の測定結果は鉛原料の値を示し、銅に含まれる鉛の与える影響はほとんどないと考えられる。

# 4、測定結果

## 4－1）蛍光X線分析

**4－1－1］蛍光X線分析の所見**

試料が微細な錆であったためホルダーにマイラーフイルムで固定して測定した。この場合マイラーフイルムによる測定感度への影響はないことが実験的に確かめられている。試料S－1(写真6)の測定部の拡大写真を写真8で示した。試料S－2(写真7)の測定部写真を写真9で示した。

蛍光X線分析法では測定部表面から約10マイクロメートルまでの深さの化学元素組成に関する情報を得られる。それ故、分析しようとする金属製品の表面に錆などがあれば錆の化学組成に大きく影響を受けやすく、化学組成は必ずしも本体金属部分を反映しない場合がある。今回の試料は微量の付着物なので、金属製品本体とは状態がかなり違っていると推測される。それ

故、得られた結果を定性的な値として次にまとめた。

測定された蛍光X線スペクトル図を試料S－1に関して図1、試料S－2に関して図2で示した。図の横軸は試料から発生したX線の分散された角度である。X線は元素毎に異なった角度に分散されるので、特定の波長は特定の元素を意味する。縦軸はX線の強度、即ち元素の量である。図中の●印のついたピークはX線発生装置に用いた管球のモリブデンのピークであり、試料とは関係ない。

銅(角度45°)のX線強度を100としたときの各元素の相対強度を表1で示した。試料S－1には銅・スズ・鉛・鉄がみられた。またアンチモンのピークがわずかながら見える。試料S－2はS－1と比べて鉛のピークが大きく、スズのピークが小さかったが、検出された元素の種類は同一であった。この結果からこれら付着物が青銅の錆であることが明かである。鉄は埋蔵環境の岩石や粘土から流入してくる元素なので、当初からこの程度の量が青銅金属内に存在していたかどうかはわからない。

従って、本資料を付着した土器は当初の指摘どおり、ルツボあるいは取瓶などの青銅の溶解あるいは鋳造に関わる作業に用いられたと考えられる。特に試料S－2では銅よりも鉛のピークが大きいので、銅鉱石に付随した鉛というよりも、主成分として加えられた鉛であると推測できる。ただし青銅とはいえ、試料は微細である上に、残滓として酸化された部分を測定していることになり、酸化時に元素の移動が激しく起こった後の状態なので、この組成がもとの化学組成ではありえない。少なくともこの試料は銅・スズ・鉛の合金であったと推定され、弥生時代に通常用いられていた青銅と理解できる。土器の考古学的な形態判断、および本資料の付着状況からこの土器が‘取瓶’で、青銅を取扱った後、その残りの金属が残ったと推定される。

青銅の問題とは別にいくつか分かりにくい蛍光X線のピークが見られた。それらを列挙すると、

11.03° 小さいピークであるが、バリウム(Ba)かも知れない。

18.96° バリウム(Ba)かも知れない。

21.10° モリブデンのピークの右、ランタン(La)かストロンチウム(Sr)である。

22.42° LaかSrのピーク

25.06° Srのピークらしい

26.63° Bi？

27.26° Bi？

33.27° BaかBi？

48.76° Ni？

この結果から、測定した試料の中にはバリウム・ストロンチウム・ランタン・ビスマスが含まれている可能性がある。これらの元素の中で、ビスマス以外は青銅資料を採取した際に混入した土器の胎土に含まれる元素であって、青銅の化学組成と関連があるわけではない。

### 4－2）鉛同位体比の測定の結果

測定された鉛同位体比を表2で示した。得られた値を今まで測定された値と比較してみると、図3と4のようになった。[*6・7・8・9・10] この図の中に、本測定値を「●」で示した。

図3は縦軸が208Pb／206Pbの値、横軸が207Pb／206Pbの値である。この図を仮にA式図と呼ぶこととする。この図では鉛同位体比に関して古代東アジアの青銅器および現代の鉛・銅鉱石から今までに得られた結果を模式的にA・B・C・Dで表している。つまり鉛同位体比の地域別分布の概念図である。Aは中国前漢鏡が主として分布する領域で、後の結果からすると華北産の鉛である。Bは中国後漢鏡および三国時代の銅鏡が分布する領域で、華南産の鉛と推定される。Cは現代の日本産の大部分の主要鉛鉱石が入る領域、Dは朝鮮半島産の多紐細文鏡と細形銅剣が分布するラインとして示されることが判っている。さらに領域“a”は、弥生時代の青銅製品の中でも特に近畿・三遠式銅鐸が分布する特殊な領域である。この図からすると、本資料はひとつが“a”の中に含まれ、もうひとつの値は“a”から少し離れた所に位置した。

図4は縦軸が207Pb／204Pbの値、横軸が206Pb／204Pbの値で、A'・B'・C'・D'はいずれもA式図と対応するのでB式図と呼んでいる。B式図に“a”領域に対応する領域を示していないのは、207Pb／204Pb、206Pb／204Pbの値の誤差がA式図のデータ要素の誤差に比してやや大きいため、狭い領域に分析値が集束しにくいことによる。B式図はA式図に対応して値を検証するという位置づけであると考えている。これらの図の中に本測定値を「●」で示した。両資料はA'領域に含まれ、華北産の鉛であることが示されている。

### 4－3）鉛同位体比測定の所見

試料S－1は“a”領域に含まれた。この領域は前述のとおり後期銅鐸が集中する特殊な領域で、最近では僻邪文銅鐸の同位体比がこの領域およびその周辺に位置していることが明らかになった。またこれまでに北九州出土の中広形銅矛、銅鋤先などもこの領域に含まれることを確認している。[*13] 弥生時代後期のある一時期に九州・近畿・関東にまで行き渡った青銅材料がここでも利用されていることを示す。

試料S－2は“a”領域に含まれないまでも、S－1と近い位置関係である。同一材料であって、埋蔵環境において何らかの別の資料の影響を受けている可能性を示唆している。

## 5、考　察

今まで報告された土器付着銅、あるいは銅塊・銅滓などと称せられる資料の一群を表3にまとめ、これらの値を本測定値と共に図5、図6で示した。これら資料には福岡県春日市の須玖永田、須玖坂本、五反田などや岡山県の龍野市から出土した資料も含まれている。まず、図5で示されることはほとんどの資料がA領域の“a”付近に集まっているのに、五反田遺跡の2資料が大きくかけ離れた値を示していることである。五反田遺跡は弥生時代中期前葉から開かれた遺跡とされており、このルツボ付着銅は中期前葉以後の資料と理解できる。それ故、五反

田遺跡の資料がA領域近くのかなり広い領域にバラツイていると判断すれば、製造した時代の違いか、青銅製作集団の違いを示唆するとも考えられる。その他銅滓などの資料は図6で示されるように“a”領域の中あるいはその近くに分布することから、弥生時代後期の資料であるとすれば、同位体比の結果と考古学的な考え方に矛盾はない。それ故、本資料はこれら一群の資料の一つとして理解でき、後期銅鐸あるいは広形銅戈、銅矛などを製作していた材料と似ていると推定される。

**《参考資料の概要》**

1、春日市須玖坂本遺跡および五反田遺跡出土試料(*13)

a，須玖坂本遺跡

銅塊；工房跡と思われる所から出土

銅滓；4点。NO7．13．41．42。

ルツボ付着物；溝川区出土ルツボNO.2付着物

土器付着銅；土器NO.2付着銅鋳

時期は弥生時代後期と推定される。

b，五反田遺跡

ルツボ表面の銅鋳；1号住居出土ルツボ付着銅鋳

ルツボ裏面の銅鋳；2号土壙墓出土ルツボ付着銅鋳

弥生時代中期前半以後の遺跡で、時代をはっきり特定できない。

2、春日市須玖須玖永田遺跡(*14)

出土状況については「須玖永田遺跡」春日市文化財調査報告書18　1987に詳しい。

3、龍野市北山遺跡出土試料(*15)

銅が付着した土器は龍野市揖西町の北山遺跡から出土した。遺構の中心年代は土器の型式から弥生時代中期後半と推定された。ただしこの土器片は包含層から発見されたため、この土器そのものの年代をはっきり特定できない。

試料となった銅はルツボと思われる土器片に付着していた銅鋳である。従って出土遺跡が青銅鋳造工房であった証拠として重要であるとされた。依頼された試料は微量であったため当研究室では化学組成の測定は行っていない。

**《注および引用文献》**


＊1　私信：田中壽夫氏からの伝

＊2　平尾良光・三浦定俊「法隆寺献納宝物　竜首水瓶の科学的調査」MUSEUM NO.457(p27～p34)1989

＊3　平尾良光「古代日本の青銅器」M.A.C.サイエンス4(p22- p33)1990

＊4　馬淵久夫・江本義理・門倉武夫・平尾良光・青木繁夫・三輪嘉六「島根県荒神谷遺跡出土銅剣・銅鐸・銅矛の化学的調査－非破壊分析と鉛同位体比測定－」保存科学30(p1-p19)1991

＊5　内田哲男・平尾良光「ICP分析法による銅製考古学的資料分析の基礎的研究」保存科学30(p43～p50)1990

＊6　鈴木章吾・平井昭司・平尾良光「機器中性子放射化分析による銅及び青銅器遺物中の多元素定量」考古学と自然科学24(p37～p45)1991

＊7　馬淵久夫・平尾良光「鉛同位体比法による漢式鏡の研究」MUSEUM NO.370(p4～p10)1982a

＊8　馬淵久夫・平尾良光「鉛同位体比からみた銅鐸の原料」考古学雑誌68(p42～p62)1982b

＊9　馬淵久夫・平尾良光「鉛同位体比法による漢式鏡の研究(二)」MUSEUM NO.382(p16～p26)1983

＊10　馬淵久夫・平尾良光「東アジア鉄鉱石の同位体比－青銅器との関連を中心に－」考古学雑誌73(p199～p210)1987

＊11　平尾良光・馬淵久夫「表面電離型固体質量分析計VG－Sectorの規格化について」保存科学28(p17～p24)1989

＊12　平尾良光・榎本淳子「銅製品の科学的研究」『斑鳩藤ノ木古墳　第二・三次調査報告書』「分析と技術編」奈良県立橿原考古学研究所編(p27～p39)1995

＊13　平尾良光・佐々木美喜・竹中みゆき「鉛同位体比法による春日市出土青銅器の研究」『春日市史(上)』春日市編(p860～p901)1995

＊14　馬淵久夫・平尾良光「福岡県出土青銅器の鉛同位体比」考古学雑誌75-4(p385～p498)1990

＊15　平尾良光・榎本淳子「龍野市で出土した土器付着銅および銅鏃の鉛同位体比」近日出版予定(春成秀爾氏への報告)

表1　土製取瓶付着物の蛍光X線分析法で測定された元素のX線強度比

| 角　度※2) | アンチモン (13.5) | スズ (14.0) | 銀 (16.0) | 鉛 (28.3) | ヒ素 (34.0) | 水銀 (35.9) | 金 (36.9) | 亜鉛 (41.8) | 銅 (45.0) | ニッケル (48.7) | 鉄 (57.5) | 銅強度 (cps) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. S-1 付着物 (FLM044) | + | 56 | + | 41 | - | - | - | - | 100 | + | 56 | 220 |
| 2. S-2 付着物 (FLM045) | - | + | - | 250 | - | - | - | - | 100 | + | 290 | 30 |

※1）数値は角度45.0度におけるX線強度を100としたときの各元素の強度比
※2）2θで表わされた各元素の励起X線の位置
※3）FLMは当研究室の蛍光X線測定番号

表2　土製取瓶付着物の測定された鉛同位体比値

| | $^{206}Pb/^{204}Pb$ | $^{207}Pb/^{204}Pb$ | $^{208}Pb/^{204}Pb$ | $^{207}Pb/^{206}Pb$ | $^{208}Pb/^{206}Pb$ |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. S-1・脚部分付着物 (CP687) | 17.770 | 15.581 | 38.484 | 0.8768 | 2.1656 |
| 2. S-2・口縁部付着物 (CP688) | 17.726 | 15.537 | 38.324 | 0.8765 | 2.1620 |
| 誤差範囲 | ±0.010 | ±0.010 | ±0.030 | ±0.0003 | ±0.0006 |

表3　龍野市北山遺跡および春日市須玖坂本遺跡・五反田遺跡・須玖永田遺跡から出土した土器付着銅などの鉛同位体比

| | $^{206}Pb/^{204}Pb$ | $^{207}Pb/^{204}Pb$ | $^{208}Pb/^{204}Pb$ | $^{207}Pb/^{206}Pb$ | $^{208}Pb/^{206}Pb$ | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1）龍野市資料 (AO2416) | 17.743 | 15.562 | 38.437 | 0.8771 | 2.1663 | 15 |
| 2）須玖坂本銅塊 (K-112) | 17.718 | 15.526 | 38.358 | 0.8763 | 2.1649 | 13 |
| 3）須玖坂本no.13 (K-113) | 17.747 | 15.553 | 38.440 | 0.8764 | 2.1660 | 13 |
| 4）須玖坂本no.7 (K-114) | 17.737 | 15.541 | 38.399 | 0.8762 | 2.1649 | 13 |
| 5）須玖坂本no.41 (K-115) | 17.730 | 15.540 | 38.391 | 0.8765 | 2.1653 | 13 |
| 6）須玖坂本no.42 (K-116) | 17.704 | 15.530 | 38.334 | 0.8772 | 2.1653 | 13 |
| 7）須玖坂本溝III区 (K-120) | 17.774 | 15.558 | 38.463 | 0.8753 | 2.1640 | 14 |
| 8）須玖坂本No.2 (K-121) | 17.741 | 15.545 | 38.409 | 0.8762 | 2.1650 | 14 |
| 9）五反田-1号住 (K-118) | 17.527 | 15.508 | 38.342 | 0.8848 | 2.1876 | 13 |
| 10）五反田-2号墓 (K-119) | 17.915 | 15.563 | 38.691 | 0.8687 | 2.1597 | 13 |
| 11）須玖永田6-no.1 (F-118) | 17.740 | 15.551 | 38.437 | 0.8766 | 2.1667 | 14 |
| 12）須玖永田7-no.2 (F-119) | 17.754 | 15.558 | 38.482 | 0.8763 | 2.1675 | 14 |
| 13）須玖永田7号土壙 (F-120) | 17.739 | 15.545 | 38.451 | 0.8763 | 2.1676 | 14 |
| 14）銅滓P-140 (F-121) | 17.754 | 15.560 | 38.464 | 0.8764 | 2.1665 | 14 |
| 誤差範囲 | ±0.010 | ±0.010 | ±0.030 | ±0.0003 | ±0.0006 | |

K・FおよびAO番号は研究室における測定番号

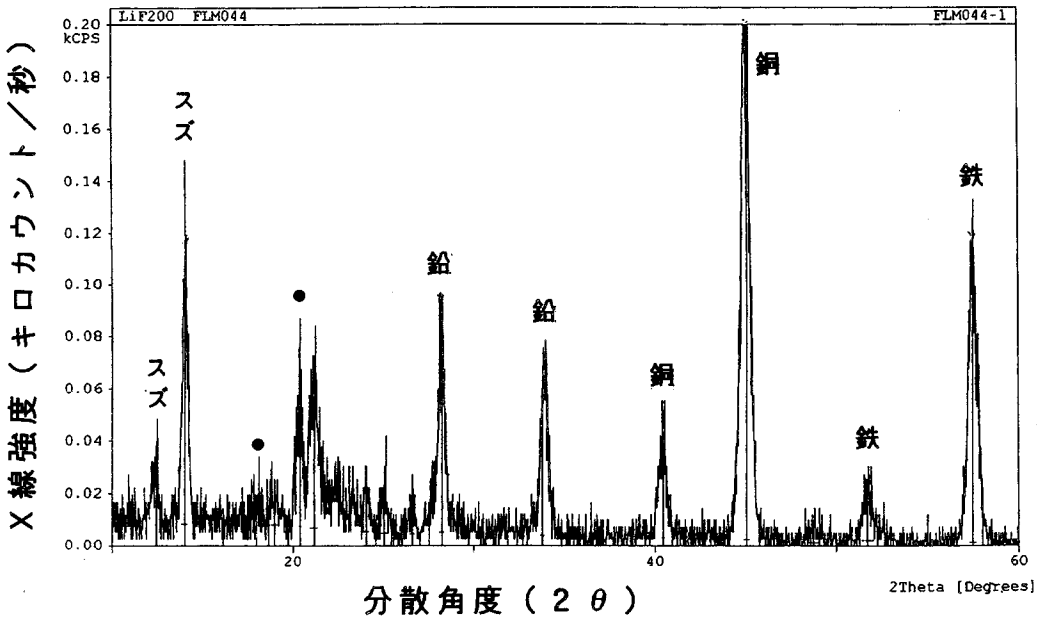



図１　土製取瓶Ｓ－１（脚部分）付着物の蛍光Ｘ線スペクトル図

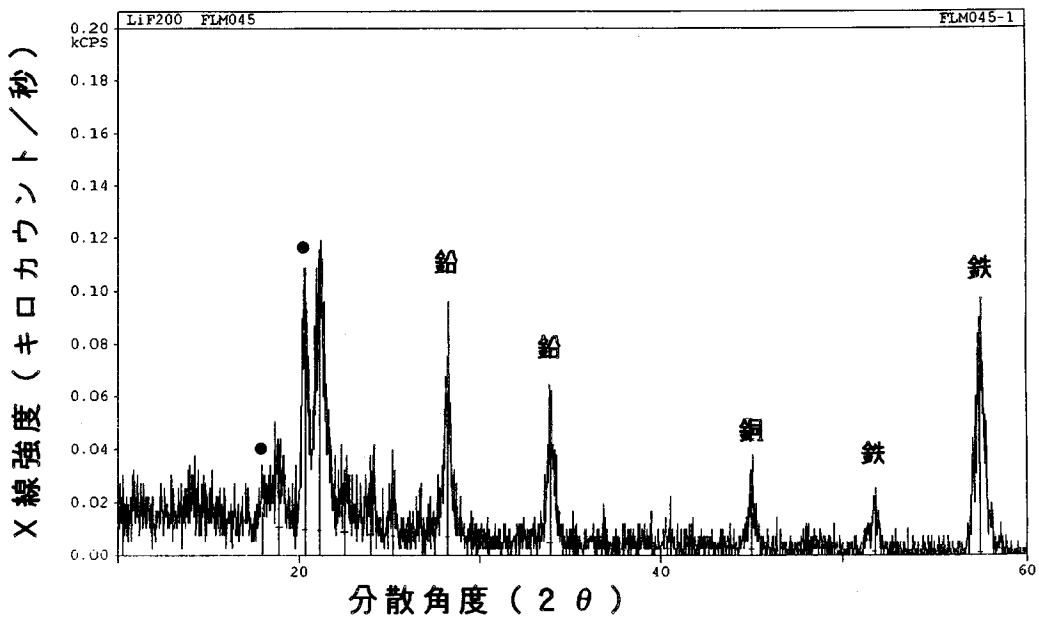



図２　土製取瓶Ｓ－２（口縁注口部片）付着物の蛍光Ｘ線スペクトル図

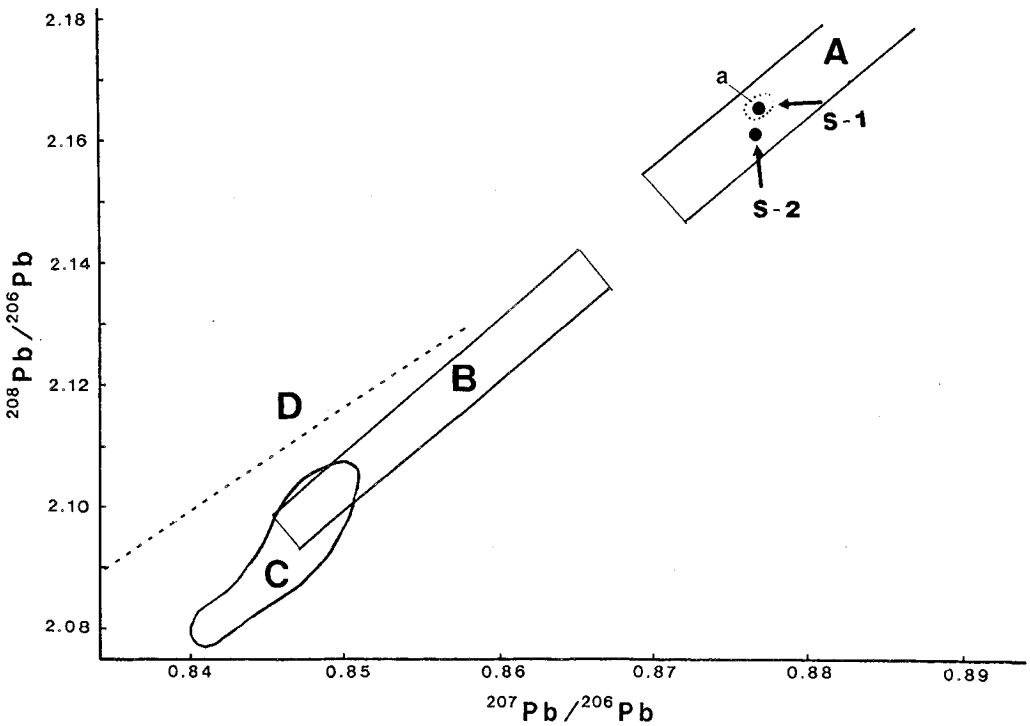



図3　土製取瓶付着物が示す鉛同位体比（A式図）

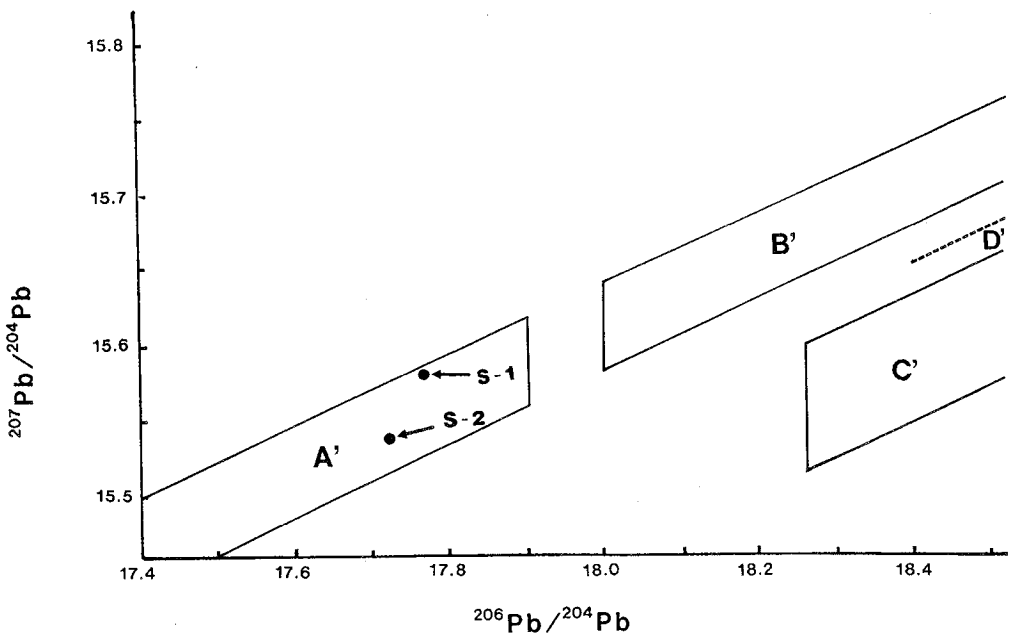



図4　土製取瓶付着物が示す鉛同位体比（B式図）

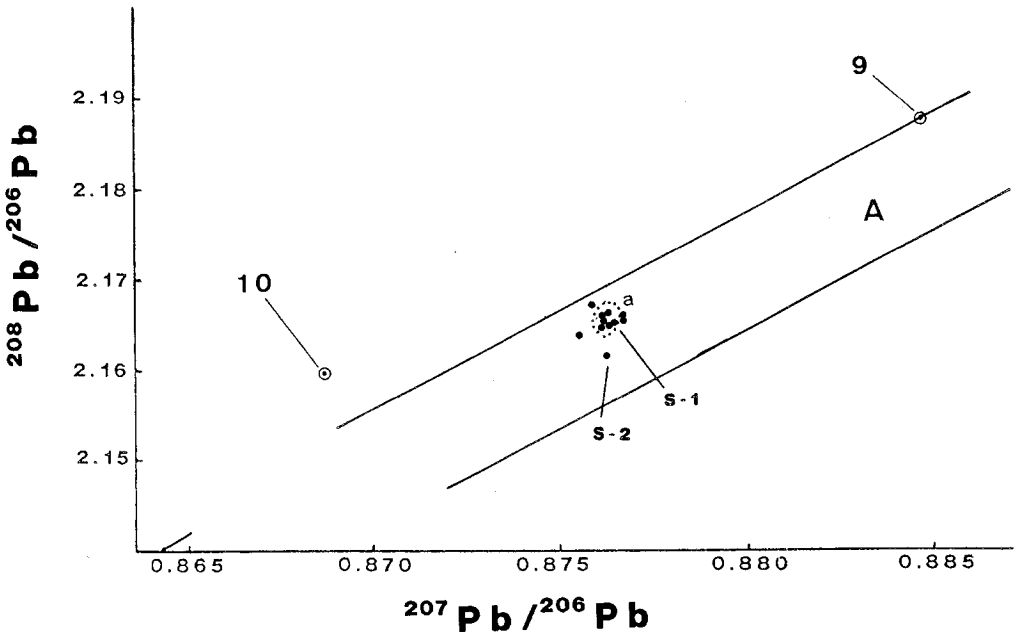



図5　土器付着銅などの鉛同位体比（その1全体図）

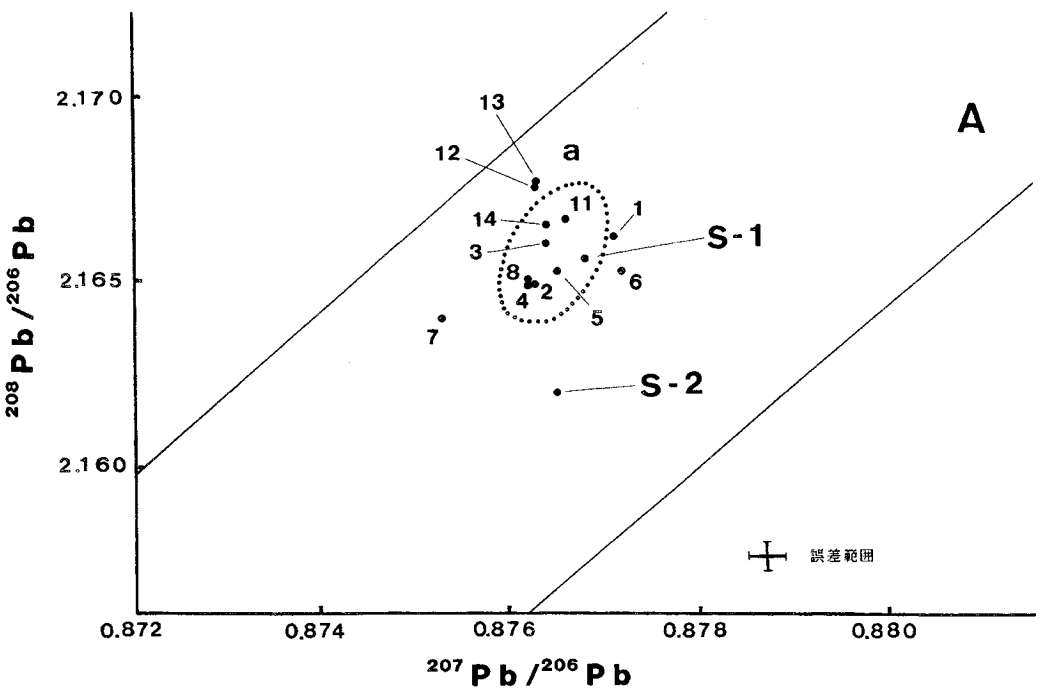



図6　土器付着銅などの鉛同位体比（その2拡大図）

写真 1

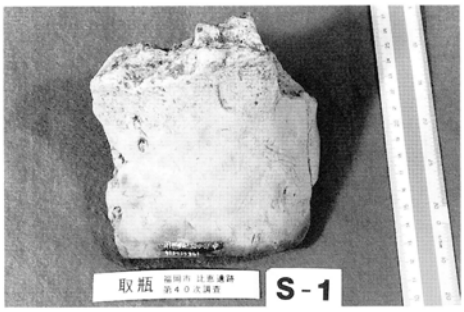


写真 2

写真 3

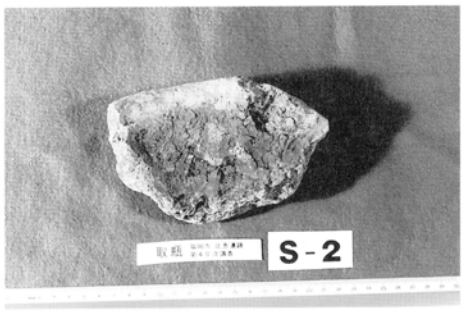


写真 4

写真 5

写真 6

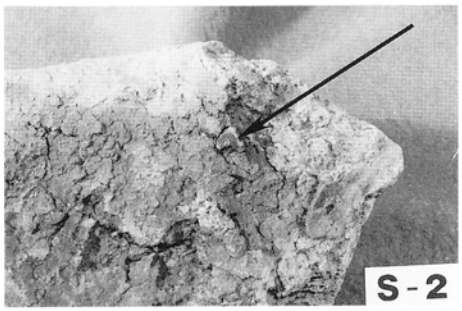


写真 7

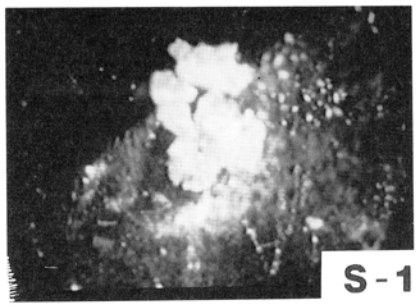


写真 8

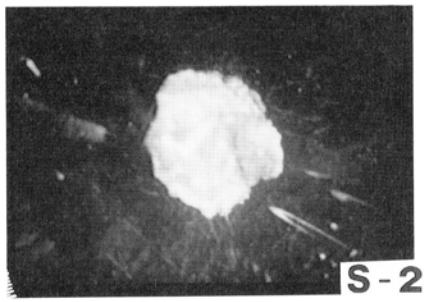


写真 9

# 図 版

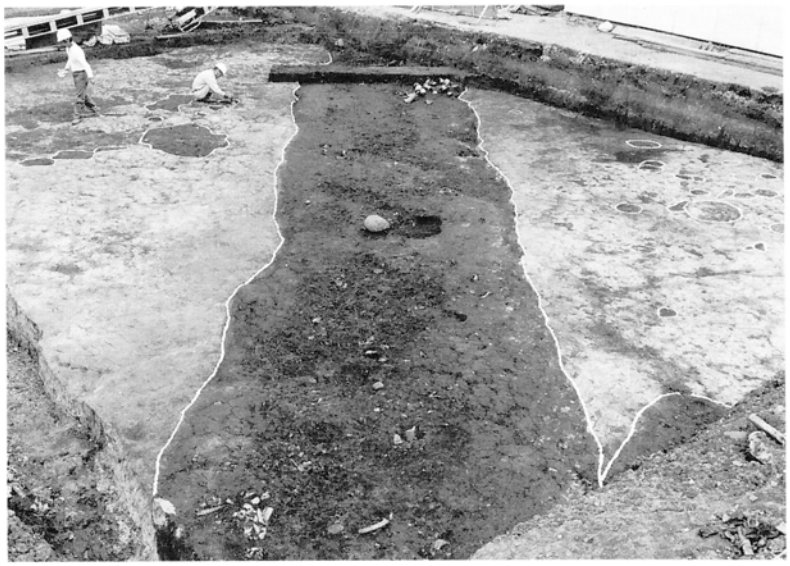
# PLATES

第40・42次調査出土鋳造関係遺物一括

(1) 第40次調査区
調査終了全景(北西から)

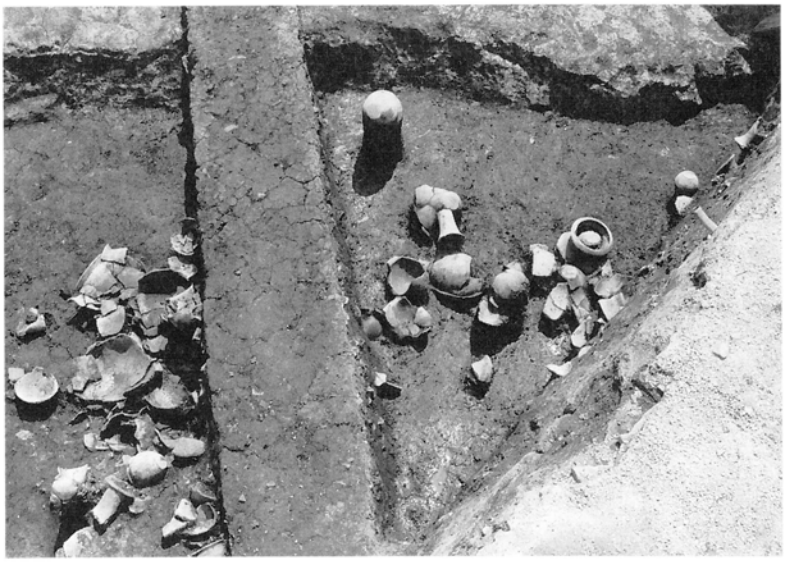
(2) 調査区北東部遺構分布状況（北西から）

(3) 調査区南西部包含層および溝SD01上部遺物出土状況（北から）



（1）溝SD01検出状況
（北から）

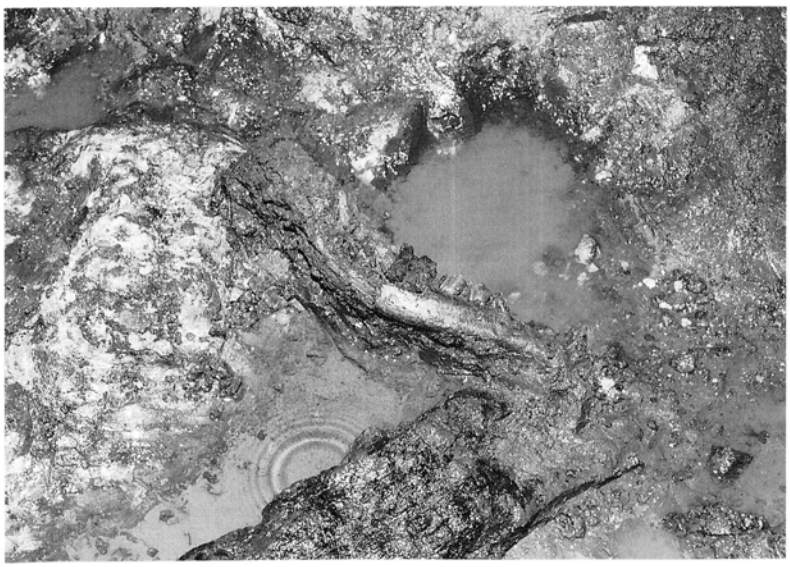
（2）溝SD01上部掘り下げ作業風景（北から）



（3）溝SD01南端部上層遺物出土状況（西から）

（1）溝SD01北側中層（黒色粘質土）遺物出土状況（南から）

（2）溝SD01土層断面（北から）

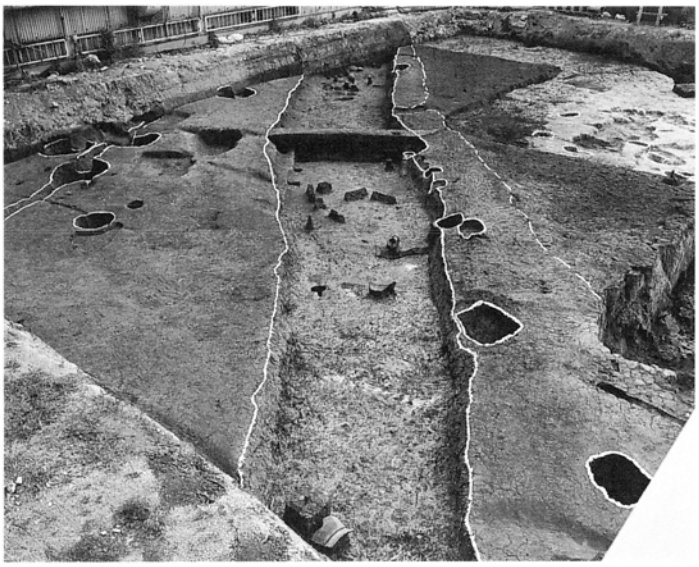


（3）溝SD01中層（黒色粘質土）獣骨（下顎骨）出土状況（西から）

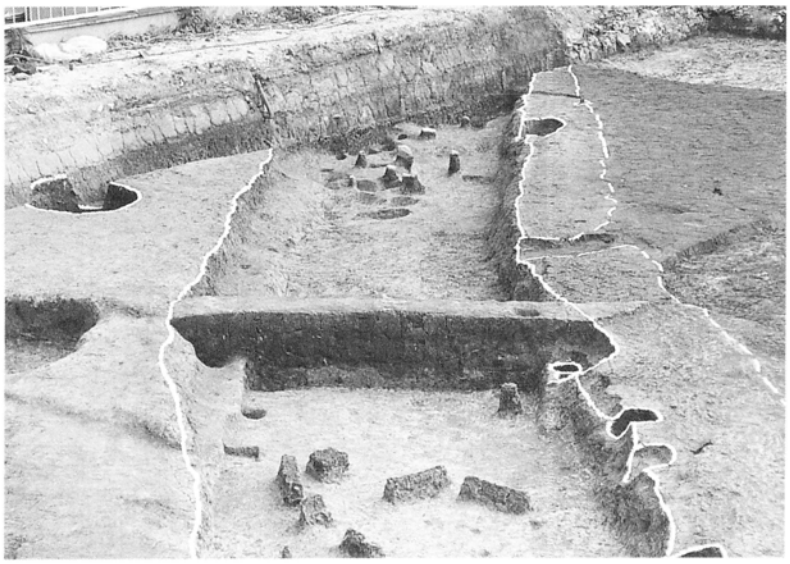
(1) 溝SD01中層（黒色粘質土）遺物出土状況（西から）

(2) 溝SD01下部掘り下げ作業風景（北から）

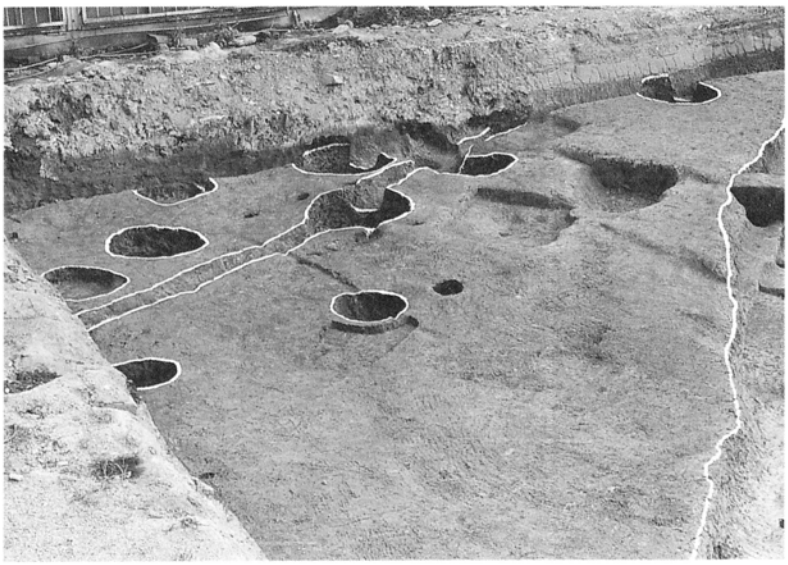
(3) 溝SD01黒色粘質土除去後床面状況（北から）



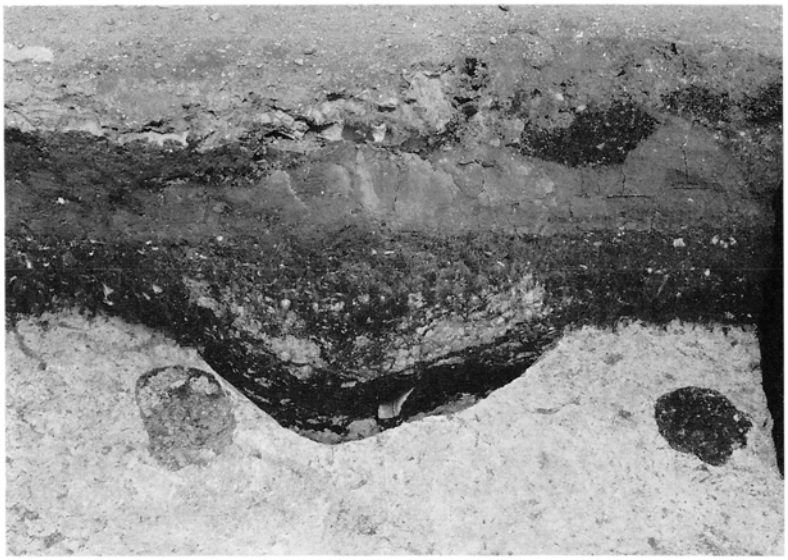
(1) 溝SD48完掘状況
（北から）



(2) 溝SD48中央部土層断面
（北から）

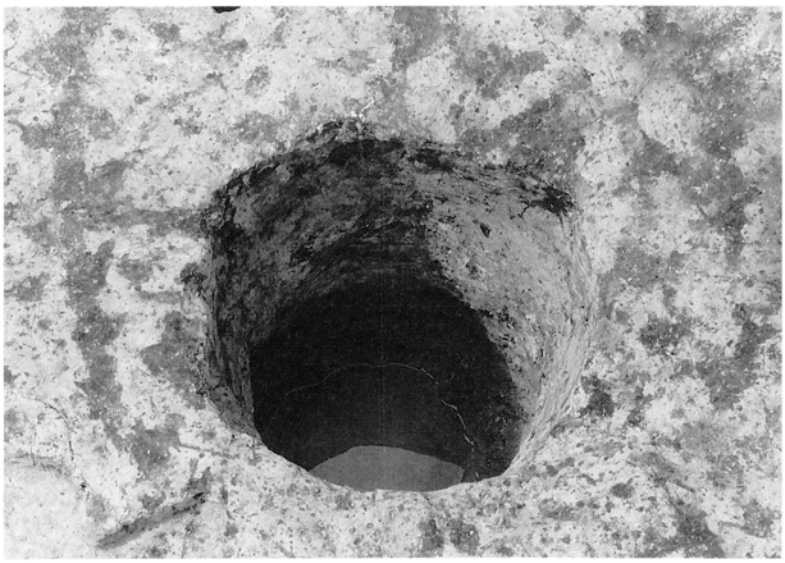


(3) 調査区北東部井戸群および溝分布状況（北から）



(1) 土壙SX31完掘状況
（南東から）

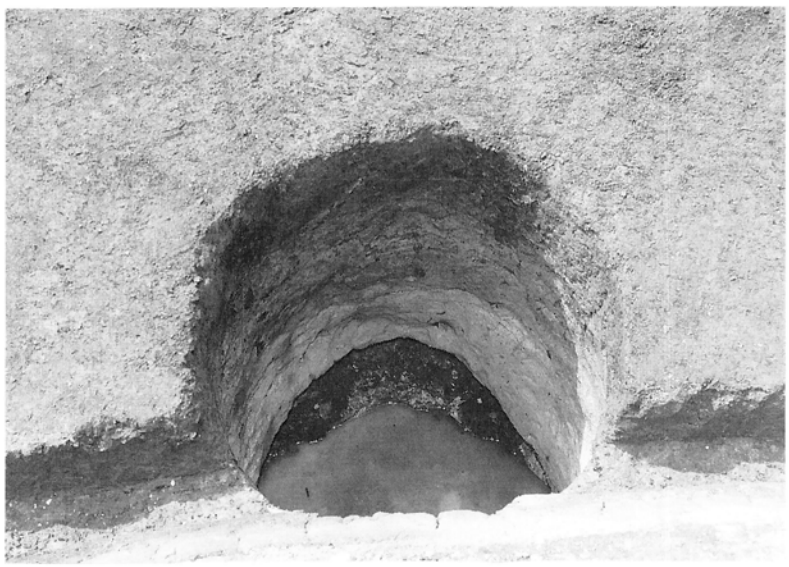
(2) 井戸SE23遺物出土状況
（西から）



(3) 井戸SE23完掘状況
（西から）

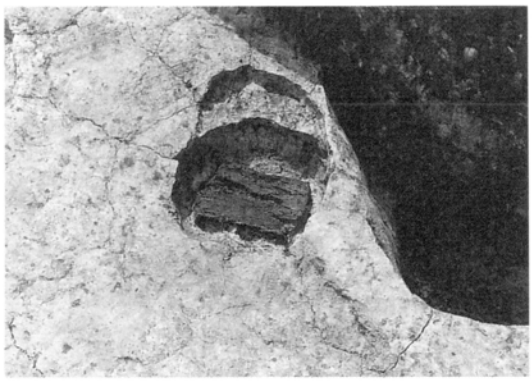
(1) 井戸SE118遺物出土状況
（北東から）

(2) 井戸SE118・112・113完
掘状況（北東から）



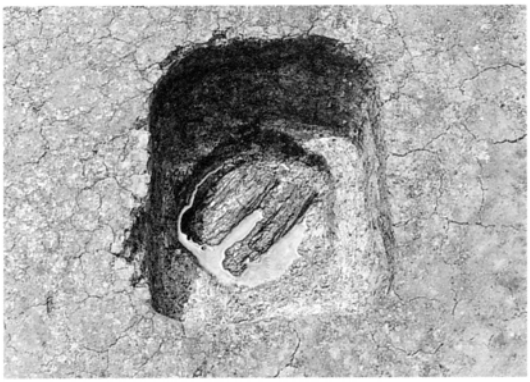
(3) 井戸SE111完掘状況
（南東から）

(1) 井戸SE120完掘状況
（北東から）

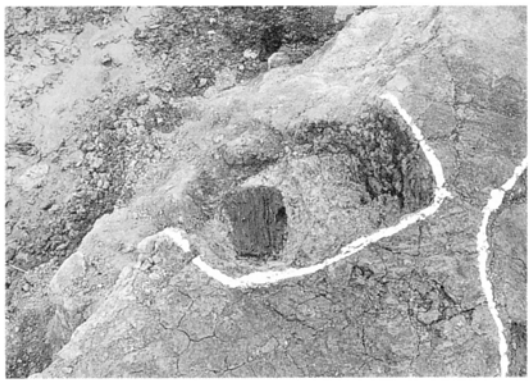


(2) 柱穴SP32礎板出土状況（東から）

(3) 柱穴SP102礎板出土状況（東から）



(4) 柱穴SP101礎板出土状況（南から）



(5) 柱穴SP124礎板出土状況（東から）

5

6

9

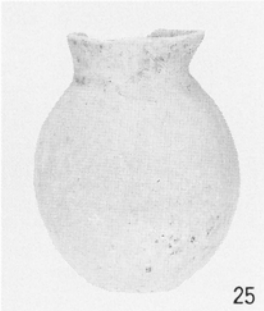
14

21

23

19

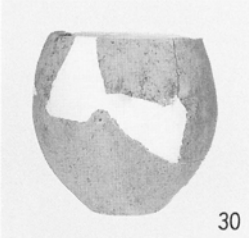
24


25

29

50

64


30

36

47

35

第40次調査出土遺物（１／６）

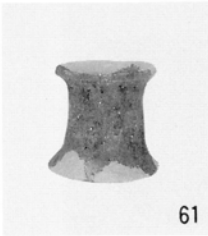
20

51

53

54

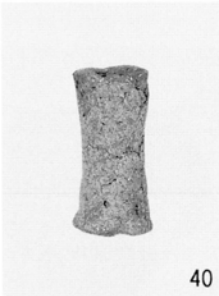
58


61

62

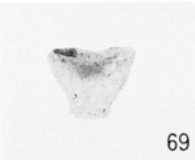
44

43

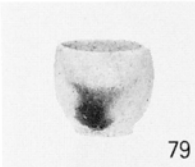

40

42

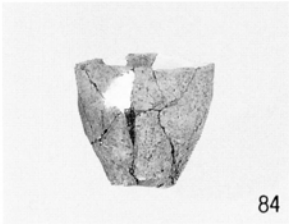
82


69

72

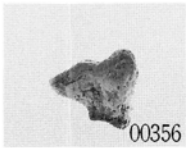

79

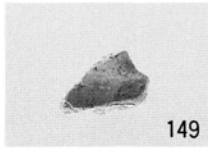
80

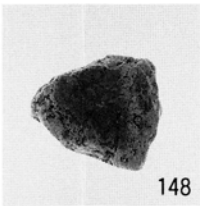

84

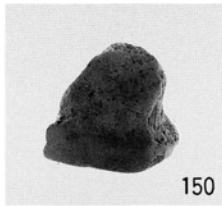
147

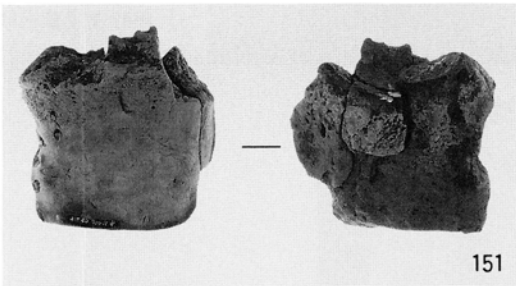
第40次調査出土遺物（１／６）

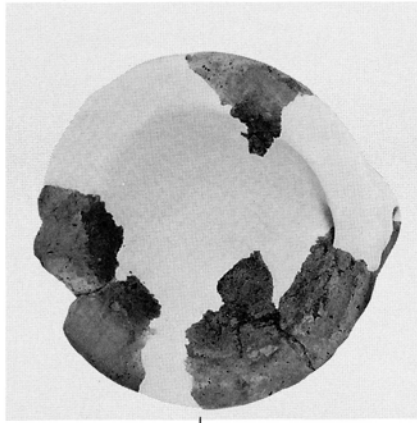


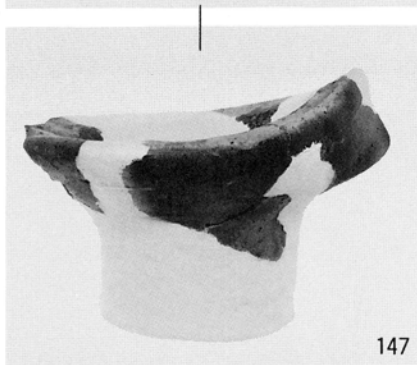



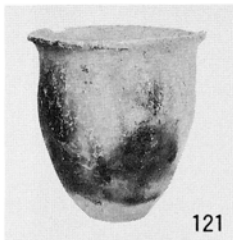



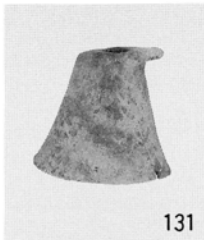



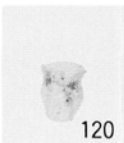







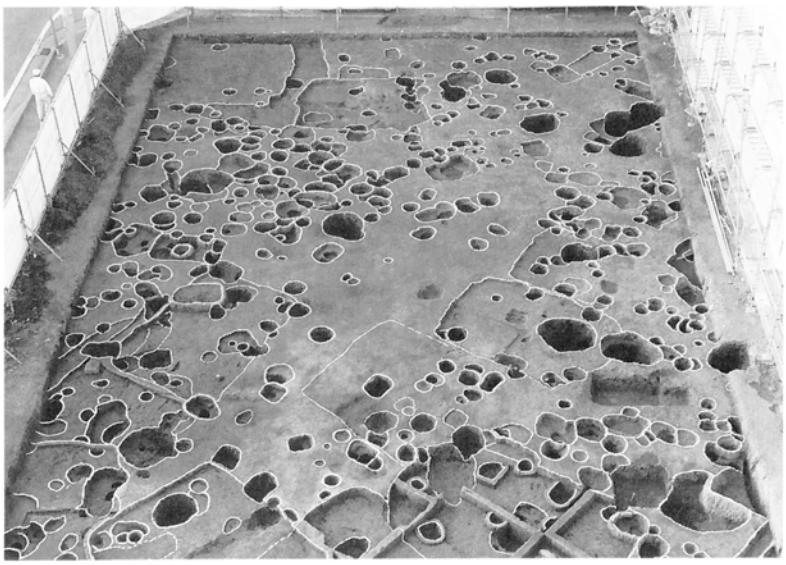





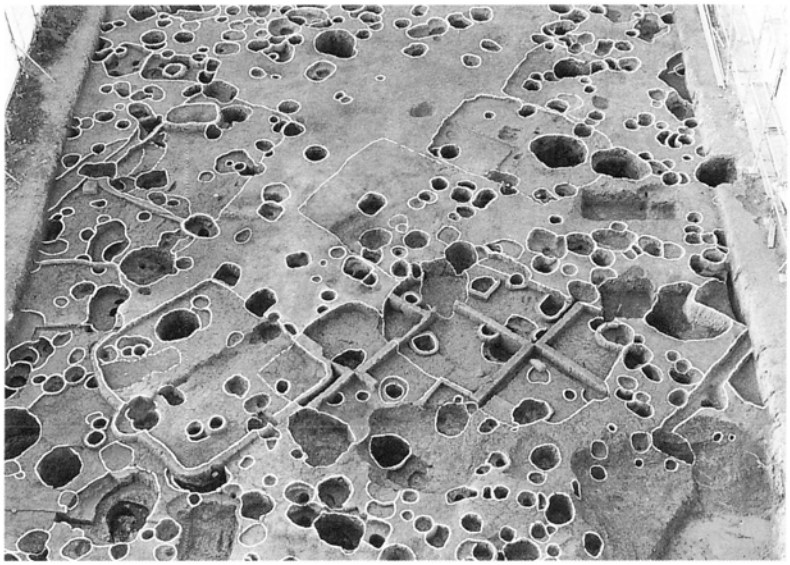
第40次調査出土遺物（１／６）

(1) 第42次調査区調査前現況
遠景（北から）

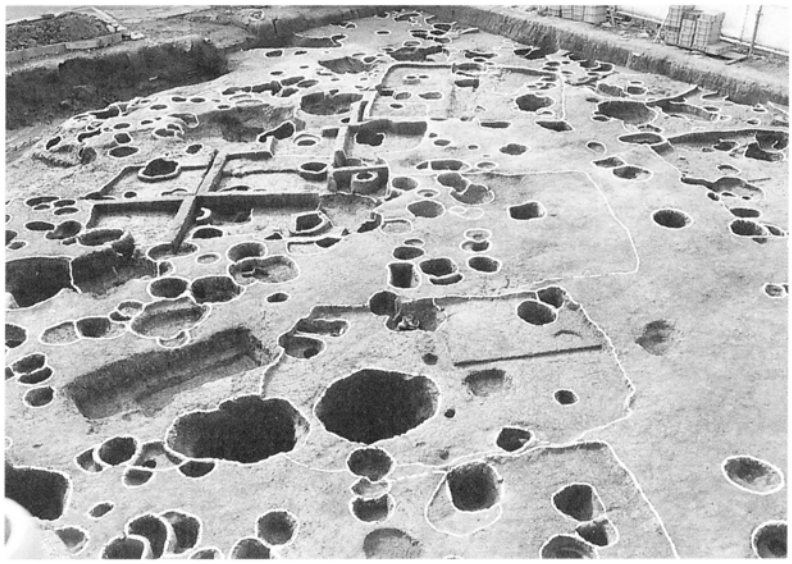
(2) 調査終了全景(南東から)



(3) 調査区北側遺構分布状況
（南東から）



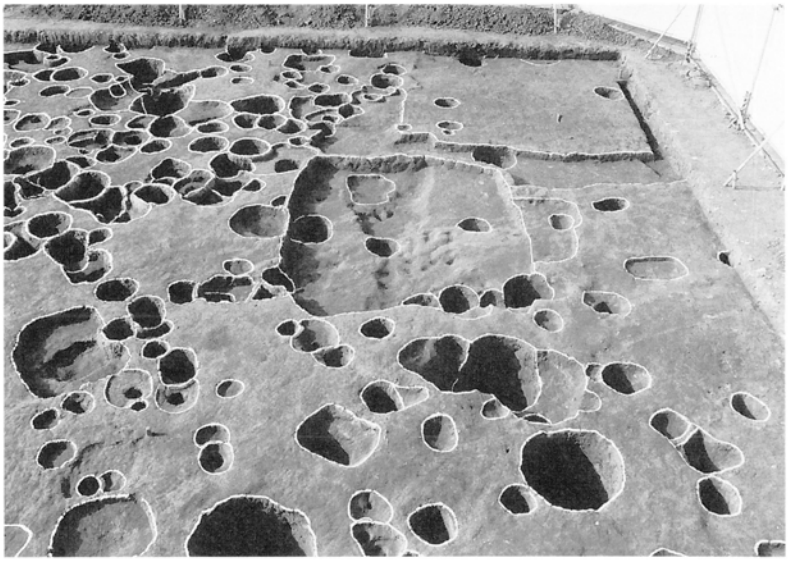
(1) 調査区中央部遺構分布状況（南東から）



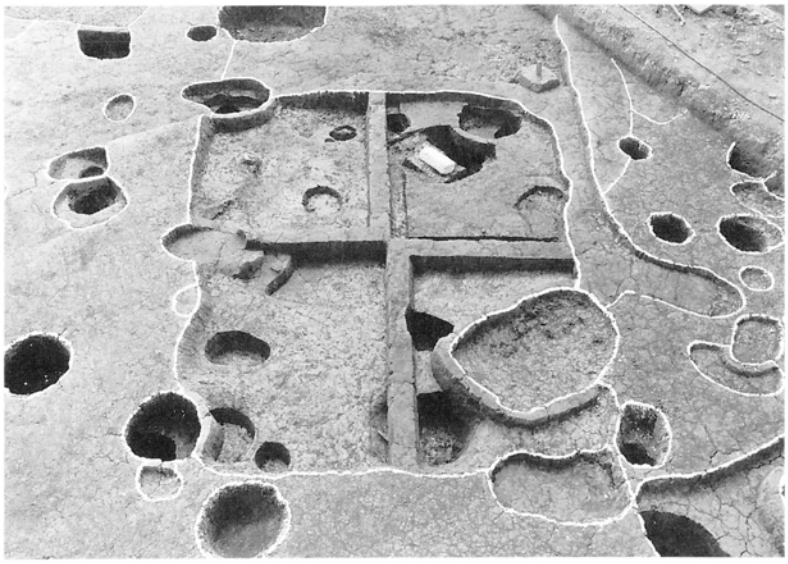
(2) 調査区南側遺構分布状況（北から）

(3) 調査区中央部～東側遺構分布状況（南から）

(1) 調査区中央部～西側遺構分布状況（東から）

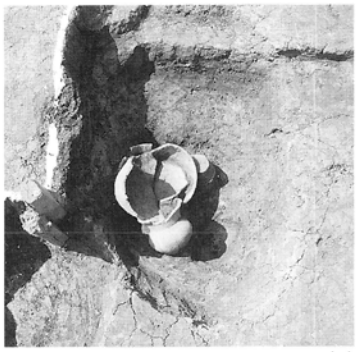


(2) 竪穴住居跡SC63および周辺遺構分布状況（北東から）



(3) 竪穴住居跡SC324掘り下げ状況（北から）

(1) 柱穴SP361遺物出土状況（北西から）

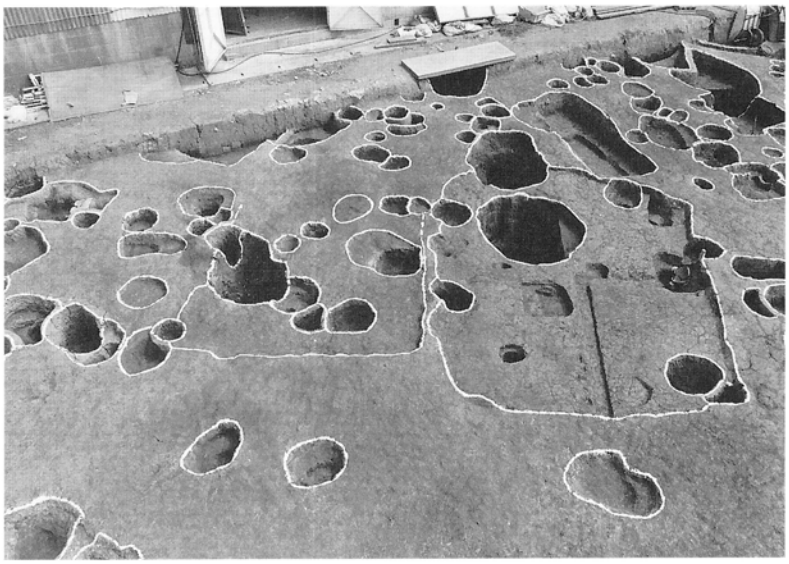


(2)

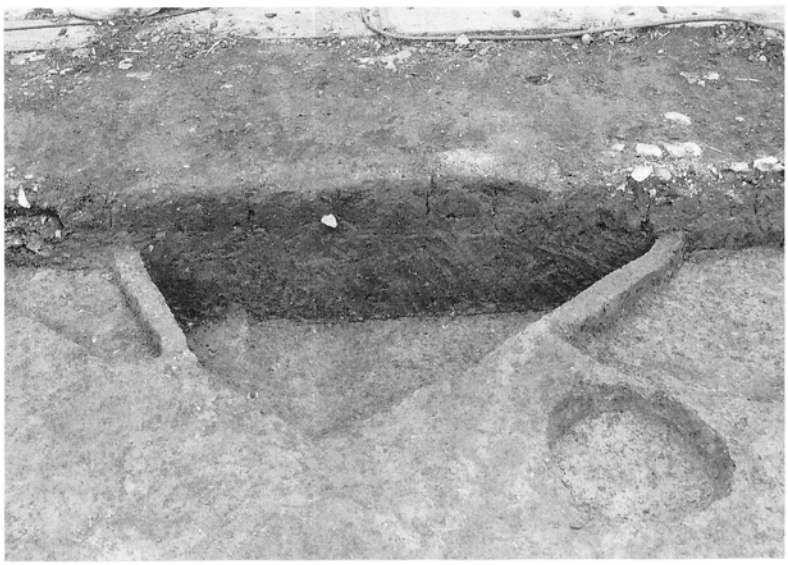
(3)

(2) 竪穴住居跡SC231付設土壙SX322遺物出土状況（北東から）

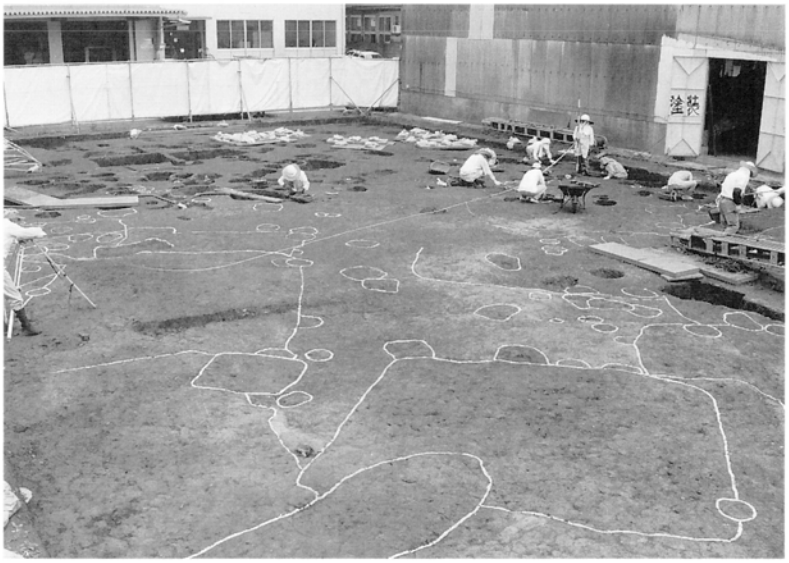
(3) 竪穴住居跡SC324床面出土広形銅矛鋳型出土状況（西から）



(4) 竪穴住居跡SC169・207・231完掘状況（西から）

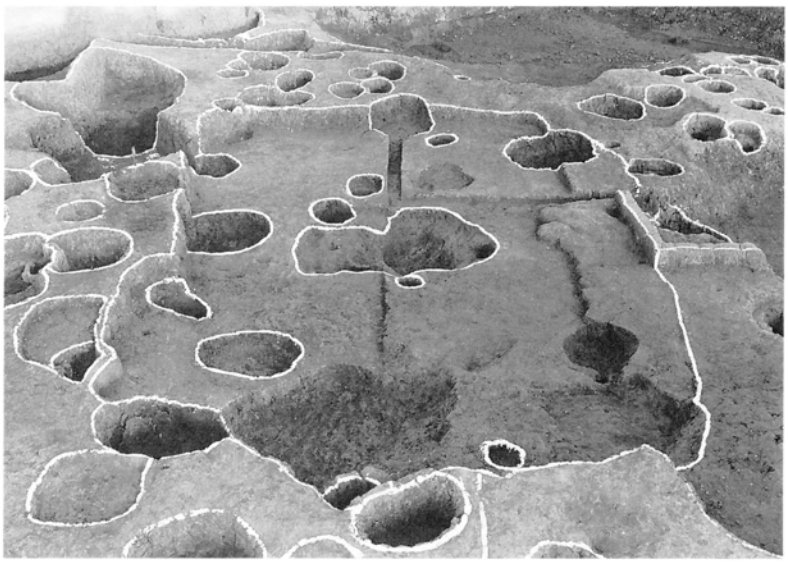


(5) 竪穴住居跡SC169完掘状況（南西から）

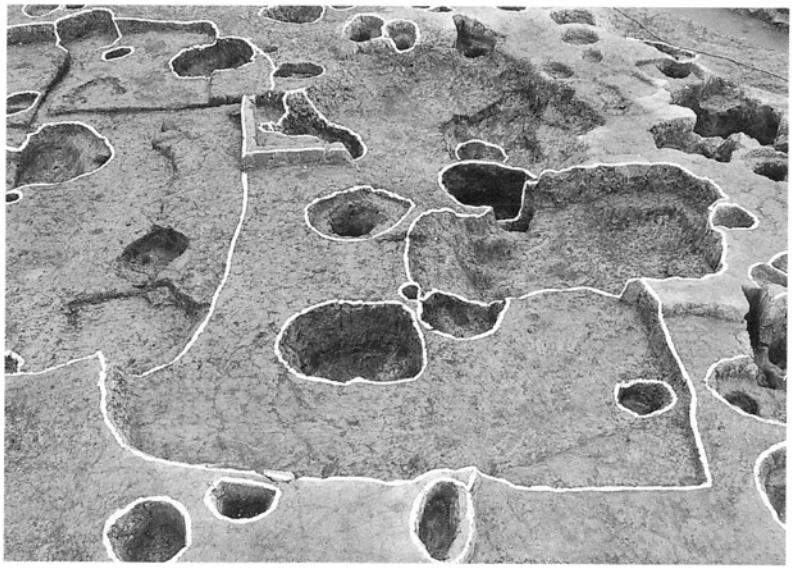



(1) 竪穴住居跡SC364・231・324完掘状況（東から）

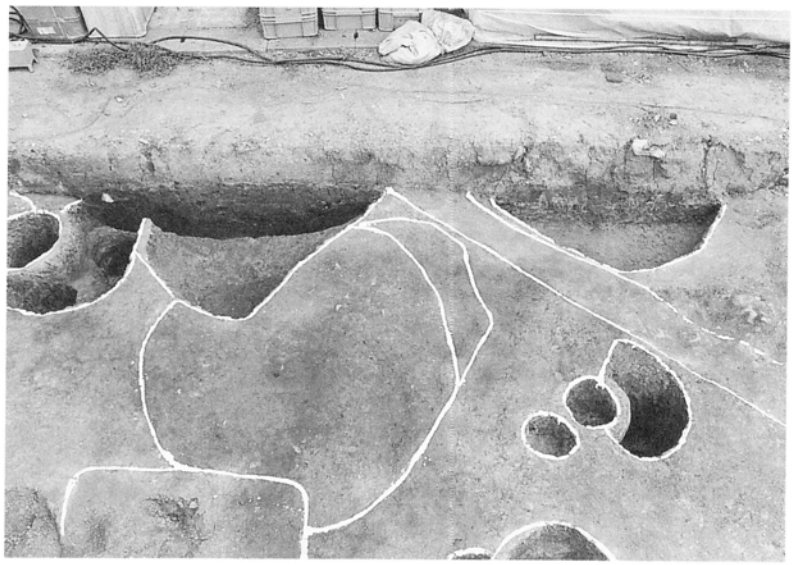
(2) 竪穴住居跡SC280・453、土壙SX487・617検出状況（西から）



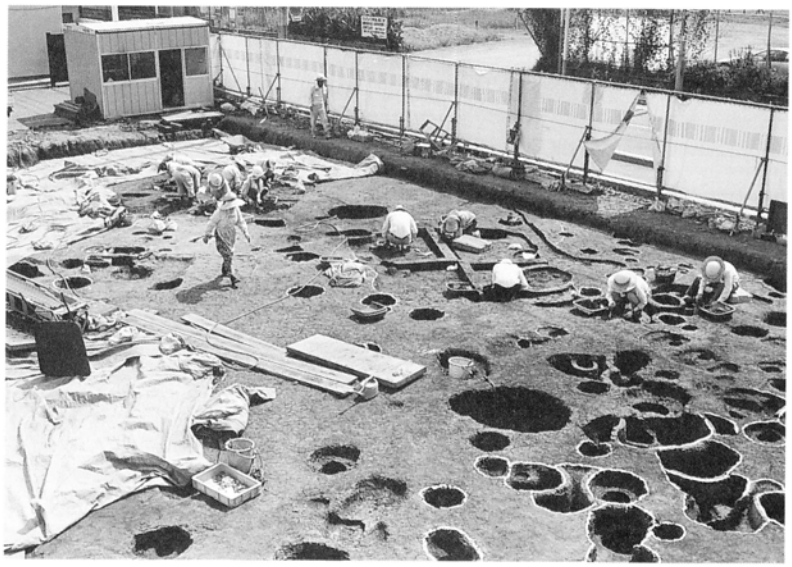
(3) 竪穴住居跡SC280完掘状況（西から）



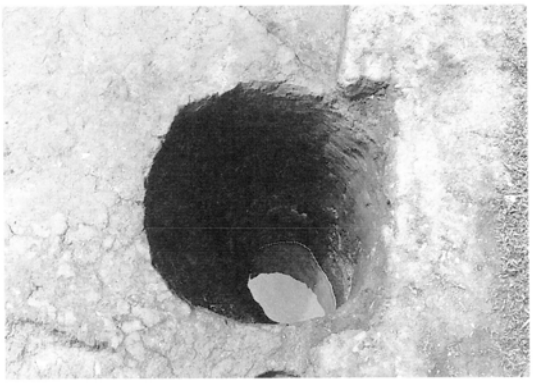
(1) 竪穴住居跡SC453完掘状況（西から）



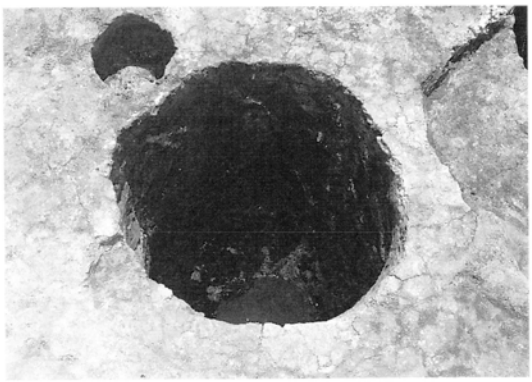
(2) 竪穴住居跡SC259・266完掘状況（南西から）



(3) 調査区南西部作業風景（北から）

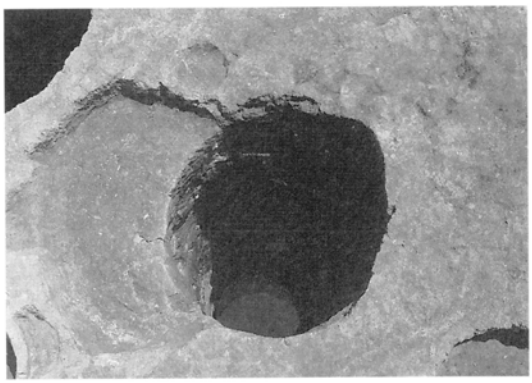


(1) 井戸SE15完掘状況（南東から）

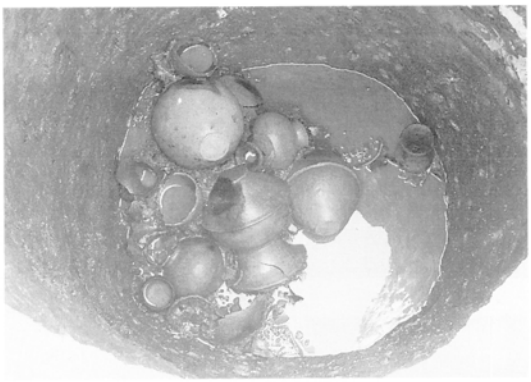


(2) 井戸SE16完掘状況（北から）

(3) 井戸SE47下部遺物出土状況（北から）



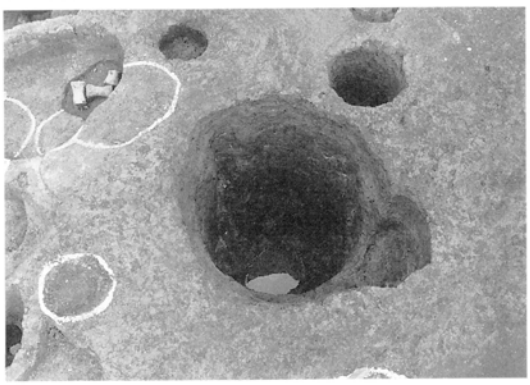
(4) 井戸SE47完掘状況（西から）



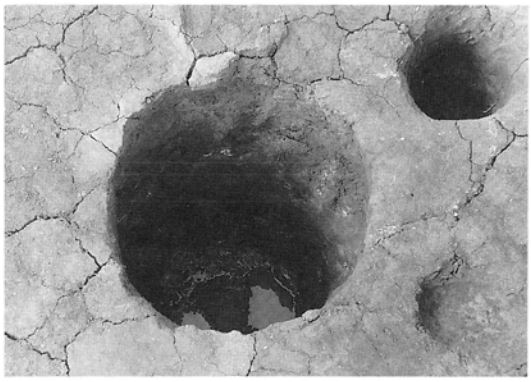
(5) 井戸SE74下部遺物出土状況（東から）

(6) 井戸SE74完掘状況（西から）

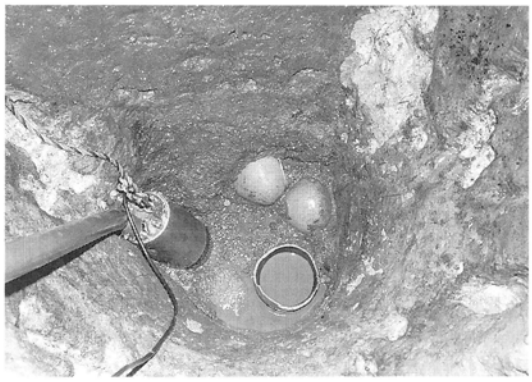
(7) 井戸SE123完掘状況（西から）



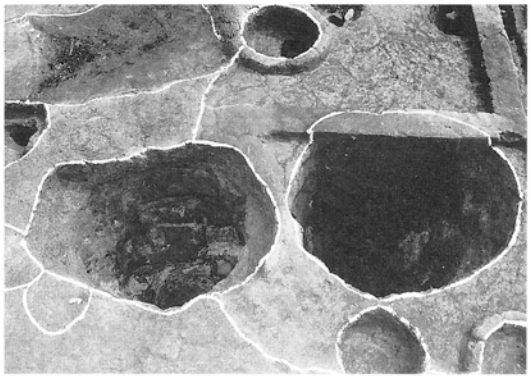
(8) 井戸SE162完掘状況、柱穴SP294遺物出土状況（南から）



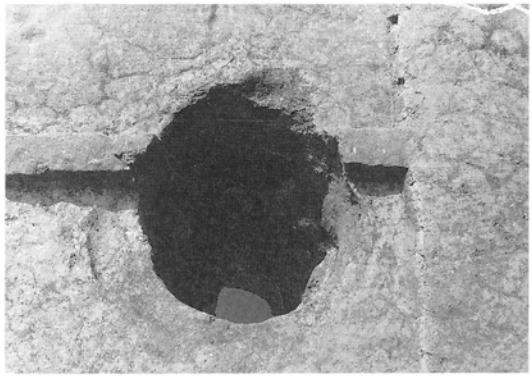
(1) 井戸SE202完掘状況（東から）



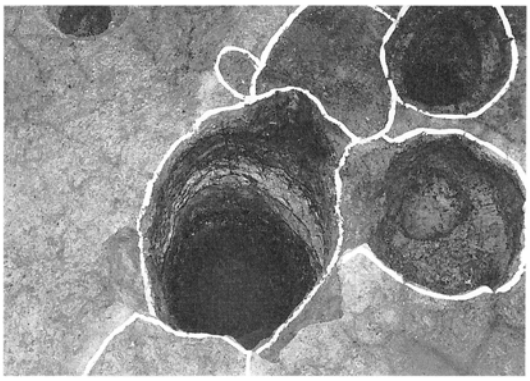
(2) 井戸SE315下部遺物出土状況（北から）



(3) 井戸SE230・315完掘状況（北西から）



(4) 井戸SE378完掘状況（北から）



(5) 井戸SE448完掘状況（東から）

(6) 井戸SE449完掘状況（東から）

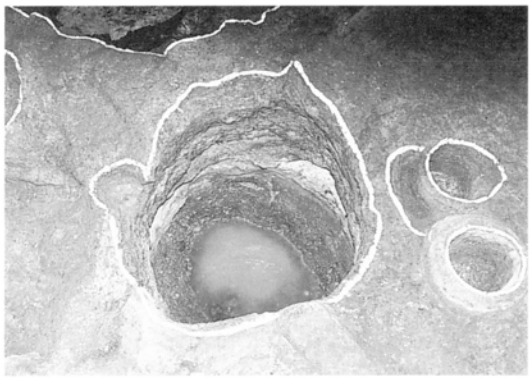
(7) 井戸SE500下部遺物出土状況(南西から)

(8) 井戸SE500完掘状況（西から）

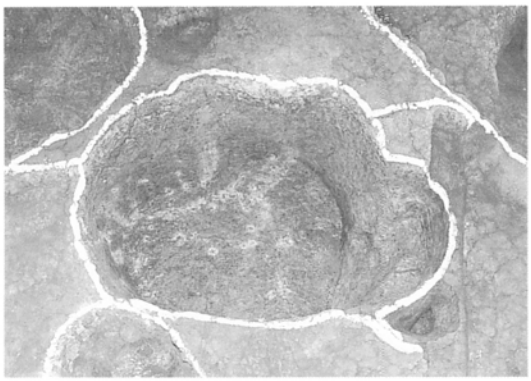
(1) 井戸SE489完掘状況（北から）

(2) 井戸SE506埋土中位遺物出土状況（南東から）

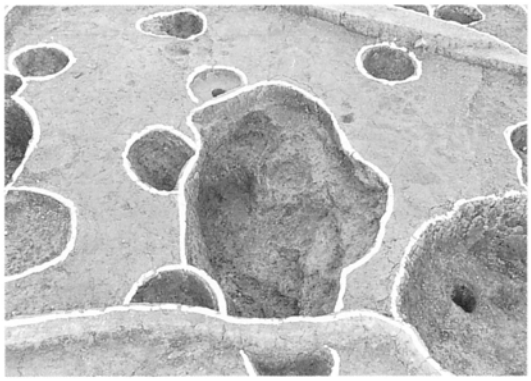
(3) 井戸SE506井筒出土状況（南東から）



(4) 井戸SE506完掘状況（南東から）



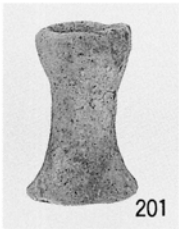
(5) 土壙SX420完掘状況（西南から）

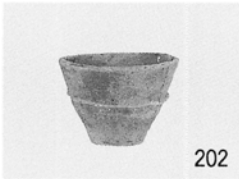


(6) 土壙SX629完掘状況（南から）

(7) 溝SD441完掘状況（西から）

200

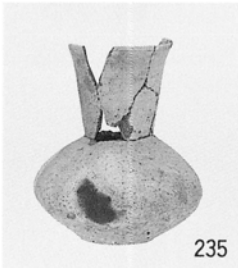

201


202

209

221

237


235

255

232

240

248

251 (1／4)

253

257

239

258

第42次調査出土遺物（１／６）

262

263

264

265

268

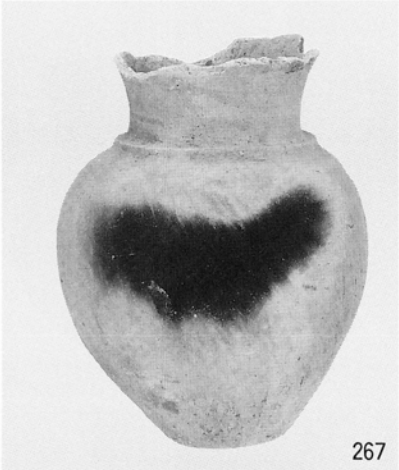
266

270

271

272

第42次調査出土遺物（１／６）


267

275

276

277

274

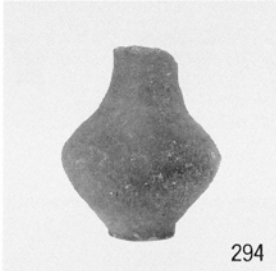
278

281

280

286

306


294

287

293

309

第42次調査出土遺物（１／６）

319

320

322

324

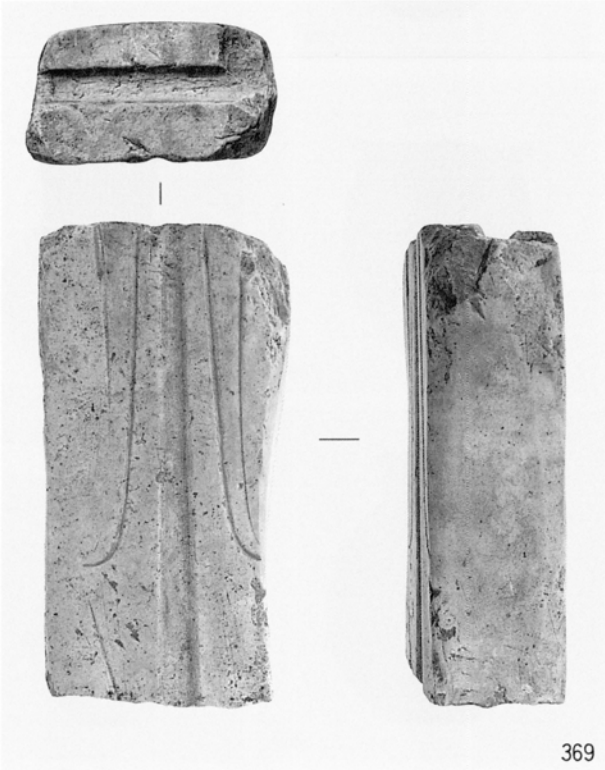
325

333

334

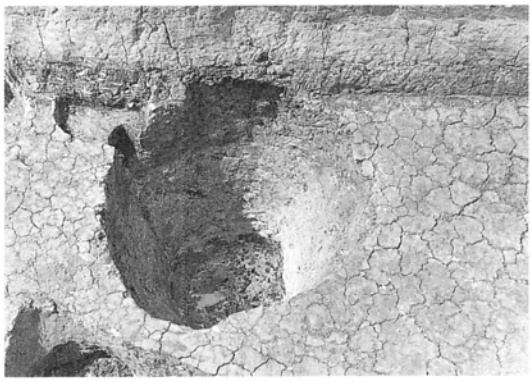
347 346

335

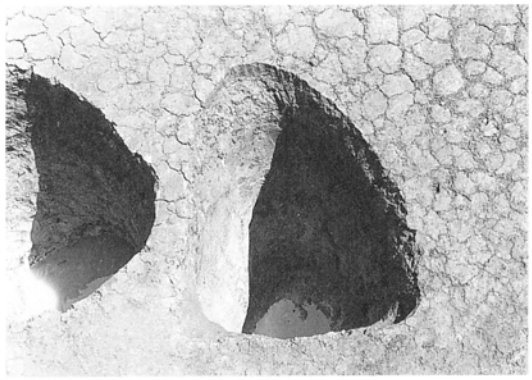

369

第42次調査出土遺物（１／６）

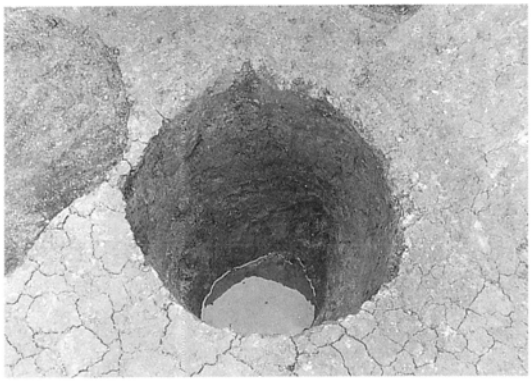
(1) 第44次調査区
調査終了全景(南東から)



(2) 井戸SE134完掘状況（南から）

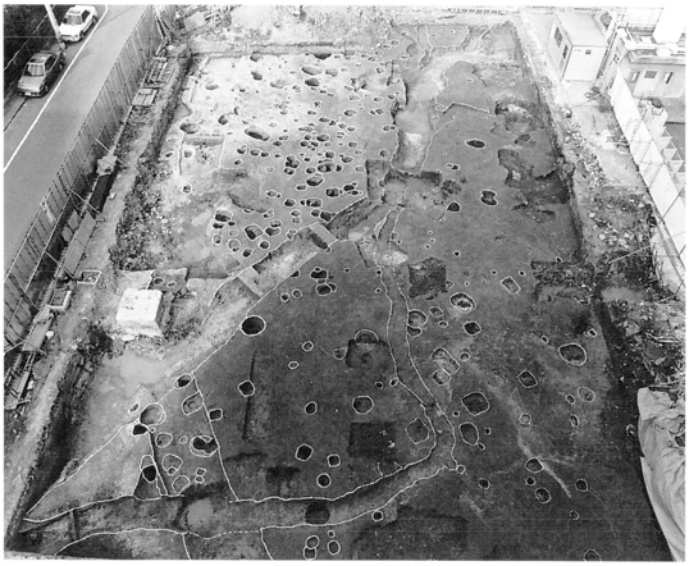


(3) 井戸SE138完掘状況（西から）



(4) 井戸SE143完掘状況（東から）

(5) 柱穴SP153甕出土状況（東から）

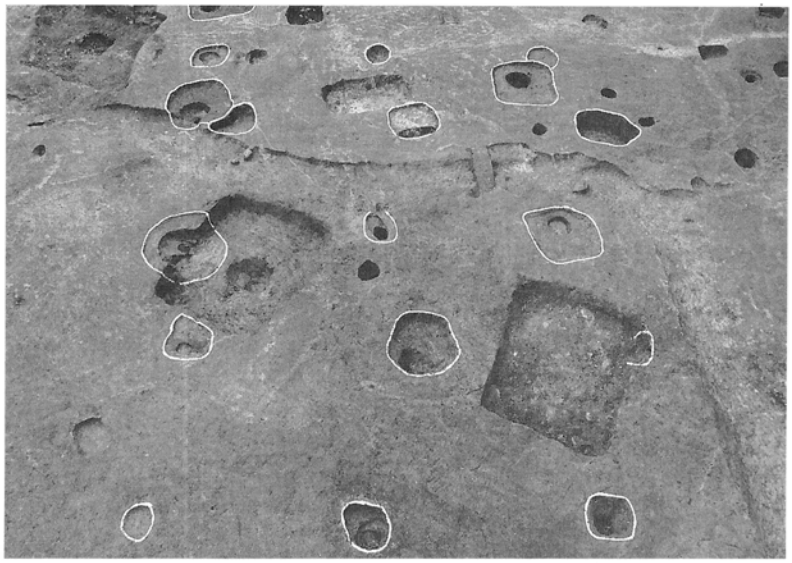


(1) 第48次調査区調査終了全景（南東から）

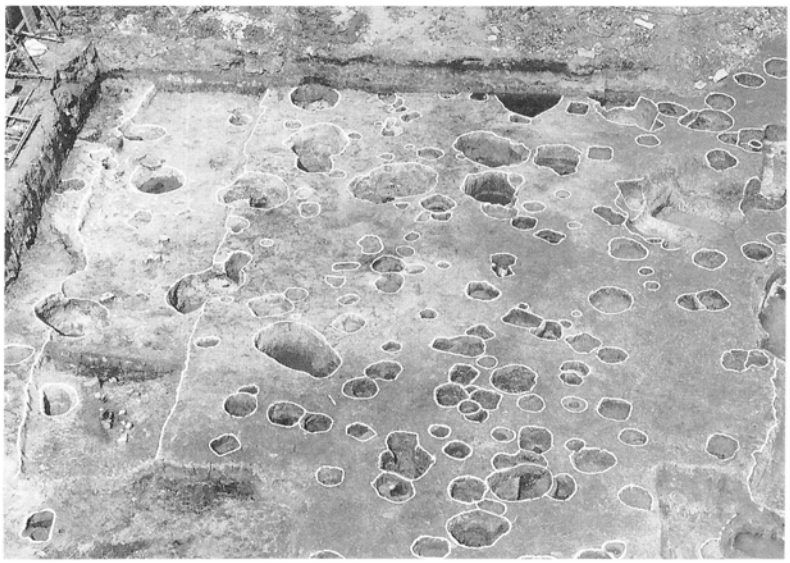
(2) 掘立柱建物SB01完掘状況（南から）

(3) 掘立柱建物SB01柱痕跡掘り下げ状況（西から）

(1) 調査区中央部完掘状況
（南西から）

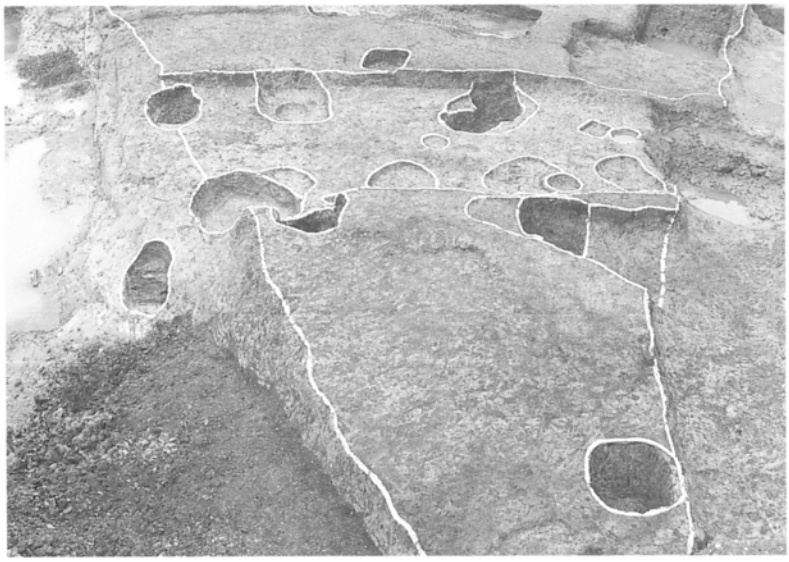


(2) 掘立柱建物SB02完掘状況（西から）



(3) 調査区北側完掘状況
（南西から）

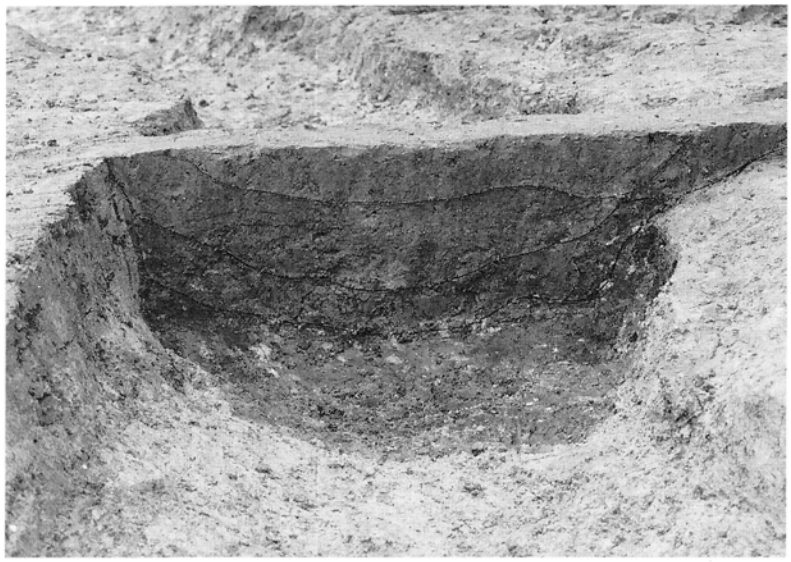
(1) 掘立柱建物SB04、柱穴SP414・300・321完掘状況（南から）



(2) 溝SD04、掘立柱建物SB03完掘状況（西から）

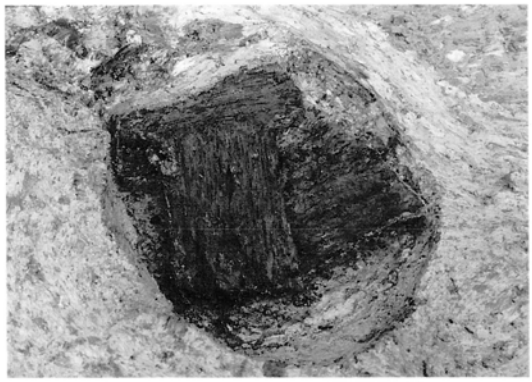
(3) 溝SD04遺物出土状況（北から）

(1) 溝SD03西端部土層断面
（東から）

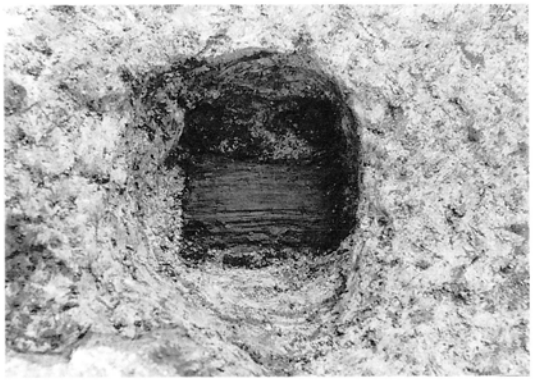


(2) 溝SD03南側中央部土層
断面（西から。下部には
井戸SE10）

(3) 溝SD04完掘状況
（南西から）



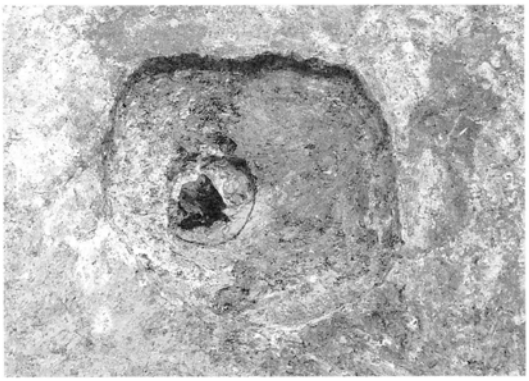
(1) 柱穴SP06礎板出土状況（東から）



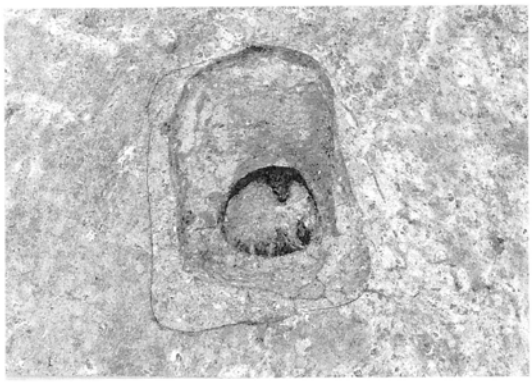
(2) 柱穴SP111礎板出土状況（西から）

(3) 柱穴SP133礎板出土状況（北西から）

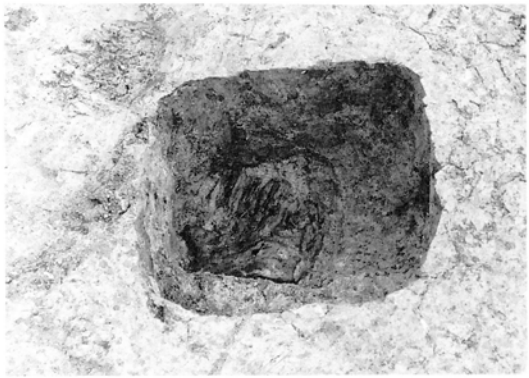
(4) 柱穴SP145(55)柱根痕跡検出状況（南から）



(5) 柱穴SP147(54)柱根痕跡検出状況（南から）

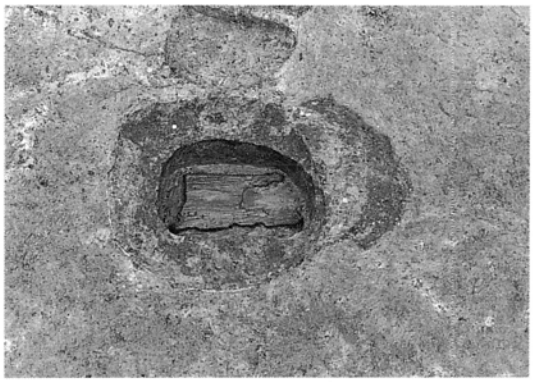


(6) 柱穴SP146(51)柱根痕跡検出状況（南西から）

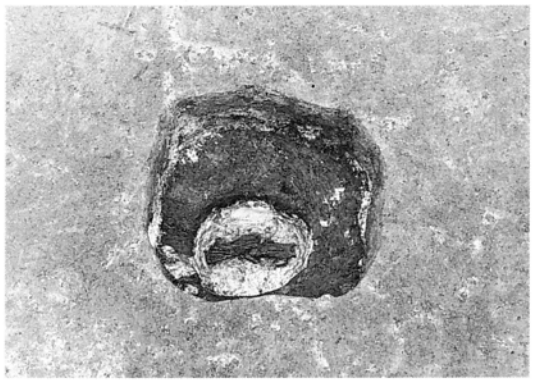


(7) 柱穴SP134(27)礎板出土状況（北から）

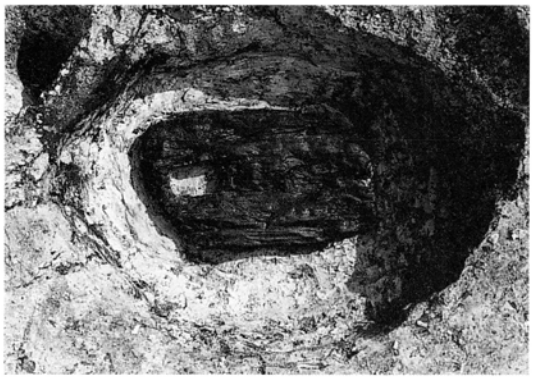
(8) 柱穴SP122(163)礎板出土状況（北から）



(1) 柱穴SP78礎板出土状況（南から）



(2) 柱穴SP144礎板出土状況（南から）



(3) 柱穴SP323礎板出土状況（北東から）

(4) 井戸SE309、柱穴SP308完掘状況（南東から）

(5) 柱穴SP336礎板出土状況（南東から）

(6) 柱穴SP273・274遺物出土状況（南西から）

(7) 柱穴SP126(160)遺物出土状況（北から）

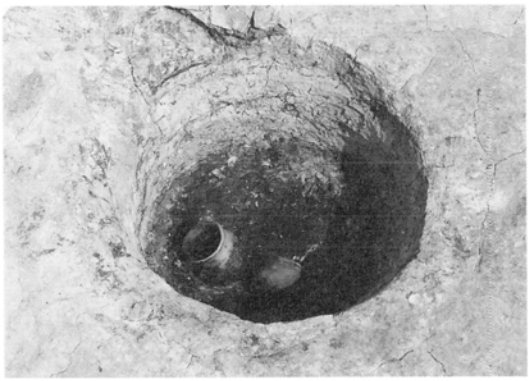
(8) 井戸SE103遺物出土状況（北西から）

(1) 井戸SE09底部遺物出土状況(南東から)

(2) 井戸SE10完掘状況（南から）

(3) 井戸SE20遺物出土状況（北東から）

(4) 井戸SE103底部遺物出土状況(南東から)



(5) 井戸SE105完掘状況（北東から）

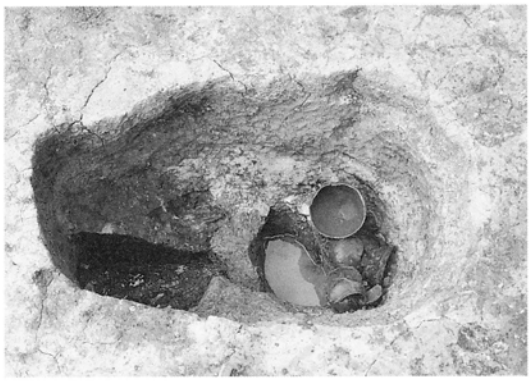
(6) 井戸SE255・269遺物出土状況(西から)

(7) 井戸SE116上部遺物出土状況(南西から)

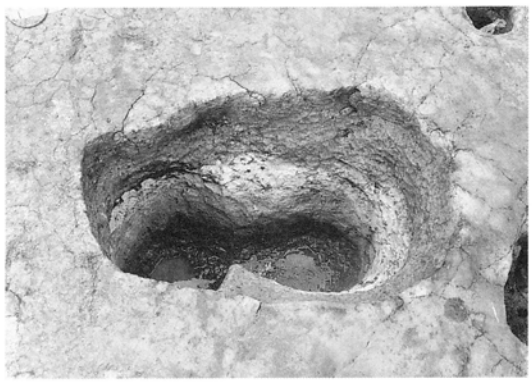
(8) 井戸SE116完掘状況（南東から）

(1) 井戸SE233完掘状況（北から）

(2) 井戸SE236中～下部遺物出土状況（南から）

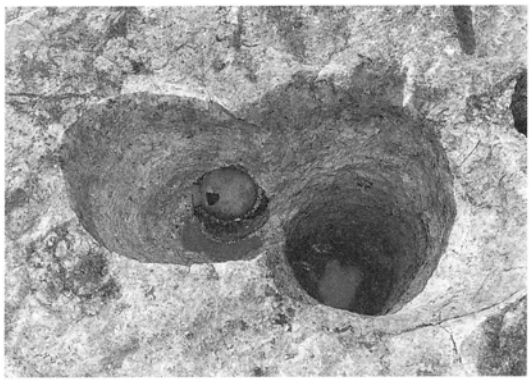


(3) 井戸SE244遺物出土状況（南西から）



(4) 井戸SE244・245完掘状況（東から）

(5) 井戸SE253完掘状況（北から）



(6) 井戸SE255・269完掘状況(東から)

(7) 井戸SE269周辺作業風景（北から）

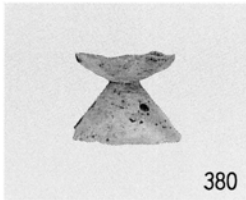
(8) 井戸SE325完掘状況（南西から）

(1) 井戸SE337完掘状況（南西から）

(2) 井戸SE340下部遺物出土状況(南西から)

(3) 井戸SE340完掘状況（南西から）

(4) 第48次調査作業風景（西から）


380

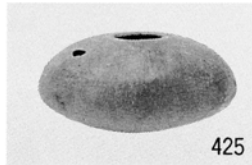
387

385

410

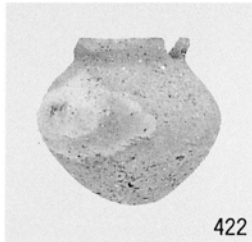
413

412


425

411

414


422

426

442

446

447

435

443

444

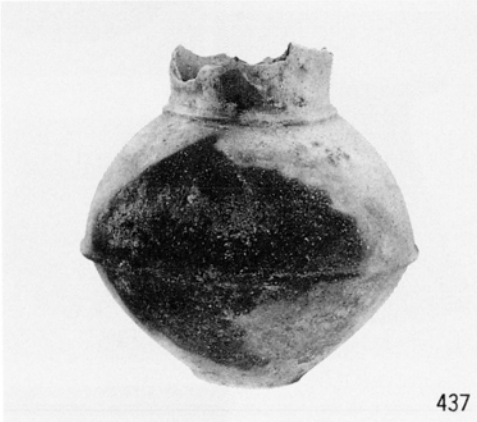
448

第44・48次調査出土遺物（１／６）（380・385・387は44次出土、他は48次）

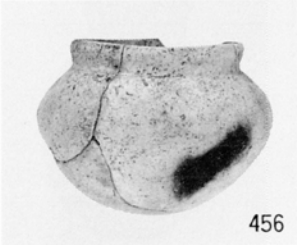
449

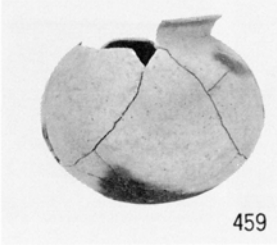
450

451


437

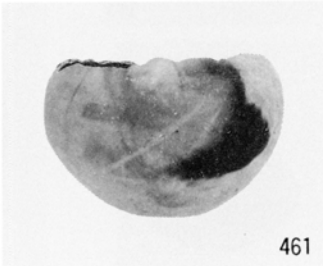
438


456


459

460

462

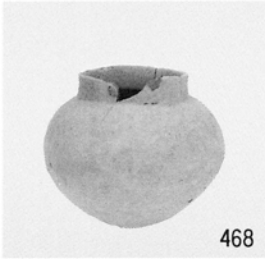

461

463

第48次調査出土遺物（１／６）

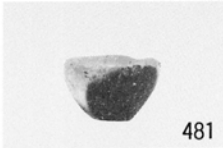
465

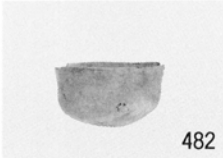
473


468

476

479


481


482

495

第48次調査作業風景

第48次調査出土遺物（１／６）

**比恵遺跡13**
－比恵遺跡群第40・42・44・48次調査の報告－
福岡市埋蔵文化財調査報告書第368集

平成６年(1994)　３月31日
発行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神１丁目８－１
印刷　株式会社ミドリ印刷
福岡市博多区西月隈１丁目122－４